

平成30年度

病 院 年 報

第 16 号



日本赤十字社

高槻赤十字病院

理 念

私たちは人道・博愛の赤十字精神に基づき、高度で安全な医療を提供し、地域の人々が誇りにする病院となるよう努めます。

方 針

1. 患者さんの人権と意思を尊重し、患者さん中心の医療をおこないます。
2. 一人ひとりの患者さんを全職員が支援する、チーム医療をおこないます。
3. 患者さんのホームドクターと緊密に連携し、地域で完結する医療をおこないます。
4. 常に向上心と研究心をもち、最高最善の医療が実現できるように努めます。
5. 健全な病院経営と地域に貢献できる医療従事者の育成に努めます。
6. 災害救護活動をはじめとする赤十字にかせられた使命を果たします。

患者さんの権利の尊重

1. 患者さんは個人として常にその人格を尊重される権利があります。
2. 患者さんは良質な医療を平等に受ける権利があります。
3. 患者さんは自分が受ける治療や検査の効果や危険性、他の治療法の有無等について、分かりやすい説明を受ける権利があります。
4. 患者さんは自分が受ける治療計画を立てる過程に参加し、自分の意見を表明し、自己決定する権利があります。医療機関を選択し、転院・退院する権利があります。
5. 患者さんは自分が受けている医療について知る権利があります。
6. 患者さんは自分の情報を自分の承諾無くして第三者に開示されない権利があります。

看護部の理念

赤十字の理念に基づき、療養生活支援の専門家として、根拠に基づいた安心・安全な看護を提供し、看護の対象者がその人なりの生活ができるよう支援します。

平成 30 年度病院年報出版にあたり

平成30年度（2018年4月から2019年3月）病院年報がまとまりました。

前回からは紙媒体は中止してCD版とし、さらに高槻赤十字病院のホームページにアップしています (<http://www.takatsuki.jrc.or.jp/about/annualreport.html>)。

さて、病院年報は、その年度を振り返り、自己検証し、将来への発展的展開を図るものです。平成30年度を振り返ると、大阪府北部地震や台風災害など予期せぬことが起こりました。職員一丸となりこの難局を乗り越えました。しかし、平成29年度から始まった財政などの3カ年改善計画を完遂するためには、一層の努力が求められる状況は続いています。

実際、3カ年改善計画の最終年度である平成31（令和元）年度に向けて、クリーンルームの増設を行いました。更に、電子カルテの導入や病床病棟の適正再配置を行います。これらの中には、職員の負担を伴うものもありますが、果敢に実行されつつあります。

高槻赤十字病院は、日本赤十字社の一員として、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減し、生命と健康を守り、人間の尊重を確保する赤十字の人道の実践を通じ、地域の人々に誇りにしていただける病院となることを基本としています。特徴ある高槻赤十字病院とするために、皆さんもどんどん意見を寄せてください。

この年報は、これらのことを実行していく上での基盤となります。今後ともこの年報の精度を上げて、広く周知していくようにしたいものです。

令和2年3月末日

院長 古川 福実

目 次

I 病院の沿革

病院の沿革	1
-------------	---

II 病院の現況

1. 病院の特色	5
2. 施設の概要	6
3. 各種法律に基づく医療制度指定・承認	6
4. 各学会認定の認定医・専門医教育指定等状況	7
5. 診療体系	8
6. 配置図	12
7. 付近見取図	13
8. 主な施設・機器	14
9. 年 表（沿革）	17
10. 整備医療器械備品	20

III 組織及び職員

1. 高槻赤十字病院組織図	21
2. 幹部職員	22
3. 職員現況表	23
4. 職種別・年齢別・職員構成表	23
5. 会議及び委員会	24

IV 統 計

1. 平成 30 年度実績表	25
2. 入院患者数	26
3. 入院稼働額	27
4. 入院単価	28
5. 外来患者数	29
6. 外来稼働額	30
7. 外来単価	31
8. 科別患者構成比	54
9. 診療科年齢別構成表	55
10. 救急患者数	56

11. 剖検件数	57
12. 紹介率・逆紹介率	58
13. 食事別給食数	59
14. 栄養指導件数	60
15. 手術件数	61
16. 分娩件数	61
17. 特定保健指導	62
18. 医業収益・費用及び医業外収益・費用の構成について	62
19. 病院利益（損失）	63
20. 平成 30 年 年間購入雑誌一覧	64
21. 医療社会事業年報（平成 30 年度）	65

V 退院患者疾病統計

1. 月別退院患者数	66
2. 科別・月別退院患者数	67
3. 科別・転帰別退院患者数	68
4. 疾病大分類別・性別退院患者数	69
5. 疾病大分類別・診療科別退院患者数	70
6. 疾病大分類別・転帰別退院患者数	71
7. 科別死亡数および剖検数	72

VI 診療科・部門別活動実績

糖尿病・内分泌・生活習慣病科	73
緩和ケア科	75
血液腫瘍内科	76
循環器科	77
消化器科・消化器内視鏡センター	78
神経内科	81
呼吸器外科	82
呼吸器科	83
小児科	86
外 科	87
脳神経外科	90
整形外科	91
形成外科	93
皮膚科	94

泌尿器科	95
産婦人科	96
眼 科	97
耳鼻咽喉科	98
放射線科 及び 核医学科	99
リハビリテーション科	102
麻酔科	106
救急部	108
健診部	112
医療技術部	114
薬剤部	118
検査部	124
病理診断科部	126
看護部	127
医療社会事業部	138
医療安全推進室	163
教育研修推進室	166
事務部	167

Ⅶ 委員会活動

委員会	169
-----------	-----

Ⅷ 誌上・講演発表

誌 上	214
講 演	221

I 病院の沿革

I. 病院の沿革

当院は、昭和 16 年 11 月 2 日、「日本赤十字社大阪支部病院分院阿武野勝景園」として誕生しました。

日本赤十字社大阪支部は、大正から昭和にかけて蔓延し、「亡国病」とまでいわれた結核の予防と治療という国家的見地に立って、昭和 10 年頃から大規模な結核療養所の建設を計画していました。この計画を知った東洋紡績株式会社からの寄付金を基金とし、各方面からの援助も得て、昭和 15 年 6 月より大規模な建設工事が始まりました。

生駒連峰を望み、北摂平野を見下ろす、林間景勝の地（当時の三島郡阿武野村、土室・奈佐原・塚原の三大字にわたる地域）にちなみ「阿武野勝景園」と命名され、敷地は約 20 万坪、近世式木造平屋建、一部 2 階建 71 棟、134 室、250 床を有し、非常時には 400 床の収容が可能な結核療養所が完成しました。しかしながら、竣工式の一ヵ月後の 12 月 8 日に太平洋戦争が始まり、当院も時代の大きな渦に飲み込まれて行くこととなりました。

昭和 17 年 5 月 20 日からは「大阪陸軍病院阿武野赤十字病院」として、軍患者を収容することとなり、昭和 20 年 6 月 6 日以降は「大阪第二陸軍病院阿武野赤十字病院」として中部軍所属となり 475 名の傷病兵を受け入れ救護にあたりました。

終戦後の昭和 20 年 11 月 30 日、軍病院は解除され、12 月 1 日からは「大阪赤十字病院阿武野勝景園」として軍患者以外の一般診療を開始し、昭和 22 年 9 月 1 日には、分院から昇格し「大阪阿武野赤十字病院」と改称し独立しました。

戦後の厳しい状況下にあっても、患者の食糧や燃料の欠乏を補うため、農作業や薪炭作りの勤労奉仕にあたり、また府下の有力大病院が結束して結成した結核病院協会に参画する一方、近接地域に結核相談部を開設して巡回診療を実施するなど、事業進展に最大限の努力を行った時代でもありました。

戦後 20 年を経て高度経済成長の時代の中、千里丘陵での万国博覧会の開催と相まって高槻市、茨木市などは京阪神のベッドタウンとして大きな発展を見せはじめました。病院の周辺においても宅地造成が進み、隣接地域に約 3000 戸の公団住宅が建つなど目ざましいものがありました。住民の地域医療に対する渴望に応えることが求められるようになり、時を同じくして結核患者の急速な減少が見られるようになったことから、一般各科の診療を開始し、総合病院への転換を図ることになりました。昭和 45 年 1 月 1 日、病院名を現在の「高槻赤十字病院」に改称し、同年 2 月より第一次病院整備事業として外来診療棟を中心とした、一般科患者の入院設備も有する鉄筋コンクリート造り、地下 1 階地上 3 階の新館において診療を開始しました。とはいえ、当院の設立のいきさつもあり、この時点では、一般病床 99 床に対し、結核病床は 559 床でした。

新薬の開発など、結核の予防と治療は飛躍的に進歩しました。結核患者の減少傾向は一層加速し、懸命な経営改善への取り組みにも関わらず財政は悪化の一途をたどることとなり、ますます一般病床への移行が重要な課題となってきました。

昭和 53 年 10 月 31 日、鉄筋コンクリート 6 階建て、延床面積 22,991㎡の新病棟の完成により、二次にわたった病院整備事業は一つの区切りを迎えることができました。この新病棟の完成により同年 11 月 21 日より名実ともに総合病院としての診療業務が開始されました。この時、一般病床 322 床、結核病床 197 床、合計 519 床と一般病床が結核病床を上回ることとなりました。その後も結核患者の

減少と疾病構造の多様化に対応するため、結核病床の削減と一般病床の開設を順次行い、昭和 61 年 2 月には、一般病床 454 床、結核病床 65 床に、そして平成 9 年 3 月末には、この 65 床も廃止し、厚生省（当時）の結核患者収容モデル事業による陰圧室の病床（6 床）を設置することにより、一般病床 446 床、結核病床 0 床の病院となりました。

地域医療への取り組みでは、平成 4 年 4 月の医療法改定を受けて、平成 8 年 7 月には「高槻赤十字訪問看護ステーション」を開設、平成 10 年 10 月には「開放型病院」認定、平成 11 年 8 月には介護保険法の制定により「高槻赤十字病院居宅介護支援事業所」を設置するなど、訪問看護の充実、在宅介護支援、地域診療所との連携を図りつつ、地域住民への医療サービスの提供に努めてきました。

こうした中、がんの増加とそれを受けての終末期医療の充実を求める声の高まりを受けて、平成 14 年 5 月に緩和ケア病棟『Lakeside Home』（20 床）を尾広池の辺に開設しました。豊かな自然環境を生かした癒しの空間が特徴であり、「第 1 回癒しと安らぎの環境賞」の最優秀賞（ホスピス部門）を受賞しました。

また、当院の病院機能等への評価・格付けに関するところでは、平成 11 年 4 月には「臨床研修病院」の指定を受け、研修医の育成に貢献するとともに、平成 14 年 12 月には「地域がん診療拠点病院」に指定され、地域のがん診療の中核を担うこととなり、更に平成 16 年 2 月には第三者による医療機関の評価である「病院機能評価（Ver.3.1 一般病院 B）」の認定を受けました。

また、医療の I T 化が叫ばれる中、平成 17 年 11 月に電子カルテシステムを稼働することができました。

医療機器の高度化・医療の I T 化に伴い、安定した電力供給は必要不可欠なものとなり、環境保全・省エネルギー・省コストとともに、商用電力との併用による電力の二重化により、万一の際にも一定の電力が確保できるように、自家発電装置以外の発電設備としてガスコージェネレーションシステムを平成 18 年 6 月から稼働させました。

更に平成 17 年度にはこれらと並行し、老朽化・狭隘化という問題を抱えていた手術室を新たに外来正面玄関前に新築移転することになり、2 階部分にバイオクリーンルーム 2 室を含む計 7 室の手術室、1 階部分には生理機能検査室と外科の外来診察室、更には緩和ケア病棟や高槻市街が眼下に広がる場所に『外来化学療法室』を持つ新手術棟・外来棟が平成 18 年 3 月に竣工しました。

続いて平成 18 年 10 月には、旧手術室を内視鏡室・血液浄化療法室などに改修するとともに、眼科・整形外科を中心に外来部門も整備改修し、診療機能の整備とアメニティの向上にも努めました。併せて病院建物全体の耐震補強工事を行い、万一の際にも赤十字病院としての医療機能を保持できるようにしました。

この病棟改修、手術棟・内視鏡室の新設・改修、外来部門の整備にあわせ、診療機能・管理体制の充実にも努めました。平成 16 年 4 月には、それまで皮膚科の中に含まれていた形成外科部門を独立した診療科として標榜するとともに、呼吸器科についても呼吸器科（呼吸器アレルギー内科）と呼吸器外科に分科し、それぞれの専門性を発揮できる体制としました。続いて平成 18 年 7 月には、「糖尿病・内分泌・生活習慣病科部」「緩和ケア科部」「血液・腫瘍内科部」「消化器外科部」「乳腺外科部」「がん統合治療科部」を院内標榜し、患者により分かりやすい診療体制をめざしました。同時に、院長直属の機関として「医療安全推進室」を設置、専任リスクマネージャーを配置し、複雑化する医療への安全

管理と患者への安心の提供のために専門に取り組む体制を強化しました。平成 19 年 2 月には、患者・家族のがんに関する不安や悩みの相談に応え、各種の要望に迅速かつ適切に対応するために、『がん相談支援センター』を設置しました。

この目まぐるしい病院運営の中にありながら、平成 18 年 11 月には、全国の赤十字病院が集う『第 42 回日本赤十字社医学会総会』を「地域の人々が感動し、誇りにする病院」をメインテーマに、当院の主催で国立京都国際会館にて開催し、全国から様々な職種が集い、1,000 名余りの参加を得て大成功を収めることができました。

近年急性期病院としての必須の機能であり、長年の懸案であった ICU について、施設基準としての特定集中治療室管理料は届出しないものの、その機能を十分に持った 6 床を平成 19 年 10 月に 3 病棟の一画に開設することができました。

また、看護師確保対策として“看護職員が働きやすい職場を作り上げる”を主軸とした、院内保育所（高槻市赤十字保育園『すくすく』）と病児保育室を院内に開設するなどの対策を施し、看護師の採用を積極的に行うことで平成 20 年 2 月には念願の 7 対 1 入院基本料を算定できるようになりました。

更に同年 7 月には D P C 対象病院として承認されました。厚生労働省では平成 15 年 4 月より大学病院などを中心とした「特定機能病院」で診断群分類別包括支払（D P C）と呼ばれる診療報酬の包括評価制度を導入し、以後徐々にその対象を広げ、当院でも導入の必要性を認めたことから、平成 17 年 1 月、事務部内に「診療情報管理課」を設置し、平成 18 年より“D P C 準備病院”として調査データの提出を厚生労働省に対して行っていました。

平成 20 年度より導入を進めてきた「放射線治療装置リニアック」も平成 22 年度 4 月には文部科学省の認可が下り、同年 10 月には厚生労働省“高エネルギー放射線治療”の稼働が許可され放射線治療を開始。翌年 2 月には正式に施設基準として認可され、大阪府がん診療拠点病院として癌治療に対する近代医療を提供することが可能となりました。

平成 23 年 11 月 25 日、医療機能の役割分担と連携、自院の役割の明確化と地域医療への貢献を主旨とし、予ねてより計画していた「地域医療支援病院」を取得。救急、紹介、特殊な技術を要する高機能外来など、急性期を中心とした医療提供体制を構築することができました。

平成 24 年 2 月には、より高度な内視鏡検査・治療に対応するため、消化器内視鏡センターを開設。また平成 24 年 8 月には緩和ケア診療科を開設し、緩和サポートチームが入院・外来を問わず患者のさまざまな苦痛の緩和、ご家族の抱える負担や気がかりへの関わり、治療方針や治療の場の選択にかかる意思決定などの支援を行い、ホスピスを提供する緩和ケア病棟と合わせ、緩和ケアにおける診療機能を充実させました。

平成 26 年 1 月 26 日には高槻市制 70 周年記念事業高槻市全域大防災訓練が開催され、当院から救護班として 25 名が参加、消防や各機関と連携して災害救護活動を実施し、赤十字病院としての使命を果たしました。

病院機能評価としては平成 16 年において病院機能評価 Ver.3.1 の認定、平成 21 年において病院機能評価 Ver.5.0 の認定を受けてから 5 年が経過し、平成 26 年 3 月に機能種別版評価項目 3rd G : Ver.1.0 の医療機関として改めて認定されました。

平成 26 年度から新たに「医療の質の評価を継続的に向上させる事業」Q I プロジェクトに参加を開始し、他の参加病院から医療の質改善の事例やノウハウを学ぶなど、病院経営や運営管理に生かす動きを行っています。

平成 26 年 7 月から患者支援センターを開設し、地域医療の中核病院としてかかりつけ医である開業医の先生方や回復期医療・福祉関連施設との連携を図り、地域における良質な医療を提供できる体制を確保し、紹介患者増加に努めています。

平成 26 年 7 月 26 日には医療の現場を知ってもらうことを目的として地域の中学生・高校生を対象にブラックジャックセミナー（手術体験セミナー）を開催し、地域社会への医療教育の貢献を行いました。

平成 26 年 8 月にはフェイスブック (SNS) を開設、11 月には病院診療科案内の冊子を初めて発行するなど様々な病院情報を発信し、広報戦略を展開させました。

平成 27 年 3 月から新たに眼科二次救急当直を毎週木曜日に開始し、医業収益の増収を図るとともに、地域に必要とされる医療提供を行っています。

平成 29 年 9 月に J R 摂津富田～病院間にてシャトルバスの運行を開始、また平成 30 年 6 月には JR 総持寺駅へ運行エリアを拡大し、病院へのアクセス改善を行っています。

平成 30 年 12 月には無菌治療室を 9 床（個室 1 室、4 人部屋 2 室）増床、これまでの個室 3 室を合わせ合計 12 床とし、免疫機能が低下した造血幹細胞移植やがん化学療法の患者さんの入院受入体制を充実させました。

今後も赤十字の使命として災害救護活動をもとに、災害医療対応も地域と共同して推進し「人道・博愛」の精神に基づいた、安全・安心な医療を提供するとともに、さらなる急性期医療提供体制の強化と“継続と変革”を高いレベルで補完し、永続的な発展を行える医療機関として日々邁進していきます。

Ⅱ 病院の現況

1. 病院の特色

医療機能

- ◎ 大阪府より『地域医療支援病院』に承認され、地域医療連携室を通じ、登録医の先生方との連携を密にし、地域に根差した病院として尽力しています。また、地域の登録医からの入院用に『開放病床』を49床設置しています。
- ◎ 大阪府より『がん診療拠点病院』の指定を受けており、地域のがん診療の中心的役割を担っています。また、『がん相談支援センター』の設置、平成22年10月には『放射線治療装置リニアック』の導入を行い、医療機能充実に努めています。
- ◎ 『2次救急告示病院』として地域の救急医療に貢献しています。
- ◎ 三島地区における『大阪府災害医療協力病院』として災害発生時の医療体制の提供を担っており、大規模災害時や救急時に対応できるように、ヘリコプターが離発着できるヘリポート用グラウンドを有しています。
- ◎ DPC対象病院として、平成20年7月より包括請求を実施しています。
- ◎ 看護体制を整備し、『急性期一般入院料1』を取得しています。
- ◎ 『光・水・緑』豊かな環境を生かした『緩和ケア病棟』を開設し、がん患者のケア施設として、身体的苦痛だけでなく、孤独感や不安を軽減し、患者さんがその人らしく尊厳を持って生きることのできる環境を提供しています。
- ◎ HCUを設置し、さらなる急性期医療の充実に努めています。
- ◎ 院長直属の組織として『医療安全推進室』を設置し、専任リスクマネージャーのもと、医療安全の推進に取り組んでいます。
- ◎ 一部の診療科はセンター化を行っており、より専門的な臓器別診療科や特殊外来の充実に努めています。
- ◎ 健診・人間ドックを推進するため、人間ドック・健診施設機能評価認定を受けています。
- ◎ 患者さんやそのご家族が住み慣れた地域で療養生活が継続できるよう他職種による協同支援体制を目的とした患者支援センターを開設しています。

その他

- ◎ 厚生労働省の臨床研修病院『基幹型臨床研修病院』として、また京都大学や大阪医科大学の臨床研修協力病院（施設）として、医師の初期研修の場として貢献しています。
- ◎ 電子カルテシステムを運用しており、診療情報の共有、医療の質の向上に努めています。
- ◎ 看護職員等の労働環境改善のために、『院内保育所』や『病児保育所』を開設しています。
- ◎ 医師職員の労働環境改善のため『医師事務補助職員』の導入を行っています。

2. 施設の概要

病 院

所 在 地	高槻市阿武野一丁目1番1号
敷 地	58,841.39㎡
建物建築面積	11,242.47㎡
建物延床面積	30,154.96㎡

付属施設

訪問看護ステーション	
所 在 地	高槻市阿武野一丁目1番1号

3. 各種法律に基づく医療制度指定・承認

保険医療取扱機関	臨床研修指定病院
国民健康保険療養取扱機関	大阪府災害医療協力病院
労災保険指定病院	母体保護法指定病院
人間ドック指定病院	生活保護法指定病院
救急告示病院	第二種感染症指定医療機関
大阪府肝炎専門医療機関	公害健康被害補償法公害医療機関
児童福祉法医療給付指定医療機関	原子爆弾被爆者医療指定機関
大阪府がん診療拠点病院	地域医療支援病院
難病指定医療機関	小児慢性特定疾病指定医療機関

4. 各学会認定の認定医・専門医教育指定等状況

担 当 診 療 科	名 称
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
内 科	日本内科学会認定医制度教育病院
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	日本糖尿病学会認定教育施設
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	日本内分泌学会認定教育施設
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	日本老年医学会認定施設
緩和ケア科 緩和ケア診療科	日本緩和医療学会認定研修施設
血液・腫瘍内科	日本血液学会認定血液研修施設
循環器科	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
消化器科	日本消化器病学会専門医制度認定施設
消化器科	日本消化器内視鏡学会専門医指導施設
呼吸器外科	呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医制度基幹施設
呼吸器外科	日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設
呼吸器外科 呼吸器科	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
呼吸器科	日本呼吸器学会認定施設
呼吸器科	日本アレルギー学会認定教育施設
外科	日本外科学会外科専門医制度修練施設
外科	National Clinical Database 施設会員
消化器外科	日本食道学会全国登録認定施設
乳腺外科	日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設
乳腺外科 放射線科	日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設
整形外科	日本整形外科学会専門医制度研修施設
整形外科	日本リウマチ学会教育施設
整形外科	日本手外科学会研修施設
形成外科	日本形成外科学会教育関連施設
皮膚科	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
皮膚科	日本アレルギー学会認定教育研修施設
泌尿器科	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医基幹教育施設
産婦人科	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
産婦人科	日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度暫定研修施設 (補完研修施設)
眼科	日本眼科学会専門医制度研修施設
耳鼻咽喉科	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
麻酔科	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
病理診断科	日本病理学会研修認定施設 B
病理診断科	日本臨床細胞学会教育研修施設
病理診断科	日本臨床細胞学会認定施設
健診部	優良短期人間ドック施設
健診部	優良人間ドック・健診施設
健診部	人間ドック健診専門医研修施設
薬剤部	日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
薬剤部	日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
薬剤部	日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
栄養	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設

5. 診療体系

診療科目 23 科

内	科	(内科、緩和ケア科)																											
糖尿病・内分泌内科		(糖尿病・内分泌・生活習慣病科)																											
血	液	内	科	(血液・腫瘍内科)																									
神	経	内	科	消	化	器	科	循	環	器	科	呼	吸	器	科	呼	吸	器	外	科									
外			科	(乳		腺	外	科、	血		管	外	科)	消		化	器	外	科	脳		神	経	外	科				
整	形	外	科	産		婦	人	科	小		児	科	眼				科	皮			膚	科							
形	成	外	科	耳		鼻	咽	喉	科	リ		ハ	ビ	リ	テ	ー	シ	ョ	ン	科	泌		尿	器	科	放	射	線	科
麻	酔	科		病						理	診	断	科																

専門外来

内 科	糖尿病・内分泌・生活習慣病科、緩和ケア科、血液・腫瘍内科 リウマチ・膠原病外来、フットケア外来、移植後外来（造血幹）
神 経 内 科	
消 化 器 科	
循 環 器 科	循環器外来
呼 吸 器 科	睡眠時無呼吸外来、ほっとひといき看護外来
呼 吸 器 外 科	禁煙外来
外 科	消化器外科、乳腺外科、血管外科、ストマ外来
脳 神 経 外 科	
整 形 外 科	脊椎外来、肩関節外来、膝関節外来、肘・手の外科外来 リウマチ外来
産 婦 人 科	子宮癌検診
小 児 科	心臓外来、神経外来、乳児健診、1 カ月健診、 アトピー性皮膚炎外来
眼 科	黄斑外来、緑内障外来、涙道・眼形成外来、ロービジョン外来
皮 膚 科	美容皮膚科外来、褥瘡外来
形 成 外 科	しみ・あざ外来（レーザー・ピーリング）
耳 鼻 咽 喉 科	補聴器外来
リハビリテーション科	身障診断
泌 尿 器 科	前立腺外来、排尿ケア外来

病棟

許可病床	
2 病棟	47 床
3 病棟	34 床
4 病棟	58 床
5 病棟	58 床
6 病棟	59 床
7 病棟	49 床
8 病棟	59 床 (8 病棟休床中)
9 病棟	56 床
緩和ケア病棟	20 床
HCU	6 床
計	446 床

施設基準

基本診療科

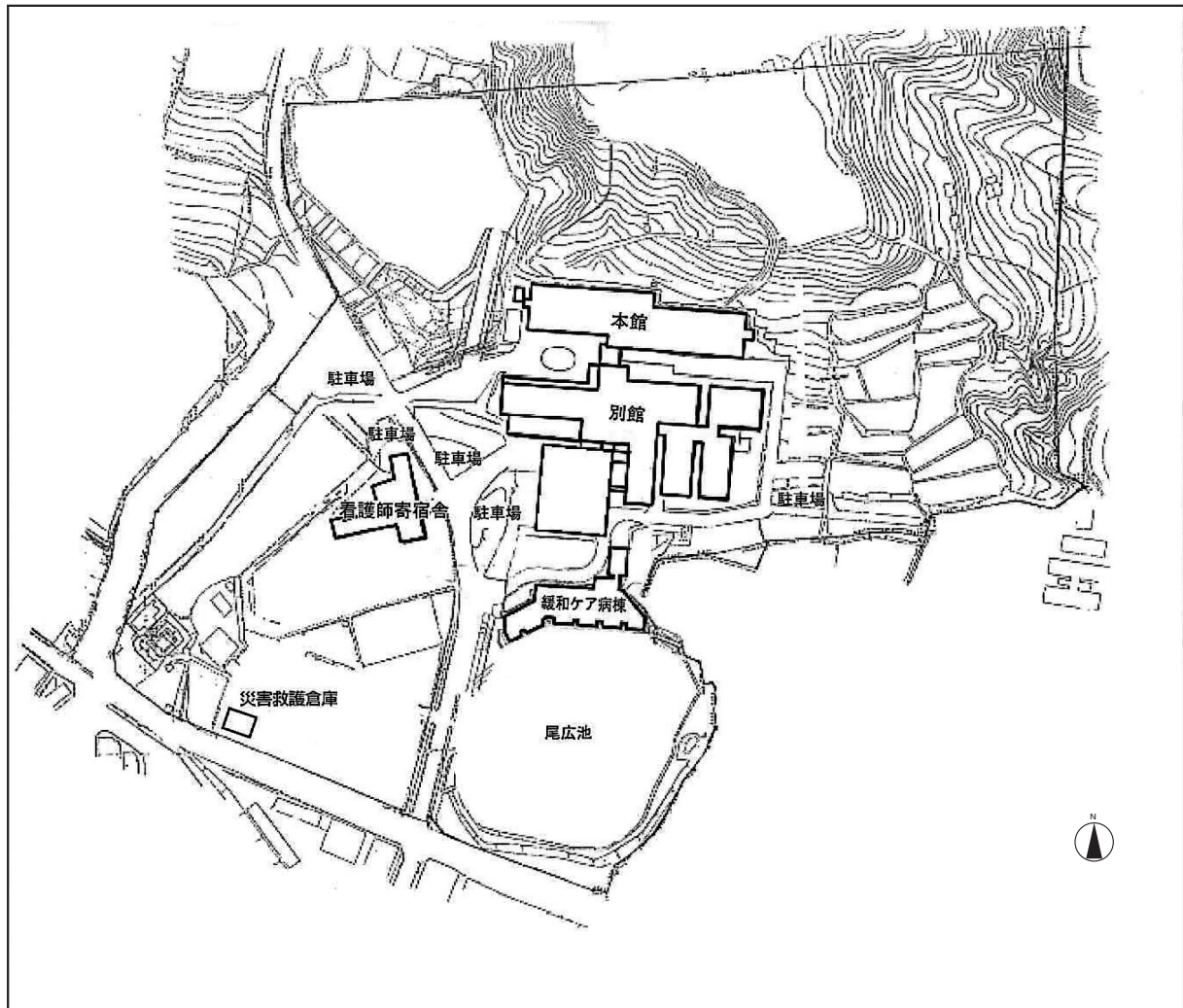
急性期一般入院料 1
診療録管理体制加算 1
医師事務作業補助体制加算 1 (25 対 1)
急性期看護補助体制加算 (50 対 1)
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算 1
無菌治療室管理加算 2
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算 1
感染防止対策加算 1
患者サポート体制充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
入退院支援加算 2
後発医薬品使用体制加算 1
病棟薬剤業務実施加算
データ提出加算 2 イ
ハイケアユニット入院医療管理料 1
小児入院医療管理料 4
緩和ケア病棟入院料 1
総合評価加算
精神疾患診療体制加算
認知症ケア加算 1
総合入院体制加算 3

特掲診療料

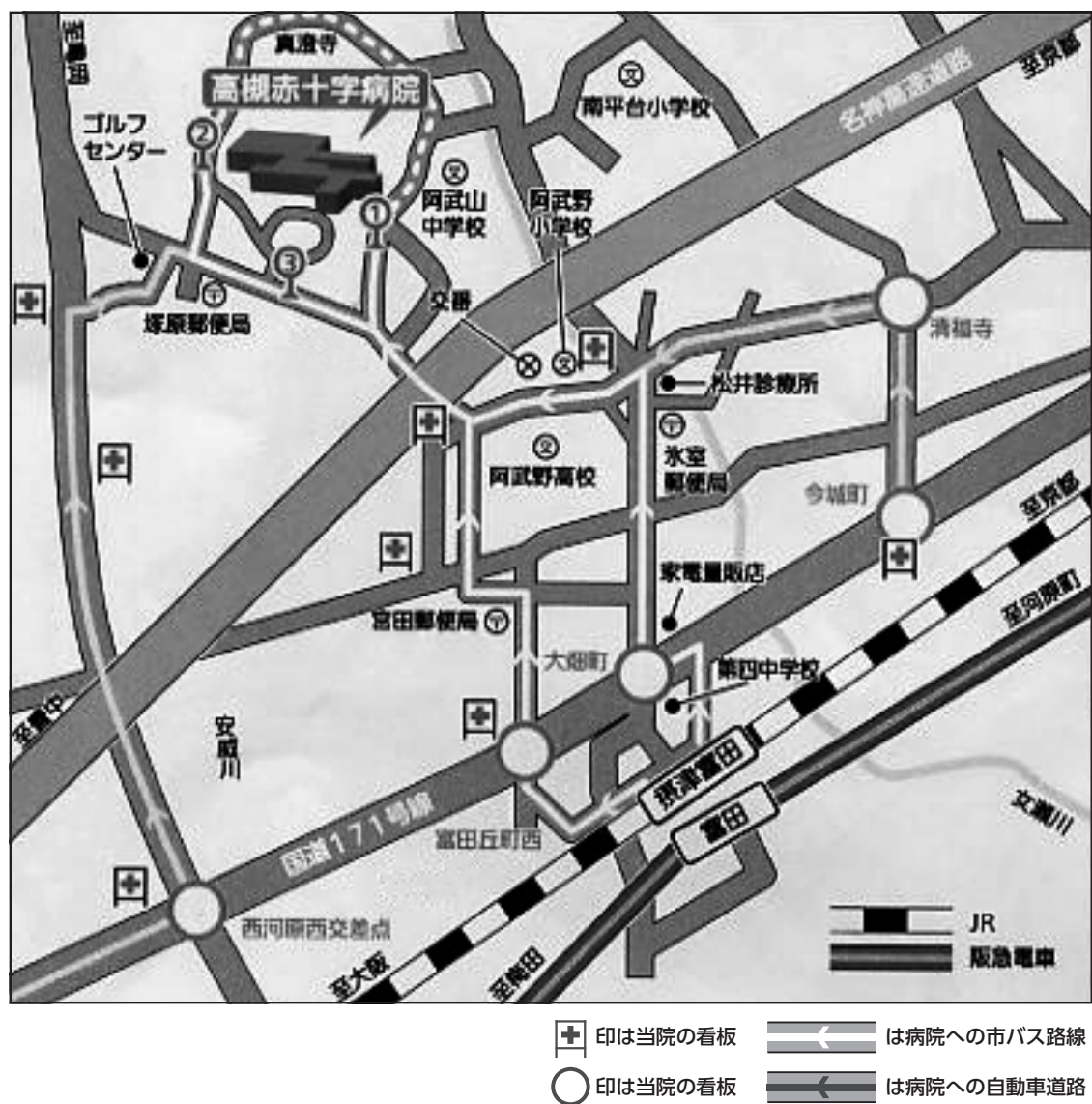
高度難聴指導管理料
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料
外来緩和ケア管理料
移植後患者指導管理料
糖尿病透析予防指導管理料
院内トリアージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に掲げる救急搬送看護体制加算
外来放射線照射診療料
ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料
がん治療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料 1
在宅患者訪問看護・指導料
遠隔モニタリング加算（在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料）
持続血糖測定器加算
H P V 核酸検出
検体検査管理加算（Ⅰ）
検体検査管理加算（Ⅳ）
時間内歩行試験
ヘッドアップティルト試験
小児食物アレルギー負荷検査
画像診断管理加算 2
C T 撮影及びMR I 撮影
冠動脈C T 撮影加算
心臓MR I 撮影加算
乳房MR I 撮影加算
小児鎮静下 MRI 撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算 1
無菌製剤処理料

心大血管疾患リハビリテーション料 (I)
脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
運動器リハビリテーション料 (I)
呼吸器リハビリテーション料 (I)
がん患者リハビリテーション料
集団コミュニケーション療法料
人工腎臓 (慢性維持透析を行った場合 1)
導入期加算 1
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
緑内障手術 (緑内障治療用インプラント挿入術 (プレートのあるもの))
緑内障手術 (水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
乳がんセンチネルリンパ節加算 2
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
大動脈バルーンパンピング法 (I A B P 法)
体外衝撃波胆石破碎術
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下脾腫瘍摘出術
腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
人工尿道括約筋植込・置換術
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
胃瘻造設術 (内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む)
輸血管理料 I
輸血適正使用加算
自己生体組織接着剤作成術
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
胃瘻増設時嚥下機能評価加算
高エネルギー放射線治療
病理診断管理加算 1
悪性腫瘍病理組織標本加算
(平成 31 年 3 月 31 日現在)

6. 配置図



7. 付近見取図



8. 主な施設・機器

医療用リニアック Clinac iX	患者監視装置 WEP-5208 4 病棟
東芝 マルチスライス CT Aquilion64 & 8	患者監視装置 WEP-5208 9 病棟
X線アンギオグラフィシステム Infinix Celeve - i	全身麻酔器 Apollo
吸収補正用 CT 付き 核医学診断撮影装置 (RI)	全身麻酔器 Apollo
ICU にかかる医療用機器	全身麻酔器 Apollo
GE 超音波診断装置 Vivid E9	ドレーゲル 全身麻酔装置 1
多目的デジタル X 線 TV システム	Q スイッチルビーレーザー IB101
泌尿器科用 X 線テレビ装置 UROVISION II	オリンパス内視鏡外科手術システム
眼科用手術顕微鏡	診断用 X 線撮影システム RADIOTEX 【第 2 撮影室】
超音波診断装置	ドレーゲル 全身麻酔装置 2
据置型デジタル式汎用 X 線透視診断装置	X 線撮影システム RADspeed Pro 【第 1 撮影室】
EXAVISTA 一式	ドレーゲル 全身麻酔装置 3
ユヤマ 注射薬自動払出機	CUSA EXcel
網膜硝子体手術器械コンステレーションビジョンシステム	白内障手術装置インフィニティビジョンシステム
東芝フルデジタル超音波診断装置 Xario	ICG 付眼底カメラ + 無散瞳システム
デジタル超音波診断装置 HI VISION Preirus	VIO35 ソケットモデル (超音波切開装置)
内視鏡ビデオシステム EVIS LUCERA SPECTRUM	移動型手術台 MEERA
内視鏡ファイリングシステム SolemioEndo	山田医療照明 スペースラブリブラ TV カメラシステム
山田医療照明 スカイルックス ゼニス A 型	ウォッシャーディスインフェクター ダブル
山田医療照明 スカイルックス ゼニス A 型	患者監視装置
臨床用ポリグラフ	532 レーザー眼科光凝固装置 ピュアポイント
マルチカラー स्कаныレーザー光凝固装置 MC-500Vixi	電動油圧手術台
東芝 外科用 X 線装置	ミズホ マイクロサージャリー手術台
ホルタ心電図解析システム	内視鏡システム VISERA PRO
外科用 X 線装置	電動油圧手術台
サクラ精器 高圧蒸気滅菌装置	単票式薬袋プリンター
サクラ精器 高圧蒸気滅菌装置	超音波診断装置 Nemio XG
PillCam カプセル内視鏡画像診断システム・	補助循環装置システム バイオコンソール等
富士フィルムメディカル ダブルバルーン内視鏡	レスピロニクス 終夜睡眠ポリグラフ検査装置
AutoVue	超音波診断装置 X300 Premium Edition
ベッドサイドモニタ 6 台	超音波画像診断装置 SonoSite M-Turbo
ハイビジョンカメラシステム	リトクラスト 2
瑞穂医科 分離式電動手術台	眼底カメラ接続取込端末一式
シラス HD-OCT	フィリップス 経食道用オムニプレーンⅢセクター型トランスデューサー
超音波診断装置 ARIETTA70	核医学ワークステーション
バーサパルスセレクト 30W (フルミウムレーザー)	患者監視装置
ミズホ 分離式電動手術台 整形用	血液浄化装置
体外衝撃波結石波砕装置 (E SWL)	感染防止機能付 クリオスタット

眼科用 ヤグレーザー手術装置 YC-1800
喘息診断測定システム
輸液ポンプ・シリンジポンプ
超音波診断装置 Prosound α 6
医用テレメーター (送信機 4 台付)
携帯型超音波診断装置
電子スパイロメータ
SonoSite MicroMaxx(携帯型超音波診断装置)
CV5030 カバーガラス自動封入装置
IABP 駆動装置 corart
大腸細径ビデオスコープ
インフィニティモニタリングシステム デルタ XL
モニタリングシステム
トレッドミル一式
セントラルモニター MU-960R
セントラルモニタ
超音波診断装置 PROSOUND-6
産婦人科外来ビデオシステム
IABP 駆動装置 コラート BP
回診用 X 線撮影装置 MobleArt Lumina
眼底観察システム Resight700
ニプロ 個人用 HDF 装置
ニプロ 個人用 HDF 装置
超音波診断装置 SONOVISTA FX premium edition
超音波画像診断装置 SonoSite M-Turbo
炭酸ガスレーザー手術装置 レーザリー
気管支ビデオスコープ
大研 ステリキープ手洗いユニット
ステリキープ手洗いユニット
内臓脂肪測定装置 DualScan
人工呼吸器 ハミルトン C1
回診用 X 線撮影装置
CD/DVD/BD ディスク発行システム
気管支ビデオスコープ
エアウェイマネジメントモバイルスコープビデオスコープ 2 台
回診用 X 線撮影装置 MobileArt Evolution
MX7 version
眼科用冷凍手術システム

気管支ビデオスコープ
ソノサージジェネレーター (超音波切開装置)
小林メディカル 電気メス 5000
小林メディカル 電気メス 5000
パワープロ・システム スモールハンドピース等
体成分分析装置 InBody
フクダ 呼気凝縮液採取装置 エコスクリーン
インバータ式コードレス移動型 X 線装置
心電計 (解析機能付)
トンプソン リトラクタ (開創器)
視覚誘発反応測定装置 (ERG)
超低温フリーザー
オリンパス システム生物顕微鏡
人工呼吸器 Infinity EvitaV500
人工呼吸器 HAMILTON-C2
ドレーゲル 人工呼吸器 Savina
フィリップス 成人用人工呼吸器 V60 ベンチレータ Auto-Track+
ビジランスヘモダイナミックモニター (心拍出量測定装置)
除細動器
ハイスピードドリルプリマド 2 一式
ビデオ縦隔鏡セット
ドレーゲル 人工呼吸器 Savina
パワープロエアーミニドライバ
骨塩量測定装置ダイクロマस्क্যান Dichroma Scan
電動マイクロドリルシステム
超音波画像診断装置
キュリーメータ
睡眠評価装置 ソムノスクリーン BT-plus
メラ高頻度ジェットベンチレータ
個人用透析装置 NCU-12
個人用透析装置 NCU-12
個人用透析装置 NCU-12
セントラルモニター WEP-5204
ソニー製 ZEISS 眼科手術顕微鏡用カメラ装置一式
心電計
電動診察イス
自動浸透圧測定装置オズモステーション
R E G I U S システム
R E G I U S システム
心電計

自動血球洗浄遠心機 MC450
ジンマー HALL50 シングルトリガーハンドピース一式
グライドスコープビデオ咽頭鏡システム
血液ガス分析装置 ラピッドポイント 500
日本光電 解析機能付心電計
ステリルガードⅢ
ディブリレーター（除細動器）TEC-5631
ジンマー ATS2000 タニケットシステム
メディサームⅢ（高・低体温維持装置）
ディブリレーター（除細動器）TEC-5631
システム生物顕微鏡
ウレトロレノスコープセット 6FR 841-420
タカラベルモント 外科用手術台
トーイツ アクトカルディオグラフ
テルモ 無菌接合装置 T S C D
個人用透析装置 NCU-12
ポータブル気管支ファイバースコープ
フロア型冷却遠心機
フロア型冷却遠心機
メドトロニック X P S マイクロシステム
レッグ CPM L4KD-100
ベッドサイドモニタ
ヘモクロン レスpons（血液凝固計）
ベッドサイドモニター
OES ヒステロファイバースコープ
イソメディカル 脊椎外科用手術フレーム
集細胞遠心装置 サイトスピン 4
ジンマー パワープロエアーオシレーター
喉頭ファイバースコープ
クボタ ユニバーサル冷却遠心機
ライカ 滑走式ミクロトーム
ベットサイドモニタ PVM-2701
バイオメディカルペースメーカーテスト
ジンマー M パワー 2 スターナムソーハンドピース一式
MRI 室用パルスオキシメータ
ガンプロ 個人用逆浸透精製水システム
CPM ユニット レッグ用
KS メジャー
ベッドサイドモニタ

ケイセイ メッシュダーマートーム（形成外科）
日本光電 生体情報モニタ
日本光電 生体情報モニタ
東機質 サーティファイアー FA テストシステム
ヒラタニ 器械展開台
平山製作所 新高圧滅菌器
ベッドサイドモニタ
フィリップス 自動体外式徐細動器 ハートスタート
自己血回収装置セルセーバー 5+（中古品）
ヘッドライトシステム（呼吸器外科）
ストレートショット M4 ハンドピース
デスフルラン用気化器 Drager D-Vapor-desflurane
タンゴ M2 ECG ボード付システム
運動負荷血圧計 TangoM2
エルマン サージトロン EMC（フットスイッチ付）付属品除く
生体情報モニタ Vital Sensor S
光学視管 12°Φ 4mm
フジレスピロニクス 簡易睡眠検査装置 スターダストⅡ
黄疸計
サカセ オーダーリングカート
レビテーター
NIOX MINO（一酸化窒素ガス分析装置）
ミニメド 620G インスリンポンプキット
一酸化窒素ガス分析装置ナイオックス NIOX VERO
ヒラサワ テーハー式ウィークリー恒温器
体外式ペースメーカー
薬用冷蔵ショーケース
ニコン 顕微鏡用デジタルカメラ
シャワーストレッチャー
流量計付ブレンダー
アイケア手持眼圧計

9. 年 表（沿革）

昭和15年	6月 8日	療養所起工式並びに地鎮祭。
昭和16年	11月 2日	日本赤十字社大阪支部病院分院「阿武野勝景園」竣工。
昭和17年	5月20日	「大阪陸軍病院阿武野赤十字病院」として軍患者を収容。
昭和18年	1月 1日	日本赤十字社支部病院管理規則により「大阪赤十字病院阿武野分院」に改称。
昭和20年	6月 6日	「大阪第二陸軍病院阿武野赤十字病院」として中部軍属となる。
	11月30日	軍病院を解除。
	12月 1日	大阪赤十字病院分院阿武野勝景園として一般診療開始。
昭和22年	9月 1日	分院より昇格（独立）大阪阿武野赤十字病院と称す。
昭和23年	6月 9日	大阪阿武山赤十字病院と改称。
昭和26年	11月 1日	完全看護制度実施。
昭和27年	5月 6日	医療社会事業部を新設。
	10月15日	勝景園神社を阿武山神社と改称。
	11月20日	中央材料室開設。
昭和34年	4月10日	病院機関紙として「阿武山ニュース」（現：日赤たかつき）創刊号発行。
	11月 5日	手術棟（鉄筋コンクリート平屋建）竣工。
昭和35年	1月18日	北朝鮮帰還列車添乗派遣を開始。
昭和44年	12月 5日	病院第一次増改築工事竣工式。
昭和45年	1月 1日	高槻赤十字病院と改称。
	2月 2日	新館開設、一般外来及び入院診療開始。 （一般99床、結核559床）
昭和45年	9月 1日	大阪府労災指定病院に承認。
	11月 3日	大阪府救急指定病院に指定。
昭和47年	2月 1日	一般病棟（新館）「特類看護」の承認。
昭和49年	12月 3日	看護婦寄宿舍（鉄筋コンクリート4階建）竣工式。
昭和52年	7月 1日	耳鼻咽喉科の診療開始、総合病院となる。
	10月31日	病院第二次増改築工事竣工式。医療法による許可病床を 421床とする。（一般224床、結核197床）
	12月 1日	理学診療科部（現：リハビリテーション科部）新設。
昭和54年	1月	放射線科部にR I 検査を新設。
昭和55年	4月16日	1病棟開設、定床37床。医療法による許可病床458床。 （一般261床、結核197床）
	4月16日	全身用東芝CT-60A型スキャナー導入。
昭和58年	8月17日	障害等級2・3級の小児転地療養事業（健康回復キャンプ）実施。
昭和61年	2月24日	8病棟（結核病棟）を閉鎖、一般科病棟に転換、実働病床 375床（一般310床、結核65床）。
昭和62年	5月11日	上の池（溜池）を埋立て、駐車場用地とする。
昭和63年	4月 1日	理学診療科（現：リハビリテーション科）に作業療法室を開設。
平成 3年	11月 5日	創立50周年記念祝賀会開催。
平成 4年	10月 1日	麻酔科部の設置。
	12月18日	外来増改築工事完成。
平成 5年	9月 1日	総合リハビリテーション承認施設。

平成 6 年 10 月 21 日	許可病床数、519 床より 511 床へ変更。
平成 7 年 1 月 17 日	兵庫県南部地震（阪神・淡路大地震）による被災者救護活動開始。
8 月 1 日	高槻赤十字訪問看護ステーション開所式。
平成 8 年 9 月 2 日	「MRI 棟」増改築工事完成。病院構造設備使用許可。
平成 9 年 3 月 31 日	結核病棟廃止。（一般病床 446 床、結核 0 床）
平成 10 年 10 月 1 日	開放型病院の指定。（12 床） （平成 11 年 6 月～ 40 床、平成 13 年 10 月～ 49 床）
11 月 26 日	剖検慰霊祭を以後毎年実施。
平成 11 年 4 月 1 日	厚生省臨床研修病院の指定。
8 月 31 日	指定居宅介護支援事業者となる。
平成 12 年 1 月 1 日	院外処方箋の実施。
8 月 21 日	アレルギー科の診療を開始する。
10 月 1 日	病診連携係（現：地域医療連携課）設置。
平成 13 年 3 月 1 日	産婦人科病棟全面改修。
4 月 1 日	脳神経外科開設。
7 月 9 日	7 病棟全面改修。48 床（血液内科、透析、外科、化学療法）運用開始。
平成 14 年 5 月 7 日	緩和ケア病棟開設。（全室 20 床）
10 月 1 日	業務委託による診療材料の定数管理（SPD）実施。
10 月 15 日	駐車ゲートシステム導入、外来患者以外の駐車有料化実施。
12 月 9 日	地域がん診療拠点病院の指定を得る。
平成 15 年 1 月	業務委託による検査室共同運営（FMS）実施。
7 月 1 日	一般病棟 1 群入院基本料 1 許可。（2 対 1 看護）
平成 16 年 2 月 16 日	病院機能評価 Ver.3.1（一般病院種別 B）認定。
4 月 1 日	形成外科、呼吸器外科の開設。（アレルギー科の廃止）
12 月 7 日	4・5・6・8・9 病棟の改修終了 MRI 装置入れ替え実施。
平成 17 年 1 月 1 日	診療情報管理課設置。 事務部総務課に医療安全係設置。
1 月 4 日	亜急性期病床開設（20 床）
3 月 1 日	救急部設置。
10 月 27 日	NST 運用開始。
11 月 1 日	電子カルテ稼動。
平成 18 年 3 月 27 日	新手術棟完成 竣工式。 （1 階外科外来・生理検査部門／2 階手術室・中央材料室）
平成 18 年 6 月 1 日	ガスコージェネレーションシステム運用開始
平成 18 年 7 月 1 日	「医療安全推進室」設置、「癌統合治療科部」設置。 「第一内科」を「糖尿病・内分泌・生活習慣病科部」と「緩和ケア科部」に分科。「第二内科部」を「血液・腫瘍内科部」に名称変更、「第一外科部」を「消化器外科部」に名称変更、「第二外科部」を「乳腺外科部」に名称変更。
平成 18 年 10 月	全手術部門及び外来改造工事、病院建物（本館・別館）の耐震工事、並びに 3 病棟改修工事完了。
平成 18 年 10 月 20 日	マルチスライス CT 64 列の導入。
平成 18 年 11 月 16 日	第 42 回日本赤十字社医学会総会主催（於国立京都国際会館）。

平成18年12月16日	日本人間ドック学会「人間ドック健診施設機能評価」認定。
平成19年 1月 4日	院内保育所高槻日赤保育園『すくすく』開園。
平成19年 2月 1日	がん相談支援センター室設置。 病児保育室を委託開設。
平成19年 4月 1日	「医療技術部」を新設（臨床工学技術課、栄養課を設置）。 医療社会事業部地域医療連携課内に「がん相談支援センター室係」を 新設。
平成19年 7月 1日	教育研修推進室設置。
平成19年10月 1日	I C U（院内基準）開設。
平成20年 2月 1日	一般病棟7対1入院基本料施設基準届出受理。
平成20年 2月 8日	地域がん診療連携拠点病院の指定更新。
平成20年 6月 1日	週休二日制実施。
平成20年 7月 1日	D P C対象病院として請求開始。 放射線画像等フィルムレス運用開始。
平成21年 2月16日	病院機能評価 Ver.5.0 認定
平成21年 8月15日	兵庫県佐用町の台風9号水害による被災者救援活動のため、 医療救援班を派遣。
平成22年 3月15日	X線アンギオ装置（血管造影装置）の入れ替え実施。
平成22年 3月	災害救護倉庫の整備。
平成22年 4月 1日	事務部医療安全課設置。
平成22年 6月	エコロジーガーデン設置。
平成22年10月	患者・家族向け図書コーナー設置。
平成22年10月 1日	放射線治療システム「リニアック」導入完了・治療開始。
平成23年 3月15日	東日本大震災により、宮城県庁前・岩手県山田町へ医療救援班を派遣 (3/15～5/26)。
平成23年 3月30日	震災により石巻赤十字病院支援派遣（3/30～4/4・5/9～5/14）。
平成23年 4月 1日	神経内科開設。
平成23年11月25日	地域医療支援病院に承認される。
平成24年 2月 1日	消化器内視鏡センター開設。
平成24年 8月 1日	緩和ケア診療科開設。
平成24年12月 1日	医療社会事業部地域連携推進課設置。
平成25年 4月 1日	事務部研修課設置。
平成26年 3月 7日	機能種別版日評価項目3rdG: V er.1.0 認定。
平成26年 7月	患者支援センター開設。
平成26年 9月	病理診断科標榜。
平成28年 3月	消化器外科標榜。
平成29年 9月 1日	病院～JR摂津富田駅間でシャトルバス運行開始。
平成30年 1月	糖尿病・内分泌内科、血液内科標榜。
平成30年 4月	事務部人事課設置。
平成30年 6月	シャトルバスの運行をJR総持寺駅へ拡大。
平成30年12月	無菌治療室を9床増設（合計12床）。

10. 整備医療器械備品

メーカー名	固定資産名	規格型式
日本光電工業	長時間心電図解析装置	DSC-5300
日本光電工業	長時間心電図記録器 R A C - 2 5 1 2	RAC-2512
日本光電工業	長時間心電図記録器 RAC-5103	RAC-5103
エドワーズライフサイエンス	ビジレオモニター（中古）	MHM1
トーイツ	分娩監視装置 アクトカルディオグラフ	MT-517((受)MT-201(送)MT-205)
アトムメディカル(株)	分娩台 マミージョイ L D R	1433250
日本光電工業	ベッドサイドモニター	PVM-2701
ニチオン	ニチオン ダイヤモンドフレックスリトラクター	89-6114
日本医化器械製作所	採痰ブース V C M - 9 8 0 N 2 S	VCM-980N2S
メドトロニック	MED フレキシブルアームサポートアセンブリ 9560523	9560523
日本光電工業	人工呼吸器 ハミルトン C1	HAMILTON-C1
ニデック	超音波式眼軸長測定装置	US-500
ニデック	ノンコンタクトトノパキメーター	TONOPACHY
ニデック	オートレフケラトメーター	ARK-1s
アムコ	高周波手術装置 VIO3	VIO3 4 ソケット GI モデル
日本光電工業	患者監視装置 一式	
フィリップス	超音波診断装置 CX50 Ultrasound System	CX50
モリタ	ニスタモ 眼球運動検査機器 I R N - 2 平衡機能検査システム V O R - 2	IRN-2 VOR-2
其の他	造影剤自動注入装置	PRESSPRO GEO-150
日本光電工業	デフィブリレータ(除細動器)	TEC-5631
富士フィルム	デジタル式乳房用X線撮影装置(マンモグラフィ・システム AMULET Innovality)	FDR 3500DRLH
富士フィルム	AWS - h (AMULET Innovality 制御ワークステーション)	FDR-300AWS
富士フィルム	メディコン 吸引式組織生検用針向け装置(バイオプシー機器EnCor ENSPIREシステム)	
富士フィルム	Climb ビューワー	
其の他	エダップ(Laborie社)全自動尿流量計フロースター	UFS-2005
日本光電工業	ポケット CO2 モニタ	WEC-7301
cannon	過酸化水素ガス低温滅菌装置	ES-1400

Ⅲ 組織及び職員

2018.4.1



2. 幹部職員

(平成 30 年度末現在)

院		長	古	川	福	実
副	院	長	千	葉		渉
副	院	長	玉	田		尚
副	院	長	平	松	昌	子
副	院長兼看護部	長	松	井	和	世
事	務部	長	河	野	龍	一
糖尿病・内分泌・生活習慣病科		部長	金	子	至	寿佳
緩和ケア科		部長	橋	本	典	夫
血液・腫瘍内科		部長	安	齋	尚	之
循環器科		部長	大	中	玄	彦
消化器科		部長	神	田	直	樹
呼吸器外科		部長	菅		理	晴
呼吸器科		部長	北		英	夫
小児科		部長(兼)	古	川	福	実
消化器外科		部長(兼)	恒	松	一	郎
乳腺外科		部長	小	林	稔	弘
脳神経外科		部長(兼)	平	松	昌	子
整形外科		部長	小	田	幸	作
形成外科		部長	田	辺	敦	子
皮膚科		部長(兼)	古	川	福	実
泌尿器科		部長	六	車	光	英
産婦人科		部長(兼)	平	松	昌	子
眼科		部長	植	木	麻	理
耳鼻咽喉科		部長	藤	田	修	治
神経内科		部長(兼)	玉	田		尚
放射線科		部長	後	藤	公	男
核医学科		部長	山	室	正	樹
リハビリテーション科		部長	馬	止		裕
麻酔科		部長(兼)	平	松	昌	子
救急部		部長	岡	本	文	雄
健診部		部長	河	北	誠	三郎
医療技術部		部長(兼)	古	川	福	実
薬剤部		部長	小	島	一	晃
検査部		部長(兼)	千	葉		渉
病理診断科		部長	渡	邊	千	尋
中央手術部		部長(兼)	平	松	昌	子
医療社会事業部		部長	欠			
健診課		部長	木野村			亨
社会課		部長	濱田	健		司
地域医療連携課		部長	渡部			悟
人事課		部長	浦川			悟
総務課		部長(兼)	酒井	美		幸
経営企画課		部長	片岡	幹		夫
医療事課		部長	杉山	乙		矢
診療情報管理課		部長	三上	貴		政
用度施設課		部長	萩原	大		介
情報システム課		部長	日高	利		明

3. 職員現況表

会計決算書より（平成 31 年 3 月 31 日現在）

区 分	① 病 院																	
	医	薬	放	検	理	作	言	臨	視	管	助	看	准	看	医	事	そ	小
		劑	射	査	学	業	語	床	能	理			看	護	療	務	の	
	師	師	線	技	療	療	聴	工	訓	栄	産	護	護	助	技	職	他	計
常 勤	74.0	25.0	18.0	20.0	14.0	4.0	2.0	9.0	3.0	9.0	10.0	290.0	0.0	29.0	0.0	67.0	16.0	590.0
非常勤	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	23.5	0.3	5.1	0.0	4.5	4.9	50.4
計	83.5	25.0	18.0	20.0	14.0	4.0	2.0	9.0	3.0	9.0	12.6	313.5	0.3	34.1	0.0	71.5	20.9	640.4

② 病院（医療社会事業）					
区 分	看 護 師	管 理 栄 養 士	事 務 職 員	医 療 社 会 事 業 司	小 計
常 勤	1.0	0.0	8.0	5.0	14.0
非 常 勤	0.0	0.0	0.9	0.0	0.9
計	1.0	0.0	8.9	5.0	14.9

③ 訪問看護ステーション			
区 分	事 務 職 員	看 護 師	小 計
常 勤	1.0	5.0	6.0
非 常 勤	0.0	0.8	0.8
計	1.0	5.8	6.8

総合計	
区 分	① + ② + ③
常 勤	610.0
非 常 勤	52.1
計	662.1

4. 職種別・年齢別・職員構成表

		30才未満	30才～ 40才未満	40才～ 50才未満	50才～ 55才未満	55才～ 60才未満	60才～ 62才未満	62才～ 65才未満	65才以上	計
一般職(一)	男	1	8	12	2	7				30
	女	10	15	27	2	3	2			59
一般職(二)	男		1	5	0	5	1	1		13
	女			14	12	8	3	3	4	44
医療職(一)	男	6	22	10	6	8	1	2	5	60
	女	1	7	3	3		1			15
医療職(二)	男	14	19	13	2	3				51
	女	22	17	9	4	2				54
医療職(三)	男	7	6	4	2	1				20
	女	55	85	103	47	25	3	3	2	323
計	男	28	56	44	12	24	2	3	5	174
	女	88	124	156	68	38	9	6	6	495
										669

5. 会議及び委員会

(平成 31 年 3 月 31 日現在)

◎ 会 議

4 役会議

病院連絡会議

◎ 委 員 会

DPC 診療記録管理委員会

ICT 委員会

SPD・診療材料購入審査委員会

がん診療関連機能充実委員会

クリニカルパス委員会

医師・看護師業務改善委員会

医療ガス安全管理委員会

医療安全管理委員会

院内感染防止対策委員会

救急委員会

健診事業運用委員会

研修管理委員会

広報委員会

治験審査委員会

図書委員会

地域医療連携運営委員会

AST（抗菌薬適正支援）委員会

保険委員会

防火防災・災害対策委員会

輸血療法委員会

臨床検査適正化委員会

褥瘡委員会

患者サービス向上委員会

HCU 運営委員会

NST 委員会

がん診療関連機能充実委員会

クリニカルパス委員会

医師・看護師業務改善委員会

医療ガス安全管理委員会

医療事故調査委員会

化学療法委員会

給食委員会

研修運営委員会

個人情報管理委員会

購買委員会

手術室運営委員会

地域医療連支援病院運営委員会

認知症ケアサポート委員会

病床管理運営委員会

放射線安全委員会

薬事委員会

倫理委員会

労働安全衛生委員会

電子カルテ委員会

IV 統計

1. 平成30年度実績表

	入				院				外				来		合 計	
	患者延数	1 日平均	在院日数	診 療 稼 働 額	診 療 単 価	患者延数	1 日平均	通院日数	診 療 稼 働 額	診 療 単 価				診 療 稼 働 額		
内 科	16,807	46.0	21.9	1,191,683,987	70,904.0	21,614	88.6	24.9	583,800,005	27,010.3				1,775,483,992		
消 化 器 科	16,944	46.4	8.4	800,406,667	47,238.4	17,476	71.6	15.2	264,859,498	15,155.6				1,065,266,165		
循 環 器 科	14,536	39.8	14.0	843,030,173	57,996.0	13,000	53.3	30.9	137,762,768	10,597.1				980,792,941		
神 経 内 科	0	0.0	0.0	0	0.0	2,285	9.4	28.2	13,484,684	5,901.4				13,484,684		
呼 吸 器 科	18,092	49.6	13.1	826,870,362	45,703.6	16,049	65.8	19.9	473,852,802	29,525.4				1,300,723,164		
呼 吸 器 外 科	2,877	7.9	12.3	274,329,784	95,352.7	3,250	13.3	270.8	164,404,982	50,586.1				438,734,766		
外 科	7,293	20.0	11.1	509,675,562	69,885.6	11,150	45.7	28.9	253,010,514	22,691.5				762,686,076		
脳 神 経 外 科	0	0.0	0.0	0	0.0	1,127	4.6	9.1	11,900,740	10,559.7				11,900,740		
整 形 外 科	13,552	37.1	20.4	740,929,453	54,673.1	14,195	58.2	14.1	177,521,342	12,505.9				918,450,795		
産 婦 人 科	838	2.3	6.4	61,141,874	72,961.7	3,487	14.3	24.9	25,178,018	7,220.5				86,319,892		
小 児 科	250	0.7	2.3	12,968,797	51,875.2	2,215	9.1	7.9	11,974,815	5,406.2				24,943,612		
眼 科	1,667	4.6	1.4	159,789,812	95,854.7	10,499	43.0	12.5	143,381,672	13,656.7				303,171,484		
皮 膚 科	1,083	3.0	8.5	42,286,648	39,045.8	8,614	35.3	26.2	45,154,041	5,241.9				87,440,689		
形 成 外 科	2,466	6.8	21.4	112,343,169	45,556.8	3,540	14.5	10.9	28,629,003	8,087.3				140,972,172		
耳 鼻 咽 喉 科	96	0.3	7.3	3,740,720	38,965.8	3,254	13.3	16.7	19,772,162	6,076.3				23,512,882		
リハビリテーション科	0	0.0	0.0	0	0.0	4,502	18.5	0.0	18,984,149	4,216.8				18,984,149		
泌 尿 器 科	2,545	7.0	7.4	165,552,462	65,050.1	8,390	34.4	24.5	118,321,759	14,102.7				283,874,221		
緩 和 ケ ア	5,066	13.9	28.4	286,496,811	56,552.9	480	2.0	6.2	2,354,114	4,904.4				288,850,925		
放 射 線	0	0.0	0.0		0.0	1,104	4.5	1.5	34,798,904	31,520.7				34,798,904		
そ の 他	0	0.0	0.0		0.0	99	0.4		14,140	142.8				14,140		
合 計	104,112	285.2	12.3	6,031,246,281	57,930.4	146,330	599.7	18.1	2,529,160,112	17,283.9				8,560,406,393		
前 年 度	103,760	284.3	12.0	5,968,699,984	57,524.1	153,298	630.9	18.2	2,552,667,993	16,651.7				8,521,367,977		
増 減 率	0.3%	0.3%	2.2%	1.0%	0.7%	-4.5%	-4.9%	-0.9%	-0.9%	3.8%				0.5%		

2. 入院患者数

	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	16,807	1,467	1,427	1,350	1,476	1,707	1,363	1,103	1,188	1,150	1,308	1,589	1,679
消化器科	16,944	1,476	1,232	1,326	1,324	1,575	1,337	1,378	1,347	1,340	1,625	1,425	1,559
循環器科	14,536	1,075	1,018	1,124	1,319	1,221	1,023	1,088	1,020	1,158	1,531	1,506	1,453
神経内科	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器科	18,092	1,425	1,375	1,316	1,640	1,495	1,524	1,633	1,450	1,595	1,585	1,454	1,600
呼吸器外科	2,877	164	249	125	206	267	225	253	228	215	350	318	277
外科	7,293	738	703	771	698	521	539	493	502	535	548	610	635
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	13,552	1,448	1,110	1,375	1,304	1,292	1,164	1,026	1,039	944	776	975	1,099
産婦人科	838	63	49	62	77	117	52	109	38	58	106	55	52
小児科	250	32	16	6	25	22	15	19	30	44	8	17	16
眼科	1,667	94	87	130	124	155	137	139	150	136	152	143	220
皮膚科	1,083	83	119	88	125	121	83	43	80	80	52	135	74
形成外科	2,466	156	152	236	278	285	239	205	247	197	152	112	207
耳鼻咽喉科	96	48	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	2,545	216	229	144	295	211	274	283	163	127	154	206	243
緩和ケア	5,066	440	485	459	426	384	237	399	493	509	438	376	420
合 計	104,112	8,925	8,299	8,512	9,317	9,373	8,212	8,171	7,975	8,088	8,785	8,921	9,534
1 日 平 均	285.2	297.5	267.7	283.7	300.5	302.4	273.7	263.6	265.8	260.9	283.4	318.6	307.5

前 年 度	103,760	8,464	7,642	8,327	8,683	8,853	8,386	8,555	8,394	9,130	8,760	8,952	9,614
1 日 平 均	284.3	282.1	246.5	277.6	280.1	285.6	279.5	276.0	279.8	294.5	282.6	319.7	310.1
増 減 率	0.3%	5.4%	8.6%	2.2%	7.3%	5.9%	-2.1%	-4.5%	-5.0%	-11.4%	0.3%	-0.3%	-0.8%

3. 入院稼働額

	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	1,191,683,987	93,896,447	100,985,851	97,514,935	107,959,990	115,019,301	88,257,947	79,426,694	104,756,126	94,147,595	83,787,278	103,290,848	122,640,975
消化器科	800,406,667	70,307,028	58,346,666	64,309,223	65,726,624	73,346,188	63,583,581	63,584,056	67,003,995	65,027,447	74,226,785	65,455,928	69,489,146
循環器科	843,030,173	65,028,968	56,153,092	67,576,593	73,122,986	67,256,367	61,699,753	78,456,235	60,209,521	72,874,932	88,851,160	80,400,324	71,400,242
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器科	826,870,362	65,302,618	65,140,440	61,271,333	71,472,812	67,998,776	72,044,453	74,676,294	67,401,641	70,625,068	71,048,693	66,418,846	73,469,388
呼吸器外科	274,329,784	16,072,514	21,207,064	12,037,591	19,887,236	28,241,574	22,922,958	29,612,109	24,218,898	20,623,670	32,195,714	23,752,726	23,557,730
外科	509,675,562	48,438,610	44,429,663	48,096,712	48,974,478	45,520,773	33,941,168	36,348,952	40,930,550	35,257,816	38,182,672	44,648,120	44,906,048
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	740,929,453	70,104,001	57,346,962	78,634,606	71,094,029	65,231,183	62,411,386	53,728,639	60,522,135	54,719,102	50,513,760	55,373,028	61,250,622
産婦人科	61,141,874	3,863,994	3,462,230	4,272,461	6,687,635	8,750,268	3,596,262	6,986,870	3,581,341	3,996,254	6,063,956	5,118,010	4,762,593
小児科	12,968,797	1,570,260	755,314	330,848	1,315,100	880,637	647,344	986,790	1,842,600	2,316,996	421,706	1,078,708	822,494
眼科	159,789,812	10,564,616	9,666,348	12,473,952	11,855,054	13,059,970	13,086,288	13,302,246	14,716,106	13,916,946	14,404,186	13,315,888	19,428,212
皮膚科	42,286,648	3,245,150	4,721,710	3,244,194	5,007,572	4,621,260	2,940,280	1,700,640	2,981,724	3,266,266	2,086,360	5,578,052	2,893,440
形成外科	112,343,169	7,070,635	6,735,757	11,643,933	12,649,087	11,830,484	11,708,162	8,467,102	12,243,335	8,464,766	7,605,860	4,947,156	8,976,892
耳鼻咽喉科	3,740,720	3,119,490	621,230	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	165,552,462	11,167,736	11,743,668	9,104,028	22,030,224	11,864,084	19,149,838	20,775,760	10,048,028	8,783,396	13,182,994	14,109,314	13,593,392
緩和ケア	286,496,811	24,353,382	27,515,824	24,745,634	23,825,420	21,894,886	14,014,859	23,290,874	28,695,796	29,103,720	23,551,922	21,564,520	23,939,974
合 計	6,031,246,281	494,105,449	468,831,819	495,256,043	541,608,247	535,515,751	470,004,279	491,343,261	499,151,796	483,123,974	506,123,046	505,051,468	541,131,148

前 年 度	5,968,699,984	494,757,575	436,273,176	493,599,110	492,619,431	529,323,694	487,488,757	488,620,240	489,519,655	521,981,472	500,162,054	506,073,156	528,281,664
増 減 率	1.0%	-0.1%	7.5%	0.3%	9.9%	1.2%	-3.6%	0.6%	2.0%	-7.4%	1.2%	-0.2%	2.4%

4. 入院単価

	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	70,904.0	64,005.8	70,767.9	72,233.3	73,143.6	67,381.0	64,752.7	72,009.7	88,178.6	81,867.5	64,057.6	65,003.7	73,044.1
消 化 器 科	47,238.4	47,633.5	47,359.3	48,498.7	49,642.5	46,569.0	47,556.9	46,142.3	49,743.1	48,527.9	45,678.0	45,934.0	44,572.9
循 環 器 科	57,996.0	60,492.1	55,160.2	60,121.5	55,438.2	55,083.0	60,312.6	72,110.5	59,028.9	62,931.7	58,034.7	53,386.7	49,139.9
神 経 内 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
呼 吸 器 科	45,703.6	45,826.4	47,374.9	46,558.8	43,581.0	45,484.1	47,273.3	45,729.5	46,483.9	44,279.0	44,825.7	45,680.1	45,918.4
呼吸器外科	95,352.7	98,003.1	85,168.9	96,300.7	96,540.0	105,773.7	101,879.8	117,043.9	106,223.2	95,924.0	91,987.8	74,694.1	85,046.0
外 科	69,885.6	65,635.0	63,200.1	62,382.2	70,164.0	87,371.9	62,970.6	73,730.1	81,535.0	65,902.5	69,676.4	73,193.6	70,718.2
脳神経外科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
整 形 外 科	54,673.1	48,414.4	51,663.9	57,188.8	54,520.0	50,488.5	53,618.0	52,367.1	58,250.4	57,965.2	65,095.1	56,792.8	55,733.1
産 婦 人 科	72,961.7	61,333.2	70,657.8	68,910.7	86,852.4	74,788.6	69,158.9	64,099.7	94,245.8	68,900.9	57,207.1	93,054.7	91,588.3
小 児 科	51,875.2	49,070.6	47,207.1	55,141.3	52,604.0	40,029.0	43,156.3	51,936.3	61,420.0	52,659.0	52,713.3	63,453.4	51,405.9
眼 科	95,854.7	112,389.5	111,107.4	95,953.5	95,605.3	84,257.9	95,520.4	95,699.6	98,107.4	102,330.5	94,764.4	93,118.1	88,310.1
皮 膚 科	39,045.8	39,098.2	39,678.2	36,865.8	40,060.6	38,192.2	35,425.1	39,549.8	37,271.6	40,828.3	40,122.3	41,318.9	39,100.5
形 成 外 科	45,556.8	45,324.6	44,314.2	49,338.7	45,500.3	41,510.5	48,988.1	41,302.9	49,568.2	42,968.4	50,038.6	44,171.0	43,366.6
耳鼻咽喉科	38,965.8	64,989.4	12,942.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
リハビリテーション科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌 尿 器 科	65,050.1	51,702.5	51,282.4	63,222.4	74,678.7	56,227.9	69,889.9	73,412.6	61,644.3	69,160.6	85,603.9	68,491.8	55,939.9
緩和 ケ ア	56,552.9	55,348.6	56,733.7	53,912.1	55,928.2	57,017.9	59,134.4	58,373.1	58,206.5	57,178.2	53,771.5	57,352.4	56,999.9
合 計	57,930.4	55,362.0	56,492.6	58,183.3	58,131.2	57,133.9	57,233.8	60,132.6	62,589.6	59,733.4	57,612.2	56,613.8	56,758.0

前 年 度	57,524.1	58,454.3	57,088.9	59,276.9	56,733.8	59,790.3	58,131.3	57,115.2	58,317.8	57,172.1	57,096.1	56,531.9	54,949.2
増 減 率	0.7%	-5.3%	-1.0%	-1.8%	2.5%	-4.4%	-1.5%	5.3%	7.3%	4.5%	0.9%	0.1%	3.3%

5. 外来患者数

	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	21,614	1,731	1,798	1,706	1,880	1,932	1,695	1,928	1,813	1,840	1,882	1,672	1,737
消化器科	17,476	1,355	1,442	1,426	1,529	1,448	1,323	1,665	1,558	1,471	1,387	1,311	1,561
循環器科	13,000	1,169	1,108	1,031	1,159	1,096	988	1,189	1,076	1,063	1,122	985	1,014
神経内科	2,285	157	214	195	185	225	166	205	193	188	170	185	202
呼吸器科	16,049	1,282	1,336	1,218	1,333	1,378	1,264	1,579	1,362	1,313	1,375	1,307	1,302
呼吸器外科	3,250	254	297	251	199	287	257	290	320	267	231	291	306
外科	11,150	890	967	935	888	907	872	964	960	882	866	1,012	1,007
脳神経外科	1,127	91	99	101	96	96	79	109	90	104	88	86	88
整形外科	14,195	1,109	1,262	1,182	1,190	1,268	1,112	1,273	1,154	1,168	1,104	1,118	1,255
産婦人科	3,487	234	323	338	291	311	269	324	301	288	268	269	271
小児科	2,215	179	203	183	200	202	167	177	161	163	215	167	198
眼 科	10,499	832	889	848	864	909	793	921	959	856	859	892	877
皮膚科	8,614	668	735	703	838	808	657	784	722	676	674	642	707
形成外科	3,540	251	270	340	311	341	307	350	256	311	214	278	311
耳鼻咽喉科	3,254	362	329	221	224	287	196	288	236	263	248	236	364
リハビリテーション科	4,502	328	392	332	372	396	315	369	390	413	365	388	442
泌尿器科	8,390	670	684	786	707	678	716	713	695	754	678	585	724
緩和ケア	480	56	58	46	54	56	40	24	30	23	31	37	25
放射線	1,104	69	82	85	102	104	119	91	90	98	84	82	98
その他の	99	3	7	9	4	2	3	11	38	8	5	6	3
合 計	146,330	11,690	12,495	11,936	12,426	12,731	11,338	13,254	12,404	12,149	11,866	11,549	12,492
1 日 平 均	599.7	584.5	595.0	568.4	591.7	553.5	629.9	602.5	590.7	639.4	624.5	607.8	624.6

前 年 度	153,298	12,506	12,445	13,353	12,814	13,154	12,759	13,134	12,919	12,849	12,403	11,670	13,292
1 日 平 均	630.9	625.3	655.0	607.0	640.7	597.9	638.0	625.4	646.0	642.5	652.8	614.2	633.0
増 減 率	-4.5%	-6.5%	0.4%	-10.6%	-3.0%	-3.2%	-11.1%	0.9%	-4.0%	-5.4%	-4.3%	-1.0%	-6.0%

6. 外来稼働額

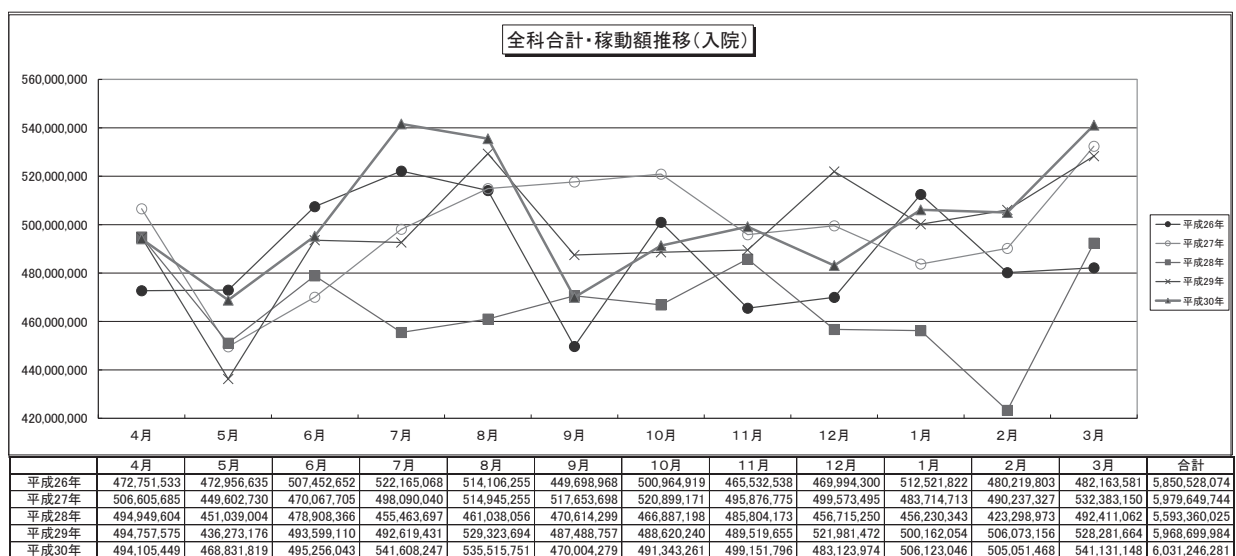
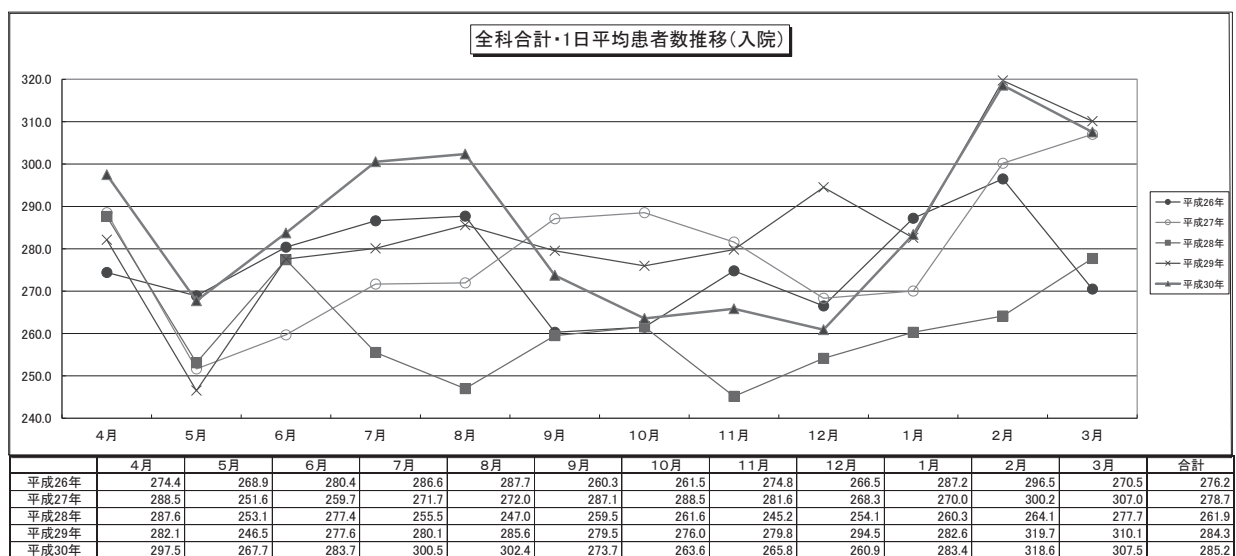
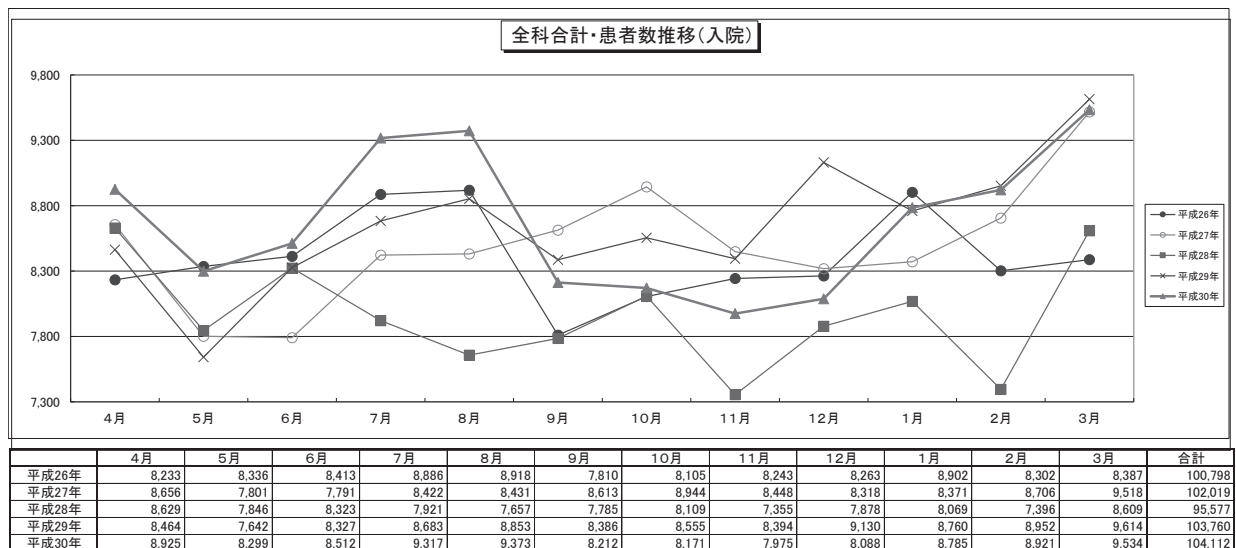
	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	583,800,005	48,208,564	52,616,460	47,239,861	46,755,912	57,621,839	45,852,356	53,843,602	46,535,944	46,724,981	46,842,636	43,560,647	47,997,203
消化器科	264,859,498	21,188,581	23,605,392	25,435,741	22,831,571	22,732,083	19,718,747	23,955,648	20,744,463	20,390,029	21,695,164	19,523,549	23,038,530
循環器科	137,762,768	13,054,443	11,896,276	10,922,540	13,130,947	11,405,410	10,792,434	13,104,345	10,945,968	10,547,572	11,310,794	10,181,399	10,470,640
神経内科	13,484,684	653,186	1,434,047	1,185,707	1,310,472	1,335,470	1,209,070	1,181,200	1,190,000	933,664	713,694	1,282,900	1,055,274
呼吸器科	473,852,802	32,703,717	37,116,482	30,752,148	32,771,414	38,355,200	37,970,620	44,755,917	43,423,461	42,710,254	46,407,174	44,707,645	42,178,770
呼吸器外科	164,404,982	11,173,650	15,513,645	11,852,426	11,863,880	13,647,094	12,696,994	15,413,532	14,209,740	14,348,257	14,422,001	14,175,643	15,088,120
外 科	253,010,514	22,019,662	19,434,180	19,238,294	19,407,938	20,611,242	20,909,169	23,723,250	21,647,882	18,906,659	20,731,108	22,701,020	23,680,110
脳神経外科	11,900,740	1,122,415	1,048,100	1,151,992	930,090	918,716	699,310	1,051,485	951,575	1,260,619	1,061,580	781,956	922,902
整形外科	177,521,342	14,244,229	16,468,725	14,297,341	14,663,587	16,217,542	14,560,090	15,792,172	14,769,183	14,123,180	14,268,887	13,322,191	14,794,215
産婦人科	25,178,018	1,406,452	2,420,898	2,744,168	2,102,543	1,960,549	1,965,196	2,293,984	2,009,774	1,987,517	2,184,455	2,098,952	2,003,530
小 児 科	11,974,815	922,774	973,800	962,510	1,056,752	1,197,501	780,010	864,754	898,288	1,023,356	1,271,904	917,212	1,105,954
眼 科	143,381,672	11,817,265	10,961,917	12,659,468	12,267,352	12,541,630	10,400,286	12,899,377	12,777,662	10,618,951	13,623,092	12,141,306	10,673,366
皮膚科	45,154,041	3,906,742	3,003,134	4,066,657	3,634,183	3,571,712	3,747,208	3,351,166	4,499,263	2,969,068	3,726,538	4,454,160	4,224,210
形成外科	28,629,003	1,854,643	2,311,414	2,775,168	2,190,446	3,121,265	2,289,344	3,099,263	2,360,689	2,409,115	1,566,996	2,250,195	2,400,465
耳鼻咽喉科	19,772,162	2,316,644	2,112,920	1,160,414	1,276,620	1,635,340	1,078,740	1,705,675	1,586,170	1,769,565	1,491,650	1,281,530	2,356,894
リハビリテーション科	18,984,149	1,418,283	1,670,612	1,388,357	1,555,016	1,693,663	1,365,873	1,583,505	1,693,716	1,724,045	1,535,376	1,539,317	1,816,386
泌尿器科	118,321,759	9,540,021	8,832,408	10,647,420	9,639,360	9,779,542	9,240,734	10,702,021	10,751,814	10,502,498	9,806,335	8,906,251	9,973,355
緩和ケア	2,354,114	216,460	292,116	167,230	300,690	273,330	207,550	149,690	181,810	130,360	165,182	148,116	121,580
放射線	34,798,904	2,273,160	2,637,375	2,826,015	3,104,845	3,016,050	3,692,750	2,786,550	2,698,840	2,964,289	2,865,710	2,730,220	3,203,100
その他	14,140	0	5,000	0	3,240	0	0	5,900	0	0	0	0	0
合 計	2,529,160,112	200,040,891	214,354,901	201,473,457	200,796,858	221,635,178	199,176,481	232,263,036	213,876,242	206,043,979	215,690,276	206,704,209	217,104,604

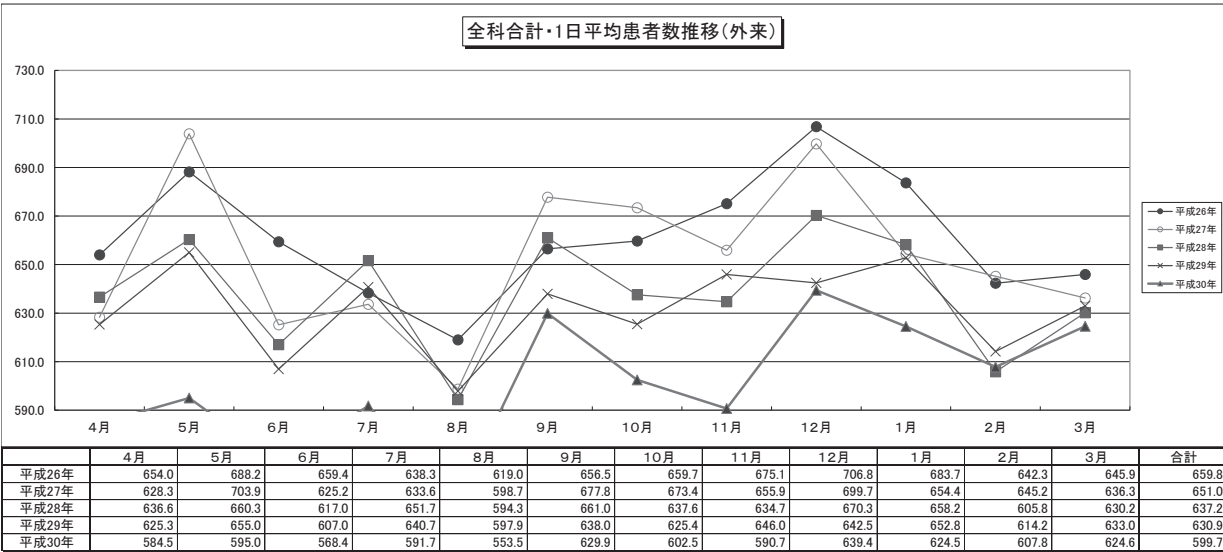
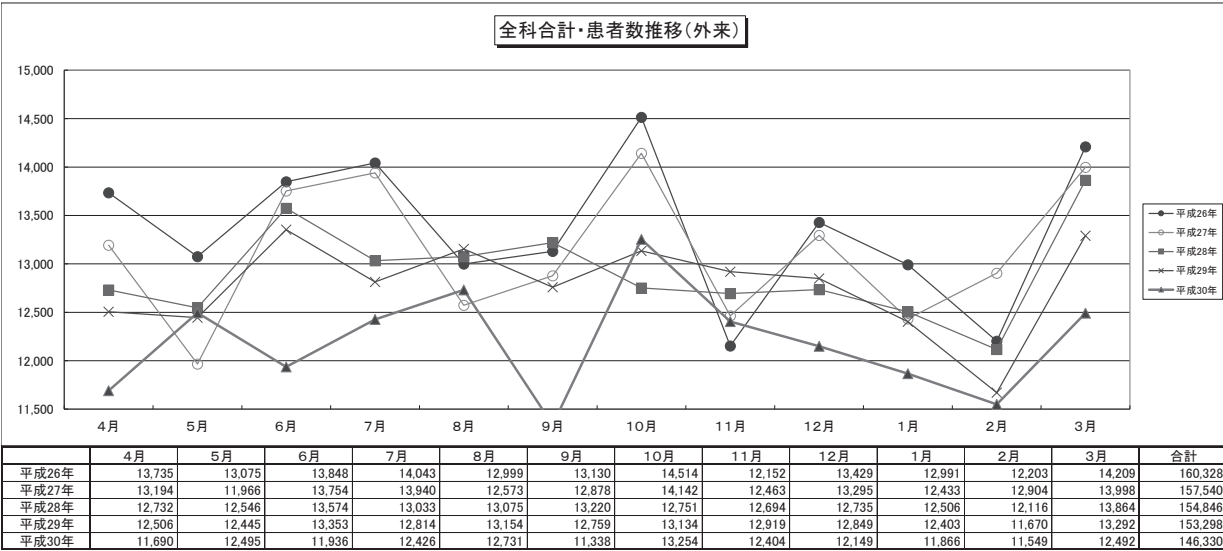
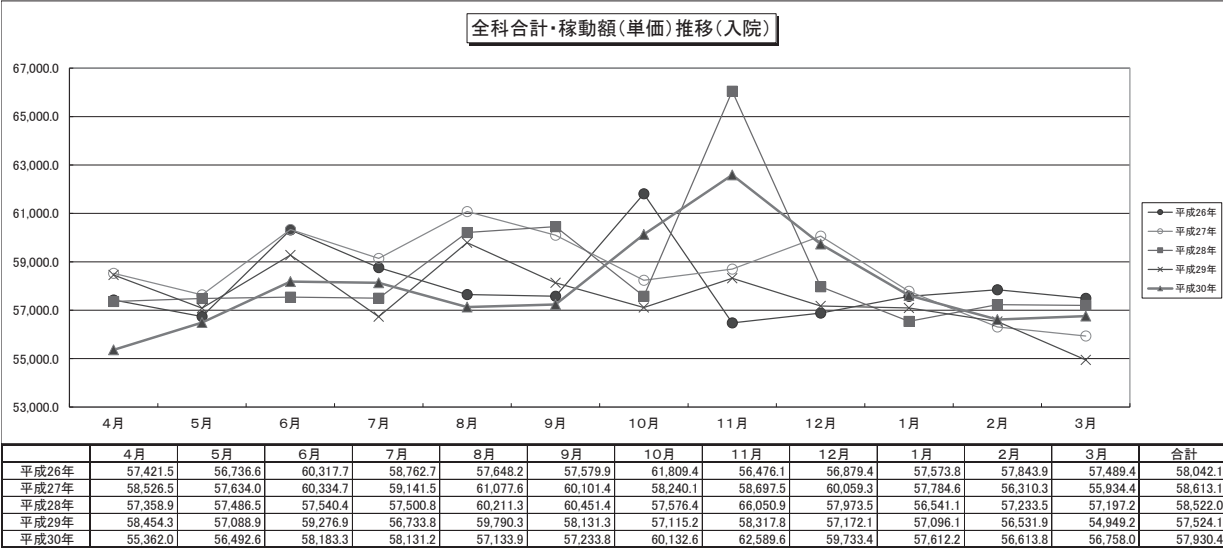
前 年 度	2,552,667,993	212,434,354	207,912,181	217,205,174	206,144,965	221,696,055	209,504,464	220,951,170	214,761,937	206,736,376	209,657,768	199,897,177	225,766,372
増 減 率	-0.9%	-5.8%	3.1%	-7.2%	-2.6%	0.0%	-4.9%	5.1%	-0.4%	-0.3%	2.9%	3.4%	-3.8%

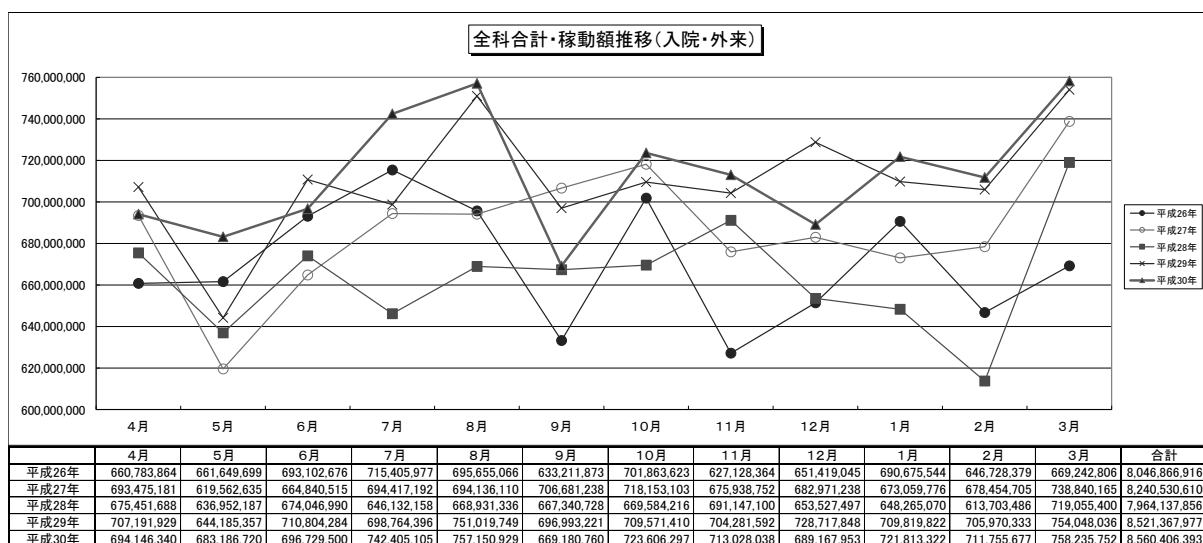
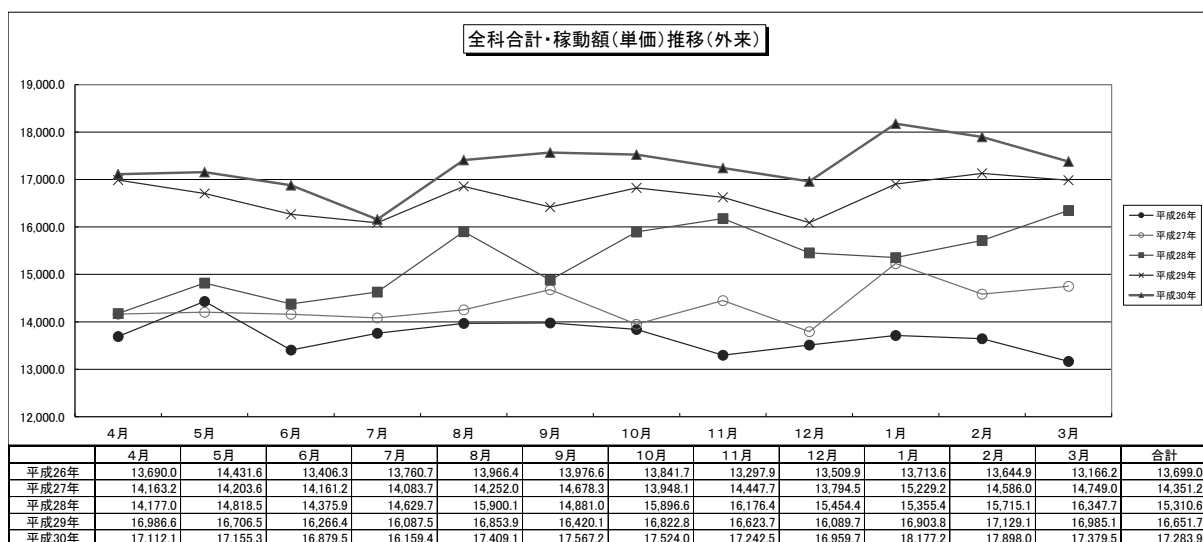
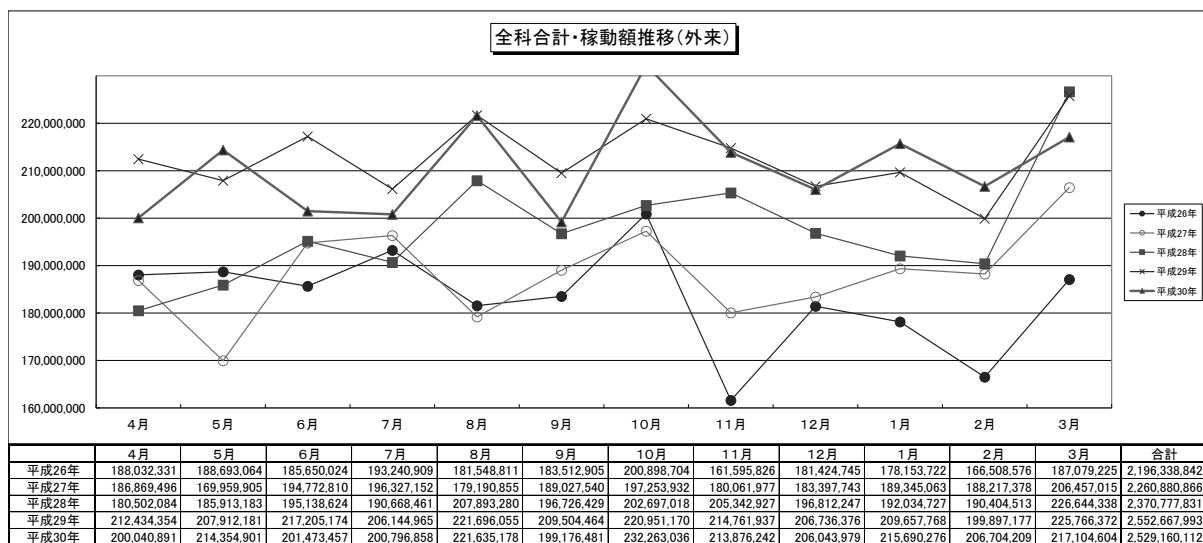
7. 外来単価

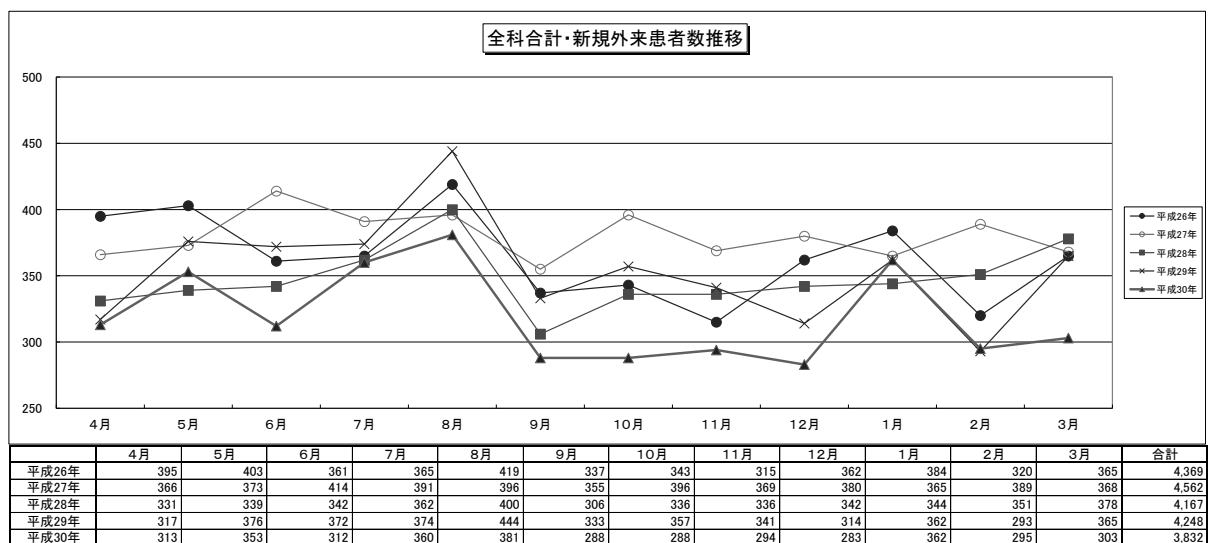
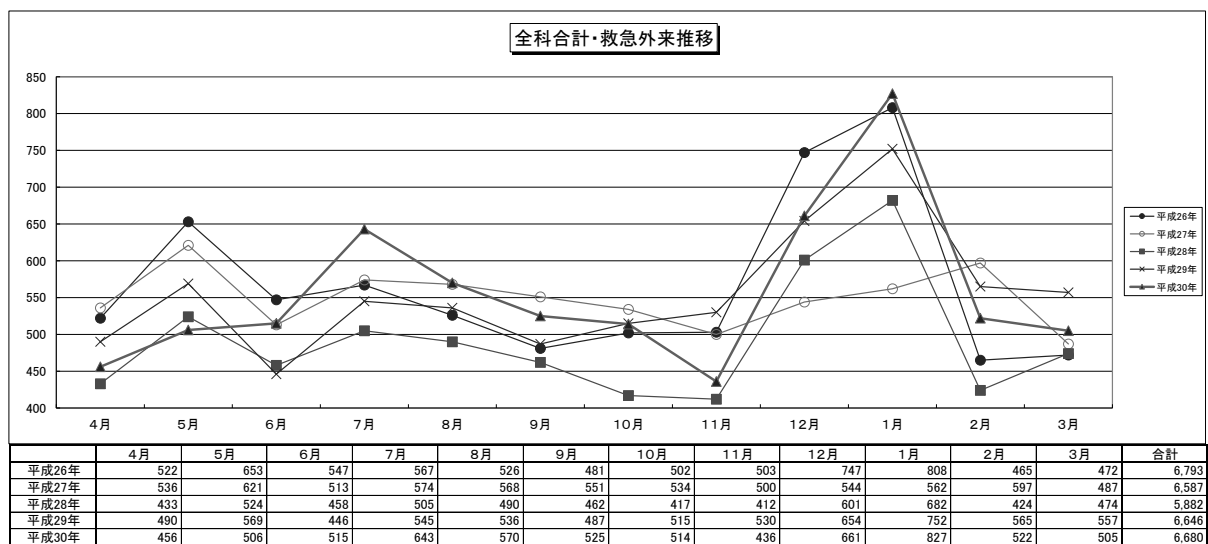
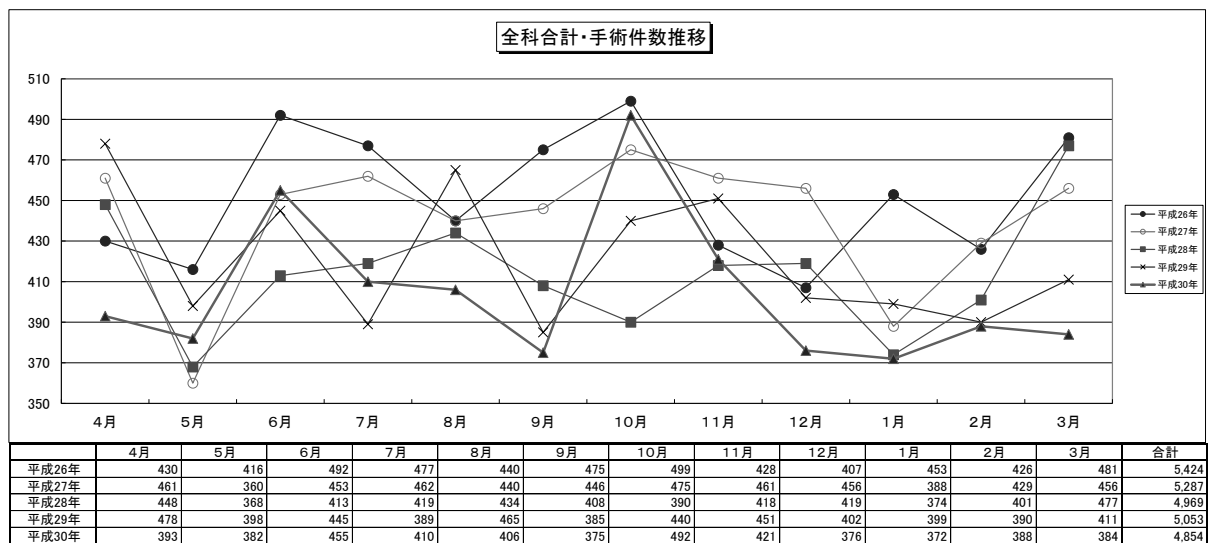
	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	27,010.3	27,850.1	29,263.9	27,690.4	24,870.2	29,825.0	27,051.5	27,927.2	25,667.9	25,394.0	24,889.8	26,053.0	27,632.2
消化器科	15,155.6	15,637.3	16,369.9	17,837.1	14,932.4	15,699.0	14,904.6	14,387.8	13,314.8	13,861.3	15,641.8	14,892.1	14,758.8
循環器科	10,597.1	11,167.2	10,736.7	10,594.1	11,329.5	10,406.4	10,923.5	11,021.3	10,172.8	9,922.5	10,080.9	10,336.4	10,326.1
神経内科	5,901.4	4,160.4	6,701.2	6,080.5	7,083.6	5,935.4	7,283.6	5,762.0	6,165.8	4,966.3	4,198.2	6,934.6	5,224.1
呼吸器科	29,525.4	25,509.9	27,781.8	25,248.1	24,584.7	27,834.0	30,040.0	28,344.5	31,882.1	32,528.8	33,750.7	34,206.3	32,395.4
呼吸器外科	50,586.1	43,990.7	52,234.5	47,220.8	59,617.5	47,550.9	49,404.6	53,150.1	44,405.4	53,738.8	62,432.9	48,713.5	49,307.6
外科	22,691.5	24,741.2	20,097.4	20,575.7	21,855.8	22,724.6	23,978.4	24,609.2	22,549.9	21,436.1	23,938.9	22,431.8	23,515.5
脳神経外科	10,559.7	12,334.2	10,586.9	11,405.9	9,688.4	9,570.0	8,852.0	9,646.7	10,573.1	12,121.3	12,063.4	9,092.5	10,487.5
整形外科	12,505.9	12,844.2	13,049.7	12,095.9	12,322.3	12,789.9	13,093.6	12,405.5	12,798.3	12,091.8	12,924.7	11,916.1	11,788.2
産婦人科	7,220.5	6,010.5	7,495.0	8,118.8	7,225.2	6,304.0	7,305.6	7,080.2	6,677.0	6,901.1	8,151.0	7,802.8	7,393.1
小児科	5,406.2	5,155.2	4,797.0	5,259.6	5,283.8	5,928.2	4,670.7	4,885.6	5,579.4	6,278.3	5,915.8	5,492.3	5,585.6
眼科	13,656.7	14,203.4	12,330.6	14,928.6	14,198.3	13,797.2	13,115.1	14,005.8	13,323.9	12,405.3	15,859.2	13,611.3	12,170.3
皮膚科	5,241.9	5,848.4	4,085.9	5,784.7	4,336.7	4,420.4	5,703.5	4,274.4	6,231.7	4,392.1	5,529.0	6,937.9	5,974.8
形成外科	8,087.3	7,389.0	8,560.8	8,162.3	7,043.2	9,153.3	7,457.1	8,855.0	9,221.4	7,746.4	7,322.4	8,094.2	7,718.5
耳鼻咽喉科	6,076.3	6,399.6	6,422.2	5,250.7	5,699.2	5,698.0	5,503.8	5,922.5	6,721.1	6,728.4	6,014.7	5,430.2	6,475.0
リハビリテーション科	4,216.8	4,324.0	4,261.8	4,181.8	4,180.2	4,276.9	4,336.1	4,291.3	4,342.9	4,174.4	4,206.5	3,967.3	4,109.5
泌尿器科	14,102.7	14,238.8	12,912.9	13,546.3	13,634.2	14,424.1	12,906.1	15,009.8	15,470.2	13,929.0	14,463.6	15,224.4	13,775.4
緩和ケア	4,904.4	3,865.4	5,036.5	3,635.4	5,568.3	4,880.9	5,188.8	6,237.1	6,060.3	5,667.8	5,328.5	4,003.1	4,863.2
合 計	17,283.9	17,112.1	17,155.3	16,879.5	16,159.4	17,409.1	17,567.2	17,524.0	17,242.5	16,959.7	18,177.2	17,898.0	17,379.5

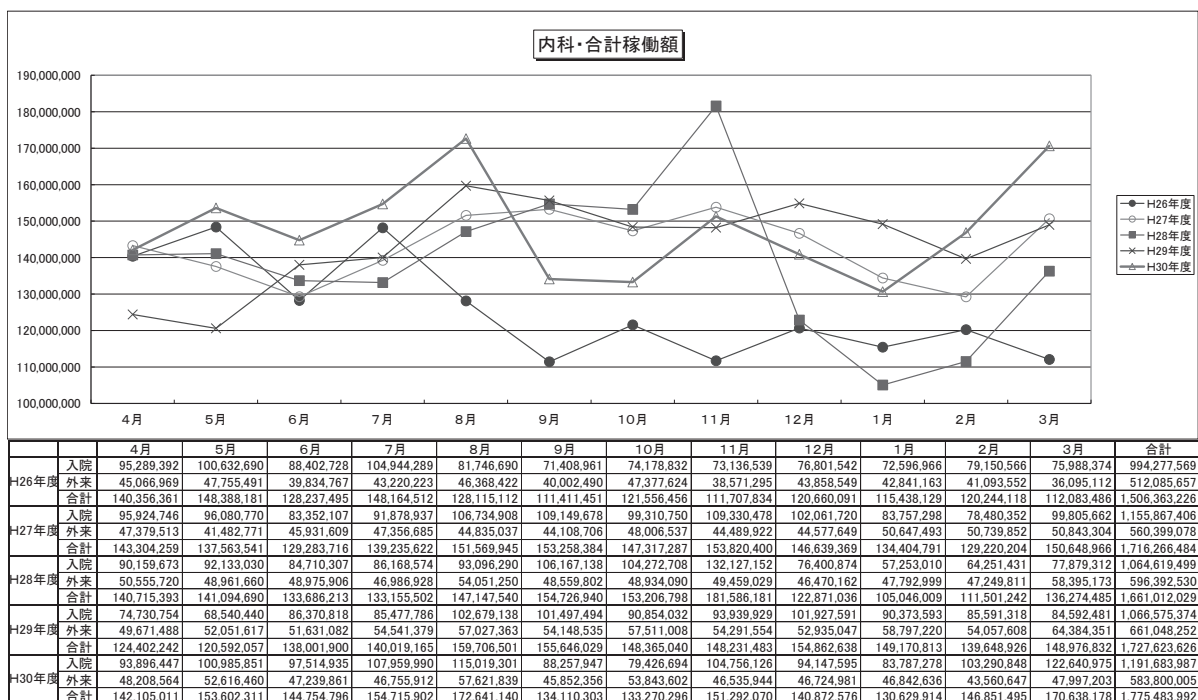
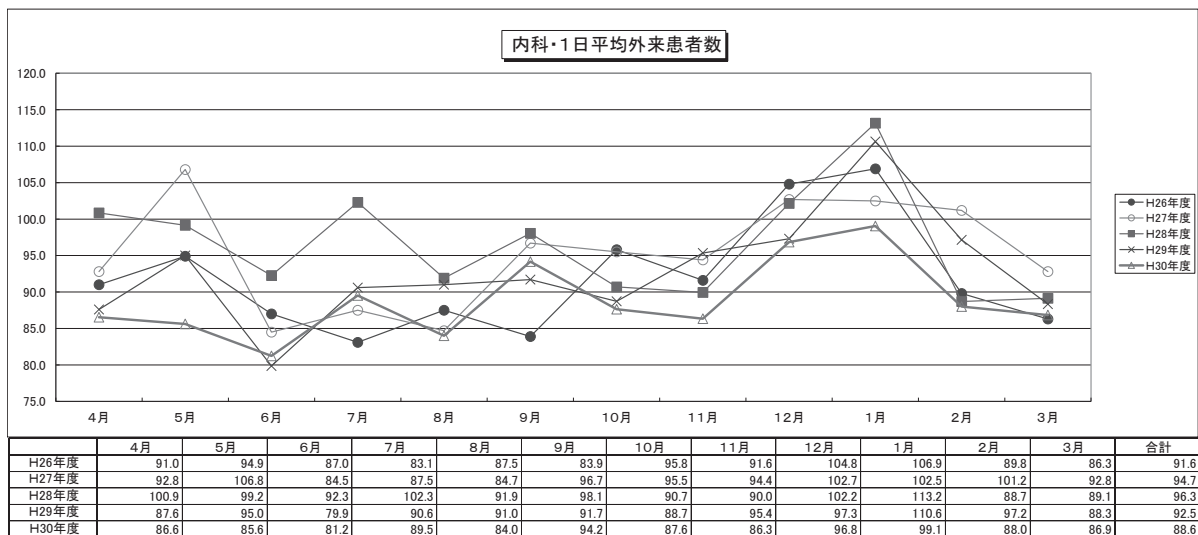
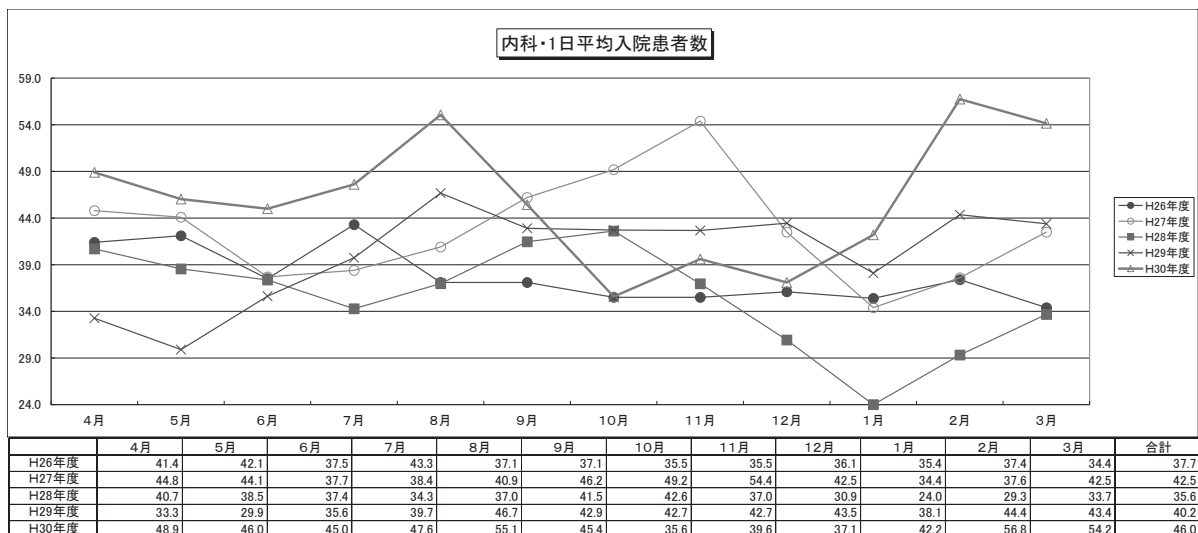
前 年 度	16,651.7	16,986.6	16,706.5	16,266.4	16,087.5	16,853.9	16,420.1	16,822.8	16,623.7	16,089.7	16,903.8	17,129.1	16,985.1
増 減 率	3.8%	0.7%	2.7%	3.8%	0.4%	3.3%	7.0%	4.2%	3.7%	5.4%	7.5%	4.5%	2.3%

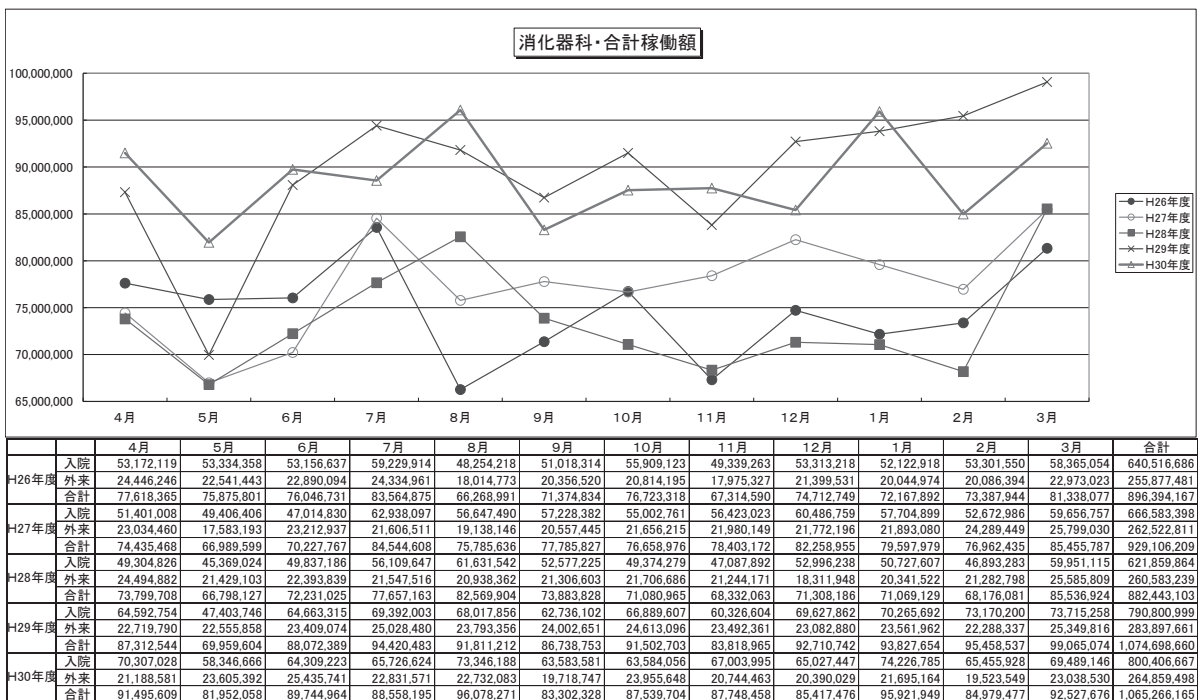
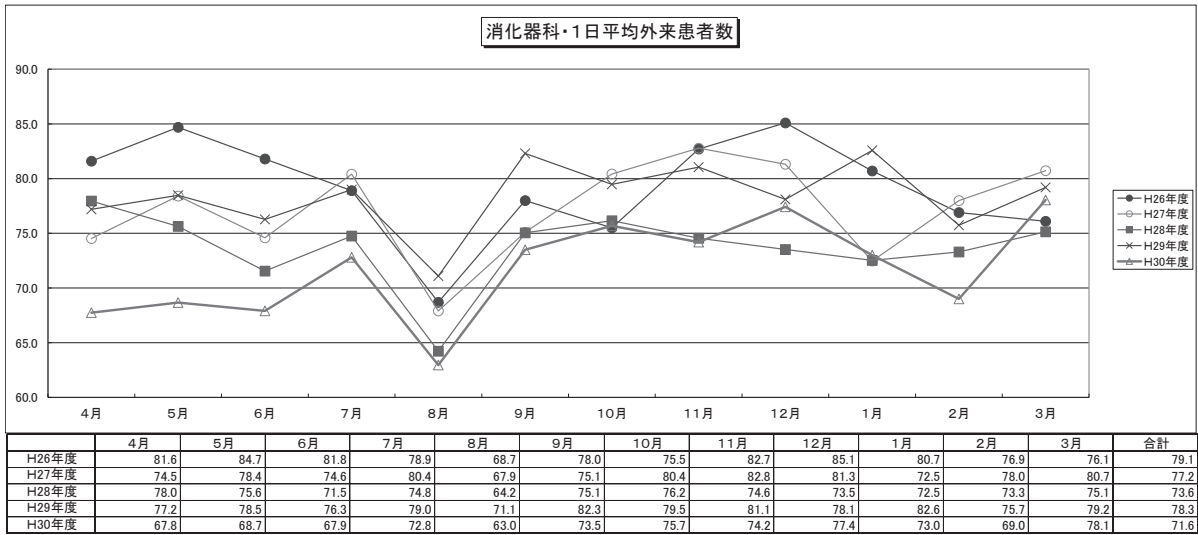
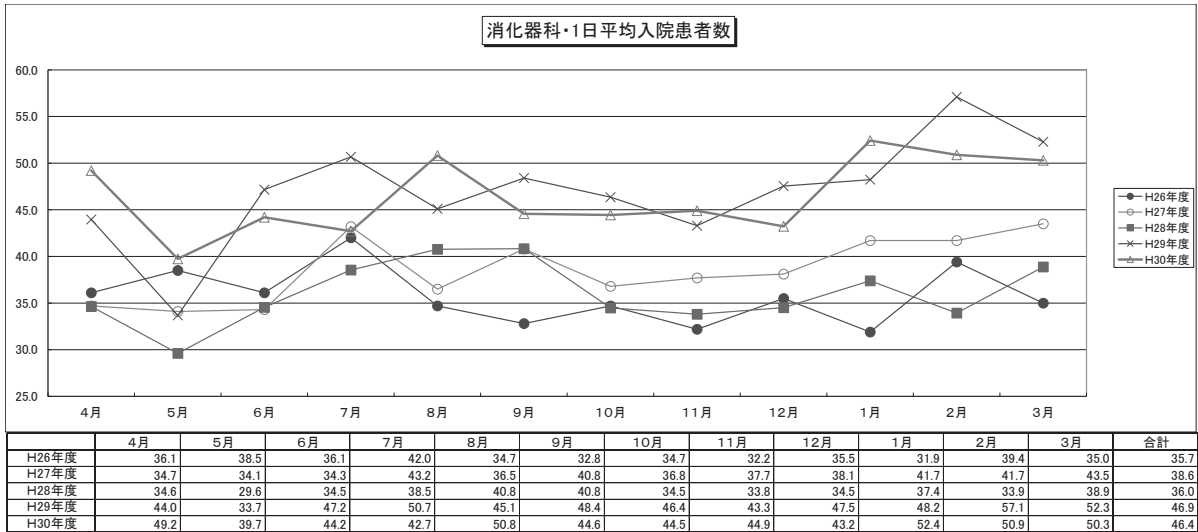


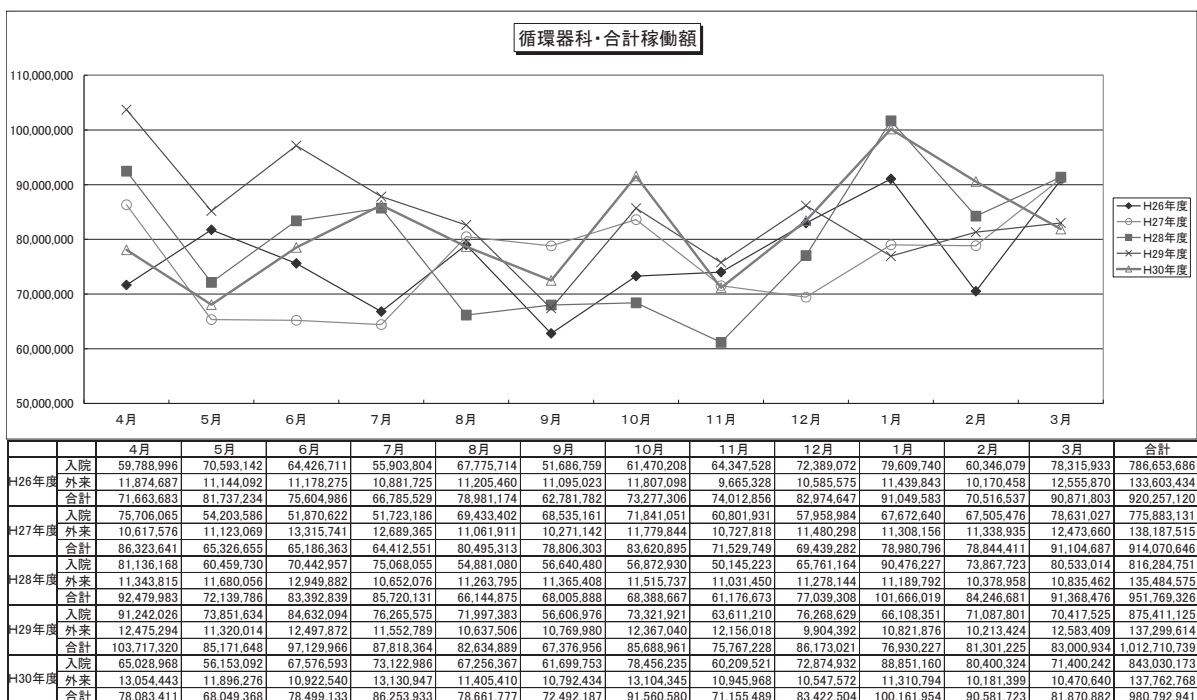
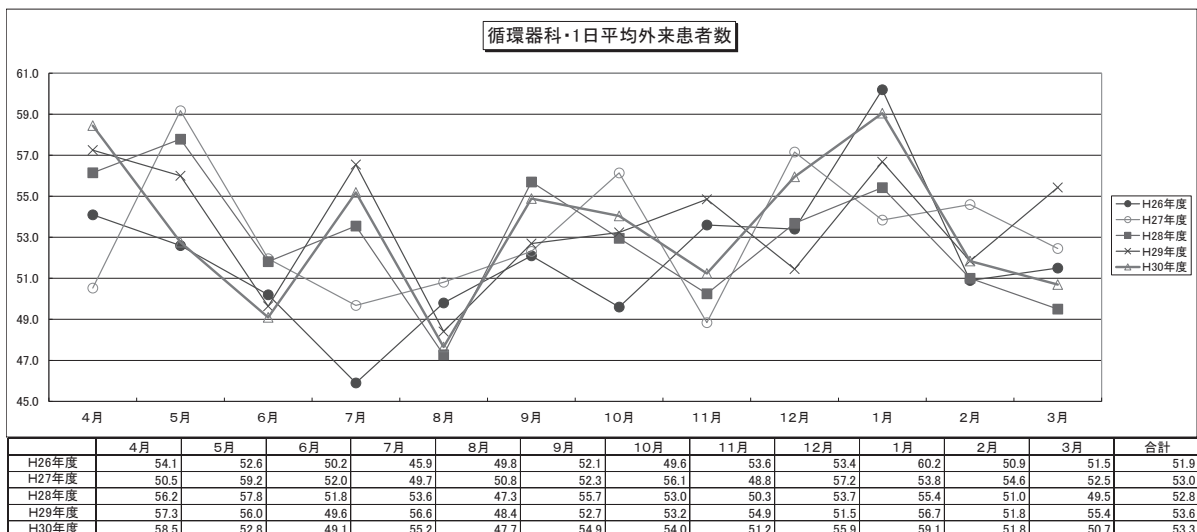
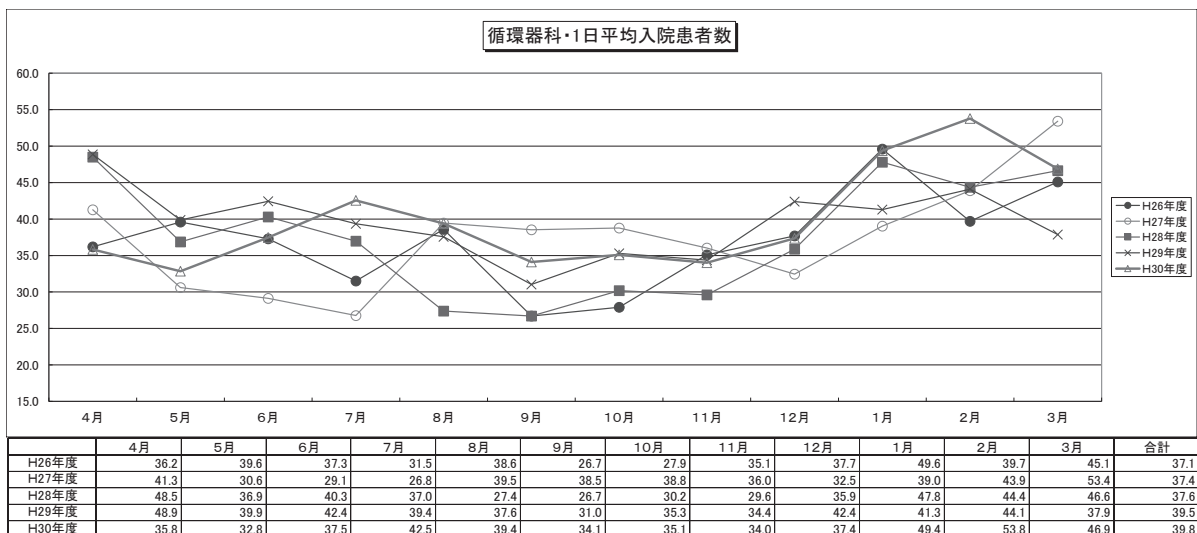


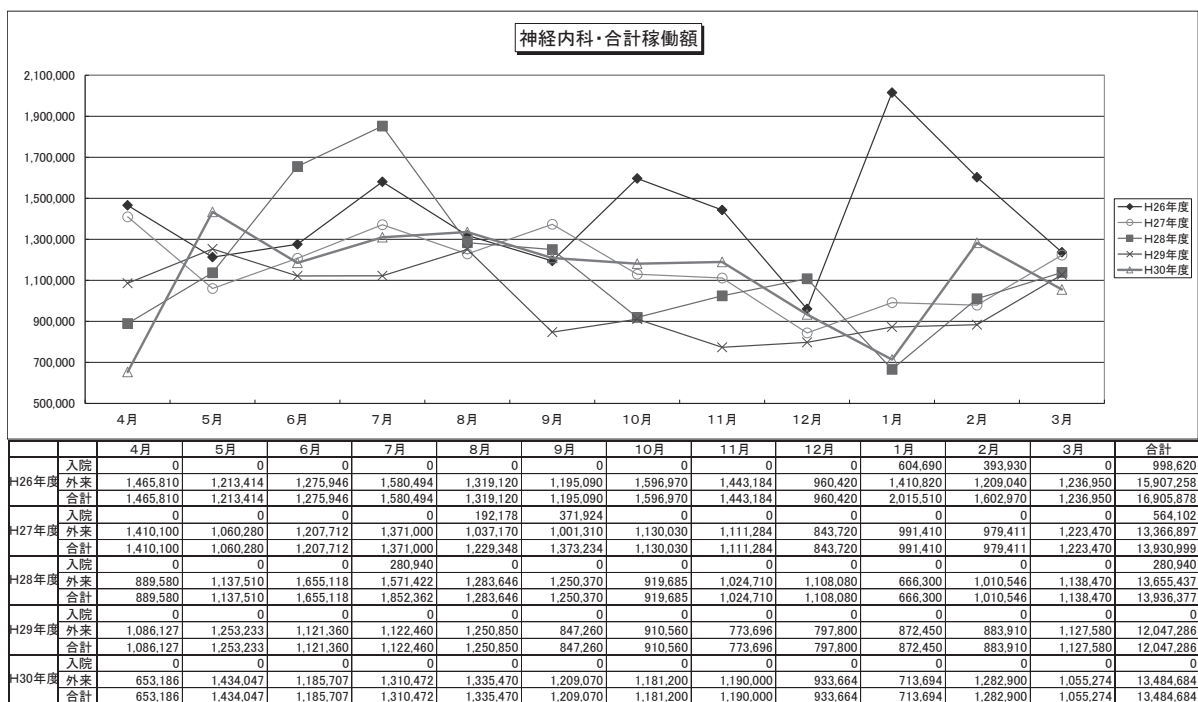
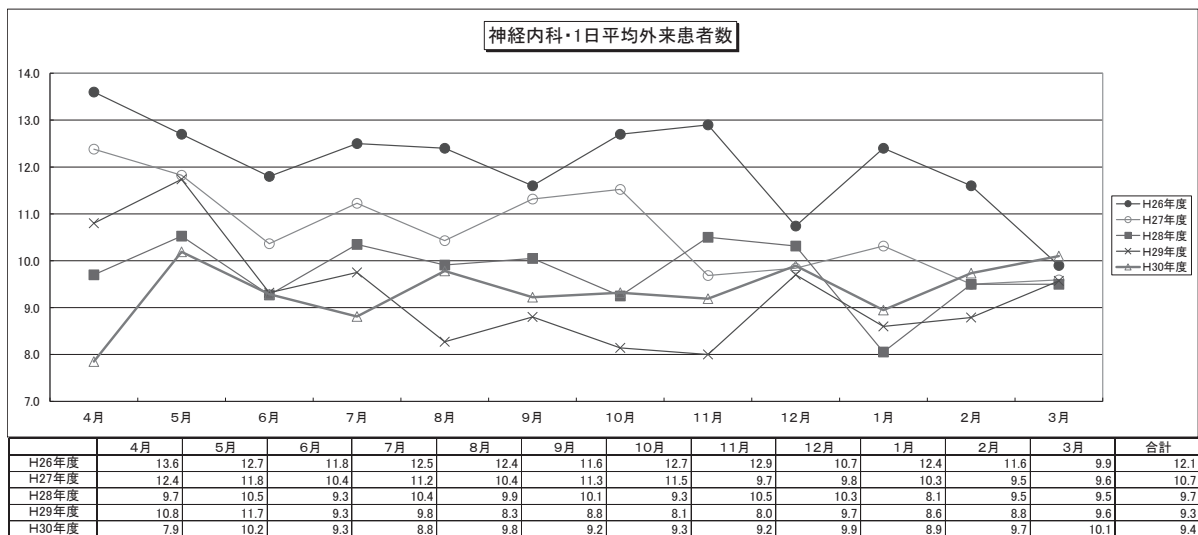
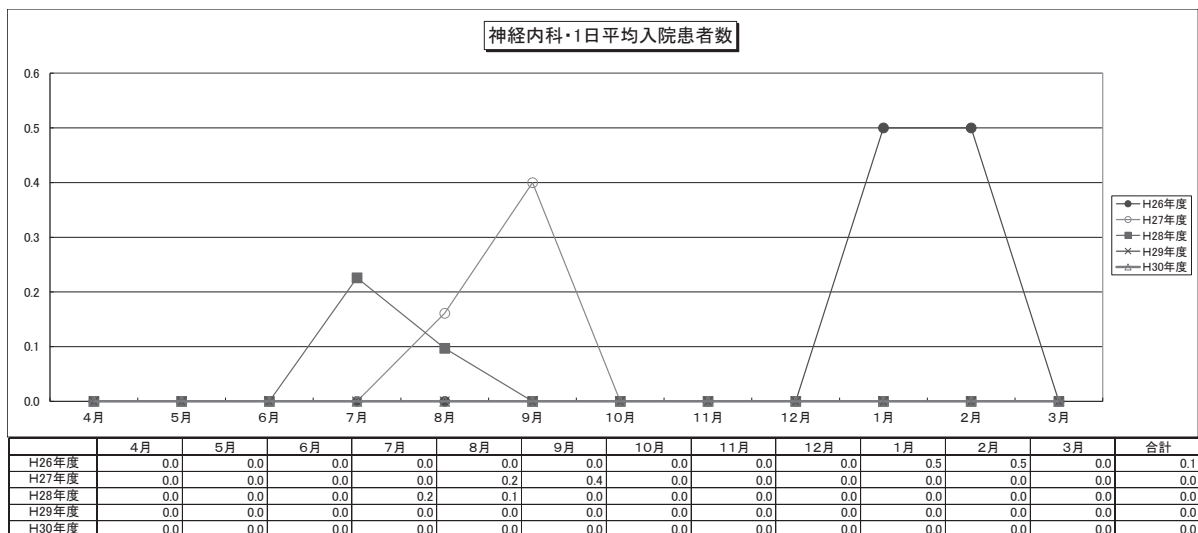


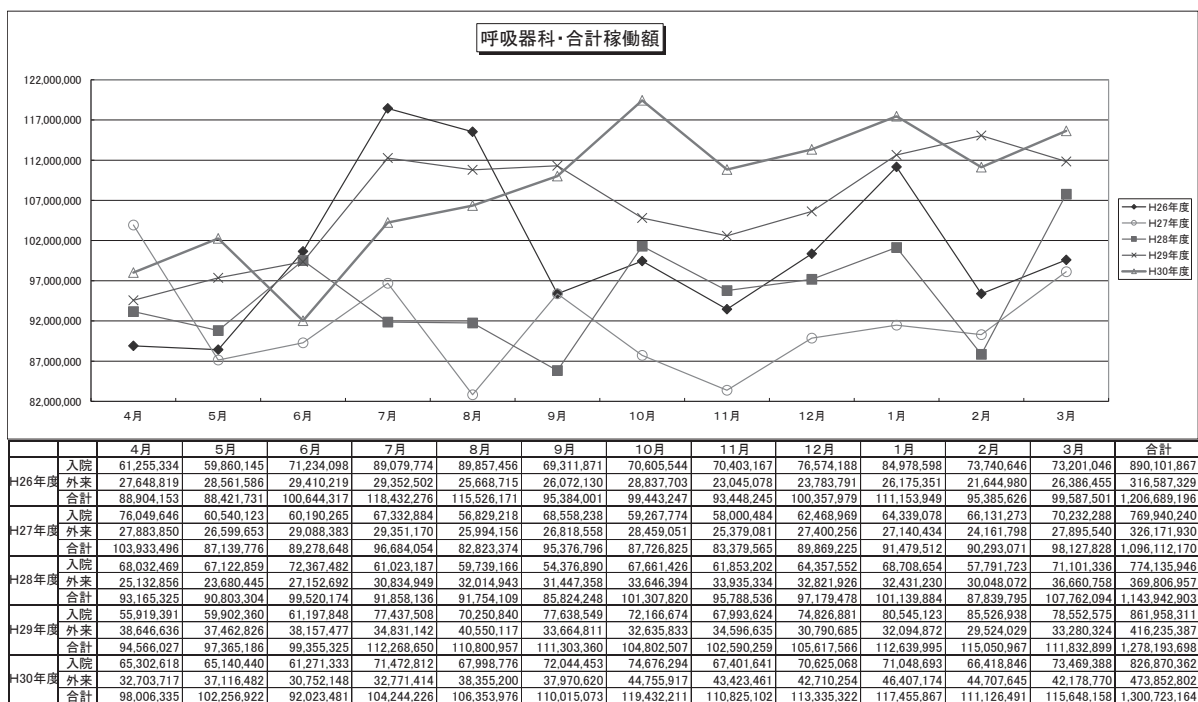
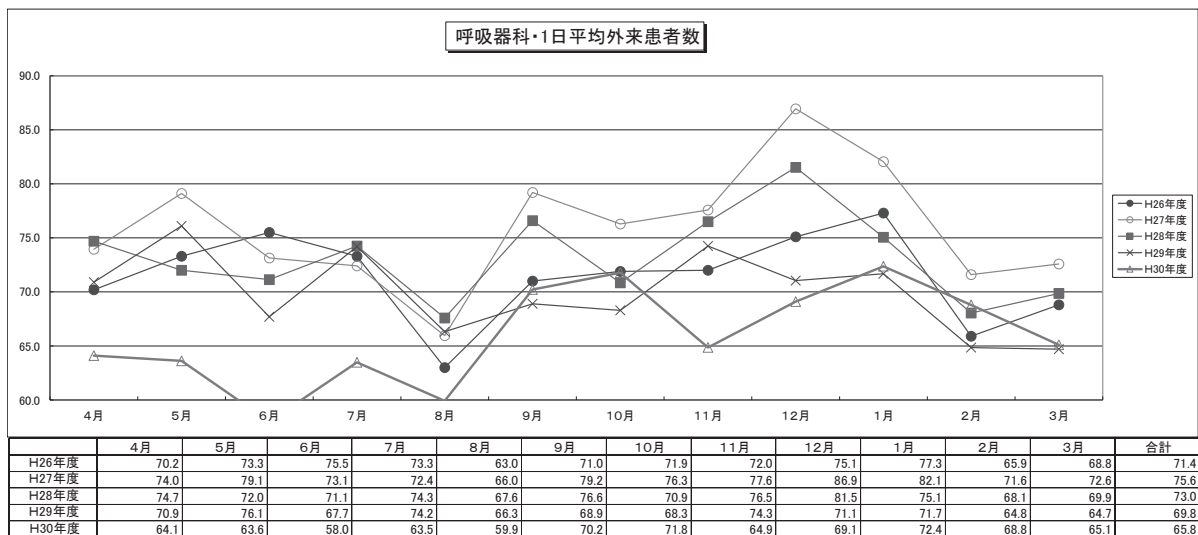
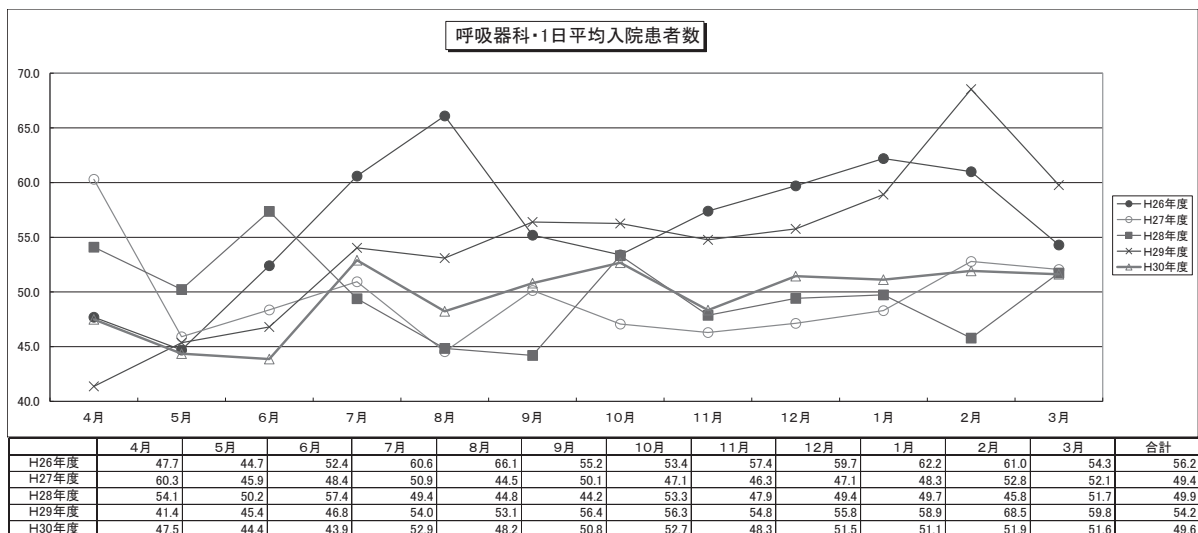


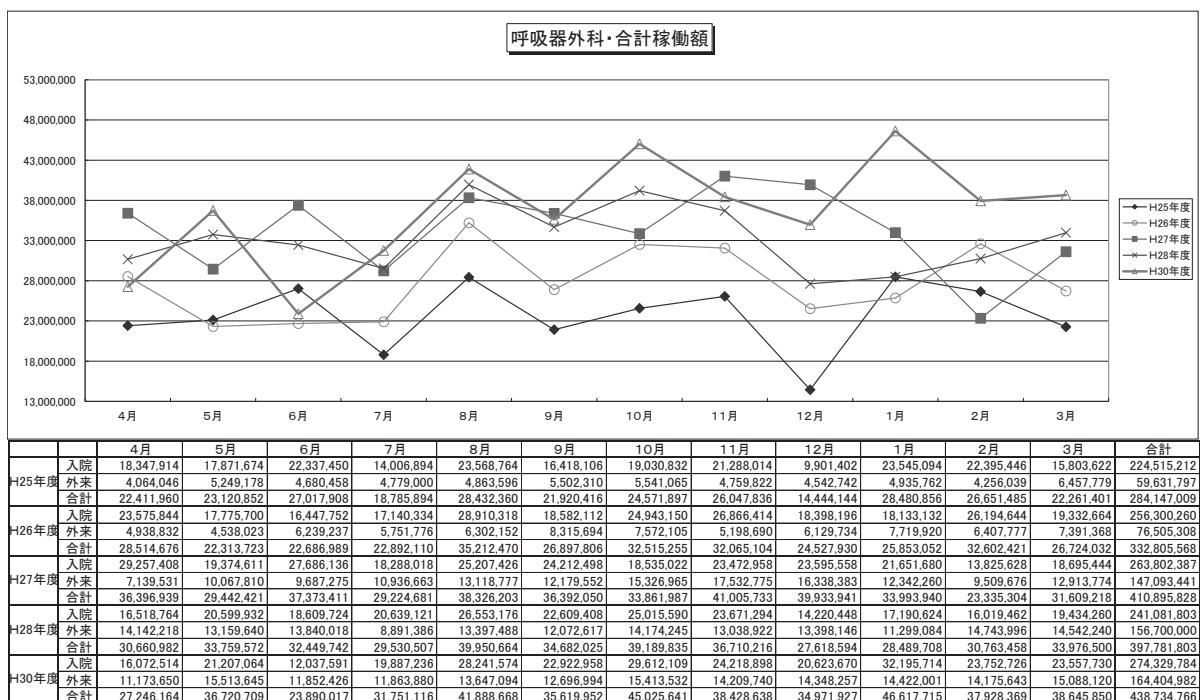
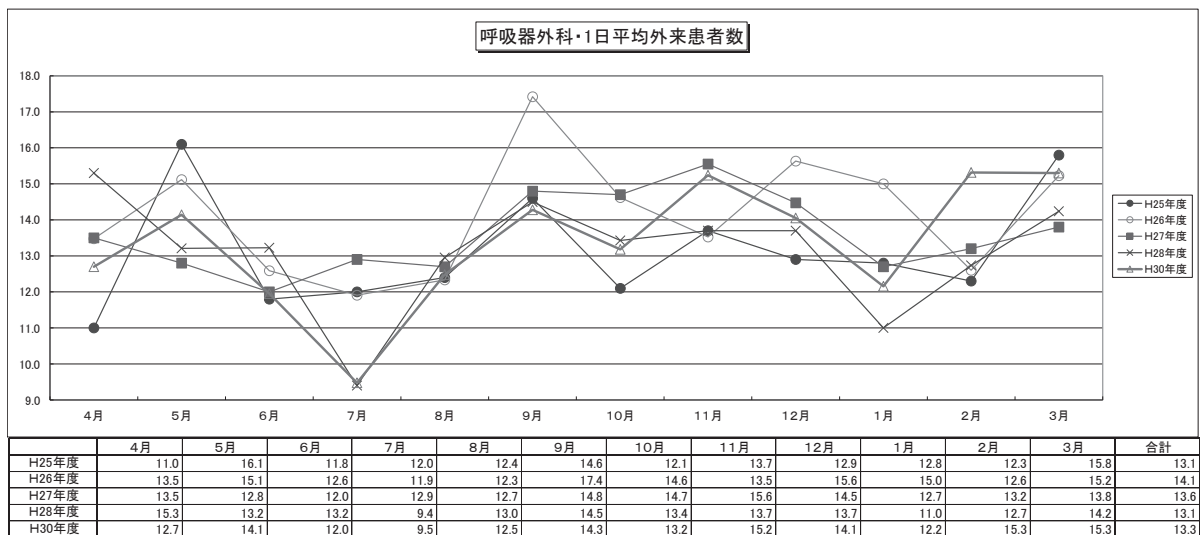
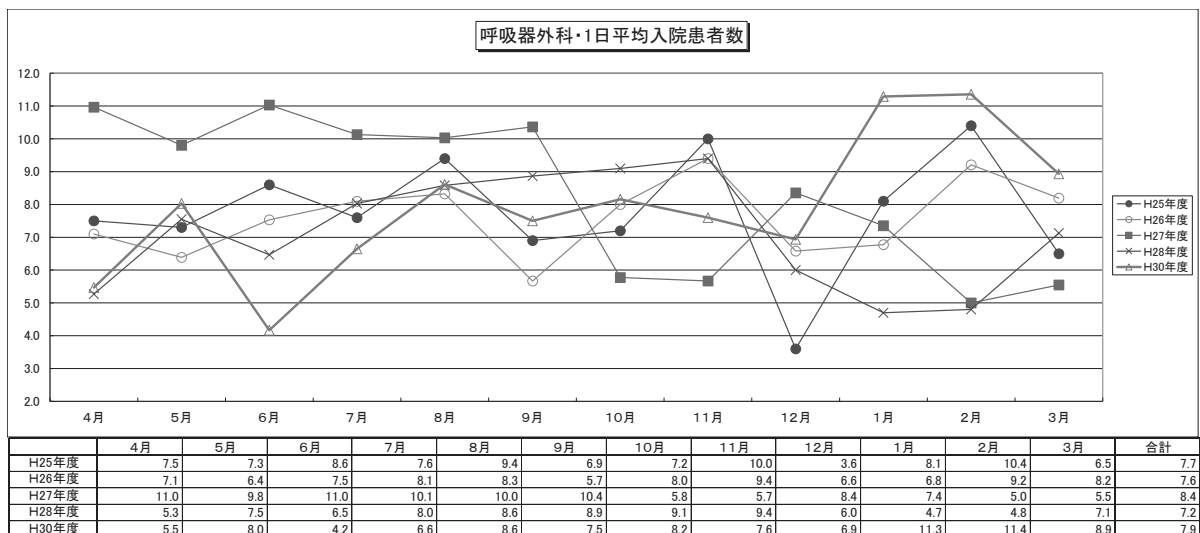


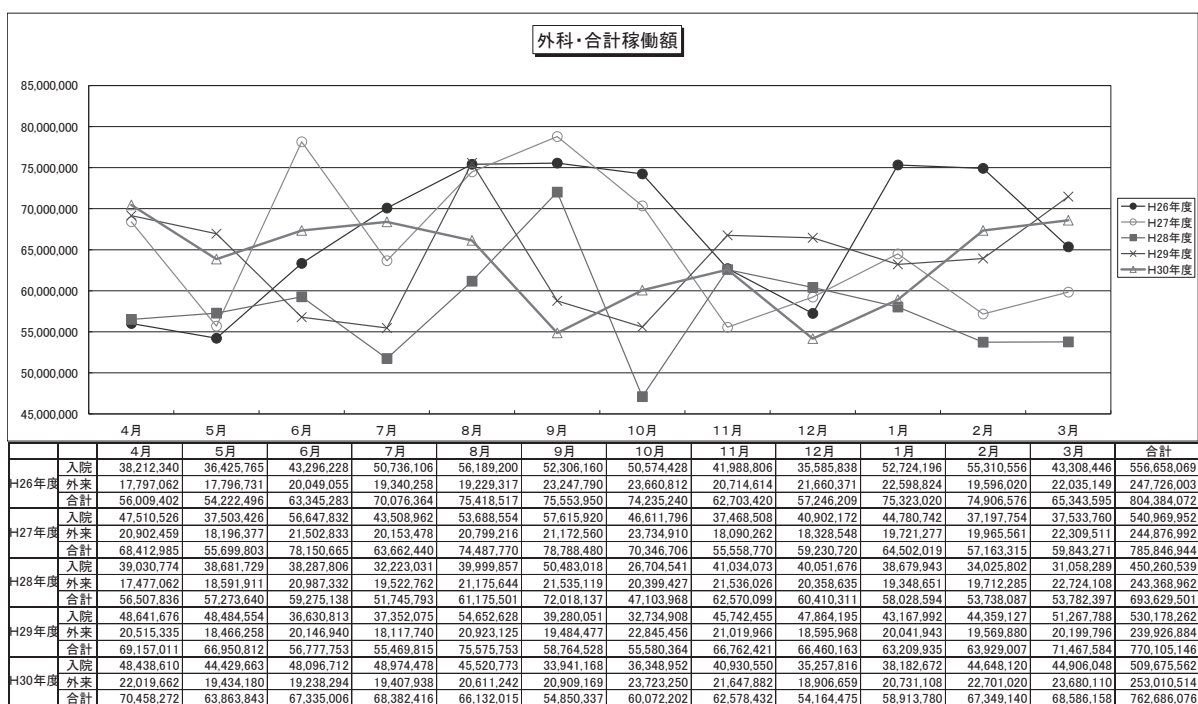
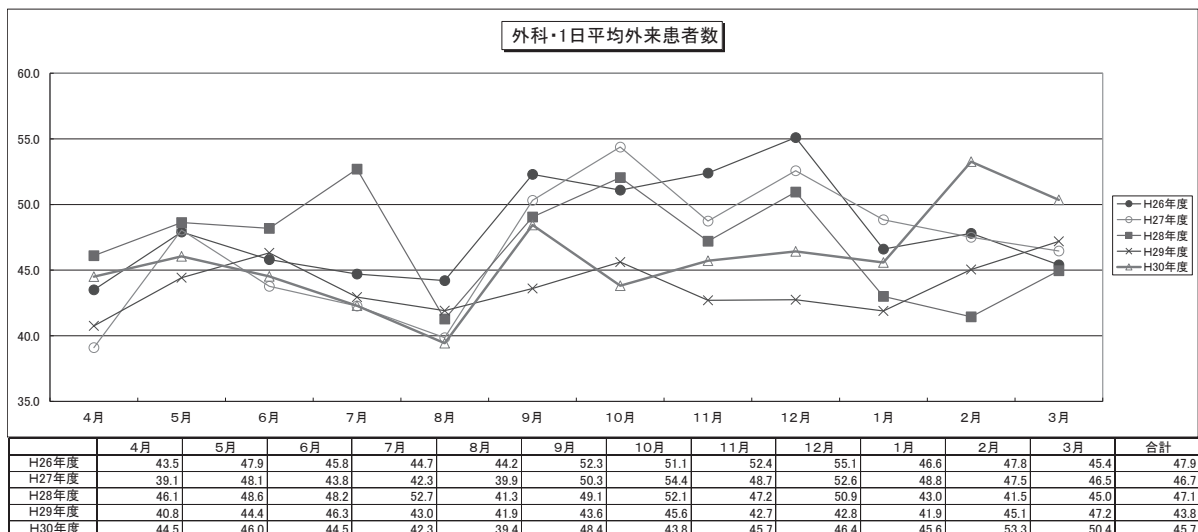
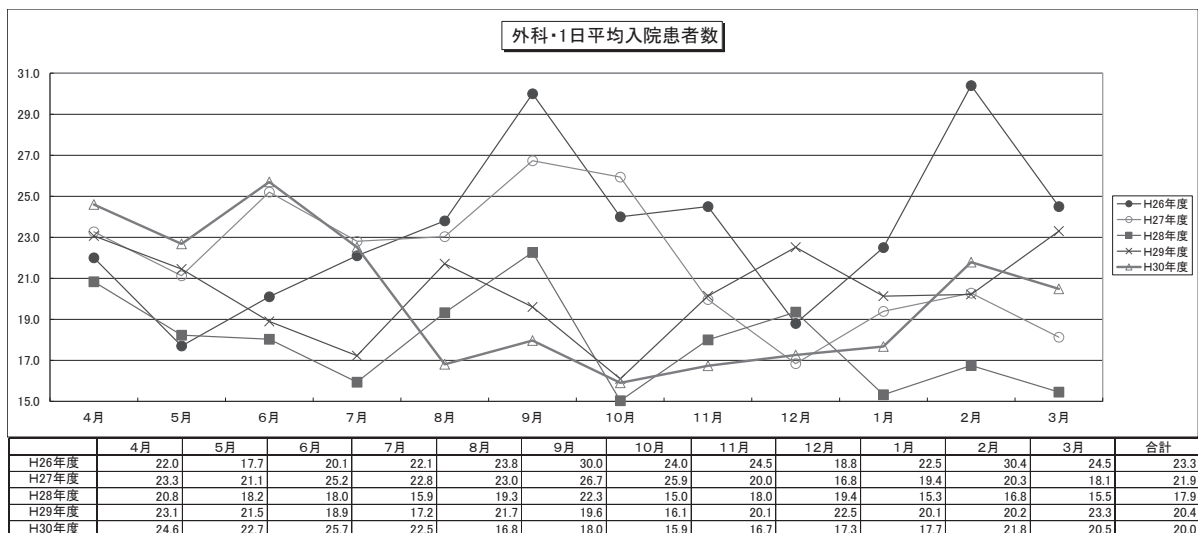


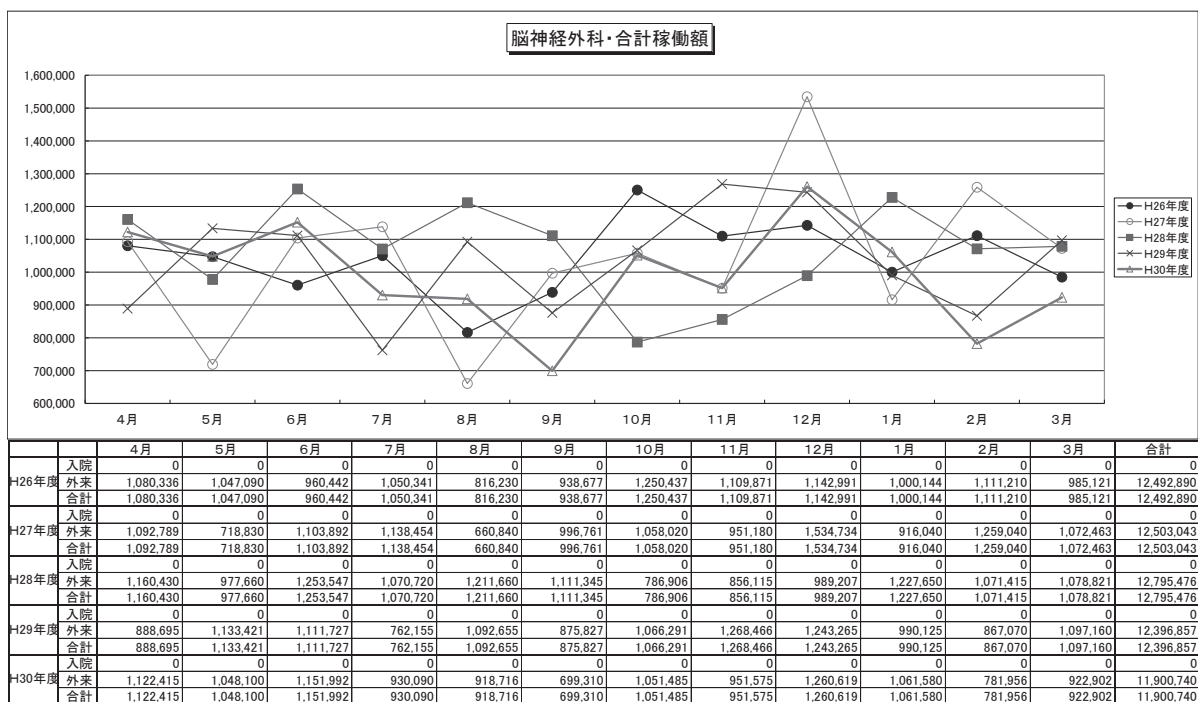
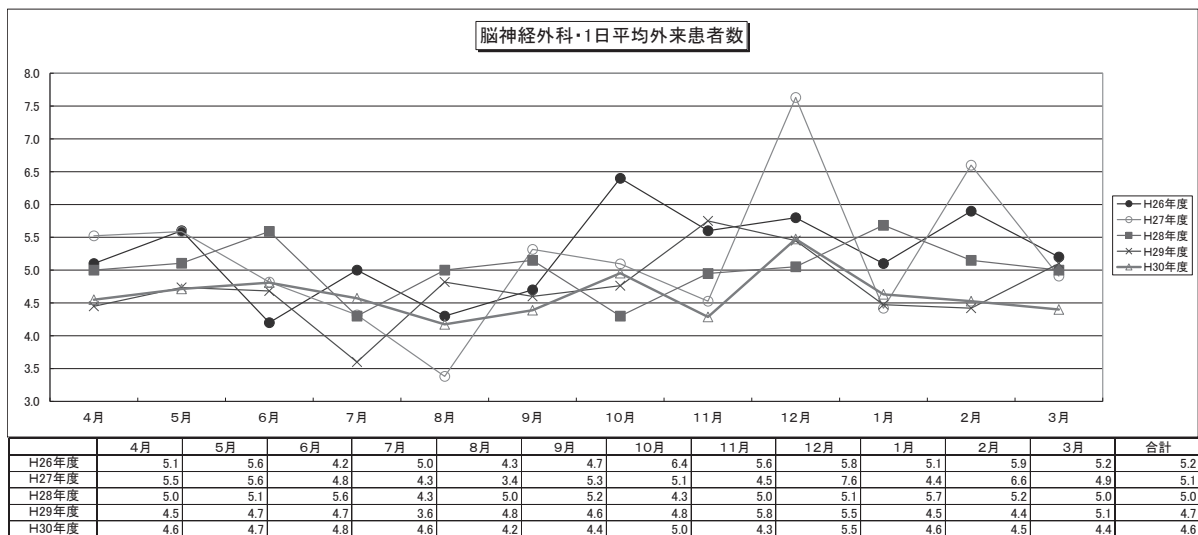
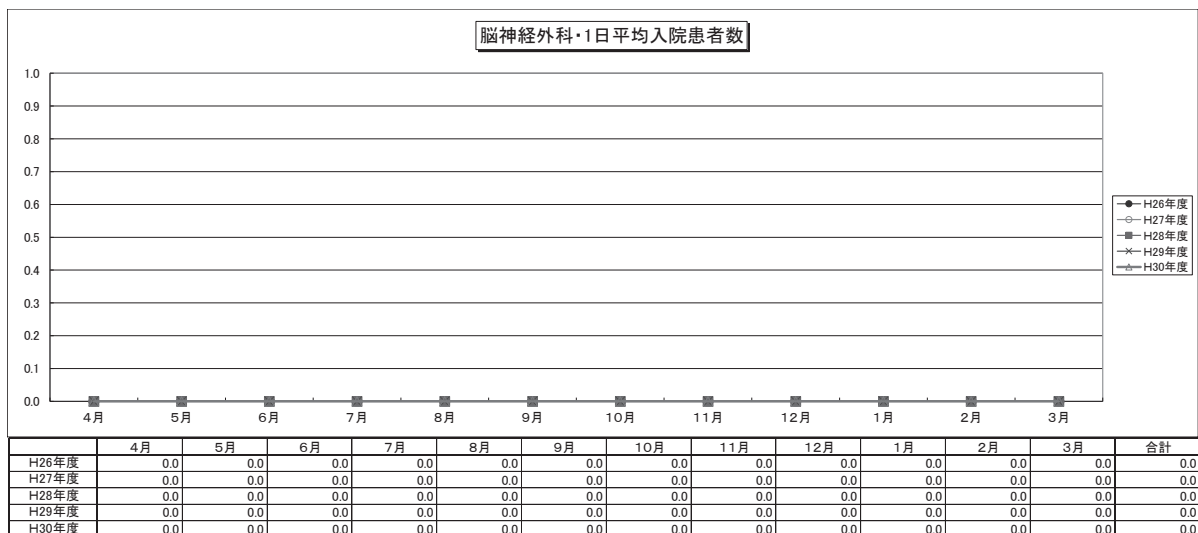


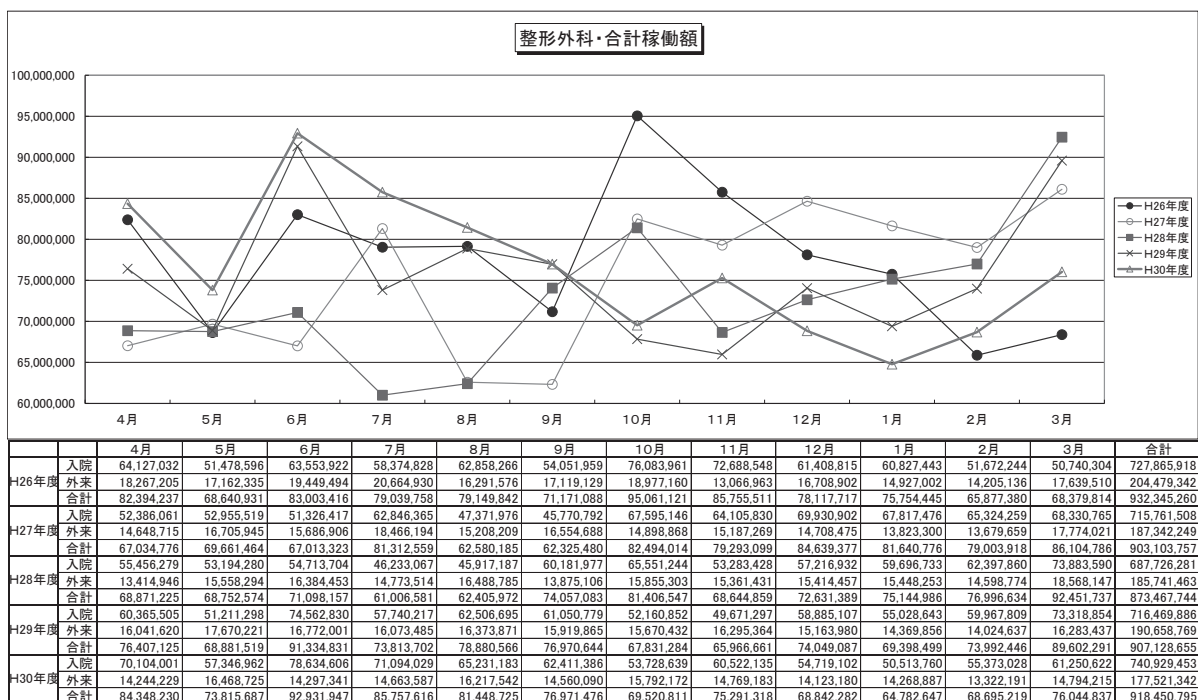
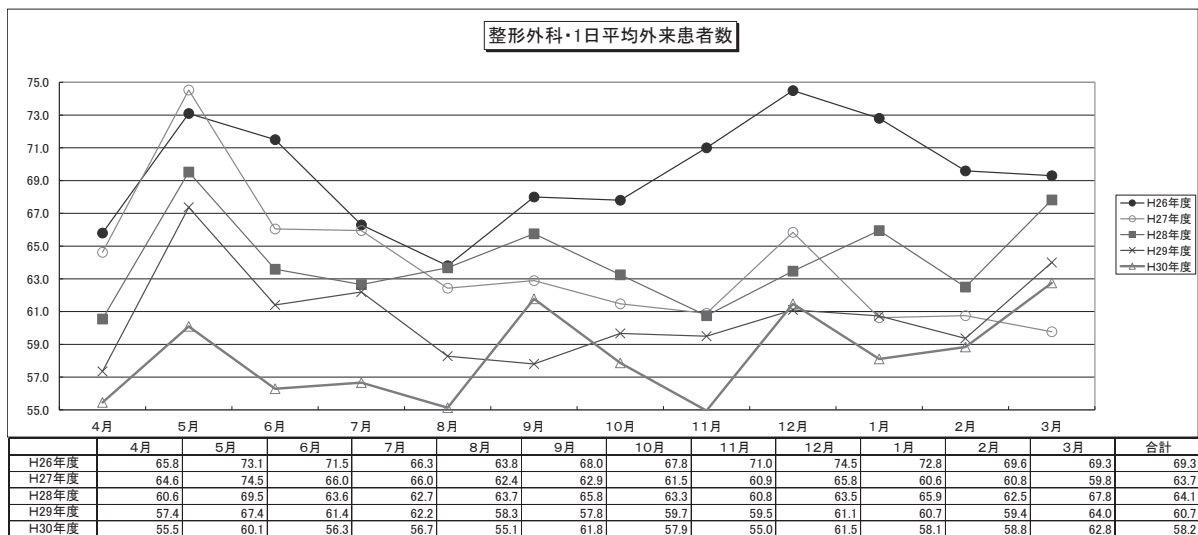
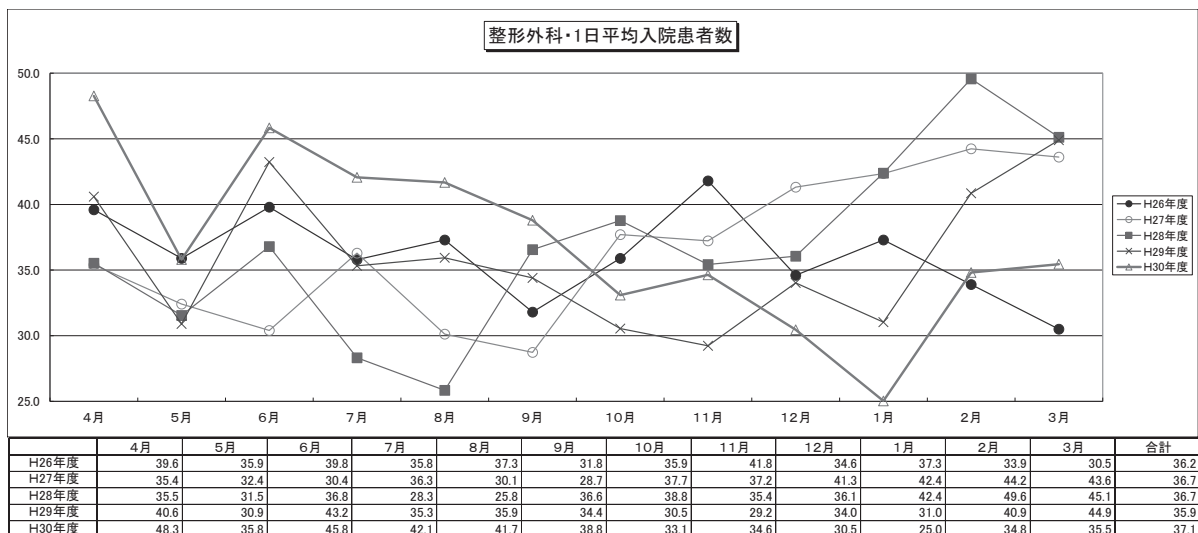


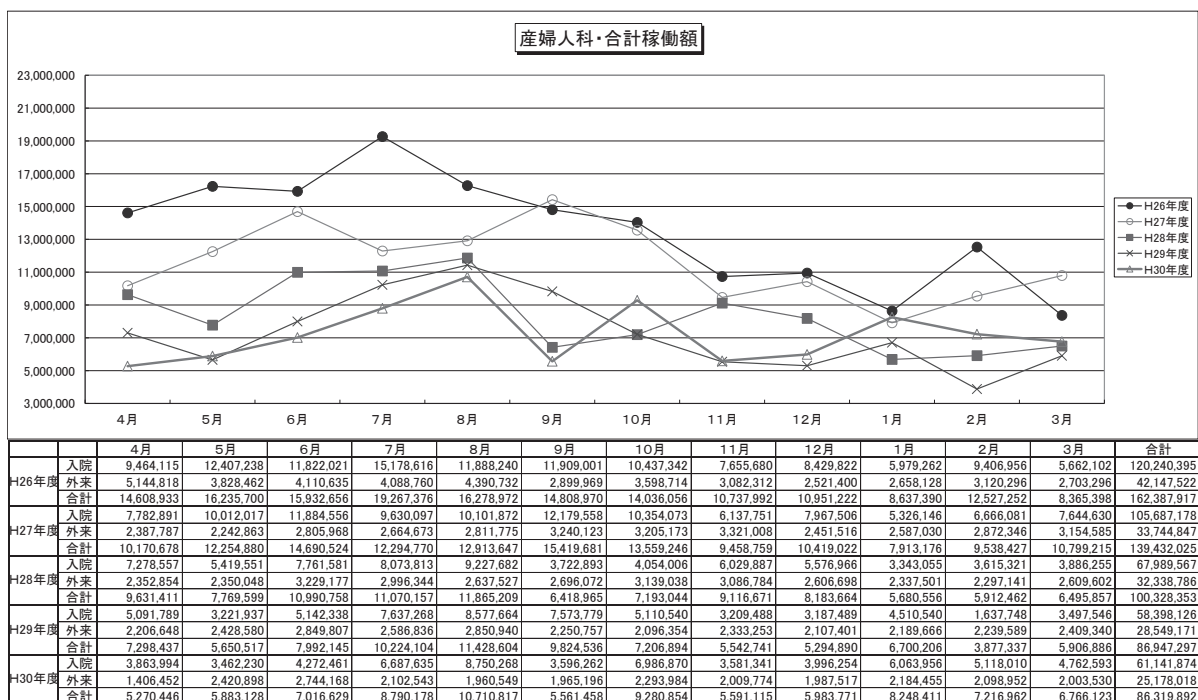
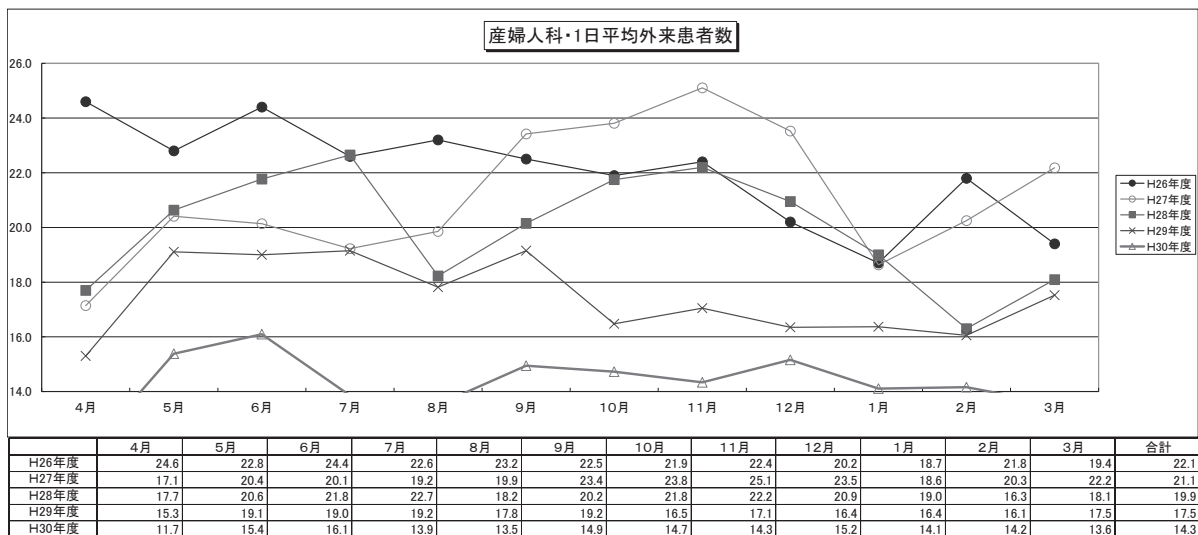
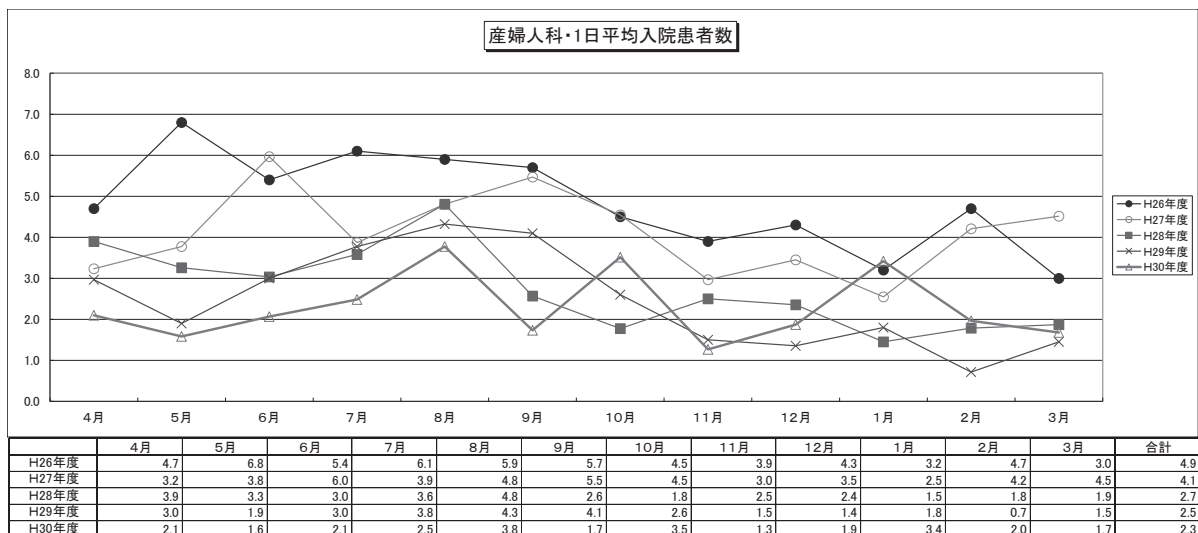


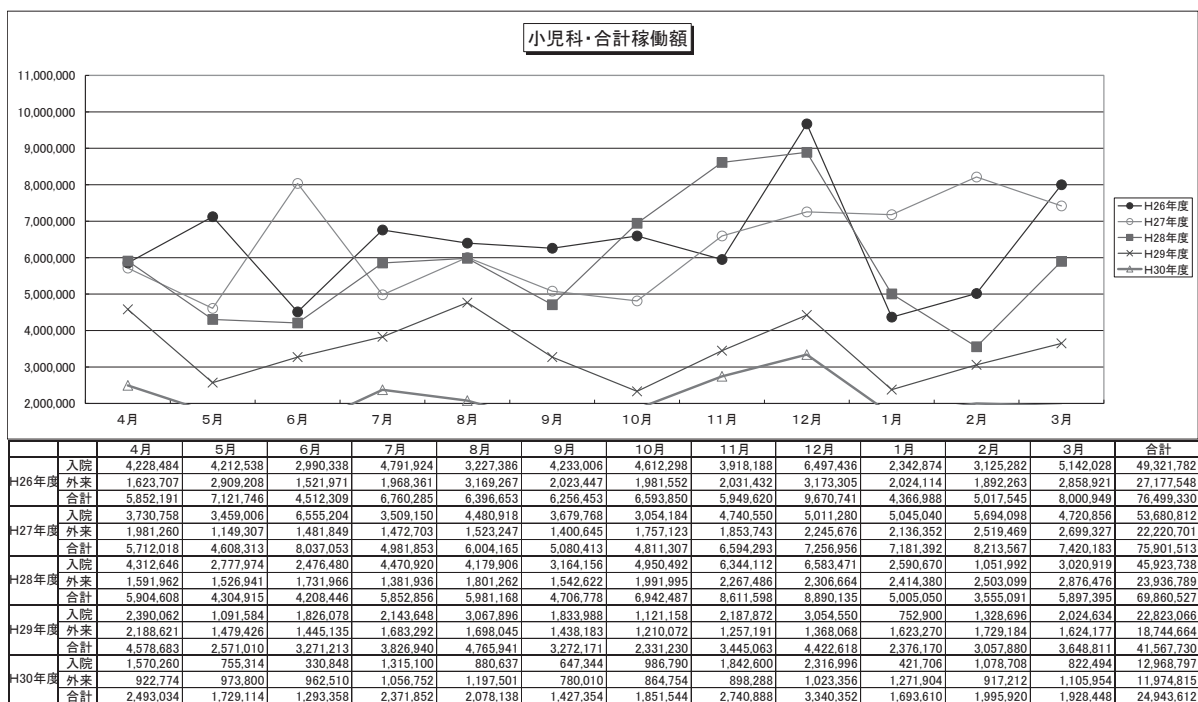
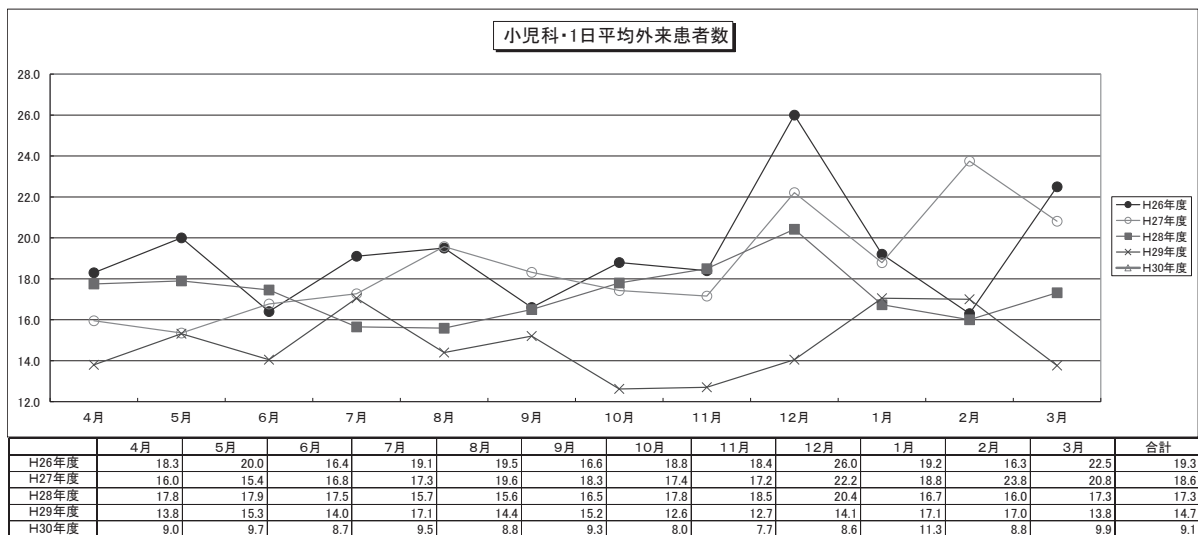
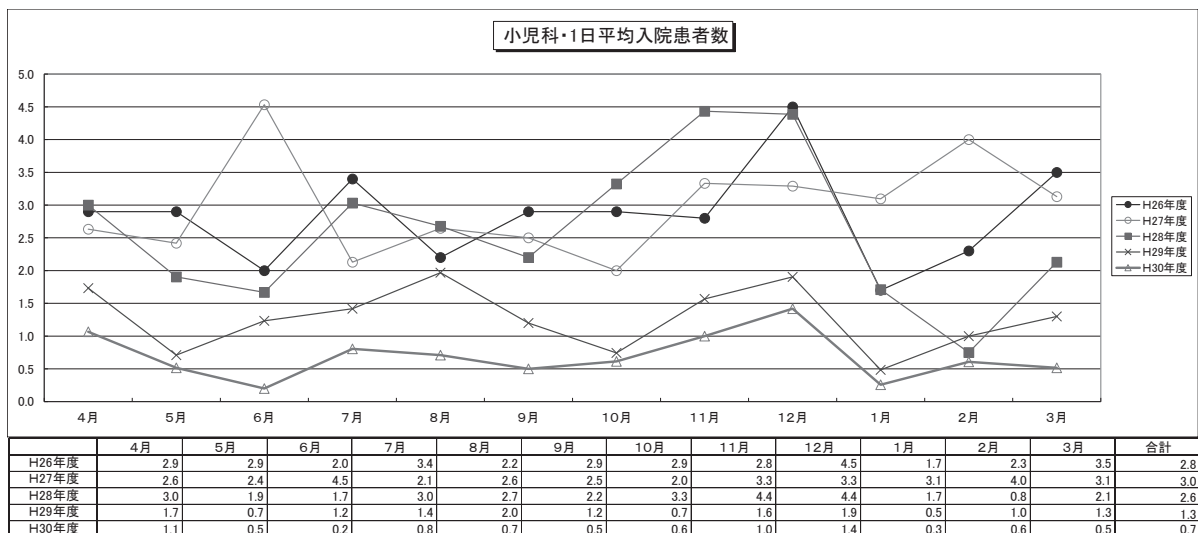


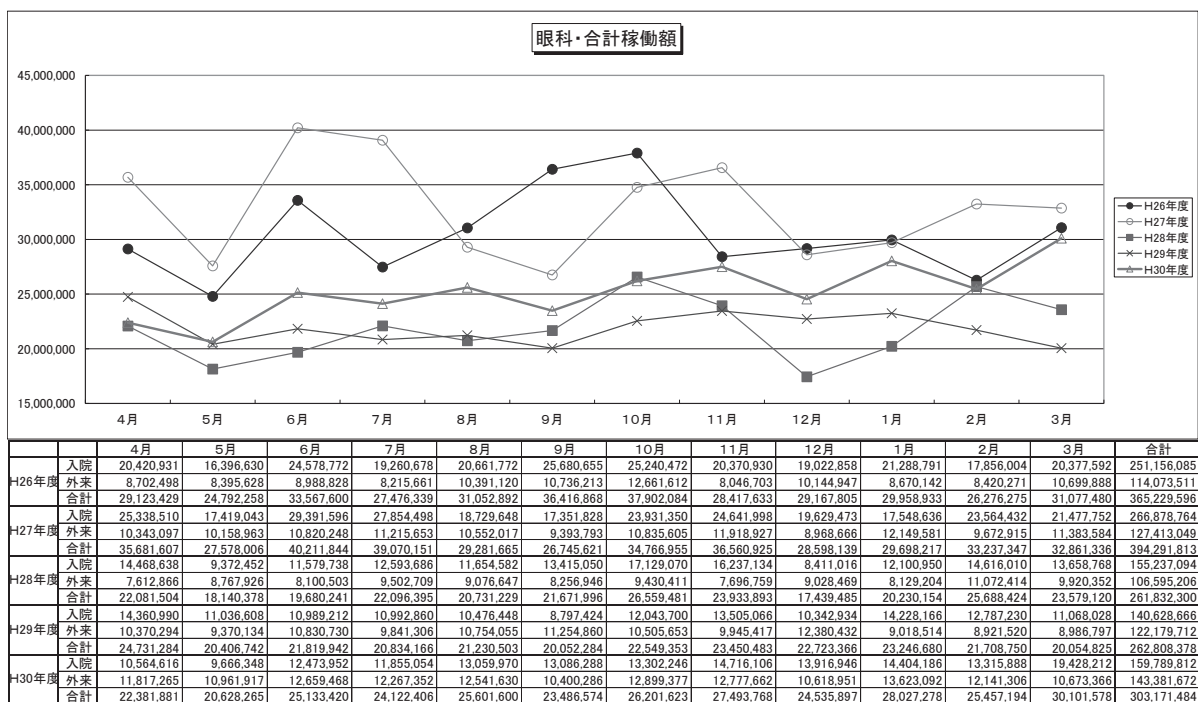
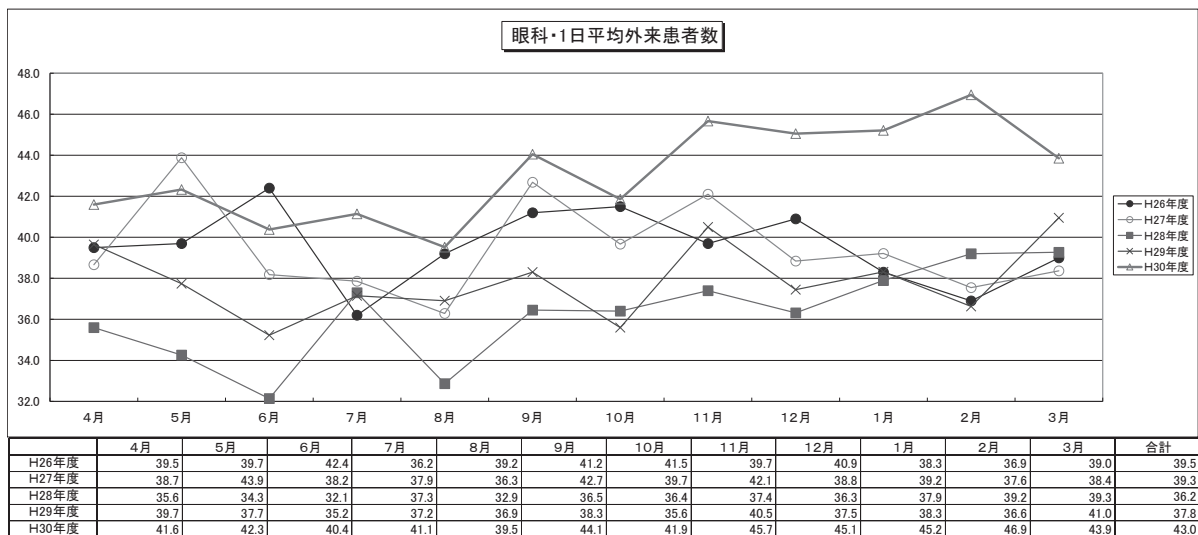
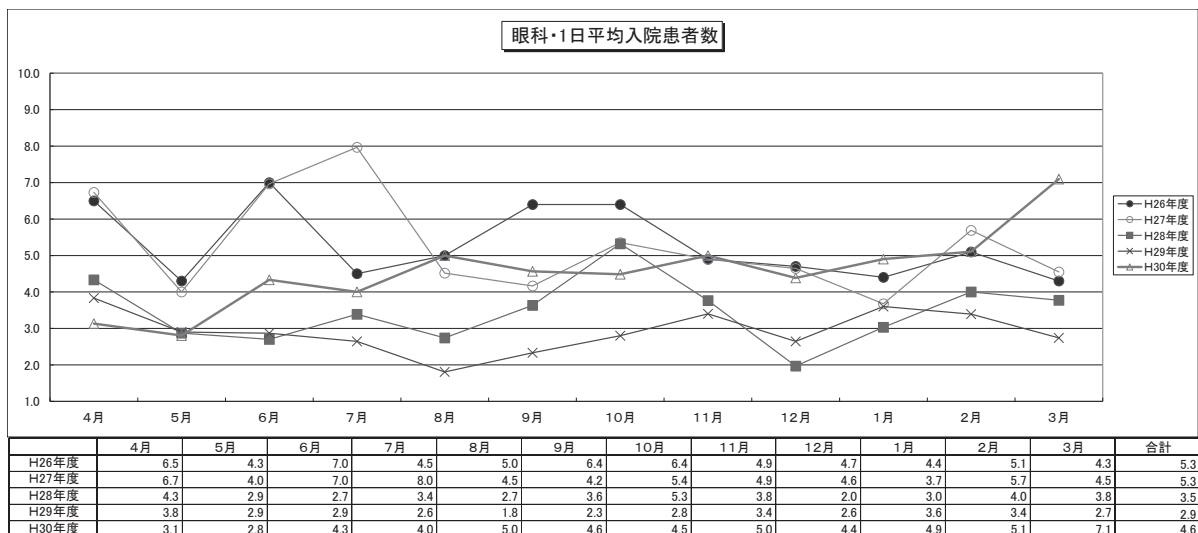


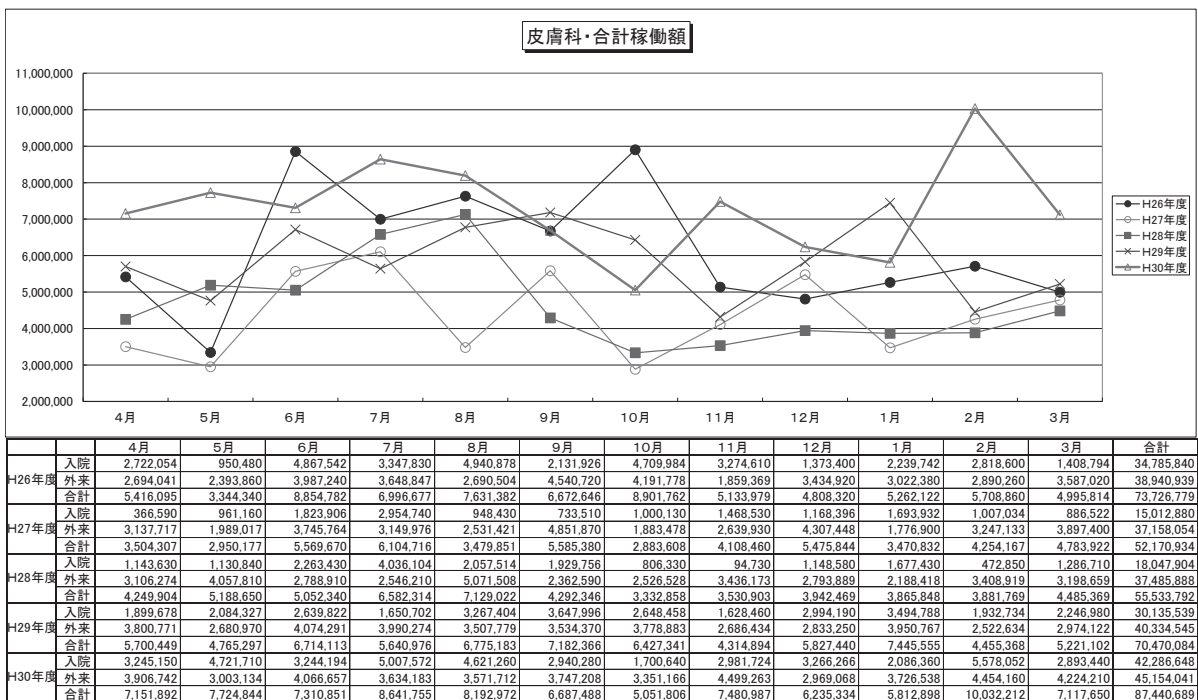
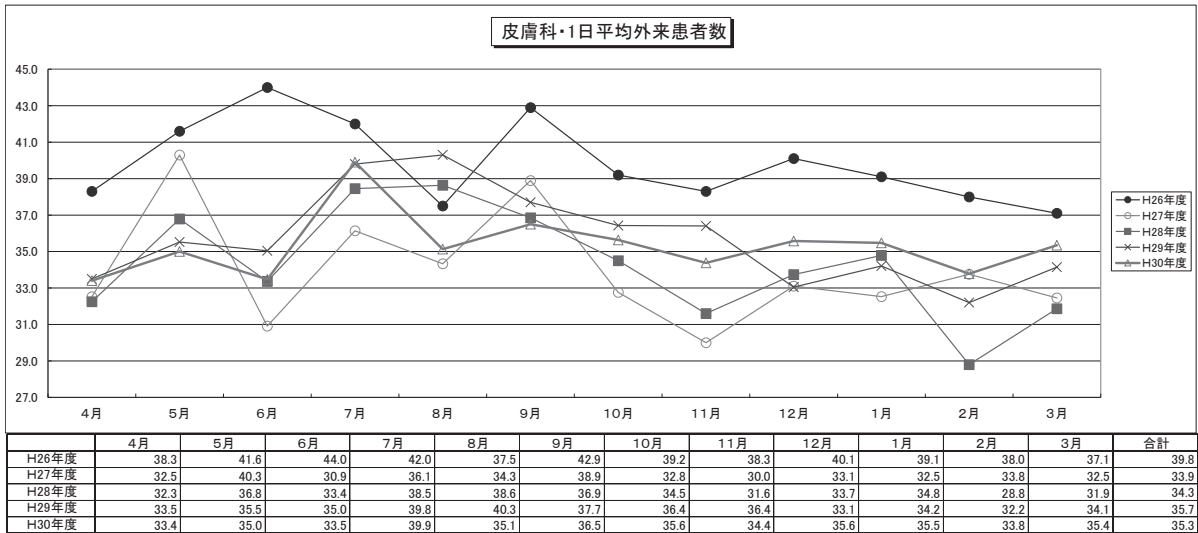
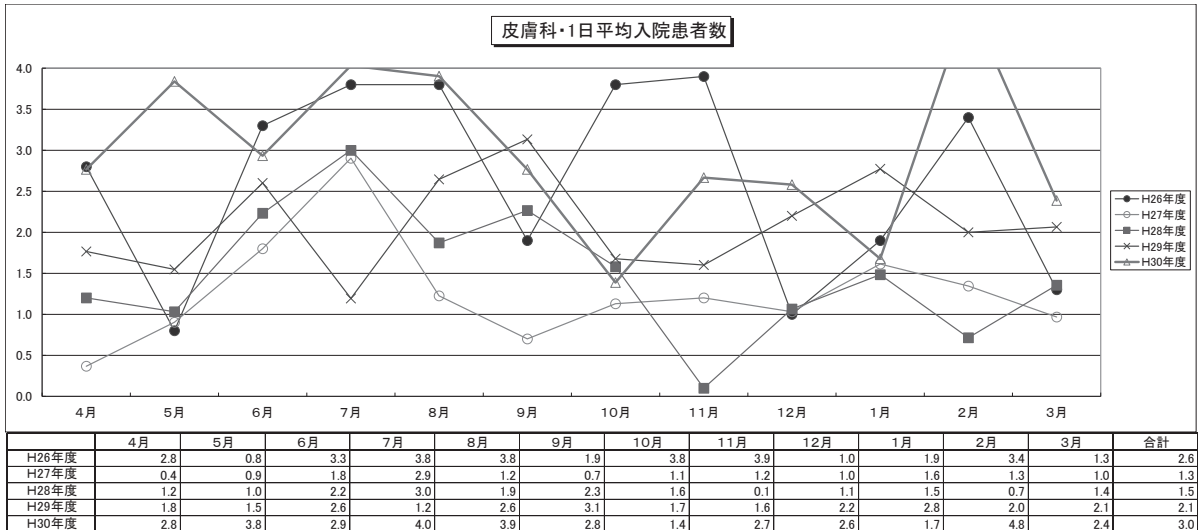


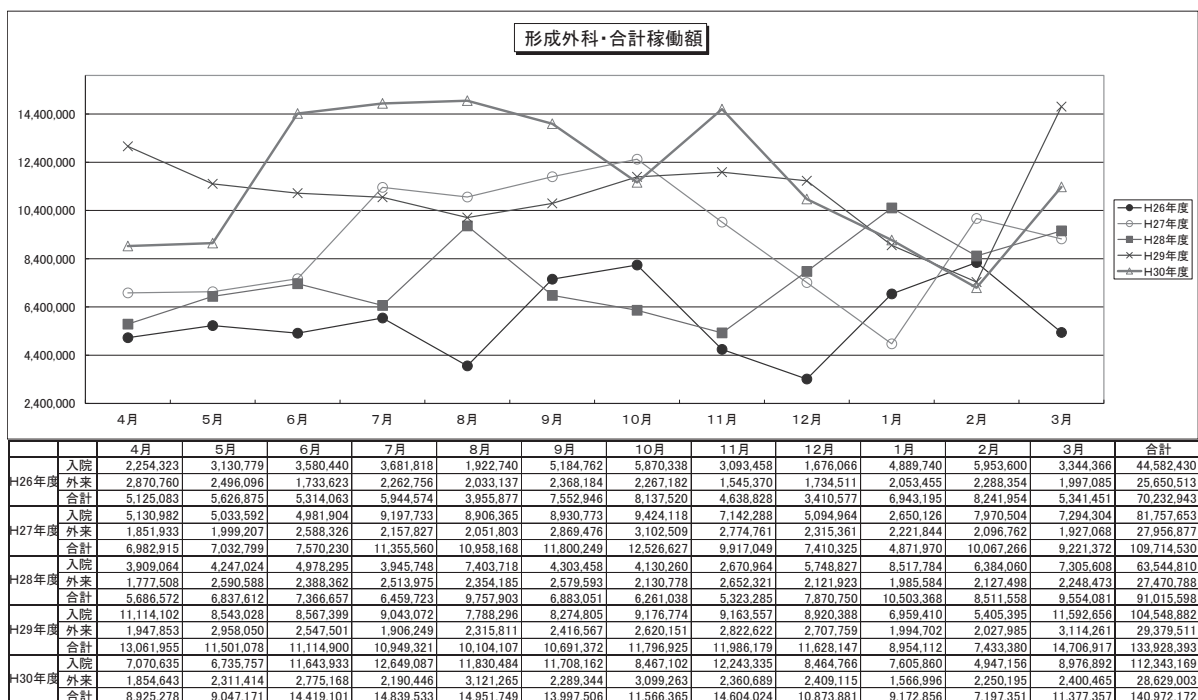
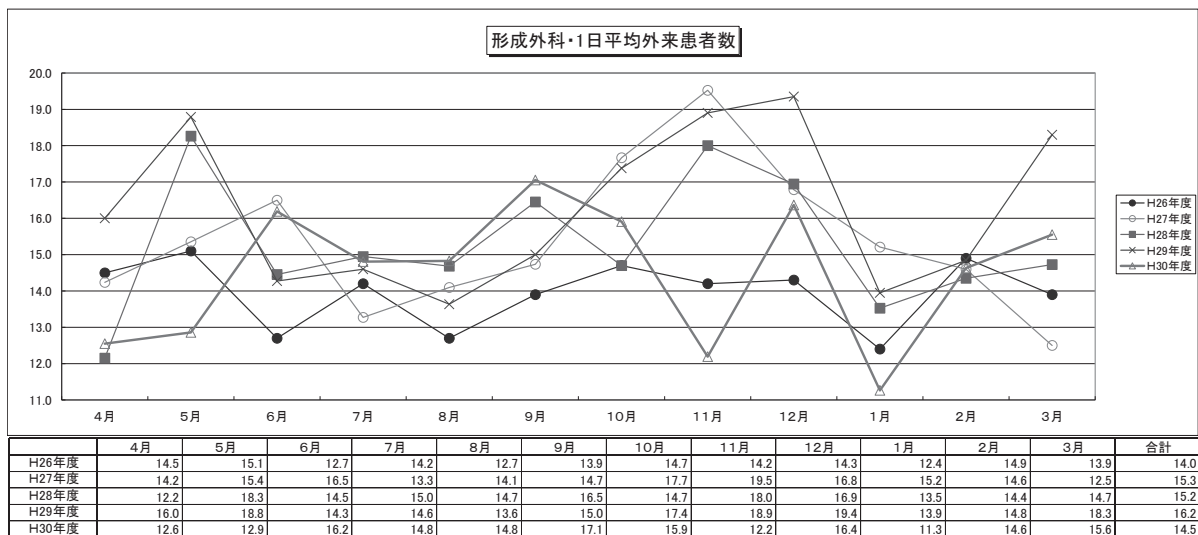
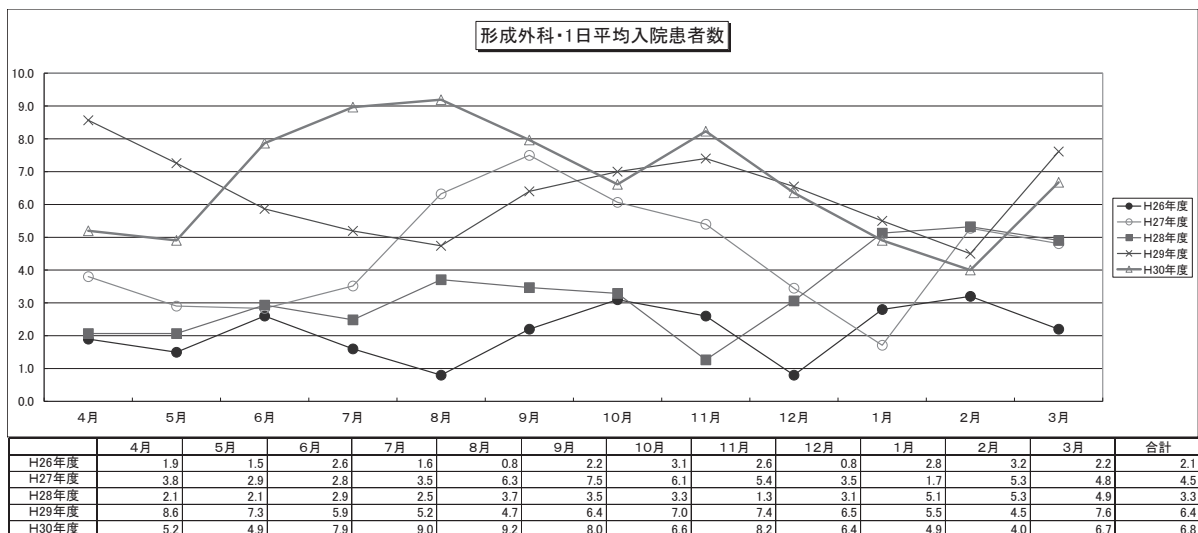


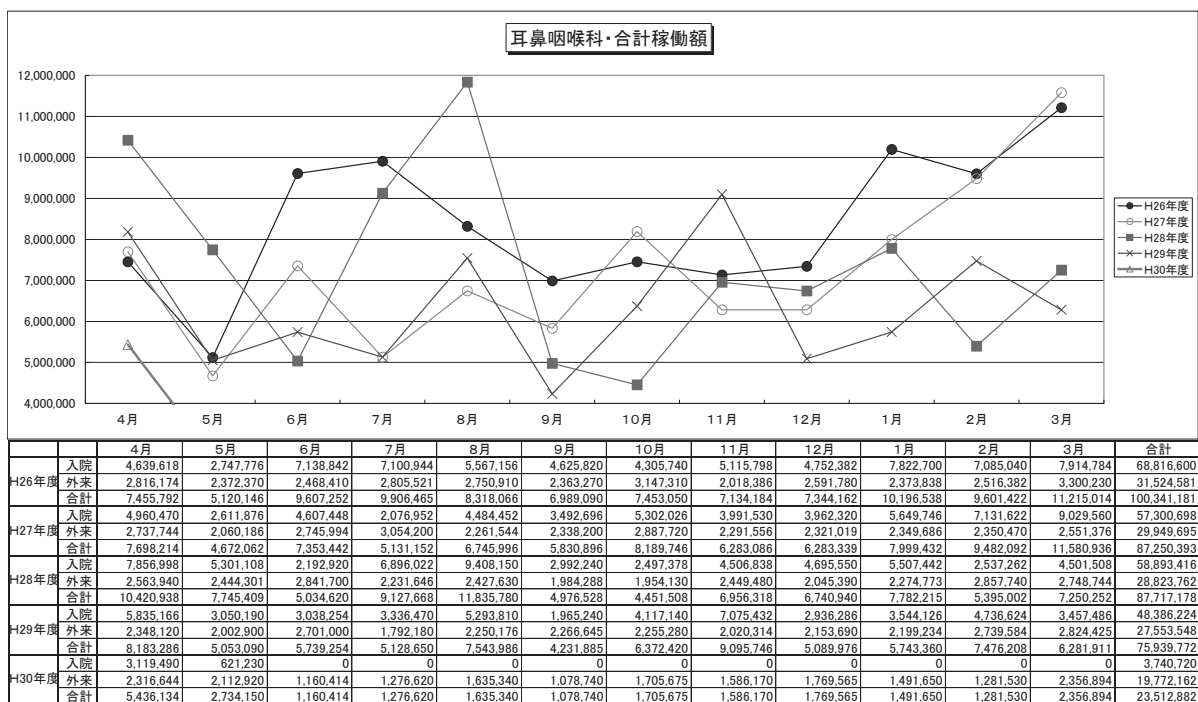
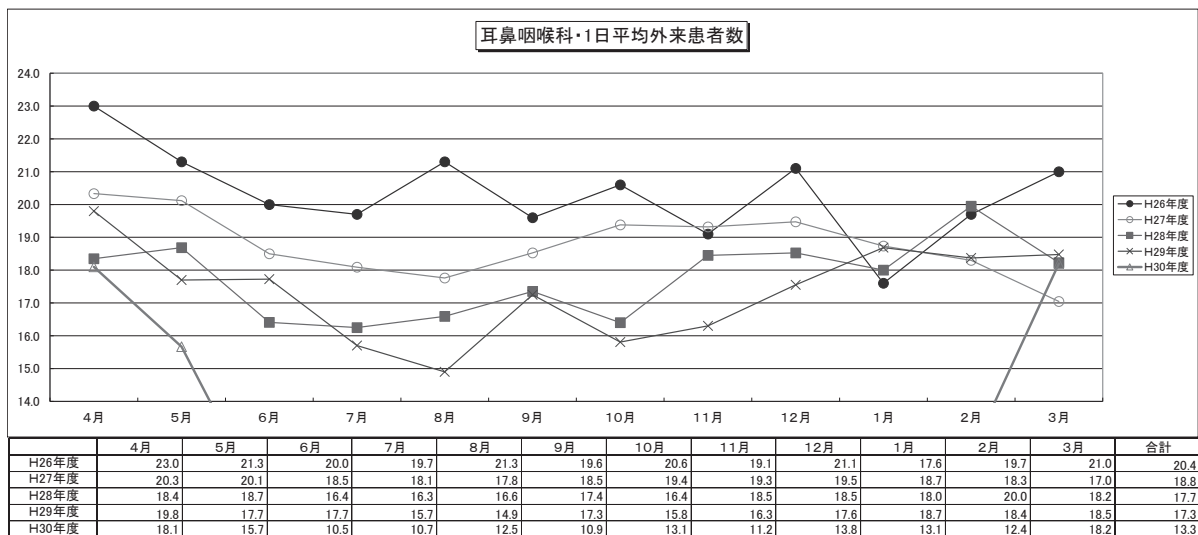
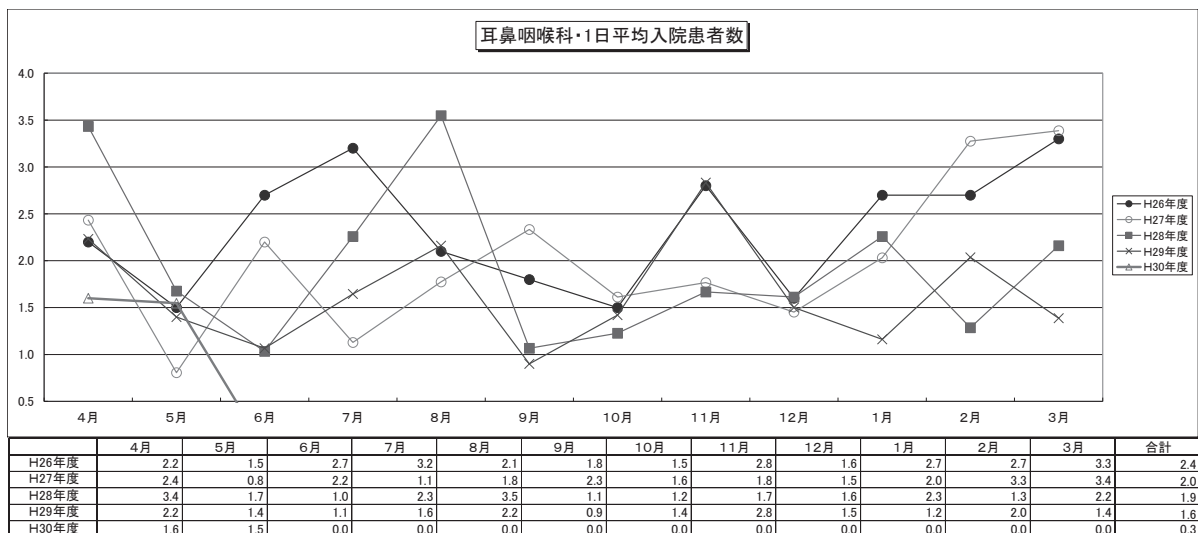


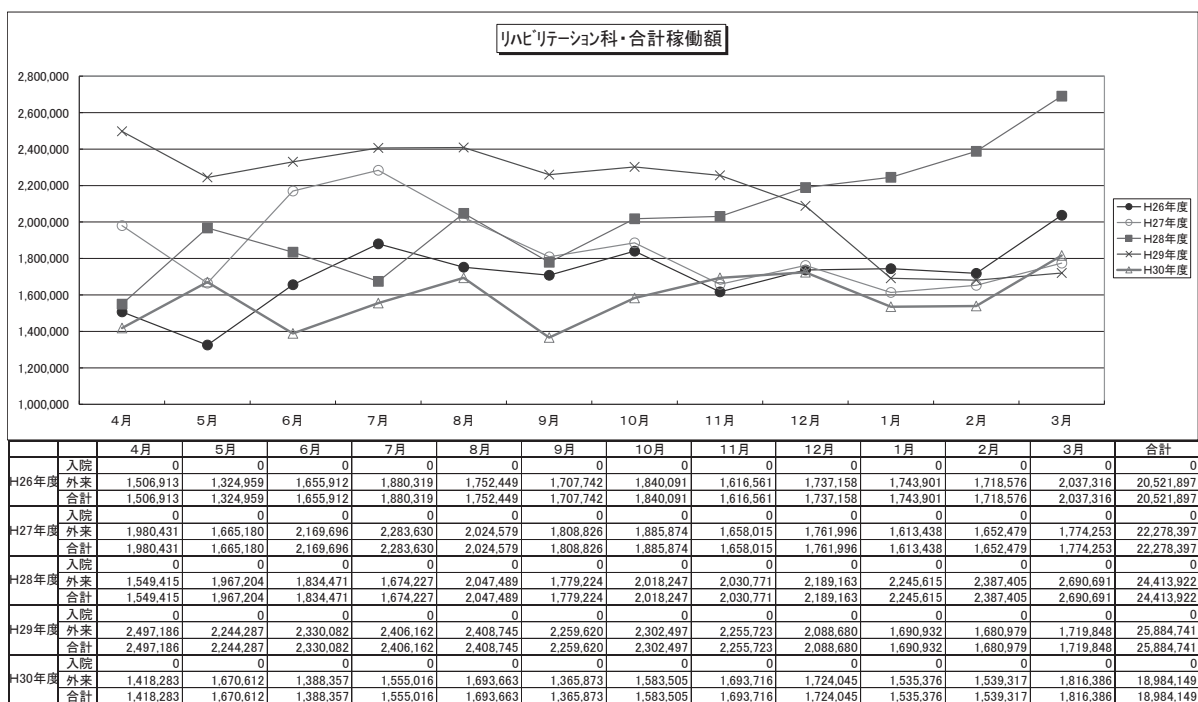
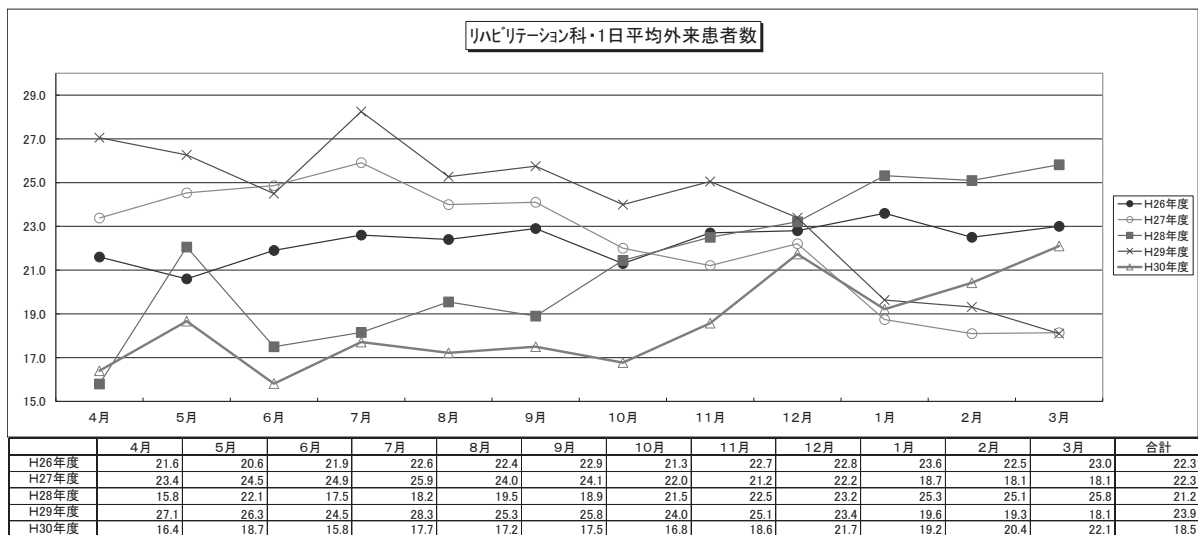
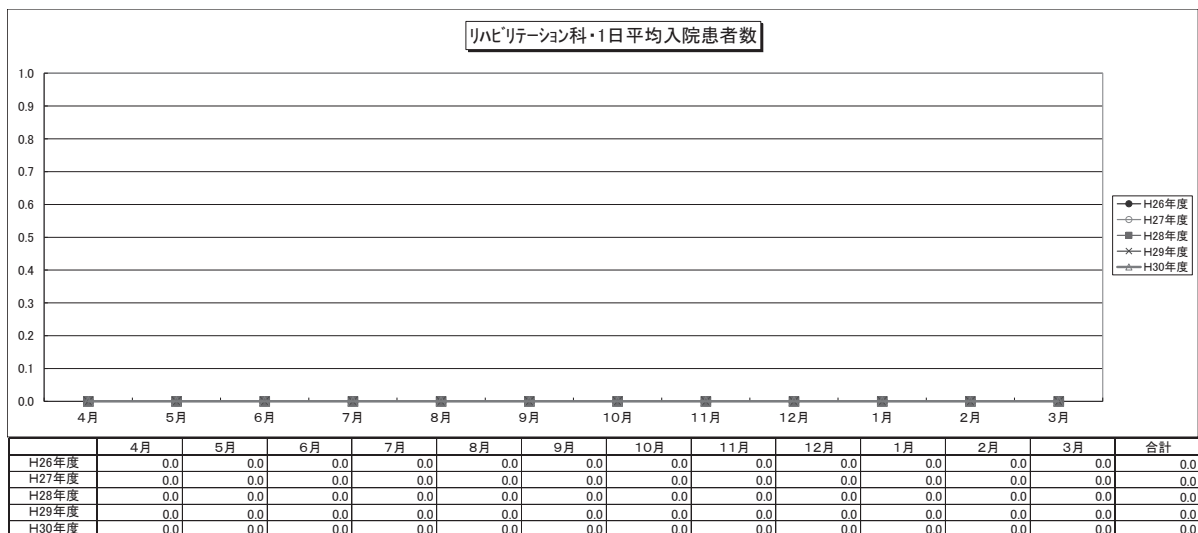


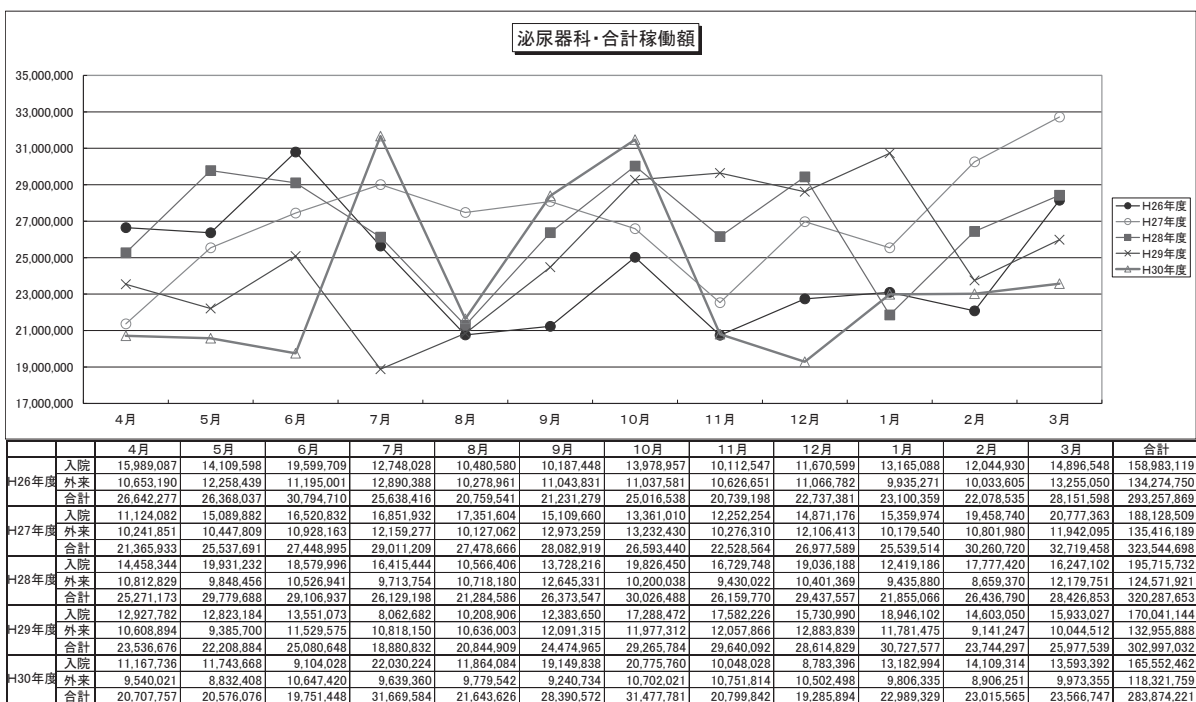
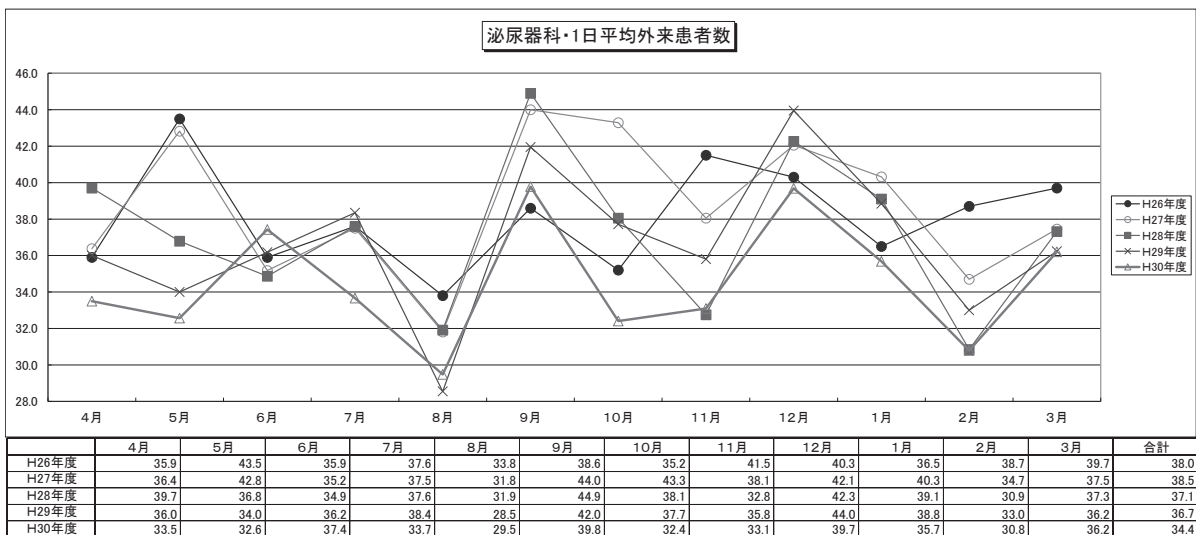
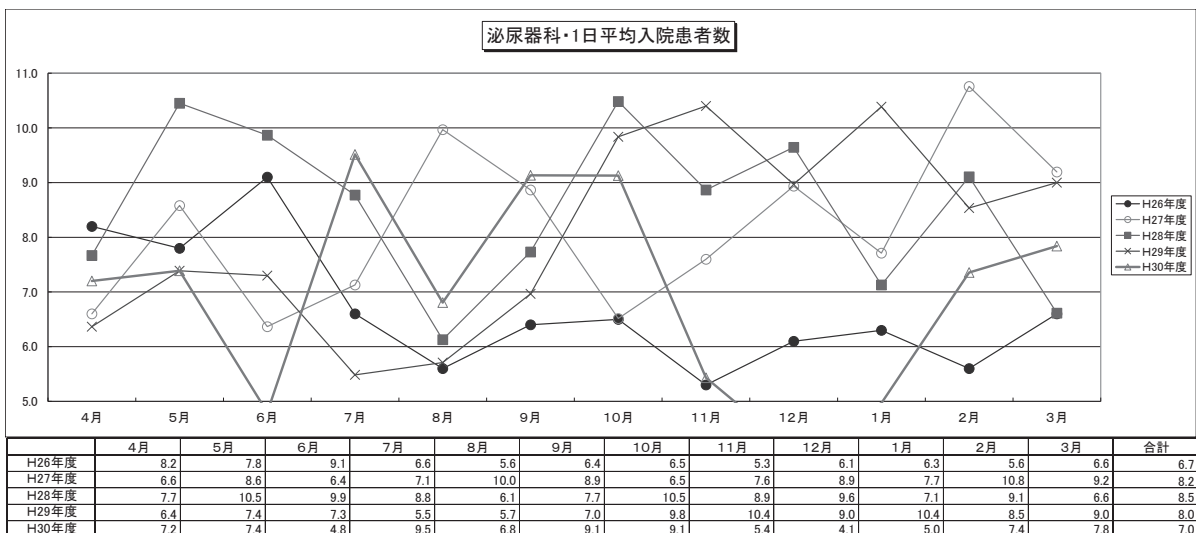


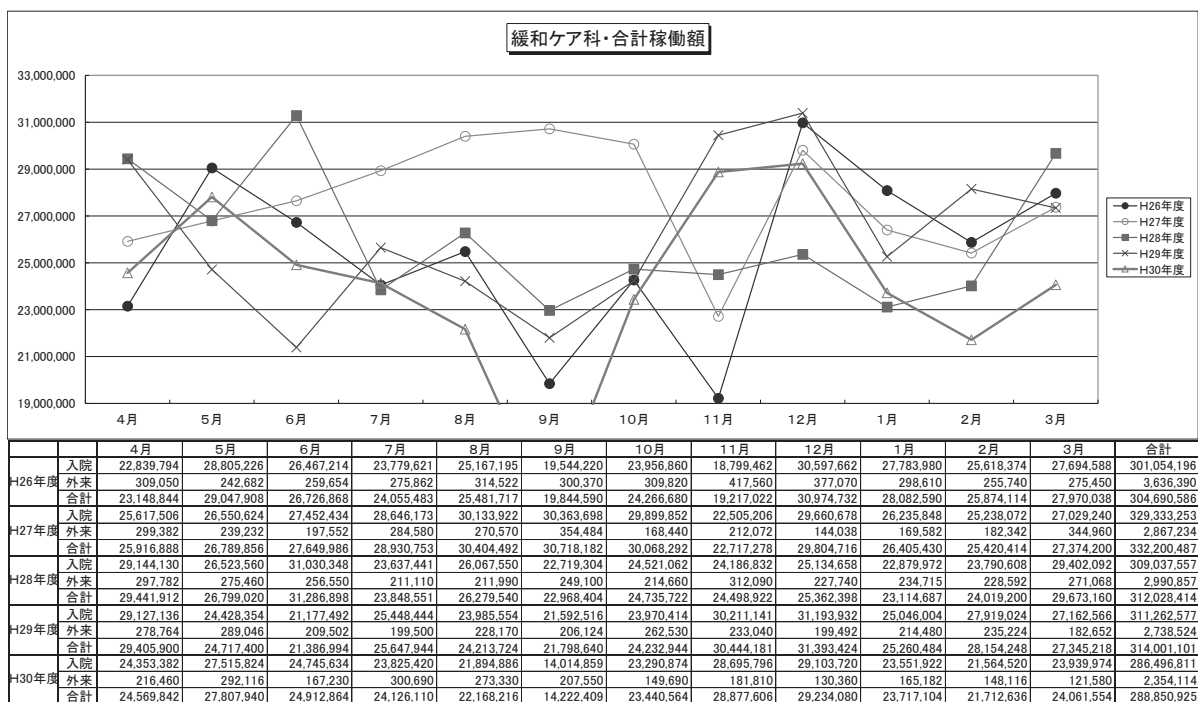
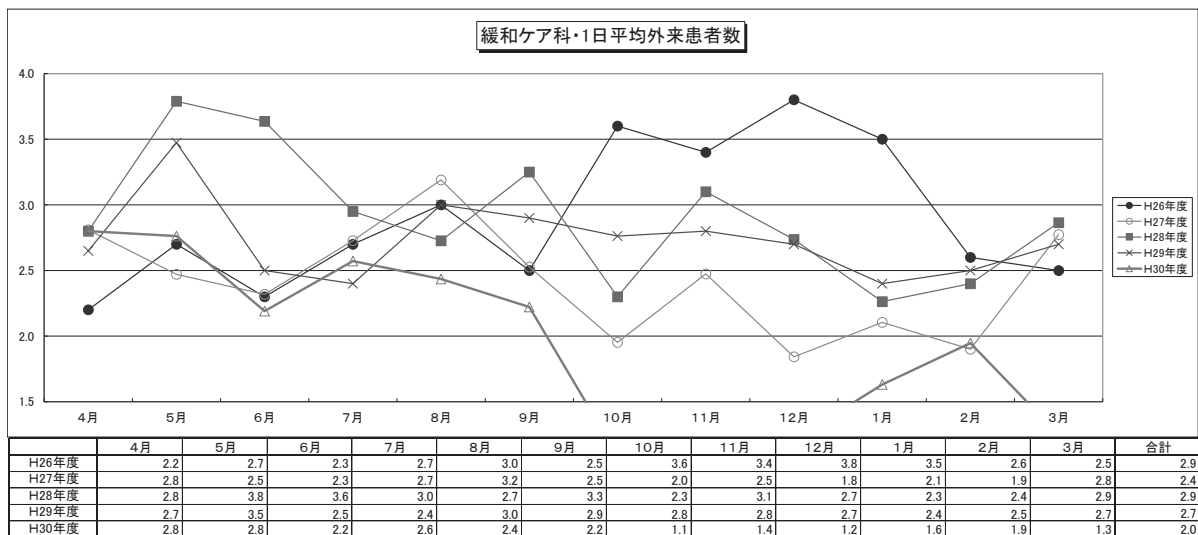
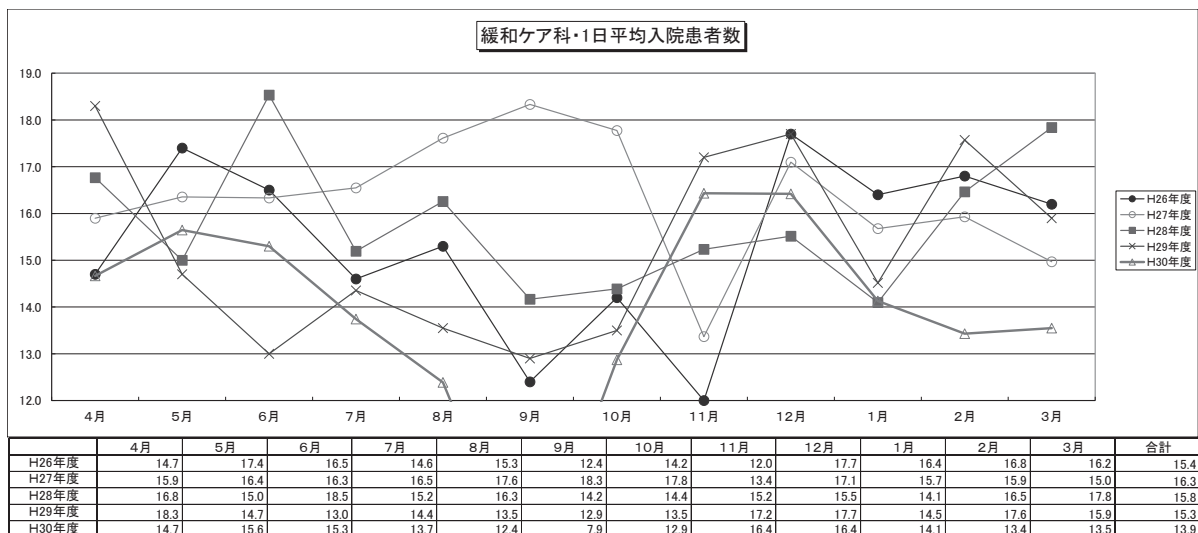






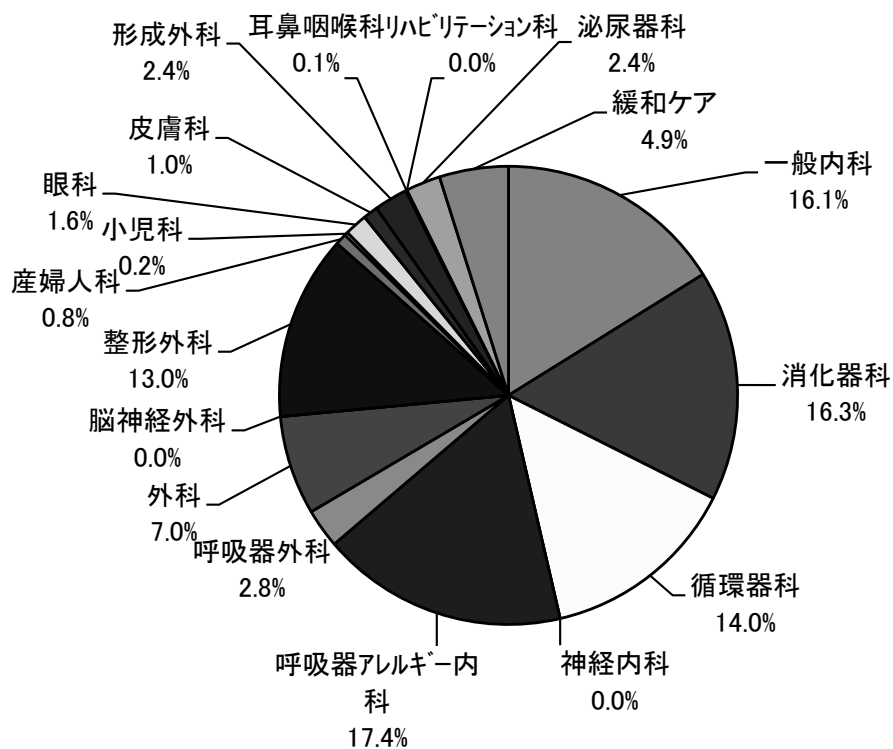




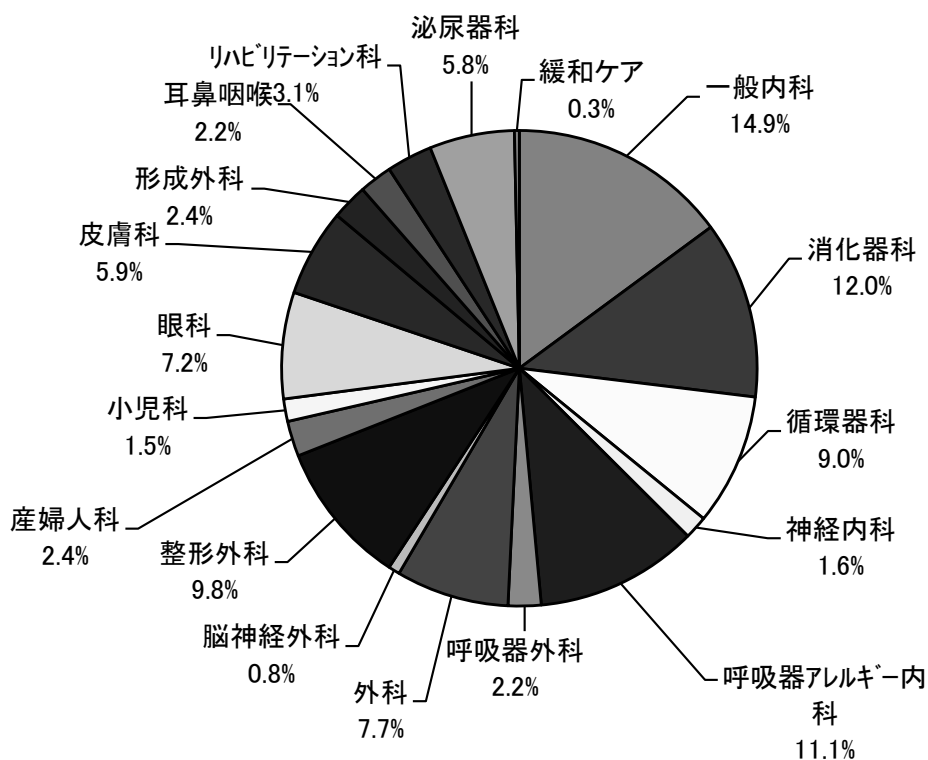


8. 科別患者構成比

入院患者数



外来患者数



9. 診療科年齡別構成表

診療科	0	'1-4	'5-9	'10-14	'15-19	'20-24	'25-29	'30-34	'35-39	'40-44	'45-49	'50-54	'55-59	'60-64	'65-69	'70-74	'75-79	'80-84	'85-	合計
小児科	43	113	49	35	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	243
耳鼻咽喉科	0	6	24	0	7	0	6	0	0	0	13	0	0	0	5	0	0	0	0	61
眼科	0	0	3	3	4	6	4	9	0	9	14	12	118	66	191	399	479	236	120	1,673
整形外科	0	0	11	104	170	198	54	113	144	327	418	213	402	491	847	1,773	2,477	2,645	3,199	13,586
外科	0	0	0	2	33	3	14	100	65	109	463	199	303	698	1,052	1,677	997	791	858	7,364
内科	0	0	0	0	15	20	59	131	288	115	441	508	652	1,358	3,640	4,103	4,933	2,862	2,957	22,082
呼吸器科	0	0	0	0	53	69	67	27	62	118	187	377	332	1,114	2,122	3,266	3,815	2,579	3,665	17,853
泌尿器科	0	0	0	6	7	22	17	4	9	9	23	59	117	197	340	444	614	410	311	2,589
皮膚科	0	0	0	3	0	25	24	12	21	41	40	41	25	90	84	192	171	127	175	1,071
産婦人科	0	0	0	0	4	1	106	172	76	104	76	128	14	6	10	6	13	44	34	794
脳外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緩和ケア科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器科	0	0	0	0	72	47	85	65	98	338	391	452	587	634	1,278	2,204	3,049	3,318	4,069	16,687
循環器科	0	0	0	0	0	57	20	11	13	68	177	391	419	274	1,252	1,680	2,425	2,451	5,276	14,514
形成外科	3	25	8	0	12	35	14	0	11	81	274	92	142	109	235	367	480	292	291	2,471
呼吸器外科	0	0	0	13	55	35	0	0	18	29	50	135	104	64	440	623	784	326	377	3,053
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	46	144	95	166	435	518	470	644	805	1,348	2,567	2,607	3,215	5,101	11,496	16,734	20,237	16,081	21,332	104,041
構成率	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.4%	0.5%	0.5%	0.6%	0.8%	1.3%	2.5%	2.5%	3.1%	4.9%	11.0%	16.1%	19.5%	15.5%	20.5%	100.0%

10. 救急患者数

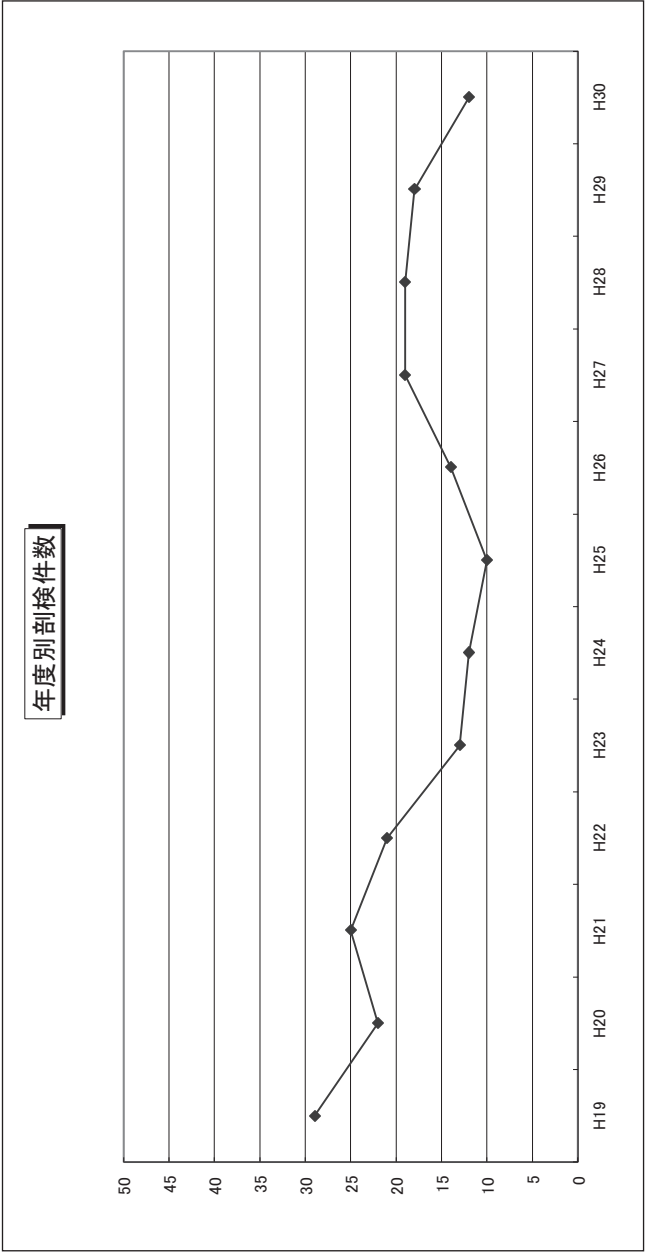
平成30年度月別件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間内	H29年度 127	140	130	138	145	119	117	139	167	192	189	156	1,759
	H30年度 144	101	176	197	187	120	158	122	153	235	176	135	1,904
時間外	H29年度 274	340	233	316	289	294	309	304	394	463	334	308	3,858
	H30年度 242	331	273	358	285	333	285	243	428	491	270	291	3,830
深夜	H29年度 89	89	83	91	102	74	89	87	93	97	42	93	1,029
	H30年度 70	74	66	88	98	72	71	71	80	101	76	79	946
合計	H29年度 490	569	446	545	536	487	515	530	654	752	565	557	6,646
	H30年度 456	506	515	643	570	525	514	436	661	827	522	505	6,680
1日	H29年度 16.3	18.4	14.9	17.6	17.3	16.2	16.6	17.7	21.1	24.3	20.2	18.0	18.2
平均	H30年度 15.2	16.3	17.2	20.7	18.4	17.5	16.6	14.5	21.3	26.7	18.0	16.3	18.3

平成30年度診療科別件数

		内科	消化器	循環器	神経内	呼吸内	呼吸外	外科	脳神経	整形	産婦人	小児科	眼科	皮膚科	形成	耳鼻咽喉	泌尿器	緩和	合計	
時間内	H29年度	494	262	213	14	208	9	57	43	277	11	25	11	26	41	24	0	41	3	1,759
	H30年度	602	337	227	6	207	13	47	40	269	13	38	8	16	37	18	0	23	3	1,904
時間外	H29年度	1,258	772	169	13	278	7	232	26	519	22	95	65	120	83	68	0	125	6	3,858
	H30年度	1,173	906	194	9	280	17	200	29	467	31	68	69	104	68	84	0	130	1	3,830
深夜	H29年度	309	238	68	1	78	2	38	6	89	15	32	55	21	11	16	0	49	1	1,029
	H30年度	338	149	75	2	65	2	42	1	83	14	26	67	23	9	3	0	47	0	946
合計	H29年度	2,061	1,272	450	28	564	18	327	75	885	48	152	131	167	135	108	0	215	10	6,646
	H30年度	2,113	1,392	496	17	552	32	289	70	819	58	132	144	143	114	105	0	200	4	6,680
1日 平均	H29年度	5.6	3.5	1.2	0.1	1.5	0.0	0.9	0.2	2.4	0.1	0.4	0.4	0.5	0.4	0.3	0.0	0.6	0.0	18.2
	H30年度	5.8	3.8	1.4	0.0	1.5	0.1	0.8	0.2	2.2	0.2	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.0	0.5	0.0	18.3

11. 剖検件数



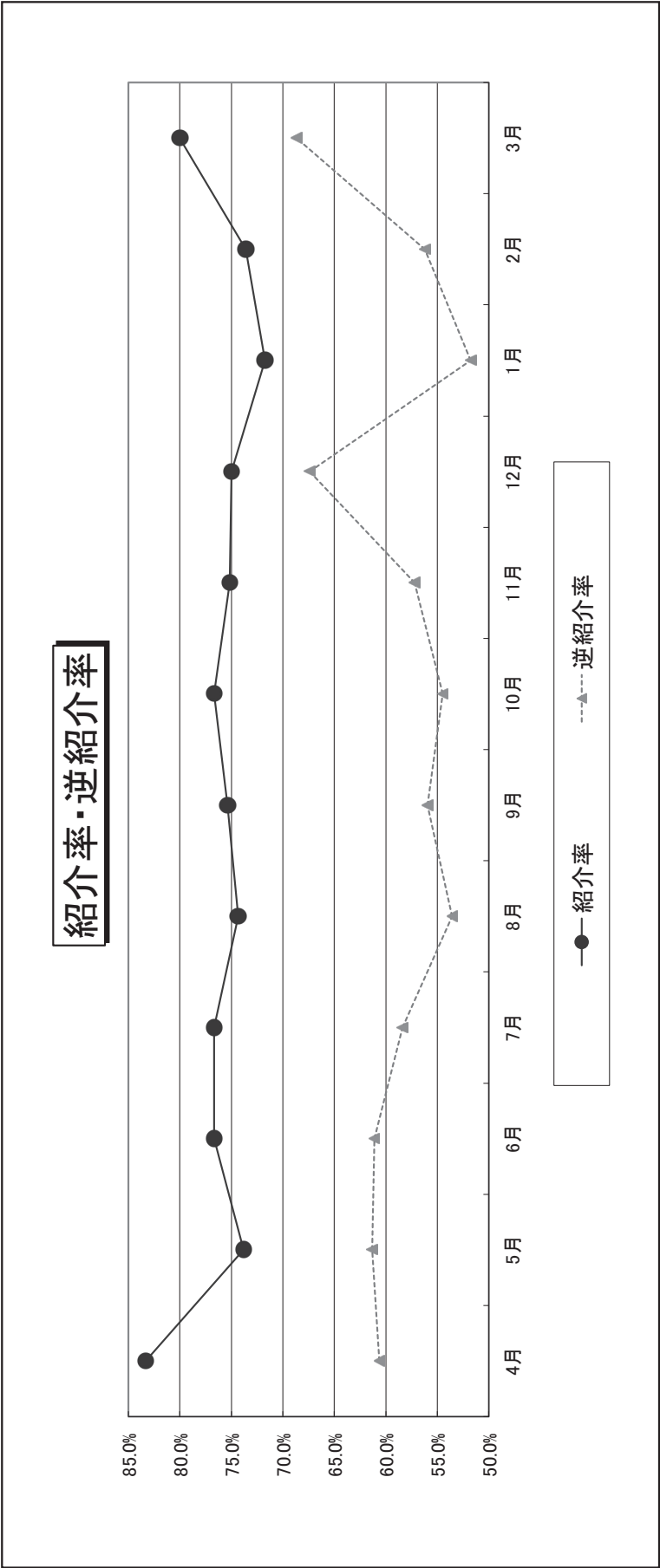
年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
件数	29	22	25	21	13	12	10	14	19	19	18	12

平成30年度科別剖検数

	血内	消化器	循環器	神経内	呼内	呼外	外科	脳神経	整形	産婦	小児	眼	皮膚	形成	耳鼻	リハビリテーション科	泌尿器	緩和	合計
剖検数	1	3	3		4	1													12
死亡数	29	58	39	0	80	5	21	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	180	415
剖検率	3.4%	5.2%	7.7%	0.0%	5.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%

12. 紹介率・逆紹介率

平成 30 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
初診患者数	587	600	566	596	616	504	635	568	488	566	557	555	6,838
紹介患者数	489	443	434	457	458	380	487	427	366	406	410	444	5,201
逆紹介患者	356	368	346	348	330	282	346	325	329	293	313	381	4,017
紹介率	83.3%	73.8%	76.7%	76.7%	74.4%	75.4%	76.7%	75.2%	75.0%	71.7%	73.6%	80.0%	76.1%
逆紹介率	60.6%	61.3%	61.1%	58.4%	53.6%	56.0%	54.5%	57.2%	67.4%	51.8%	56.2%	68.6%	58.7%



13. 食事別給食数

食事別給食数

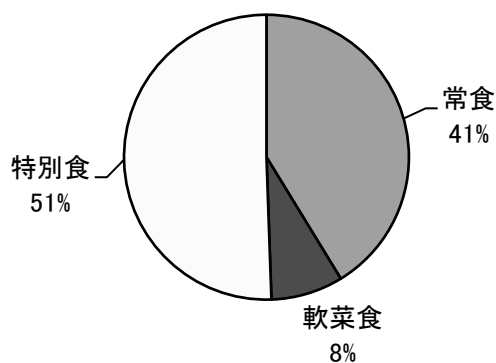
	常食	軟菜食	特別食	合 計
延食数	92,685	18,379	113,565	224,629
一日平均	254	50	311	615

特別食内訳

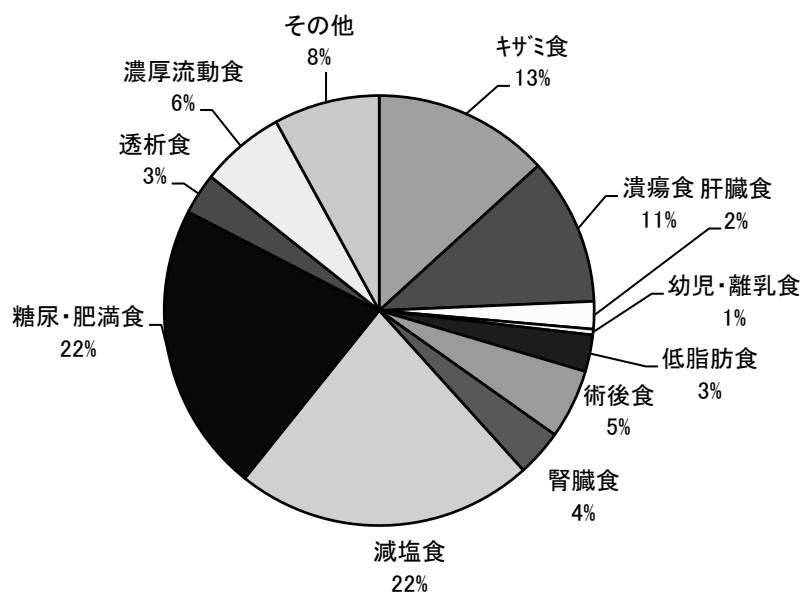
	キザミ食	潰瘍食	肝臓食	幼児・離乳食	低脂肪食	術後食	腎臓食	減塩食
延食数	15,035	12,580	2,347	495	3,128	5,932	4,001	25,477
一日平均	41	34	6	1	9	16	11	70

	糖尿・肥満食	透析食	濃厚流動食	その他	合計
延食数	24,804	3,513	7,219	9,034	113,565
一日平均	68	10	20	25	311

食事別給食数



特別食内訳

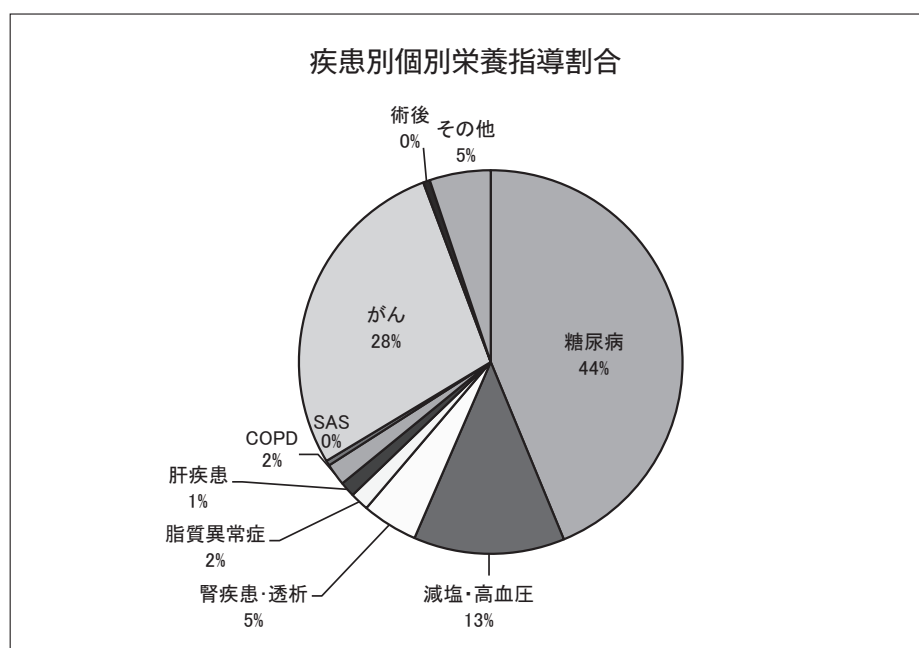


14. 栄養指導件数

	入院						外来				指導		カンファレンス	
	指導		ベット訪問		カンファレンス		個別		集団		合計		合計	
指導月	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	34	31	68	68	20	11	13	13	1	11	115	112	20	11
5月	36	32	43	43	14	10	13	13	1	18	92	88	14	10
6月	37	34	35	35	28	17	13	13	1	16	85	82	28	17
7月	40	38	55	55	25	15	17	17	1	10	112	110	25	15
8月	56	52	50	50	28	19	21	19	1	16	127	121	28	19
9月	28	28	60	60	11	9	21	21	1	11	109	109	11	9
10月	31	29	58	58	12	9	23	23	1	16	112	110	12	9
11月	42	38	60	60	20	15	29	29	1	17	131	127	20	15
12月	28	28	60	65	13	8	30	30	1	18	118	123	13	8
1月	23	23	40	30	11	9	24	24	1	20	87	77	11	9
2月	41	36	50	45	24	11	20	20	1	20	111	101	24	11
3月	40	33	49	40	30	16	19	19	1	17	108	92	30	16
合計	436	402	628	609	236	149	243	241	12	190	1307	1252	236	149
月平均	36.3	33.5	52.3	50.8	19.7	12.4	20.3	20.1	1.0	15.8	108.9	104.3	19.7	12.4

疾患別個別栄養指導件数（複数の制限の指示は主指示事項をカウントする）

	糖尿病	減塩・ 高血圧	腎疾患 ・透析	脂質異 常症	肝疾患	COPD	SAS	がん	術後	その他	合計
延数	306	89	33	11	9	13	3	195	4	36	699
月平均	25.5	7.42	2.75	1.1	0.82	1.08	0.38	16.3	0.5	3	54.1



15. 手術件数

	内科	消化器科	循環器科	呼吸器科	呼吸器外科	外科	脳神経外科	整形外科	産婦人科	眼科	皮膚科	形成外科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	その他	合計
平成 26 年度	43	827	259	9	106	691	10	824	214	1127	49	487	409	281	88	5,424
平成 27 年度	70	774	344	9	149	622	7	681	183	1193	31	571	325	301	27	5,287
平成 28 年度	76	786	396	4	113	567	9	690	173	872	61	602	303	295	22	4,969
平成 29 年度	58	964	336	3	121	592	16	690	130	923	39	617	273	265	26	5,053
平成 30 年度	50	932	315	2	122	540	12	639	128	1130	41	584	61	273	25	4,854

16. 分娩件数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
分娩件数	5	5	2	3	7	2	9	3	4	3	3	2	48

17. 特定保健指導

平成 30 年度

特定保健指導 実施報告

年度内指導回数 46 回（平成 24 年度 56 回、25 年度 140 回、26 年度 196 回）
（平成 27 年度 100 回、28 年度 131 回、29 年度 88 回）

動機付け支援 指導回数 30 回

積極的支援 指導回数 16 回

※平成 30 年度より動機付け支援（期間）：6 ヶ月→3 ヶ月変更

※病院の諸事情により特定健診受診枠縮小：15 名→6 名 / 日

高槻国保

動機付け支援 結果説明 4 名

利用券持参 0 名

積極的支援 結果説明 0 名

利用券持参 0 名

高槻国保以外

動機付け支援 利用券持参 1 名

積極的支援 利用券持参 2 名

合計 7 名

2 日ドック栄養指導 実施報告

平成 30 年度指導人数 0 名

※病院の諸事情により平成 31 年 1 月末で人間ドック休止

18. 医業収益・費用及び医業外収益・費用の構成について

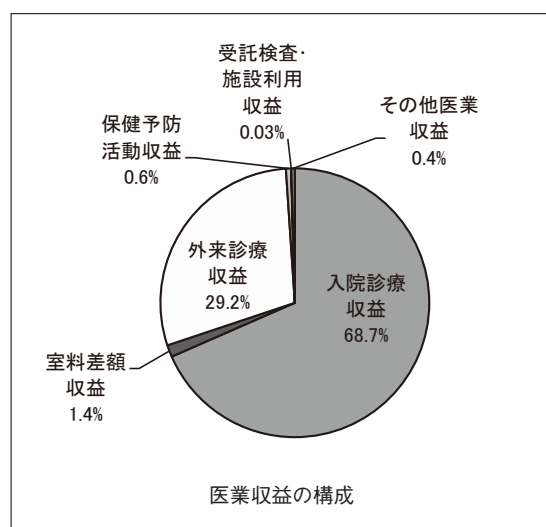
（平成 30 年度医療施設特別会計決算額より）

医業収益の構成

損益計算書収益の部より、医業収益科目の構成比率

（単位：円）

項目	金額	構成比率
入院診療収益	5,899,792,278	68.7%
室料差額収益	123,483,512	1.4%
外来診療収益	2,505,250,440	29.2%
保健予防活動収益	53,365,487	0.6%
受託検査・施設利用収益	2,825,280	0.03%
その他の医業収益	35,740,874	0.4%
保険等査定減（※入院＋外来診療収益比）	-33,745,646	(-0.4% ※)
合計	8,586,712,225	

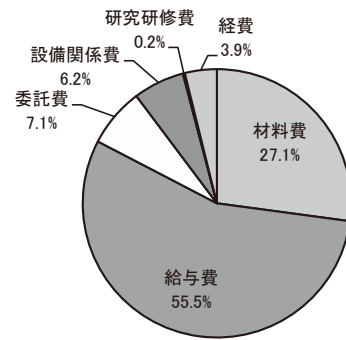


医業費用の構成

損益計算書費用の部より、医業費用科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
材料費	2,530,719,191	27.1%
給与費	5,177,629,244	55.5%
委託費	664,842,917	7.1%
設備関係費	574,378,319	6.2%
研究研修費	22,398,687	0.2%
経費	359,197,839	3.9%
合計	9,329,166,197	



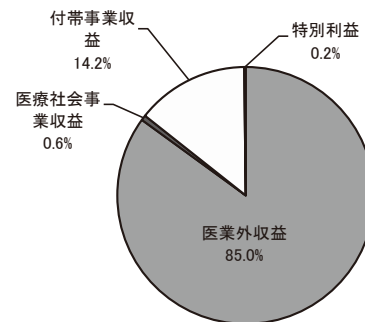
医業費用の構成

医業外収益の構成

損益計算書収益の部より、医業外収益科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
医業外収益	289,718,145	85.0%
医療社会事業収益	2,209,556	0.6%
付帯事業収益	48,228,926	14.2%
特別利益	660,880	0.2%
合計	340,817,507	



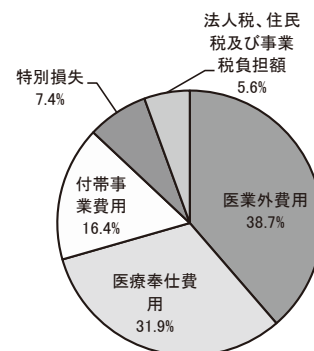
医業外収益の構成

医業外費用の構成

損益計算書費用の部より、医業外費用科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
医業外費用	145,036,951	38.7%
医療奉仕費用	119,717,510	31.9%
付帯事業費用	61,646,772	16.4%
特別損失	27,889,361	7.4%
法人税、住民税及び事業税負担額	20,887,135	5.6%
合計	375,177,729	



医業外費用の構成

19. 病院利益（損失）

(単位：円)

総利益	8,927,529,732
総費用	9,704,343,926
病院利益（損失）	-776,814,194

20. 平成 30 年度 年間購入雑誌一覧

洋 雑 誌	
(冊子)	
1	Journal of Orthopaedic Science
2	LARYNGOSCOPE
(電子ジャーナル)	
3	Advances in anatomic pathology
4	Anesthesiology
5	Annals of Thoracic Surgery
6	American Journal of Surgical Pathology
7	American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine
8	American Journal of Roentgenology
9	Anesthesia and Analgesia
10	Annals of Surgery
11	Auris Nasus Larynx
12	Blood
13	CHEST
14	Circulation
15	Critical Care Medicine
16	Diseases of the Colon and Rectum
17	Journal of the American College of Cardiology
18	Journal of Arthroplasty
19	Journal of Bone and Joint Surgery (American Volume)
20	Journal of Bone and Joint Surgery (British Volume)
21	Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery
22	Journal of Urology
23	Medline
24	New England Journal Medicine
25	Ophthalmology
26	Radiographics
27	Radiology
28	RETINA
29	Urology

和 雑 誌	
(冊子)	
1	Clinical Research Professionals
2	JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION
3	Lisa
4	新しい眼科
5	アレルギー・免疫
6	医事業務
7	胃と腸
8	医薬ジャーナル
9	エキスパートナース
10	看護研究
11	看護実践の科学
12	看護展望
13	作業療法ジャーナル
14	呼吸器ケア
15	呼吸器ジャーナル
16	消化器内視鏡
17	総合リハビリテーション
18	ナーシングビジネス
19	保険診療
20	薬局
21	理学療法ジャーナル
22	臨床消化器内科

文献検索・データベース

MEDLINE with Full Text (EBSCO)
CINAHL with Full Text (EBSCO)
The Cochrane Library
Dyna Med
医学中央雑誌 web 版
メディカルオンライン

21. 医療社会事業年報（平成 30 年度）

1. ケース件数

《年度実人数》

	入院 / 外来	人数
年度実人数	入院	1,243 人
	外来	391 人
	計	1,634 人

終了ケース	入院	263 人
	外来	18 人
合計		281 人

2. 延べ人数

延人数	7,471 人
-----	---------

3. 新ケースの紹介経路

区分	件数
医師	402 件
看護職	688 件
リハビリ職	4 件
その他院内職員	19 件
本人	102 件
家族・親戚縁者	140 件
院外関係機関（者）	175 件
近隣者・知人	2 件
ソーシャルワーカー	9 件
その他	16 件
合計	1,557 件

4. 問題

区分	件数
家族関係の問題	25 件
介護・療養生活上の問題	1,192 件
経済に関する問題	99 件
日常生活上の問題	82 件
就労・職場の問題	0 件
教育の問題	0 件
医療の確保に関する問題	624 件
人権に関わる問題	2 件
心理・情緒的問題	10 件
制度活用に関する問題	130 件
その他	63 件
合計	2,227 件

5. 援助方法

方法	回数
面接	本人 1,805 回
	家族 2,003 回
電話	本人 45 回
	家族 1,430 回
訪問	家庭 7 回
	その他 6 回
同行・同伴・代行	4 回
文章・FAX	1,361 回
情報収集	510 回
院内協議・院内カンファレンス	3,736 回
院外協議・院外カンファレンス	5,403 回
合同カンファレンス	153 回
合計	16,463 回

6. 相談援助内容

内容	件数
1、家族関係に関する事	88 件
2、在宅介護・地域生活に関する事	2,434 件
3、療養生活に関する事	709 件
4、経済的問題に関する事	137 件
5、就労・職場環境に関する事	0 件
6、就学・教育環境に関する事	0 件
7、虐待・暴力・人権に関すること	6 件
8、受診・受療に関する事	401 件
9、転院に関する事	2,899 件
10、他施設利用に関する事	1,136 件
11、心理・情緒的問題に関する事	12 件
12、他福祉関係法利用に関する事	330 件
13、その他	100 件
合計	8,252 件

7. 介入の時期

区分	人数
1、受診	23 人
2、外来継続	255 人
3、入院時	67 人
4、入院継続	749 人
5、退院期	248 人
6、その他	75 人
合計	1,417 人

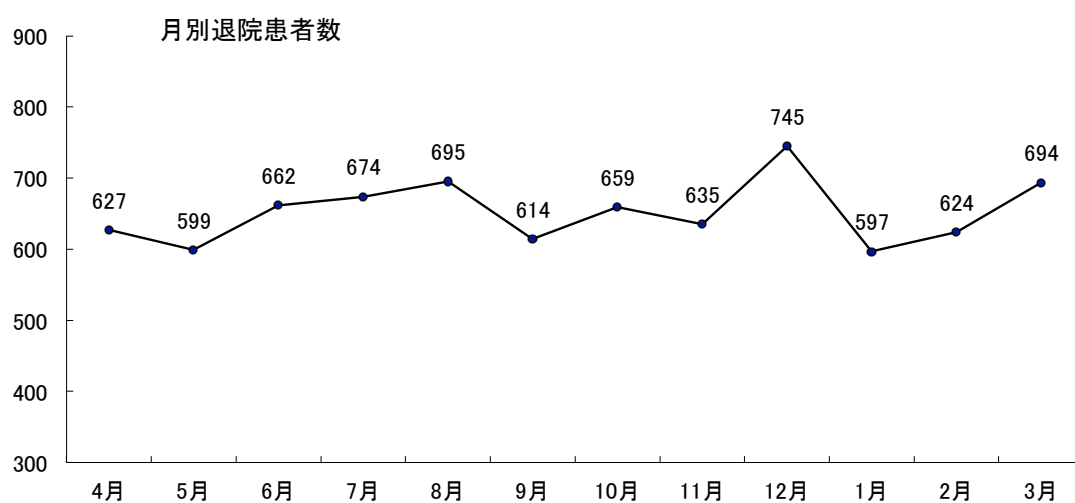
V 退院患者疾病統計

1. 月別退院患者数

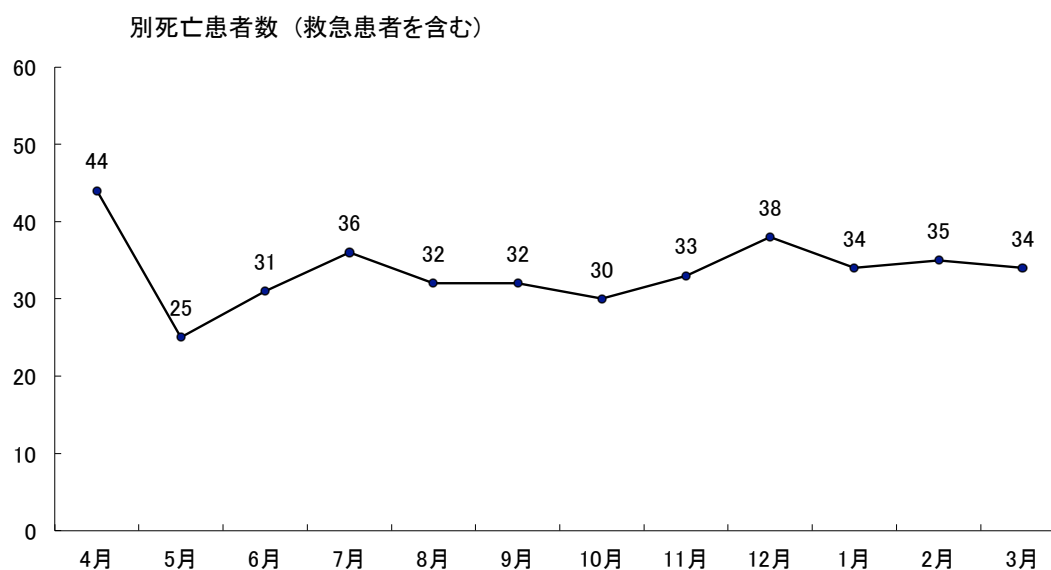
(人)

性別 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	353	341	359	379	380	329	350	373	426	313	357	395	4,355
女	274	258	303	295	315	285	309	262	319	284	267	299	3,470
合 計	627	599	662	674	695	614	659	635	745	597	624	694	7,825

(人)



(人)



2. 科別・月別退院患者数

(人)

診療科名 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	42	52	70	48	63	55	35	49	52	30	57	79	632
緩 和 科	19	13	20	17	17	15	20	18	21	16	18	14	208
消 化 器 科	145	148	158	151	171	131	150	155	175	156	146	155	1,841
循 環 器 科	77	74	65	87	87	67	93	79	108	86	77	88	988
呼 吸 器 科	104	89	106	101	111	107	112	100	123	114	95	109	1,271
呼 吸 器 外 科	16	15	10	15	19	21	21	21	19	20	26	22	225
外 科	50	56	60	65	49	51	37	44	48	46	51	50	607
整 形 外 科	59	45	66	59	56	46	64	50	62	37	45	48	637
産 婦 人 科	10	10	6	10	14	3	15	6	10	10	11	7	112
小 児 科	8	6	3	8	8	6	5	6	15	2	3	5	75
眼 科	48	45	51	56	50	57	62	71	59	53	59	76	687
皮 膚 科	9	11	9	11	10	11	6	7	14	6	12	9	115
形 成 外 科	8	4	9	14	13	13	6	7	18	6	4	8	110
耳 鼻 咽 喉 科	10	2											12
泌 尿 器 科	22	29	29	32	27	31	33	22	21	15	20	24	305
合 計	627	599	662	674	695	614	659	635	745	597	624	694	7,825

3. 科別・転帰別退院患者数

(人)

診療科名 \ 転帰	治 癒	軽 快	不 変	悪 化	死 亡	検 査	転 医	その他	合計
内 科	6	537		1	29	20	32	7	632
緩 和 科		37			165		6		208
消 化 器 科	108	1,591			58	35	49		1,841
循 環 器 科	29	836			39	12	72		988
呼 吸 器 科	50	823			80	246	72		1,271
呼 吸 器 外 科		217			5	1	2		225
外 科		571			21	3	12		607
整 形 外 科	5	490	1		1		140		637
産 婦 人 科		71			1		3	37	112
小 児 科	9	60				1	5		75
眼 科		685	1				1		687
皮 膚 科	1	107				2	5		115
形 成 外 科		105	1				4		110
耳 鼻 咽 喉 科		12							12
泌 尿 器 科	1	255			1	45	3		305
合 計	209	6,397	3	1	400	365	406	44	7,825

4. 疾病大分類別・性別退院患者数

疾病大分類		性別	患 者 数 (人)			比率 (%)	平均在院 日数 (日)
		男	女	合 計			
I	感染症および寄生虫症	135	154	289	3.7%	13.9	
II	新生物	1,492	1,044	2,536	32.4%	13.7	
III	血液および造血器並びに免疫障害	30	28	58	0.7%	27.9	
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	149	116	265	3.4%	14.0	
V	精神および行動の障害	3	2	5	0.1%	1.2	
VI	神経系の疾患	126	53	179	2.3%	4.2	
VII	眼および付属器の疾患	329	363	692	8.8%	2.4	
VIII	耳および乳様突起の疾患	18	35	53	0.7%	4.2	
IX	循環器系の疾患	479	269	748	9.6%	13.4	
X	呼吸器系の疾患	502	378	880	11.2%	19.0	
X I	消化器系の疾患	517	304	821	10.5%	10.5	
X II	皮膚および皮下組織の疾患	48	48	96	1.2%	20.1	
X III	筋骨格系および結合組織の疾患	122	142	264	3.4%	22.8	
X IV	尿路性器系の疾患	175	149	324	4.1%	13.2	
X V	妊娠、分娩および産褥		60	60	0.8%	6.3	
X VI	周産期に発生した病態	1	2	3	0.0%	4.0	
X VII	先天奇形、変形および染色体異常		5	5	0.1%	4.8	
X VIII	症状、徴候および異常所見	8	2	10	0.1%	4.4	
X IX	損傷および中毒	211	312	523	6.7%	18.2	
X X I	保健サービス	10	4	14	0.2%	42.2	
合 計		4,355	3,470	7,825	100.0%	13.4	

5. 疾病大分類別・診療科別退院患者数

$$(3)$$

疾病大分類		科名		内科	緩和	消化	循環	呼吸	呼・外	外科	整形	産婦	小児	眼科	皮膚	形成	耳鼻	泌尿	合計
I	感染症および寄生虫症	32		114	17	49	6	1	8		60	1	289						
II	新生物	278	200	858	2	454	165	337	8	36	2	153	2,536						
III	血液および造血器並びに免疫障害	31		14	1	3	1	8					58						
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	184		28	28	9	1	3	9			1	265			2			
V	精神および行動の障害			3		1			1				5						
VI	神経系の疾患	7		23	25	114		4	6				179						
VII	眼および付属器の疾患										686		692			6			
VIII	耳および乳様突起の疾患	6		17	18	8			2				53			2			
IX	循環器系の疾患	10	3	37	684	10	3						748				1		
X	呼吸器系の疾患	32	3	84	83	584	46	7	2				880		2		8	1	
XI	消化器系の疾患	9		572	7	3	1	218	4				821		1	3		1	
XII	皮膚および皮下組織の疾患	2		5		3		6	1				96		46	32			
XIII	筋骨格系および結合組織の疾患	5		8	6	6	2	227					264			6			
XIV	尿路性器系の疾患	19		52	63	13	14					16	324					145	
XV	妊娠、分娩および産褥											60	60						60
XVI	周産期に発生した病態												3						3
XVII	先天奇形、変形および染色体異常												5		1	3			5
XVIII	症状、徴候および異常所見	1		1		7	1						10						
XIX	損傷および中毒	5	2	25	54	7	10	2	390				523		3	17		2	
XXI	保健サービス	11							1				14						
合計		632	208	1,841	988	1,271	225	607	637	112	75	687	115	110	12	305			7,825

6. 疾病大分類別・転帰別退院患者数

疾病大分類	転帰		治癒		軽快		不変		悪化		死亡		検査		転医		その他		合計
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
I 感染症および寄生虫症	34	11.8%	210	72.7%				0.0%		0.0%	14	4.8%	15	5.2%	16	5.5%		0.0%	289
II 新生物	4	0.2%	2,024	79.8%			1	0.0%	1	0.0%	245	9.7%	212	8.4%	49	1.9%		0.0%	2,536
III 血液および造血器並びに免疫障害	1	1.7%	43	74.1%				0.0%		0.0%	9	15.5%		0.0%	5	8.6%		0.0%	58
IV 内分泌、栄養および代謝疾患	13	4.9%	233	87.9%				0.0%		0.0%		0.0%	9	3.4%	10	3.8%		0.0%	265
V 精神および行動の障害	3	60.0%	2	40.0%				0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	5
VI 神経系の疾患	3	1.7%	94	52.5%				0.0%		0.0%		0.0%	77	43.0%	5	2.8%		0.0%	179
VII 眼および付属器の疾患		0.0%	690	99.7%			1	0.1%		0.0%		0.0%		0.0%	1	0.1%		0.0%	692
VIII 耳および乳様突起の疾患	15	28.3%	38	71.7%				0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	53
IX 循環器系の疾患	12	1.6%	648	86.6%				0.0%		0.0%	27	3.6%	11	1.5%	50	6.7%		0.0%	748
X 呼吸器系の疾患	52	5.9%	663	75.3%				0.0%		0.0%	80	9.1%	8	0.9%	77	8.8%		0.0%	880
XI 消化器系の疾患	39	4.8%	730	88.9%				0.0%		0.0%	13	1.6%	23	2.8%	16	1.9%		0.0%	821
XII 皮膚および皮下組織の疾患	3	3.1%	83	86.5%				0.0%		0.0%		0.0%	3	3.1%	7	7.3%		0.0%	96
XIII 筋骨格系および結合組織の疾患	2	0.8%	225	85.2%			1	0.4%		0.0%		0.0%	1	0.4%	35	13.3%		0.0%	264
XIV 泌尿器系の疾患	13	4.0%	290	89.5%				0.0%		0.0%	7	2.2%	1	0.3%	13	4.0%		0.0%	324
XV 妊娠、分娩および産褥		0.0%	21	35.0%				0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	2	3.3%	37	61.7%	60
XVI 周産期に発生した病態	1	33.3%	1	33.3%				0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	1	33.3%		0.0%	3
XVII 先天奇形、変形および染色体異常		0.0%	5	100.0%				0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	5
XVIII 症状、徴候および異常所見		0.0%	5	50.0%				0.0%		0.0%	1	10.0%	4	40.0%		0.0%		0.0%	10
XIX 損傷および中毒	14	2.7%	388	74.2%				0.0%		0.0%	3	0.6%	1	0.2%	117	22.4%		0.0%	523
XXI 保健サービス		0.0%	4	28.6%				0.0%		0.0%	1	7.1%		0.0%	2	14.3%	7	50.0%	14
合 計	209	2.7%	6,397	81.8%	3	0.0%	1	0.0%		0.0%	400	5.1%	365	4.7%	406	5.2%	44	0.6%	7,825

7. 科別死亡数および剖検数

科名	死亡数(人)	剖検数(人)	剖検率(%)
内科	29	1	3.4
緩和科	165		0.0
消化器科	58	3	5.2
循環器科	41	3	7.3
呼吸器科	80	4	5.0
呼吸器外科	5	1	20.0
外科	21		0.0
整形外科	1		0.0
産婦人科	1		0.0
小児科			0.0
眼科			0.0
皮膚科			0.0
形成外科			0.0
耳鼻咽喉科			0.0
泌尿器科	1		0.0
救急外来	2		0.0
合計	404	12	3.0

* 救急外来患者を含む為、退院患者死亡数（転帰）とは異なる

Ⅵ 診療科・部門別活動実績

糖 尿 病 ・ 内 分 泌 ・ 生 活 習 慣 病 科

<スタッフ>

常 勤 金子至寿佳（部 長）
非 常 勤 田原裕美子（医 師）
植田 洋平（医 師）
大杉 友顕（医 師）
辻 英輝（医 師）
齋藤林太郎（医 師）
内藤 遼太（医 師）

<平成 30 年度活動実績>

1. 糖尿・代謝疾患

地域の基幹病院として高槻医師会の糖尿病地域連携パス委員会の委員長をつとめ、教育講演を通じ、糖尿病診療を専門的に先導する役割を担っている。1 型糖尿病、2 型糖尿病、肝性糖尿病、膵性糖尿病、ステロイド性糖尿病や特殊な糖尿病（妊娠糖尿病、MODY、内分泌疾患に伴う 2 次性糖尿病ミトコンドリア異常症、Werner 症候群など）の治療を行っている。糖尿病に伴う血管病変を初診でスクリーニングし当該科の診療につないでいる。また糖尿病があると癌罹患率も上昇するため、担がん状態ではないかをスクリーニングし当該科の治療につないでいる。糖尿病腎症の治療、透析の導入、重症足潰瘍や糖尿病患者における術前全身評価および術前血糖コントロール、周術期コントロールを専門医の視点から行っている。チーム医療としても専任看護師・専任栄養士による糖尿病腎症透析予防指導が定着しその成果を得ることができている。また各地域において医師、薬剤師、看護師そして栄養士ほか医療関係者を対象に、糖尿病専門講演の依頼に応じて講演を行っている。

治療内容（平成 30 年度）

・糖尿病患者に対する外来栄養指導	5 6 件
・フットケア外来	6 9 件
・透析予防指導	9 6 件
・糖尿病患者に対する自己注射外来導入	9 8 件（延べ導入件数 3, 3 6 4 件）
・教育入院実施件数	1 4 3 件（およそ 1 3 泊 1 4 日で施行）
・インスリン等自己注射実施患者数	4 8 8 人
・インスリンポンプ療法（C S I I）使用者	6 人

2. 内分泌疾患

地域における内分泌代謝疾患の専門診療を担っている。甲状腺疾患（バセドウ病・橋本病など）、脳下垂体（いろいろなホルモンの司令塔）、副腎（腎臓の上にある電解質を調整するホルモンやストレスホルモンを出す）の疾患を診療している。血液検査、画像検査（レントゲン、CT、MRI、アイソトープ検査や甲状腺エコー）、各ホルモンのカテーテルによる静脈サンプリング、当該診療科とともに細胞診・組織診を行い、専門的に臨床診断を行っている。甲状腺疾患など頻度の多い

疾患以外にも、頻度は希で見過ごされがちな内分泌疾患を見つけ出し適切に診断し専門的治療を提供している。

最近では高Ca血症精査の依頼が増え、副甲状腺腫瘍を診断。また、Cushing症候群、原発性アルドステロン症なども臨床診断し泌尿器科にて腹腔鏡下手術を行っている。

治療内容（平成30年度）

・副腎静脈サンプリング 6件

教 育：

日本内科学会認定医、日本内科学会認定総合内科専門医・指導医、
日本糖尿病学会認定専門医・指導医、日本内分泌学会認定内分泌代謝専門医・指導医、
日本老年病学会認定専門医・指導医、日本人間ドック学会認定医
日本内科学会認定医制度教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、
日本老年医学会認定教育施設

研修医教育では一般内科をしっかり見につけ、そのうえに専門性の教育を行っている。また日常的に覚えることなく、考える力を身につけることを主眼として教育を行っている。1、2年目研修医には学会発表を通じて症例をまとめることと発表の重要性を学んでいただいている。国内だけにとどまることなく積極的に行い当院での臨床を国際学会で報告、また情報収集を行い最新の診療を心がけている。

緩和ケア科

<スタッフ>

橋本 典夫（緩和ケア科部長）

金村 誠哲（緩和ケア科副部長）

スタッフに関しては木元先生が平成 30 年 4 月 1 日付けで北見赤十字病院に異動され、緩和ケア診療科岸本先生が平成 30 年 9 月末で退職され、2 名体制となった。

<平成 30 年度活動実績>

日本ホスピス緩和ケア協会が昨年度より開始した「ホスピス緩和ケア病棟における質向上の取り組み認証制度」に認定され継続的に施設評価されるようになった。

ここ数年三島医療圏や隣接する医療圏に複数の緩和ケア病棟が新規に稼働した関係で外部からの紹介患者数はかなり減少していたが、複数同日入院など待機日数を減らす努力をした結果、スタッフ減員にもかかわらず入院延患者数は前年度の 192 名に対して 210 名に増加した。平均在院日数を短くする必要があるため入院患者数は増加傾向にはあるが稼働率としてはスタッフ減員の影響もあり減少している。

医学教育に関しては、大阪医科大学 6 回生の臨床実習（2 週間）の 2 名を受け入れた。ほか、学会・研究会活動としては、地域の緩和ケアのネットワークの勉強会として、平成 25 年 3 月に発足した「緩和ケアを語る会」の世話人として参加して、地域での「顔の見える関係づくり」に努め、緩和医療学会にて病棟看護師がポスター発表をした。また、大阪府指定のがん診療連携拠点病院の関連では今年度は緩和ケア研修会を院内開催しなかったが複数の大阪府内の病院主催の緩和ケア研修会に各スタッフが講師として参加した。

<令和元年度活動目標>

できるだけ多くの患者に良質な緩和ケアを提供するため、

1. 緩和ケア病棟の病床稼働率を維持する
2. 待機患者、待機日数を短縮する
3. 地域の医師と連携を図り、バックアップの役割を担う
4. 学会・研究活動の充実
5. 緩和ケア研修会の開催

血液腫瘍内科

<スタッフ>

田嶋 政郎（名誉院長）：血液内科
安齋 尚之（部長）：血液内科
岡田 睦実（副部長）：血液内科
坂本 宗一郎（副部長）：血液内科
恩田 佳幸（非常勤医師）：血液内科

<移動>

なし

<平成 30 年度活動実績>

病床数	30 床
入院症例数	141 例（新患 93 例）
悪性リンパ腫	50 例（新患 34 例）
急性白血病	37 例（新患 24 例）
多発性骨髄腫	22 例（新患 12 例）
骨髄異形成症候群	19 例（新患 11 例）
再生不良性貧血など	6 例（新患 5 例）
特発性血小板減少性紫斑病	7 例（新患 7 例）
造血幹細胞移植件数	16 件
自家移植	2 件
同種移植	14 件

当科では、白血病・リンパ腫・骨髄腫などの造血器腫瘍の他、貧血・血小板減少症などの診療を行っており、血液内科医に加え、がん化学療法認定看護師をはじめとした看護師スタッフ、がん専門薬剤師、臨床工学技士、理学療法士等がチームとなり安心して治療に専念できる環境を整えている。同種造血幹細胞移植は HLA が完全一致した血縁者からの移植がスタンダードですが、血縁に一致ドナーが見つからなければ、非血縁者間移植を行ないます。原疾患のコントロールがうまくいかない場合には、強力な GVL 効果を期待して敢えて HLA が半分だけ一致した血縁の半合致移植を行うことが良くあり、このような HLA の異なった移植は、最近ではかなり安全に行えるようになってきています。当科では、同種移植は血縁と臍帯血を行っています。血縁は一致同胞と病状によっては、半合致移植を選択しています。非血縁に関しては、臍帯血を用いていますが、これは少人数のスタッフでも行いやすいこともありますが、臍帯血は他の移植ソースと比べて少なくとも同等以上の効果が得られ、今後の可能性も大きいと信じて取り組んでいます。当院の血液疾患は、高齢に偏り同種移植に関しても、年齢は 75 歳までなら可能性を追求しています。積極的な治療となりにくい患者さんには、個々の症例に基づいて、初期の段階から緩和的治療を含めてきめ細やかな対応を心掛けていきたいと考えています。

循環器科

<スタッフ>

大中 玄彦（部長）：循環器内科（認定内科医、循環器専門医、心臓リハビリ指導士、老年病専門医）
岡本 文雄（医師）：救急部部長（認定内科医、循環器専門医、救急科専門医）
木澤 隼（副部長）：循環器内科（認定内科医、循環器専門医）
土居 裕幸（医師）：循環器内科（認定内科医）
平野 玄起（医師）：循環器内科（認定内科医）
李 剛至（医師）：循環器内科（認定内科医）
森 京子（医師）：循環器内科（認定内科医）
大塚 宏治（非常勤医師）：循環器内科（内科専門医、循環器専門医）
片桐 直子（非常勤医師）：循環器内科（認定内科医）

循環器疾患全体を扱い、高血圧、脂質代謝異常症などの生活習慣病から急性心筋梗塞、急性心不全、致死性不整脈疾患、心筋炎などの急性疾患まで幅広い疾患を診療し、一般的な生理検査機器や造影検査はもちろんのこと非侵襲的に冠動脈疾患や心筋疾患の評価が可能な RI 検査、64 列 CT 検査、MRI 検査機器を揃えている。さらに心筋梗塞や急性心不全などの緊急を要する患者の治療に対してはコメディカルスタッフの協力のもと 24 時間・365 日体制で診療にあたっている。また、当院は心臓リハビリテーション実施施設であり、年間 440 件の心臓リハビリを介入し、病気の再憎悪で再入院の予防に努めている。外科領域においても大阪医科大学心臓血管外科との合同カンファレンスを行い重症患者の治療方針につき検討し、患者さんにとっての最適な治療を提供している。

<平成 30 年度活動実績>

外来患者延数 13,000 人 入院患者延数 14,536 人

心臓カテーテル検査・処置総数	： 468 件
冠動脈インターベンション治療	： 206 件
ペースメーカー植込み術	： 35 件
末梢血管形成術（含む透析シャント P T A）	： 30 件
I A B P 施行件数	： 7 件
P C P S	： 2 件
心臓リハビリテーション	： 414 件

消化器科・消化器内視鏡センター

<部 長>

神田 直樹（消化器内科部長・消化器内視鏡センター長）

<スタッフ>

玉田 尚（副院長）

山中 雄介（副部長）

吉岡 拓人（副部長）

今田 祐子（健診部兼任）

吉見 宏平（救急部副部長兼任）

池田 宗弘

濱田 達雄

松村 大志郎

中森 翔平

<異 動>

平成 30 年 6 月 今田 祐子（退任）

<30 年度活動実績>

当院消化器科は日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会の認定指導施設で、30 年度は下記の通りの検査・治療数を施行している。高度な検査・治療に対応するために開設した消化器内視鏡センターでは、指導医 3 人、専門医 4 人（指導医含む）、内視鏡技師資格をもつ看護師 2 人を有し、年間約 5500 件の内視鏡検査を行い、早期癌治療・胆道系処置・止血処置などの治療内視鏡も年間 500 件を越えている。

消化管の内視鏡治療では、早期胃癌の ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)は 30 年度 66 例、これまでに 655 例を施行、大腸腫瘍に対する ESD も、先進医療の時から施設認可を取得し、30 年度 41 例、これまでに 288 例と、いずれも北摂屈指の施行数となっている。これに加え、患者様が苦痛なく検査・処置を受けて頂けるよう最新鋭の経鼻内視鏡 Olympus 290N を導入し、大腸内視鏡では積極的に鎮静下内視鏡を行うことで「痛くない大腸内視鏡」が可能となり、さらに挿入が困難な患者様にはカプセル内視鏡検査も実施可能な体制を整えている。

胆膵系の内視鏡検査・処置では、超音波内視鏡ガイド下穿刺 (EUS-FNA) システムを導入し、超音波内視鏡検査だけでなく、EUS-FNA による細胞診が可能となっている。

また、数年来、緊急内視鏡が増加し、30 年度には、内視鏡的止血術は 110 例、緊急施行の多い内視鏡的逆行性胆膵管造影 (ERCP) も 88 例となっている。

さらに、外科と共同し胃粘膜下腫瘍の低侵襲治療である LECS(Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery= 腹腔鏡・内視鏡合同手術)も施行するなど、最先端の医療に取り組んでいる。

肝臓領域では、TACE(Transcatheter Arterial Chemo-Embolization＝肝動脈化学塞栓術)、RFA(radiofrequency ablation＝ラジオ波焼灼術)、抗がん剤治療を症例に応じて適切に施行し、C型肝炎に対するインターフェロンを使わない内服治療も積極的に行っている。

消化器癌の化学療法は、日進月歩で、様々な薬剤、レジメンが開発されており、切除不能消化器癌の平均生存期間も飛躍的に延長している。当科では、消化器癌の化学療法も、外来化学療法室と協力し積極的かつ安全に施行している。

近年増加している消化器疾患として炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）があり、生物学製剤の使用が急増するなど治療法が著しく発展している分野だが、この領域についても専門医が安全かつ効果的に治療を行っている。

また、学会活動も、医師・医療従事者が研鑽するために必要だが、当科では、日本内科学会・日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会の総会や地方会シンポジウム、日本超音波医学会などで積極的に発表を行っている。

<平成 30 年度患者数>

新規入院患者数 1,762 人、入院患者延数 16,944 人、外来患者延数 17,476 人

<平成 30 年度検査・処置症例数>

上部消化管内視鏡検査	3,906
下部消化管内視鏡検査	1,787
胃の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	66 (開始から 655)
大腸の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	41 (開始から 288)
食道の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	10 (開始から 62)
大腸ポリープ切除 (polypectomy/EMR)	533
内視鏡的逆行性膵胆管造影 (ERCP)/ 内視鏡的総胆管結石除去 / 内視鏡的胆管ドレナージ・ステント留置	88
超音波内視鏡	134 (EUS-FNA 13)
内視鏡的止血術	110
小腸カプセル内視鏡	10
小腸ダブルバルーン内視鏡	18

< 令和元年度活動目標 >

新規入院患者数・検査・処置数・化学療法数の増加を図り、それぞれの領域について質の高い医療を目標とする。当院はESDを積極的に行っており、特に実施施設基準の必要な大腸ESDも施行可能基準を満たしており、ますます症例数の増加を図っていく。また、消化管では、最先端のOlympus Lucera Eliteシリーズ内視鏡により、精緻な診断・治療を行い、胆道系処置についても、超音波内視鏡ガイド下穿刺細胞診(EUS-FNA)が施行可能となり、症例数の増加を図っていく。また、導入が決まった最新の経鼻内視鏡290Nにより「楽にうけられる上部消化管内視鏡」をアピールし、健診など含め上部消化管内視鏡の症例数も増加させるよう努める。一方、最近導入したカプセル内視鏡・バルーン小腸内視鏡の症例数の充実も図っていく。さらに、近年ニーズが高く、下部消化管内視鏡検査のオープン検査を増やしていく予定である。

また、消化器癌の化学療法の分野でも、様々な薬剤、レジメンが開発されており、それらを積極的かつ安全に施行していく。肝臓の分野においても、26年度にはgenotype 1型に対し、C型肝炎のインターフェロンを使わない治療が保険適応になったが、27年度にはgenotype 2型に対する薬剤も保険適応となり、これらも積極的に施行していく。肝臓癌治療においても、TACEだけでなくRFA症例の増加も目標としており、また新規抗癌剤のレンバチニブの使用も開始するなど、放射線科や超音波検査室と連携して肝臓癌の早期発見に努めていく。

神 経 内 科

<スタッフ>

玉田 尚（副院長兼部長）
中村 正孝（非常勤医師）
古川 公嗣（非常勤医師）
坂本 光弘（非常勤医師）
小松 研一（非常勤医師）
井上 穰（非常勤医師）
細川 隆史（非常勤医師）
鈴木 英文（非常勤医師）

<臨 床>

脳梗塞症例については緊急の血栓溶解療法の適応でない症例について入院加療を行った。また地域連携パスの一環として、脳梗塞パスも行い地域医療にもたずさわり、地域医療に貢献している。

<研 修>

騎馬戦型高齢化社会に向けて、近い将来脳梗塞は神経内科専門医のみならず内科系一般医も診療にあたる必要が出てくるため研修の一環として若手医師に担当としていただくシステムをとっている。

呼 吸 器 外 科

<スタッフ>

菅 理晴（呼吸器外科部長）：呼吸器外科専門医、胸部外科学会指導医
気管支鏡指導医、外科専門医、がん治療暫定教育医、
日本医師会認定産業医、CT 肺癌検診認定医

康 あんよん（医師）：

<特 色>

呼吸器センターとして、呼吸器内科と協力しながら診断から治療までを包括的に行っています。手術症例ではクリニカルパスを導入し、医療安全の向上や業務の効率化を図っています。手術は肺癌症例を含め完全胸腔鏡下手術を基本としています。また手術時の縦隔鏡検査や胸腔洗浄細胞診により、正確な病期診断・適切な治療方針の決定に努めています。術前～術後にはリハビリ科に呼吸リハビリを行って頂き、呼吸機能の改善・術後合併症の予防に努めています。当院は呼吸器外科専門医制度の基幹施設、大阪府癌拠点病院であり、肺癌の手術はもとより術前導入化学放射線治療や術後補助化学療法、再発癌に対する集学的治療も積極的に行い、治療成績の向上に努めています。

<平成 30 年度活動実績>

平成 30 年度は康医師（2 児の育児中）と 2 名体制で手術・病棟・外来業務を行いました。手術は京大から大学院生にスコピストとして応援に来てもらい、全体の 90%以上を完全胸腔鏡下で行うことが出来ました。全手術件数は 123 件、全麻が 115 件で前年度と同様でした。手術の内訳は肺癌 66 件、転移性肺腫瘍 7 件、縦隔腫瘍 4 件、気胸 23 件などで、肺癌症例が増加しました。また化学療法は 260 件施行し昨年より増加しました。内訳は入院化学療法が 63 件、外来化学療法が 197 件で、入院件数はやや減少しましたが外来が年々増加傾向にあります。

<令和元年度の目標>

令和元年度は引き続き 2 人体制で診療を行っていく予定ですが、再び 3 名体制に戻れるように大学や病院に働きかけていきたいと思っています。また地域医療機関や呼吸器内科の協力も得ながら手術症例数が増加するよう頑張りたいと思っています。手術は引き続き胸腔鏡下手術を積極的に行い、より低侵襲で安全な手術を追求します。病院経営状況が厳しい中ではありますが、新しいデバイスの導入や更なる術式の改良に取り組み、地域で一番の診療科を目指したいと思っています。更に包括的診療にあたっては呼吸器内科と常に検討を行い、EBM を基本としながらも最新の知見を速やかに導入し、患者さんに最適な医療を提供していきます。一例一例を大切に、QOL を考慮しながらも最大効果を期待できる治療を目指します。

呼 吸 器 科

<スタッフ>

- 北 英夫（部 長） 京都大学臨床教授。京都大学医学博士
日本内科学会認定内科専門医・指導医・近畿支部評議員
日本呼吸器学会専門医・指導医・代議員
日本アレルギー学会専門医・指導医
日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医
日本癌治療認定機構がん治療認定医・
日本呼吸ケアリハビリテーション学会評議員
日本結核病学会 代議員
- 中村 保清（副部長） 日本内科学会認定内科専門医 日本呼吸器学会専門医
日本アレルギー学会専門医 日本呼吸器内視鏡学会指導医 ICD
- 深田 寛子（副部長） 日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本呼吸器学会専門医
日本癌治療認定機構がん治療認定医、ICD
- 後藤 健一（副部長） 滋賀医科大学医学博士
日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医
日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医、ICD
- 祖開 暁彦（医 員） 京都大学医学博士
日本内科学会総合内科専門医指導医、日本呼吸器学会専門医
日本呼吸器内視鏡学会専門医、日本癌治療認定機構がん治療認定医
- 長谷川浩一（医 員） 京都大学医学博士
日本呼吸器学会専門医、日本内科学会総合内科専門医
- 鳳山 綾乃（医 員） 日本呼吸器学会専門医、日本内科学会認定

<異 動>

- 祖開 暁彦（医 員） 平成 31 年 3 月退任

<平成 30 年度活動実績>

呼吸器外科とともに、呼吸器センターとして外科と内科の垣根をなくして診療にあたる。全員が専門領域にとらわれず、常に呼吸器内科全般の最新の治療を行えるよう日々研鑽を積んでいる。外来は月曜から金曜までで、気管支鏡検査は火曜日、金曜日の午後 2 時から行っており、CT ガイド下生検も月曜日の午後 3 時から行っている。月に 1 回、火曜日に近隣の医師と合同で公開カンファレンスを実施している。

・呼吸器科における外来患者数（前年）

1 日当たり平均 65.8 人／日（69.8） ×外来診察日：週 5 日間

・呼吸器科入院病床数・患者数・平均在院日数（前年）

呼吸器科入院病床数（定数） 40 床

実際の入院患者数（平均） 49.6 人／日（54.2）

平均在院日数 13.1 日 (14.2)

新入院 1,289 人 (1,320)

・気管支鏡検査数（1 ヶ月当りの件数） 20 件

呼吸器外科とともに呼吸器センターとして外科と内科の垣根をなくして診療にあたり、常に呼吸器内科全般の最新の治療を行えるように研鑽を積んでいる。21 年度より CT ガイド下生検を開始し、年間 20 例前後の症例を得た。また、在宅酸素療法は 146 在宅人工呼吸療法 26 例（NPPV を含む）睡眠時無呼吸症候群の夜間睡眠ポリグラフ検査（PSG） 年間 100 例、鼻 CPAP 年間 46 例程度導入しており、気管支喘息クリニカルパス入院 18 例、慢性呼吸不全患者に対する包括的呼吸トレーニングプログラム入院 11 例程度となっている。

肺癌診療については、大阪府がん診療拠点病院として他科や他職種と連携しながら治療効果と生活の質（QOL）の両立にも取り組んでいる。昨年、PD-1 阻害薬、第三世代 EGFR 阻害薬などの次々と新規薬剤が上市され、この分野の進歩は著しい。これらの薬剤を確実に安全に使用するため、副作用マネジメントを含めた院内クリニカルパスや薬剤師外来など他職種や他科とも連携して副作用対策にあたっている。また、希少な遺伝子変異を疑う肺がんについては国立がんセンター東病院と連携し、新規分子標的薬の臨床治験に参加できる体制を確立している。気管気管支の中心型肺がんに対しては、蛍光気管支鏡検査を施行し、早期診断に活用している。その他、気道閉塞を生じた手術不能の肺がんや食道がんに対して半導体レーザー治療や金属ステントの留置により QOL の改善を図っている。また、高槻市の肺がん検診の読影会への参加や多施設共同臨床研究にも積極的に参加をしている。

肺がん治療において早期からの緩和ケアが必須のものとなっている。がん診療に携わる医師のため緩和ケアの教育プログラムは全国で実施され、当科スタッフも全員修得済みである。また、24 年度は癌治療認定医も、順次全スタッフが習得の予定である。また、診断時よりがん相談センター、院内緩和ケアチームと連携し、疼痛管理を中心とした支持療法のみならず、全人的苦痛に対応すべく取り組んでいる。また、患者さんのご希望に応じて、緩和ケア病棟の利用は言うまでもなく、社会ケースワーカーや退院調整看護師、地域医療連携室、訪問看護ステーション等と、地域の診療所と連携した在宅管理も行っており、終末期への体制も整備されてきている。

その他の多彩な呼吸器内科疾患についても確立された Up date な治療を心がけている。気管支喘息患者には吸入ステロイドを中心とした治療を行い、入院の必要な例にはクリニカルパスを用いた教育指導を行い、自己管理を目指している。外来では当院独自の外来喘息教育プログラムを作成し、看護師による吸入指導とピークフローメータを用いた自己管理の指導を行い、更に吸入指導については近隣の薬局とも連携して行っている。また、H 24 年度よりはアレルギー性気道炎症の指標としての呼気 NO 測定や特殊な肺機能検査であるモストグラフを用いて症状だけに頼らず、客観的指標のよる喘息コントロール状態の評価に努めている。また、従来の吸入薬でコントロール不良の重症喘息にて対しては積極的に omalizumab や抗 IL5 抗体薬や抗 IL4/13 抗体薬などの分子標的薬を使用している。今後は気管支鏡による温熱療法もすでに全国で臨床導入されており、当院でも導入を検討していきたい。

外来初診で多い遷延性咳そうには診断のアルゴリズムを作成し、咳喘息の他、逆流性食道炎、百日咳などの早期発見に留意している。

COPD を中心とした、慢性呼吸器疾患には肺機能検査や CT による早期発見と禁煙外来との連携による、禁煙指導、気管支拡張薬を中心とした治療を行っている。進展期にはリハビリテーション科、栄養科、薬剤部等とのチーム医療による、包括的リハビリテーションプログラム入院を行

い、さらに、地域の診療所との連携による継続を図っている。また、H26 年 4 月より慢性疾患専門看護師による HOT 患者を中心とした看護外来、ほっとひといき外来を開始し、慢性呼吸器疾患患者に対する、より包括的できめ細かな対応が可能になった。睡眠時無呼吸症候群に対しては、個室使用による PSG 検査、簡易睡眠モニターを実施し CPAP 治療、口腔内装具による治療を行い、耳鼻咽喉科、糖尿病、生活習慣病科、栄養科とも協力し、合併症、肥満に対する治療を行っている。また、循環器科と協力して心不全に伴う睡眠呼吸障害に対し、ASV(assisted-servo ventilation)による最新の呼吸管理を行っている。

そのほか、あらゆる呼吸器感染症について対応している。肺結核についてはモデル病床（3 床）により、陰圧隔離をおこなっている。また、近年著増している 非結核性抗酸菌症については従来の薬物治療のみならず、適応のある症例については手術治療も併用している。

また、間質性肺炎については HRCT や気管支鏡検査により、原因検索に努め、膠原病内科とも連携して診断治療にあたっている。肺線維症を中心とした慢性線維性肺臓炎については pirfenidone や nintedanib などの抗線維化薬を積極的に使用している。

急性呼吸不全、急性肺障害、慢性呼吸不全の急性増悪等に対しては、HCU において集中的な呼吸管理を行っており、挿管人工呼吸管理においては肺保護を考慮した低換気量による人工呼吸管理やリクルートメント手技などを行っている。また、問題となっている VAP(人工呼吸関連肺炎)対策として NPPV (non-invasive positive pressure ventilation) による呼吸管理のみならず、陰圧式の人工呼吸器を用いての管理などを試みている。また、最新の酸素療法である Nasal High Flow therapy もいち早く導入し、QOL に留意した酸素化の改善が可能となった。また、敗血症などにもなう急性肺障害や肺線維症などの間質性肺炎の急性増悪にたいしては、従来の薬物治療のみならず、血液濾過によるエンドトキシン吸着療法 (PMX-DHP) や ECMO を行い、救命率の向上を目指している。

市中肺炎、院内肺炎については診療ガイドラインを踏まえながらも地域の病院として個々の症例に応じた診療と当院での薬剤感受性を考慮した適切な抗菌剤の使用に努めている。

また、当科は京都大学の学生臨床実習の協力科であり、年間数名の学生実習とその他希望により他大学からの実習を数名受け入れている。

当科は研修医にとっては非常に実践的な環境であると考えられる。豊富な症例に対応していただき、基本的な診療技術と基本的治療を経験してもらい、多彩な呼吸器疾患に対応しなくてはならない呼吸器内科医として成長できる環境を提供できると考えている。また、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本内科学会、日本呼吸器内視鏡学会の認定施設として総会、地方会での症例報告、研究発表等を行っている。大阪府内、北摂地域を中心とした多くの研究会や講演会での世話人、座長、講演などを務めている。

<令和元年度活動目標>

積極的に逆紹介を推進し、積極的に地域連携を推し進めていきたいと考えている。また、近隣病院との研究会、論文発表など学術活動もより活発に行い、若手医師の育成獲得にも引き続き努力していきたいと考えている。

小 児 科

<スタッフ>

古川 福実 (院長兼部長)
瀧北 彰一 (副部長)
大関 ゆか (医師)
越智 純子 (非常勤医師)
蘆田 温子 (非常勤医師)

<異 動>

大関 ゆか 平成 31 年 3 月退職

<平成 30 年度活動実績>

子どもたちが健やかな身体と心を保つことの出来る診療をモットーに北摂三島地域の基幹病院として、地域の開業医および他病院と連携を保ちながら小児科領域全般の診療に当たっています。また三島地区広域小児救急医療機関として積極的に救急車の受け入れを行っており、毎週水曜日には二次救急輪番病院として 24 時間小児科医が待機しています。

外来は月曜日から金曜日まで小児科領域の発達、疾病全般を幅広く行っています。
特殊外来として心臓外来は毎月、第 2,4 週の火曜日午後に行っており、神経外来は毎月、第 1 週の火曜日午後に行っています。
乳児検診は毎週月曜日の午後から 1 カ月検診、乳児健診を行っています。
予防接種は毎週、月曜日、水曜日、木曜日の午後から行っています。
また救急は原則、全例、積極的に受け入れています。

外来患者数 2,215 人 (1 日平均 9.1 人)

入院患者数 250 人 (新入院：76 人、退院：75 人) 在院日数：2.3 日

◆特殊外来

◇心臓外来 (毎月 第 2・4 週 火曜日 午後より)
◇神経外来 (毎月 第 1 週 火曜日 午後より)

◆健診等

◇1 ヶ月健診 (毎週 月曜日)
◇乳児健診 (毎週 月曜日)
◇予防接種 (毎週 月曜日：午後 3 時、水曜日・木曜日：午後 2 時より)

◆救急

患者数 132 人 (時間内：38 人、時間外：68 人、深夜：26 人)

外 科

消化器外科

<スタッフ>

平松 昌子（副院長）大阪医科大学臨床教育教授・非常勤講師
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医
日本臨床外科学会幹事・評議員
日本消化器内視鏡学会専門医
日本食道学会食道外科専門医・食道科認定医・評議員
日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医
日本腹部救急医学会評議員・暫定教育医 他

恒松 一郎（消化器外科部長）（平成 31 年 1 月より）
日本外科学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医
日本外傷診療研究機構 JATEC 修了

小林 稔弘（消化器外科部長・乳腺外科部長）
日本外科学会専門医、日本乳癌学会専門医、日本消化器病専門医
検診マンモグラフィ読影認定医

河野恵美子（医師） 日本外科学会専門医、指導医、日本がん治療認定医機構認定医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医

有馬 純（医師） 日本外傷診療研究機構 JATEC 修了

鈴木 悠介（医師）

<異 動>

有馬 純 平成 30 年 4 月着任
河野恵美子 平成 31 年 3 月退任

<平成 30 年度活動実績>

上上部・下部消化管の悪性疾患に対してその大半を腹腔鏡下手術によって行い、胆石症や単径ヘルニア、虫垂炎などの良性疾患では単孔式腹腔鏡下手術を標準術式としている。食道癌に対しては北摂地域で数少ない食道外科専門医による腹臥位による完全胸腔鏡・腹腔鏡下の食道切除再建術を行い、食道胃接合部の癌に対しても低侵襲かつ根治性の高い手術を可能にした。cStage I の胃癌に対しては幽門側胃切除・噴門側胃切除・胃全摘を問わず、切除・郭清から再建までの完全腹腔鏡下手術を行い、高度進行胃癌に対しては積極的な拡大手術や術前補助療法を併用して、根治性の向上を目指す。大腸癌に対してはそのほとんどを腹腔鏡下手術で行い入院期間の短縮につなげた。ストマ外来では専門の医師と皮膚・排泄ケア認定看護師がケアに当たっている。肝癌に対しても腹腔鏡下手術を導入し、症例によっては単孔式での手術も行う。胆石症では単孔式腹腔鏡手術と内視鏡治療の併用によりほとんど傷のない治療を可能にした。膵癌に対しても腹腔鏡手術を含む積極的な外科切除を行い、高度な専門性を必要とする疾患も質の高い外科治療を提供

することが可能となった。当院は単孔式手術や3D内視鏡のような最新の技術を取り入れることで患者さまに質の高い医療を提供している。また、化学療法の分野においても最新のデータに基づいた治療の提供を外来化学療法室と連携して行っている。

また当院は大阪府がん診療拠点病院であり、治療法の決定に際してはガイドラインに沿った標準的治療法を提示することはもちろんのこと、個々の患者さまの背景やニーズにも配慮したオーダーメイドの治療も提供している。手術後・退院後も、担当医がかかりつけ医と密に連携をとりながらフォローアップを行い、抗癌剤治療はできるだけ外来通院で行えるように専門看護師を配置した外来化学療法室を完備している。さらには緩和ケア科による終末期医療まで、様々な職種がチームとなって、ひとりひとりの心に寄り添った治療を行っていくよう心がけている。

(主な手術件数)

食道切除再建術	4 件 (うち鏡視下手術	3 件)
胃切除	25 件 (うち鏡視下手術	15 件)
胃全摘	8 件 (うち鏡視下手術	1 件)
結腸切除	29 件 (うち鏡視下手術	22 件)
直腸切除	16 件 (うち鏡視下手術	11 件)
肝切除	7 件 (うち鏡視下手術	0 件)
膵切除	5 件 (うち鏡視下手術	0 件)
胆のう摘出術	51 件 (うち鏡視下手術	49 件)
虫垂切除	26 件 (うち鏡視下手術	25 件)
鼠径ヘルニア	61 件 (うち鏡視下手術	54 件)

<令和元年度活動目標>

それぞれの患者さまのニーズや病態を理解しながら、これまで導入してきた新しい手技や最新の知見をもって質の高い外科治療を提供していく。また、他科や他職種を含めた勉強会やカンファレンスを通してチーム全体のスキルアップを図っていく。学会や研究会活動も積極的に行い、当院からも新たな情報発信を目指す。

乳腺外科

<スタッフ>

小林 稔弘（乳腺外科部長兼消化器外科部長）

坂根 純奈（医師）

<平成 30 年度活動実績>

乳房に関する良性（腫瘍、乳腺炎、女性化乳房症など）から悪性（癌、肉腫）までの各種疾患に対して検査、治療を行っている。

乳腺疾患に対応する検査手段は全て備えており MMG、US、CT、MRI などの画像診断を可能としている。特に MMG は昨年度に導入した高濃度乳腺においても有効性が高いトモシンセシス付きの最新鋭の機材を用いて、通常の画像に加え、デジタル断層像を撮影できる体制を構築し活用している。不明瞭な病変の発見はもちろんだが、不要な追加検査を減らすことも心がけている。

さらに検診発見の多い微小石灰化に対しても、この最新 MMG 利用のデジタルステレオガイド装置を使用した吸引式針生検でさらに精密な検査も可能としてきた。

乳腺手術は 60 例を行い、乳癌症例の 6 割に温存手術を選択し、乳房切除術を選択する場合も、形成外科との乳房再建術のオプションも提示して希望者には提供している。良性疾患の手術も摘出術から血性乳汁分泌に対する乳管腺葉区域切除の様な特殊手術も手掛けている。

化学療法、ホルモン療法、分子標的療法などの薬物治療も、本邦で適応のある薬剤は全て導入している。さらに多施設共同試験などにも参加しての治験も行っている。

当院は外来化学療法室を有し、化学療法専門看護師、専門薬剤師とのチームで患者を支えるよう努力している。薬剤師外来もオープンし、治療前から施行中の副作用対策などを相談、医師への助言も行っている。

温存手術に欠かせない放射線治療も放射線治療専門医や専任放射線技師、看護師とも連携して行うことを可能としている。

常勤病理専門医の協力で、術中迅速病理検査でリンパ節転移の有無、断端診断を素早く行える体制を整え、最終診断での希少例の発見なども、高次医療機関とのコンサルテーションを得たりして行っている。

緩和科医師、看護師との連携により、癌と診断されたその日からでも癌相談、緩和治療などでのサポートが受けられる体制も作っている。

術後フォローも乳癌の場合、長期に及ぶこともあり、地域との連携を重視し、かかりつけ医との間で協力して分担していくことも積極的に行っている。

<令和元年度活動目標>

地域がん拠点病院にふさわしい診断、治療体制を維持する。

ゲノム医療の波が本邦にも訪れていることを認識し、当院においても遺伝子関連検査、治療応用に対応できる体制づくりを各科横断的に整えていきたい。

外来化学療法室、薬剤部、放射線科などを含めた多職種が、臨床治療のみならず学会活動や公開講座にも参加し、活動を内外に告知するべく努力していく。

受診者の満足度を追及し、喜ばれ安心してもらえ、地域医療機関の信頼を得られる医療を提供していきたいと考えている。

脳 神 経 外 科

<スタッフ>

平松 昌子（副院長兼脳神経外科部長）

青山 育弘（非常勤医師）

池田 直廉（非常勤医師）

<平成 30 年度活動実績>

週 4 回（月・火・水・金曜日）一般外来診療、救急患者受け入れ、入院患者のコンサルトなどを行った。

外来患者延べ数 1,127 人 / 年

整 形 外 科

<スタッフ>

小田 幸作* # (部 長)：関節リウマチ、股・膝関節外科、外傷および整形外科一般
市場 厚志* (副部長)：膝関節外科、スポーツ整形、外傷および整形外科一般
徳山 文人* (副部長)：脊椎外科、外傷および整形外科一般
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
和田 浩伺 (医 師)：整形外科一般
宮本 裕紀 (医 師)：整形外科一般
阿部 宗昭* (非常勤医師)：大阪医科大学名誉教授、手の外科（日本手外科専門医）
岸本 郁男* # (非常勤医師)：大阪医科大学非常勤講師、股・膝関節外科、関節リウマチ
*：日本整形外科専門医 #：日本リウマチ学会専門医

<異 動>

市場 厚志 平成 31 年 3 月退任
和田 浩伺 平成 30 年 4 月着任、平成 31 年 3 月退任
宮本 裕紀 平成 30 年 4 月着任、平成 31 年 4 月退任

<専門外来>

膝関節外来、リウマチ外来、脊椎外来、エコー外来、肘／手の外科

<平成 30 年度活動実績>

30 年度入院患者延べ数 13,552 人（1 日平均 37.1 人）
30 年度外来患者延べ数 14,195 人（1 日平均 58.2 人）
平成 30 年度の手術手技件数 計 639 件

当科の特徴としては subspecialty として関節・脊椎・関節リウマチを、generality として外傷・整形外科一般の治療を、急性期治療の地域基幹施設として救急や開業医からのご紹介を頂いて行っている。各スタッフ Dr は高い専門性を保ち、それぞれの疾患の中心となって治療にあたっている。人工関節外科の手術において膝ではより高い QOL をめざした人工関節の導入、股関節では低侵襲人工股関節置換術（MIS-THA）を適応症例に施行し、筋肉腱の切離が少ないこと、あるいは全く行わないことで患者の術後の疼痛コントロールや運動回復が早くなり、また術後のリハビリを短くすることで早期の社会復帰と退院が可能にしている。

膝靭帯、半月板損傷などのスポーツ整形外科治療では、靭帯の解剖学的再建を行い、トッパスリートの膝損傷のスポーツ復帰を可能にしている。

脊椎手術では、頸・胸・腰椎の各種の疾患に対する疼痛や、神経障害による運動機能障害などを改善させる治療を行っており良好な成績をあげている。腰椎椎間板ヘルニアは内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術（MED）で対応しており、2 cm 弱の皮切で数日～1 週間程度の短期間での退院を可能にしている。脊椎固定術も安定した成績を出しており、悪性腫瘍脊椎手術も手掛けている。又、腰部脊椎管狭窄症も症例によっては内視鏡下椎弓切除術を行っている。その他様々な脊椎疾患に対し症例毎に検査、評価を行い硬膜外ブロック、神経根ブロックなどを含めた保存治療、あ

るいは手術治療を選択している。

骨粗鬆症や関節リウマチに対しては、患者さまの症状に合わせ様々な治療を行っている。関節リウマチの治療は treat to target (T2T) の概念を取り入れ MTX をアンカードラッグとして biologics を導入し、他科と院内連携および病診連携をはかり、安全で確実な治療を目指している。

三島地区の場合は超高齢者の人口比率が高く、救急患者の多くを占める大腿骨頸部骨折・転子部骨折の患者に対しては他科との密な院内連携をはかり、術後はチーム医療によりクリニカルパスの導入、移行を行っている。

手の外科手術も引き続き、阿部名誉教授（大阪医科大学）の指導の下、高い水準の手術が出来ている。

当科は急性期病院への特化として新患患者や救急患者、開業医からの紹介患者を中心に診察するよう心がけ、開業医先生のご協力のもとに地域連携を強化して開業医先生への逆紹介とかつ手術対象になる患者の紹介を増やしていくように努力している。

形 成 外 科

<スタッフ・専門分野>

田辺 敦子（部 長）：日本形成外科専門医、皮膚腫瘍外科指導医専門医、
日本美容外科専門医、日本形成外科学会小児形成外科分野指導専門医、
日本抗加齢医学会専門医、日本医師会認定産業医、臨床研修指導医
櫛田 哲史（医 員）：日本形成外科専門医、臨床研修指導医、日本創傷外科学会専門医
日本形成外科学会小児形成外科分野指導専門医
鈴木 健司（非常勤）：日本形成外科学会専門医、日本熱傷学会専門医
日本創傷外科学会専門医、皮膚腫瘍外科指導医専門医
光井 俊人（非常勤）：日本形成外科専門医

<異 動>

なし

<平成 30 年度活動実績>

平成 30 年度 形成外科新患者数 約 736 名
平成 30 年度 手術件数 約 585 件（入院手術件数 193 件）

<学会発表>

Ⅷ 誌上・講演発表（P232）に掲載

<令和元年度活動目標>

当院形成外科は、2019 年 4 月日本形成外科学会教育関連施設から認定施設になります。
よく行われる手術として、皮膚・皮下腫瘍摘出術、顔面外傷・顔面骨骨折、眼瞼下垂症、傷跡の治療、
悪性腫瘍切除後再建などがあります。また、シミのレーザー治療などの自費診療も行っています。
今後も更に良質の形成外科診療を行うように努めます。

皮膚科

<スタッフ>

古川 福実（院長兼部長）
奥野 愛香（副部長）
平川 結賀（常勤医師）

<異 動>

平川 結賀 平成 31 年 3 月退任

<平成 30 年度活動実績>

30 年度入院患者延べ数 1,083 人
30 年度外来患者延べ数 8,614 人

- ・ アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎、尋常性乾癬、水疱性類天疱瘡、尋常性ざ瘡などの炎症性皮膚疾患、蜂窩織炎、带状疱疹、白癬などの感染性皮膚疾患、円形脱毛症、陥入爪などの皮膚付属器疾患、褥瘡、下腿潰瘍、皮膚腫瘍、化学療法による皮膚障害、薬疹などの診療を行っています。
- ・ 水曜日には古川院長による院長外来を行っております。他県からの紹介もあり、SLE や強皮症などの膠原病、難治性アトピー性皮膚炎、難治性蕁麻疹の方などの診療をしています。プラケニルの標準化投与に努めております。
- ・ 2018 年 4 月より美容皮膚科外来を開設し、肌画像カウンセリングシステム「re-Beau2」を使用し、治療前後や経過を比較しながら、治療を行っています。老人性色素斑、母斑などレーザー治療が必要な場合は当院形成外科と連携し治療をしています。
- ・ 乾癬に対して、生物学的製剤治療の認証施設となっているため、難治症例に対して、レミケード、ステラーラ、ヒュミラ、コセンティクス、トレムフィア、スキリージなどを使用しています。
- ・ 重症のアトピー性皮膚炎の適応のある方に、新しい治療薬「デュピクセント®」注射薬を投与しております。
- ・ 皮膚腫瘍に関しましては、ダーモスコピー、組織検査を併用して、早期に診断し、治療に手術を要する場合は、当院形成外科にお願いしています。
- ・ 褥瘡に対しては、毎週月曜日午後に病棟の褥瘡回診と褥瘡外来を行っています。在宅かかりつけ医や施設からのご紹介が多く、皮膚・排泄ケア認定看護師と皮膚科医、形成外科医で症例それぞれに合った治療、予防ケアができるように努めています。

泌 尿 器 科

<スタッフ>

六車 光英（部 長） 2018 年 4 月着任
金谷 勲（副部長）

<異 動>

徳地 弘（副部長） 2018 年 3 月退任
高安 健太（常勤医師）2019 年 4 月着任

< 2018 年度活動実績>

2018 年 3 月で徳地医師が退任し、4 月から六車が着任した。今年度も二人体制で多忙を極めた
が、軟性尿管鏡による経尿道的尿路結石除去術（f-TUL）や経尿道的前立腺核出術（TUEB）とい
った新しい手術を始め、前立腺癌に対する前立腺全摘除術も前年度から術式が決まっていた 1 例を
除き全例腹腔鏡下に行った。今年度の主な手術の件数は下記の通りであった。

副腎	腹腔鏡下副腎摘除術	4
腎・尿管	腹腔鏡下腎（尿管）摘除術	11
	腹腔鏡下尿管皮膚瘻造設術	1
	経皮的腎碎石術（PNL）	6
	経尿道的尿路結石除去術（TUL）	26
	体外衝撃波結石破碎術（ESWL）	46
膀胱	膀胱全摘除術	2（回腸導管、尿管皮膚瘻各 1 例）
	経尿道的膀胱腫瘍切除術（TURBT）	52
	経尿道的膀胱碎石術	6
前立腺	前立腺生検	47
	腹腔鏡下前立腺全摘除術	12
	前立腺全摘除術	1
	経尿道的前立腺切除術（TURP）	16
	経尿道的前立腺核出術（TUEB）	6
尿道・陰茎	尿道狭窄内視鏡手術	3
	包皮環状切除術	3
陰囊	陰囊水腫根治術	3
	精巣捻転手術	1
	精索静脈瘤高位結紮術	1

< 2019 年度活動目標>

2019 年 4 月から高安健太医師が着任して三人体制に戻るので、救急患者も積極的に診療して
症例数を増やして行きたい。

産 婦 人 科

<スタッフ>

平松 昌子（副院長兼部長）

中村 路彦（副部長）

<異 動>

なし

<特 色>

産婦人科の全般にわたり、総合的に診療を行っている。

<産 科>

妊娠初期から分娩、産褥期まで全妊娠期間に渡り診療を行っている。妊娠経過が順調な妊婦さんには助産師外来での妊婦健診が可能で、何か異常が疑われた場合にはすぐに医師への報告があり、迅速な対応をとっているので安心して妊婦生活を送ってもらっている。また糖尿病、甲状腺疾患、自己免疫疾患を合併している場合は当院の内科医に紹介し、一緒に妊娠・分娩経過を行っている。当科では妊婦さんが安心して分娩できるようにスタッフ一同心がけている。

分娩件数：53 人（平成 30 年度）

<婦 人 科>

子宮筋腫・卵巣腫瘍等の良性疾患から子宮癌・卵巣癌等の悪性疾患、更年期障害に渡るまで幅広く診療を行っている。手術において良性疾患の場合は術式を患者と相談しながら決定している。希望があれば腹腔鏡での手術も行っている。また子宮鏡検査は外来で行っており日帰りでの処置を可能にしている。

また終末期医療においては当院の緩和医療チームと共同での管理を施行し、一人一人の患者の要望に応じながらの診療を心がけている。

眼 科

<スタッフ>

植木 麻理（部長）：緑内障、網膜硝子体、涙道
木村 大作（副部長）：網膜硝子体、白内障
藤田 恭史（副部長）：涙道・眼形成、白内障
奥村 峻大（医師）：角膜、白内障、眼科一般

<異 動>

木村 大作（副部長）：平成 31 年 3 月退任
藤田 恭史（副院長）：平成 31 年 3 月退任

<特 色>

眼科疾患全般の治療に対応しており、白内障や網膜硝子体疾患、眼形成、涙道疾患に対する手術治療に力を入れている。白内障手術に関しては、日帰りから入院まで患者様のニーズに幅広く対応し、乱視矯正眼内レンズや多焦点眼内レンズなどのプレミアムレンズを用いた白内障手術も行っている。硝子体手術については最新の手術機器を用いた小切開硝子体手術を行い、眼瞼下垂の手術や涙道内視鏡を用いた涙道閉塞に対する治療も積極的に行っている。網膜硝子体疾患では加齢黄斑変性や網膜静脈閉塞症、糖尿病黄斑浮腫に対する抗 VEGF 薬硝子体注射も行っている。

<専門外来>

黄斑外来、緑内障外来、ロービジョン外来

<平成 30 年度活動実績>

統計 863 件
（内訳：白内障 530 件、網膜硝子体 37 件、外眼部手術 144 件、レーザー 152 件）

<令和元年度の活動目標>

病診連携を上手く活用し、紹介患者数の増加と手術件数の増加を目標とする。

耳 鼻 咽 喉 科

<スタッフ>

藤田 修治（部長）：耳鼻咽喉科疾患全般

田浦 晶子（藍野大学教授）：めまい

<異 動>

なし

<特 色>

北摂地区の中核病院の一つとして、紹介患者を受け入れている。しかし、ベッタウンが近くにあるため、直接当院を受診する軽症の患者も多く、一次診療、二次診療を併せ持った性格をもっている。

<診療実績>

外来は月、水、金。月曜、金曜は京都大学の応援を得て、二診体制である。第一から第三水曜は田浦晶子藍野大学教授がめまい外来をしている。金曜午後には補聴器外来を設け、相談にのっている。他科入院中の院内紹介の患者も多い。血液内科より、悪性リンパ腫のリンパ節生検の依頼が多いことが特徴です。

<令和元年度の活動目標>

今年度は外来、入院とも減少しました。これを少しでも回復させることが目標です。

放 射 線 科 及 び 核 医 学 科

<スタッフ>

◆医 師

後藤 公男（部 長）： 画像診断
山室 正樹（部 長）： 核医学診断 + 画像診断
的場 直樹（副部長）： 画像診断
今井 雅夫（非常勤）： 画像診断
坂中 克行（非常勤）： 放射線治療
芦田 良（非常勤）： 放射線治療

◆診療放射線技師

松原 健夫（課長兼核医学係長）
大嶋 浩嗣（MRI 係長）
中村 義隆（放射線係長）
関本 淑徳（CT 係長）
涌田 哲成（放射線治療係長）
西村 大樹、林 恵理子、松山 佳央、渡邊 良彦、石寄 伸也
松下 あゆみ、在津 幸香里、柳田 泰祐、原 祥太郎
木戸口 堯史、村上 慎哉、中村 仁美

◆事務員

植松 恵美子

<施設認定、資格>

◆マンモグラフィ（乳房エックス線写真）検診施設画像認定

◆検診マンモグラフィ撮影技術認定

林 恵理子・松下 あゆみ・在津 幸香里
中村 仁美（平成 30 年度取得）

◆第 1 種放射線取扱主任者

西村 大樹・木戸口 堯史

◆肺がん CT 検診認定技師

関本 淑徳

◆X 線 CT 認定技師

関本 淑徳・松山 佳央

◆放射線管理士、放射線機器管理士、医療画像情報精度管理士、 放射線治療品質管理士、臨床実習指導教員

渡邊 良彦

◆放射線治療専門放射線技師

涌田 哲成 ・ 渡邊 良彦 ・ 石寄 伸也

◆放射線治療品質管理士

涌田 哲成 ・ 石寄 伸也

◆救急撮影認定技師（平成 30 年度取得）

松山 佳央 ・ 原 祥太郎

<平成 30 年度活動実績>

◆研究発表、研修会開催実績

【院外】

※Ⅷ 誌上・講演発表（P235）に掲載

【院内】

※西日本豪雨災害救護活動報告

中村 義隆

※インスリン自動注入及び血糖測定装置

松原 健夫

◆研修会・講習会・学会等への参加

※ 99 人 /46 会（診療放射線技師のみ）

◆その他活動

※オープン検査紹介活動 近隣施設訪問

松原 健夫

大嶋 浩嗣

※日本赤十字社診療放射線技師会近畿ブロック委員（書記）

松原 健夫

◆機器整備更新

※乳房撮影装置 トモシンセンス対応

※造影剤自動注入器 血管撮影室

◆放射線科＋核医学科 検査件数

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
一般撮影	45,289	44,134	43,640
造影検査	1,278	1,156	781
マンモ	1,486	1,443	1,172
CT	9,652	10,155	10,325
MRI	3,574	3,706	3,802
RI	792	890	889
血管造影	567	551	502
放射線治療	2376	2,446	2,588
骨密度	913	970	908
コピー	4,388	4,758	4,944

◆放射線科＋核医学科 紹介検査件数

	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
CT	155	191	197	227	306
MRI	187	236	262	360	529
RI	45	82	104	133	170

<令和元年度活動目標、計画>

◆放射線科＋核医学科

- ※教育訓練の開催及び内容の改定
- ※放射線予防規定の改定
- ※紹介患者の獲得
- ※品質管理、機器管理、モニタ管理、画像管理、感染管理の強化
- ※医療安全への意識強化
- ※撮影待ち時間の短縮につながる業務改善
- ※被ばく管理強化

リハビリテーション科

<スタッフ>

医師：馬止 裕（部長）
服部 智（非常勤）
理学療法士：野村 省二（リハビリテーション科課長）
新地 史章（第一理学療法係長）
倉繁 浩一（第二理学療法係長）

他 10 名

作業療法士：八木 紀子
山崎 孝子
石塚 威
大下 綾華
言語聴覚士：椎葉 佳子
大路 かほる

<特 色>

当科は、1993 年 9 月にリハビリテーション（以後リハと略す）総合承認施設（理学療法Ⅰ・作業療法Ⅰ）を、2002 年 8 月に言語聴覚療法Ⅱの認可を受け、包括的なリハ活動を展開してきた。2016 年 4 月の診療報酬改定に対応して、全ての施設基準（運動器Ⅰ・脳血管疾患等Ⅰ・廃用症候群Ⅰ・呼吸器Ⅰ・心大血管疾患Ⅰ・がんのリハ）の認可を受けた。急性期病院としてのリハ機能を遂行するために、リハ対象疾患患者に対して早期に介入し、早期退院を図っている。さらに終末期における緩和ケア病棟で緩和医療にも力を注いでいる。

理学療法部門において、運動器リハでは人工関節置換術・関節損傷・脊椎外科・大腿骨頸部骨折（地域連携パス使用）等の整形外科疾患、脳血管疾患等リハの件数は少ないが脳血管疾患・パーキンソン病等の中枢神経系疾患、廃用症候群では外科術後の方や多種多様な運動器廃用の方を対象に早期の日常生活動作の自立と QOL の向上を目差したアプローチを進めている。

呼吸器リハでは、1972 年に着手した呼吸理学療法を発展させ、今日では呼吸器外科は勿論、一般外科患者に対し HCU から理学療法を行っている。慢性呼吸不全患者に対しても、包括的呼吸リハプロジェクトを組み患者の早期社会復帰への働きかけを行っている。

2014 年 7 月に施設基準を取得した心大血管疾患リハでは、心不全・狭心症・心筋梗塞等の入院患者を中心に多職種による包括的アプローチ実施している。可能な範囲で外来も開始している。がんのリハビリについては、施設基準取得以前からリハ介入しており、がんの診療資格を所有しているスタッフが緩和ケアまで一貫した多職種での取り組みを図っている。

作業療法部門では、理学療法部門と同様に多様な患者様を対象に、入院中より家庭復帰、職場復帰を想定したアプローチを行っている。手の外科手術後のハンドセラピーには積極的に取り組んでおり、装具も開発している。

言語聴覚療法部門では、NST 専門療法士として NST 委員会メンバーに加わり摂食嚥下障害（栄養障害含む）の治療やケアに効果を上げている。がん患者においても 2017 年 1 月より算定資格を得て緩和まで介入させている。それ以外に失語症・構音障害・言語発達遅延へのアプローチも

実施可能である。

また、2017 年 11 月より認知症ケア専門士として認知症ケアサポートチームの活動に加わっている。

<診療実績>

理学療法患者延件数：38,696 件（前年度＋837）

	外 来	入 院
運動器	2,468	10,332
脳血管疾患	0	768
廃用症候群	0	4,375
呼吸器	0	7,071
心大血管	22	4,009
が ん		5,526
その他	155	3,960
小 計	2,655：前年度－905	36,041：前年度＋1,742

作業療法患者延件数：11,786 件（前年度＋455）

	外 来	入 院
運動器	1,839	2,255
脳血管疾患	0	544
廃用症候群	0	1,353
呼吸器	0	3,564
心大血管	0	144
が ん		1,115
その他	69	903
小 計	1,908：前年度－374	9,878：前年度＋829

言語聴覚療法患者延件数：4,475 件（前年度＋159）

	外 来	入 院
脳血管疾患	0	311
廃用症候群	0	3,089
集団コミュニケーション療法	0	0
が ん		469
その他	0	606
小 計	0：前年度－25	4,475：前年度＋184

<平成 30 年度の活動実績・成果>

前年度の部門別行動計画で未完または遅延した事業を継続し、業務改善や業務の効率化向上を図る。これにより、重点目標『全てのリハビリ対象者を選出し、リハビリ専門職 1 人あたりの月平均延件数及び延単位数を増加させる。』を達成させるために以下の通り行動目標を立ててタスクを遂行した。

- I. リハビリ対象患者数の増加：①病棟カンファレンス・回診での検討及び対象患者の選出②リハ実施率（病棟別・診療科別）の検討及び対象患者の選出③院内広報：病院の活動を知る会・広報誌の利用④クリニカルパスへのリハ介入による患者数確保⑤がん及び心リハ患者数の確保（増加）⑥看護師と共同での摂食機能療法の算定
→外来患者数の減少を上回る入院患者数の増加となり、延件数及び実施率も全ての療法で増加。廃用症候群リハ及びがんリハの増加が著明。摂食機能療法については専任医師が確保できず着せず。

- II. リハビリ専門職 1 人あたりの月平均単位数を増加：①若年理学療法士（2 年目）の教育による業務効率の向上（担当患者数の均一化）②連休時対応の対象患者数確保③科員休暇時における代行患者数及び単位数確保④手の評価セミナー・SW-test 講習会受講（精密知覚機能テスト算定資格 1 名追加）
→若年理学療法士の稼働数は増加し代行時の患者数も増加。④精密知覚機能テスト算定資格を八木紀子作業療法士が得る。
- III. 時間外勤務時間の削減：①若年理学療法士の教育（業務指導：治療内容含む）②業務内容の見直しによる作業効率向上（業務マニュアル更新含む）③事務作業員への業務移管あるいはリハ管理システム導入（電子カルテ更新含む）
→業務均等化の原則は確立しつつあるが多様な機能障害を持つ患者数増加により、固定した治療時間を組むことが難しく、施設基準上必要な書類作成及び管理も難しい。このため、リハ管理システム導入後に診療業務と医事業務を統合的に管理する必要がある。病床稼働率は低下しているがリハ対象者は増加しており、病床稼働率が改善されたときパンデミックになることを想定して、再度、適切なリハ専門職の人数を配置することを検討する必要がある。
- IV. 材料費の削減：医療消耗器具備品費などの節約（老朽した物から順次購入）
→修理不能な器具や施設基準に必要な器具のみを選び購入することで予算内に抑えた。高額な機器（自転車エルゴ）に関しては時期をみて更新予定。また、購入器具備品のリストアップをして重要な物から購入するように徹底した。
- V. 教育研修及び医療の質向上：①専門職の資格取得：菊池直人（心臓リハビリテーション指導士及び認定理学療法士（呼吸））、須々木梓（呼吸療法認定士）、八木紀子（呼吸療法認定士及び精密知覚機能テスト算定資格）②卒前教育の実習施設として多校の臨床実習生（PT4 名）を受け入れた。また、理学療法士の生涯学習（卒後教育）として三島ブロック大阪理学療法士会呼吸勉強会を 2 回開催した。
- VI. その他：①平成 30 年度診療報酬改定に伴う施設基準及び算定基準への対応②救護員の育成及び救護活動の参加（1 名選出）。
→①医療事務員の配置が必要な状態：介護保険の把握も必要となり、算定基準は一段と複雑になっている。来年度、電子カルテ更新と併せてリハ管理システムを導入して対応することとなり、リハ管理システムの選定をする。②社会課の依頼で理学療法士 1 名が従事した。

<平成 31 年度（令和元年度）の活動目標>

当年度に実施される病床編成、電子カルテ更新、リハ部門システム（TAK）導入によって、当科の診療業務の変更と改善を図ります。これにより、前年度の部門別行動計画で未完または遅延した事業を進めます。結果として、重要目標『全てのリハビリ対象者を選出し、リハビリ専門職 1 人あたりの月平均延件数及び延単位数を増加させる。』を達成し、かつ、リハビリテーション業務の管理向上を図るために以下の通り行動目標と実践内容を遂行する。

- I. リハビリ対象患者数の増加：①病棟カンファレンス・回診での内容是正及び対象患者の選出②リハ実施率（病棟別・診療科別）の検討及び対象患者の選別③院内広報：病院の活動を知る会・広報誌の利用④クリニカルパスへのリハ介入による患者数確保⑤がん及び心リハ対象の患者数確保（増加）⑥摂食機能療法の導入（専任医師と専任看護師の選出が必要）

- II. リハビリ専門職 1 人あたりの月平均単位数を増加：①若年理学療法士（3 年目）の業務効率の向上（担当患者数の均一化）②連休時対応の対象患者数確保③リハ専門職休暇時における代行患者数及び単位数確保④手の評価セミナー・SW-test 講習会受講（精密知覚機能テスト算定資格 1 名追加）
- III. 時間外勤務時間の削減：①若年理学療法士（3 年目）の教育（業務指導：治療内容含む）②業務内容の見直しによる作業効率向上（業務マニュアル更新含む）③リハ管理システム導入（電子カルテ更新含む）によるコストパフォーマンスの是正（事務員の専門性向上も含む）と算定基準への対応
- IV. 材料費の削減：医療消耗器具备品費などの節約（老朽した物から順次購入）。購入時は器具备品の購入リストにならって重要な物から選出する。
- V. 教育研修及び医療の質向上：①専門職の資格獲得援助（学術大会・研修会・心臓リハビリテーション指導士認定）③卒前教育の実習施設として多校の臨床実習生 (PT4 名) を受け入れ予定。また、理学療法士の生涯学習（卒後教育）として三島ブロック大阪理学療法士会呼吸勉強会を年 2 回開催予定。
- VI. その他：①作業療法室に開設②令和 2 年度診療報酬改定に伴う施設基準及び算定基準への対策準備③救護員の育成及び救護活動の参加 (1 名選出)。

以上、関連職種と共同して実務を行えるように進める。

麻 酔 科

<スタッフ>

常勤：辻井 英治（部長）平成 30 年 12 月まで
 古川 福実（院長兼部長）平成 31 年 1 月から
 山崎 紘幸（医師）

<異 動>

辻井 英治 平成 30 年 12 月退任
 山崎 紘幸 平成 31 年 3 月退任
 （宇田 るみ子（部長）平成 31 年 4 月着任）

<平成 30 年度手術統計>

【合計】

手術件数	1,115（うち手術室内 1,115、手術室外 0）
------	----------------------------

【性別】

男性	女性	合計
555	560	1,115

【麻酔法】

A. 全身麻酔（吸入）	777
B. 全身麻酔（TIVA）	28
C. 全身麻酔（吸入）＋硬・脊、伝麻	288
D. 全身麻酔（TIVA）＋硬・脊、伝麻	13
E. 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）	2
F. 硬膜外麻酔	1
G. 脊髄くも膜下麻酔	5
H. 伝達麻酔	1
X. その他	0
合計	1,115

【ASA PS】

予定 1	224	緊急 1E	18
2	699	2E	30
3	126	3E	17
4	0	4E	1
5	0	5E	0
6 （臓器摘出を受ける脳死患者が対象）	0	6E （臓器摘出を受ける脳死患者が対象）	0
小計	1,049	小計	66
合計		1,115	

【手術部位】

a. 脳神経・脳血管	0
b. 胸腔・縦隔	114
c. 心臓・血管	0
d. 胸腔＋腹部	4
e. 上腹部内蔵	101
f. 下腹部内蔵	253
g. 帝王切開	8
h. 頭頸部・咽喉部	61
k. 胸壁・腹壁・会陰	94
m. 脊椎	68
n. 股関節・四肢（含：末梢神経）	405
p. 検査	0
x. その他	7
合計	1,115

【体位】

1. 仰臥位	625
2. 腹臥位	97
3. 側臥位	209
4. 切石位	182
5. 坐位	0
6. その他	2
合計	1,115

【年齢構成】

	男性	女性	合計
A. ～ 1 ヶ月	0	0	0
B. ～ 12 ヶ月	0	1	1
C. ～ 5 歳	4	5	9
D. ～ 18 歳	34	17	51
E. ～ 65 歳	205	213	418
F. ～ 85 歳	293	274	567
G. 86 歳～	19	50	69
合計	555	560	1,115

【偶発症例】

	男性
A. 危機的偶発症	0
B. 神経系偶発症（脳・脊髄）	0
C. その他の神経系偶発症	0
D. その他	0

救 急 部

H30 年度で特筆すべきは、6月に発生した大阪北部地震と夏季の猛暑が挙げられます。ついに当院も被災地の病院となる日が訪れ、発災日からしばらく多数の負傷者が救急搬入もしくは直接来院され、かねてから策定してあった BCP が日の目を見た期間でした。以降も被災の片付けや修繕などによる外傷受傷が絶えない上、心身ストレスが加わった事に因る慢性疾患の増悪、さらに猛暑による熱中症の搬送も相次ぎました。

例年と異なる対応を迫られた H30 年度前半でしたが、日常の救急診療も疎かにしないよう、主に①(救急)患者確保と②教育研修を主眼と考えて様々な取り組みを実施しました。前者①に関しては、画期的な打開策などは見出せませんが、近隣消防本部への営業回り、救急隊員向けの勉強会(当院の PR を兼ねて)や親睦会(顔の見える／分かる関係の構築目的)を継続しました。②については、複数回の院内勉強会、トレーニング(JMECC の院内開催、ICLS の復刻準備)などに取り組みました。しかし各種勉強会を行なっても、受講者への知識や技能の定着は思わしくなく、掛けた手間や時間に見合う効果が得られているとは言い難い現状です(例: 数日後に受講者に講義内容を質問した際の正答率のお粗末なこと...)。課題山積ではありますが、今後も患者数確保や診療クオリティの底上げを目指して工夫を重ねていきたいと考えております。

<学会発表>

VIII 誌上・講演発表(P236)に掲載

<院内講演会>

- ・救急隊員向け勉強会
平成30年11月2日(金)
講義と症例検討
 - ①奥野皮膚科部副部長「皮膚科」
 - ②恒松消化器外科部副部長「ICT」
 - ③小田整形外科部長「整形外科」

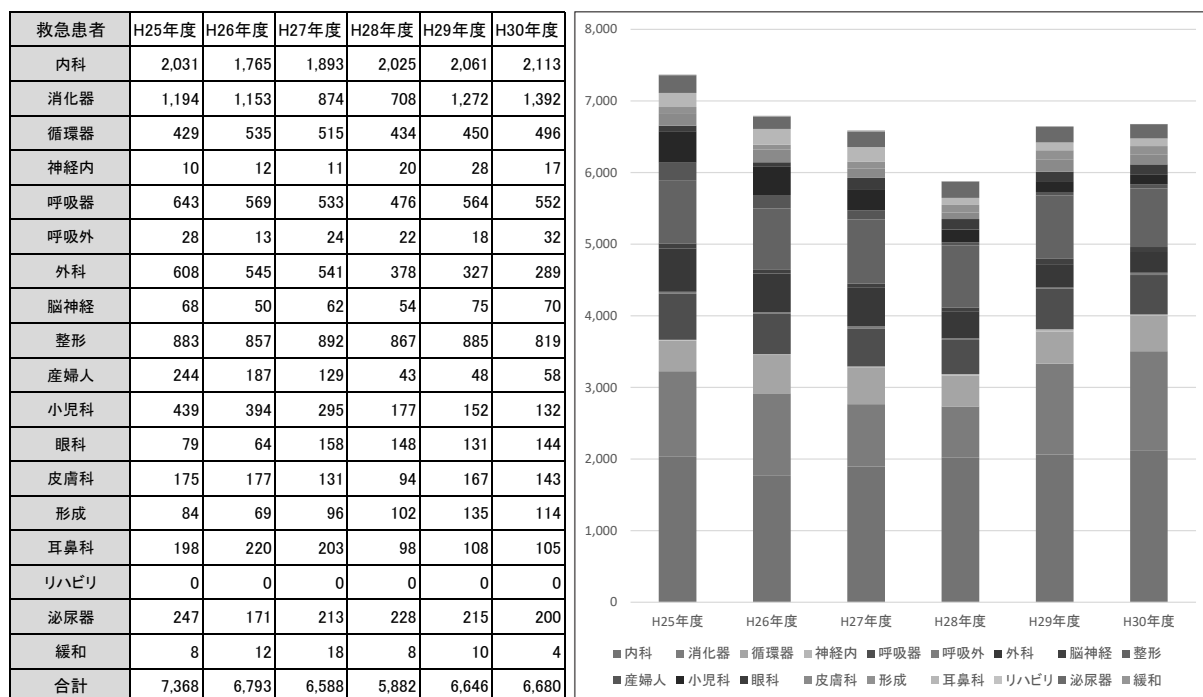
<救急委員会実績>

- ・月々の救急搬送件数や内容など統計データの共有や分析
- ・救急診療管理加算データの共有(特に「加算1」算定への取り組み)
- ・受入れ困難症例のデータ共有や分析
- ・救急隊員向けの勉強会や懇親会の企画・実行
- ・新企画 RRT(Rapid Response Team) の立ち上げや定着への努力

年度別救急患者数

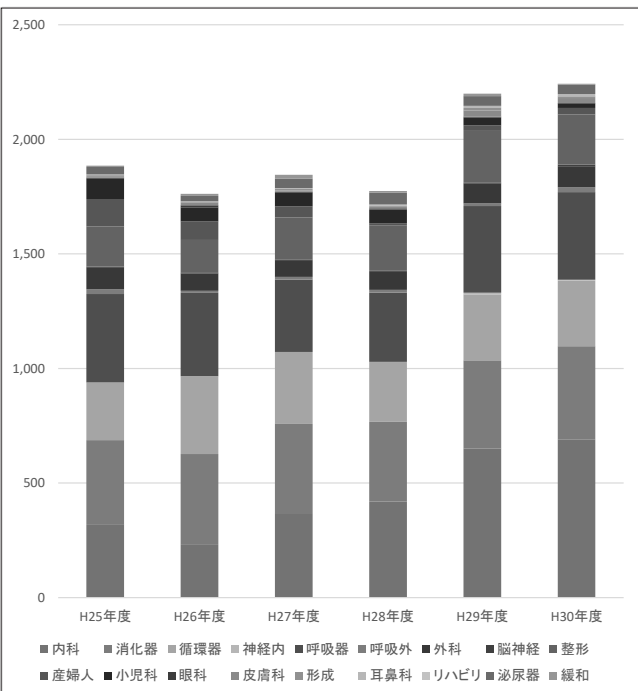
		H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年
救急患者数	時間内	1,651	1,549	1,432	1,444	1,759	1,904
	時間外	4,599	4,354	4,084	3,444	3,858	3,830
	深夜	1,118	890	1,072	994	1,029	946
	合計	7,368	6,793	6,588	5,882	6,646	6,680
(再掲) 救急患者数のうち 入院患者数	時間内	561	598	663	692	854	924
	時間外	969	889	874	787	987	986
	深夜	355	275	308	296	358	333
	合計	1,885	1,762	1,845	1,775	2,199	2,243
(再掲) 救急患者数のうち 救急搬送	時間内	888	909	979	944	1,019	1,121
	時間外	1,067	912	974	954	1,041	980
	深夜	498	388	473	464	477	489
	合計	2,453	2,209	2,426	2,362	2,537	2,590
(再掲②) 救急搬送のうち 入院患者	時間内	431	458	525	496	592	627
	時間外	505	463	408	442	544	531
	深夜	220	175	208	204	248	245
	合計	1,156	1,096	1,141	1,142	1,384	1,403

年度別救急患者数



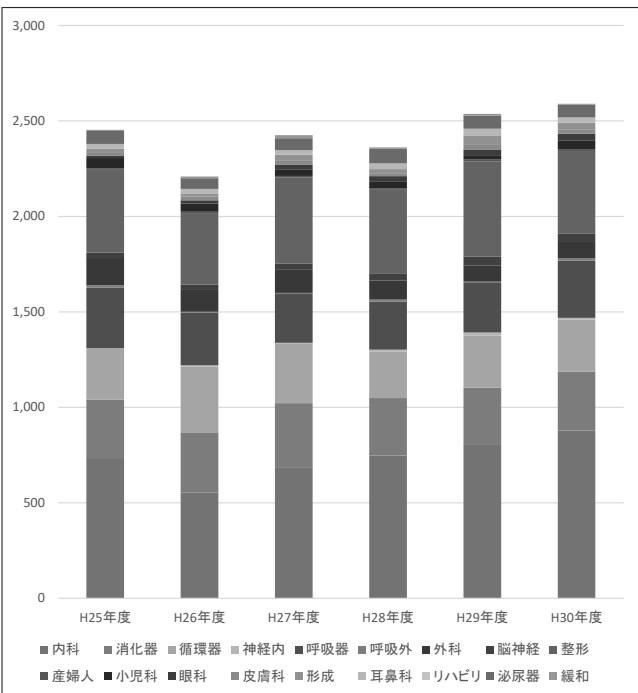
年度別救急患者うち入院数

救急患者入院	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
内科	317	230	369	419	650	689
消化器	370	397	389	348	386	408
循環器	252	336	314	261	287	286
神経内	0	3	0	1	8	4
呼吸器	386	364	316	302	378	383
呼吸外	21	9	12	12	12	21
外科	96	76	73	82	85	92
脳神経	3	2	3	1	4	6
整形	175	144	183	197	231	220
産婦人	120	81	48	11	20	28
小児科	88	61	62	59	34	20
眼科	5	9	2	6	4	2
皮膚科	3	12	6	7	26	21
形成	8	4	7	4	12	8
耳鼻科	3	2	3	6	9	10
リハビリ	0	0	0	0	0	0
泌尿器	32	23	41	52	43	41
緩和	6	9	17	7	10	4
合計	1,885	1,762	1,845	1,775	2,199	2,243



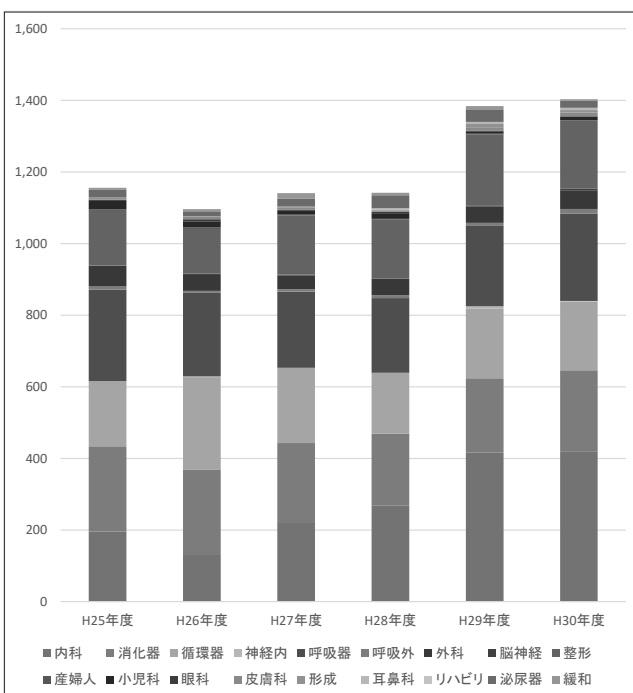
年度別救急搬送患者数 (再掲)

救急搬送	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
内科	730	553	687	748	808	878
消化器	311	316	335	301	296	310
循環器	265	344	310	244	271	272
神経内	3	8	6	9	17	9
呼吸器	318	276	256	252	259	300
呼吸外	12	4	6	11	7	13
外科	143	119	120	99	84	89
脳神経	29	22	32	38	47	38
整形	433	372	451	441	500	434
産婦人	9	11	9	5	11	10
小児科	53	42	32	33	17	46
眼科	11	17	28	30	34	35
皮膚科	20	19	19	12	24	22
形成	19	17	32	25	50	35
耳鼻科	24	24	25	30	34	27
リハビリ	0	0	0	0	0	0
泌尿器	67	56	62	76	69	68
緩和	6	9	16	8	9	4
合計	2,453	2,209	2,426	2,362	2,537	2,590



年度別救急搬送患者うち入院数（再掲）

救急搬送入院	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
内科	196	133	222	269	417	420
消化器	238	235	221	200	207	226
循環器	182	259	210	170	195	192
神経内	0	2	0	0	6	2
呼吸器	255	235	213	209	226	244
呼吸外	9	4	6	8	7	13
外科	58	47	39	46	45	52
脳神経	1	1	2	1	4	4
整形	155	125	165	165	197	190
産婦人	1	4	3	1	3	2
小児科	26	17	12	14	5	10
眼科	2	6	1	6	3	1
皮膚科	1	7	6	3	10	10
形成	6	2	5	2	9	7
耳鼻科	0	0	0	5	6	6
リハビリ	0	0	0	0	0	0
泌尿器	20	11	20	36	35	20
緩和	6	8	16	7	9	4
合計	1,156	1,096	1,141	1,142	1,384	1,403



<統計報告>

胸部X - Pにて要精査 (肺機能検査含む)	9.6% (精査受診 87.3%)
上部消化管検査にて要精査 (胃カメラ検査での生検を含む)	15.7% (精査受診 94.4%)
乳腺検査 (マンモ・エコー)	8.4% (精査受診 84.2%)
P S A検査	4.7% (精査受診 100%)
腹部エコー要精査	3.7% (精査受診 88.9%)
便潜血要精査 (要C F)	3.0% (精査受診 86.4%)
平均 90.2%	

人間ドックで発見したがん症例 5 例		
(がん発見率 0.08%) (平成 29 年度 1.4%) (平成 28 年度 1.0%)		
内訳	膀胱がん	1 例
	肺がん	2 例
	胃がん	2 例

<ドック運用改善活動実績>

- 1) オプション検査の追加項目：経膈エコー (平成 30 年 5 月 15 日予約開始)
- 2) ドックにおける医療安全を資料に添って説明 (平成 30 年 7 月 27 日)

医療技術部

医療技術部は栄養課と臨床工学技術課で構成され、どちらも病院機能を維持するために重要な役割を担っています。栄養課はNSTをはじめとするチーム医療に貢献するとともに栄養管理と調理技術の習得を行っています。臨床工学技術課は血液浄化療法、循環器領域の補助、内視鏡領域の補助、医療機器の管理、手術室での物品管理やメンテナンス、透析やCGMの管理などを行い、質の高い安心安全な医療の提供を目指して技術と知識の向上に努めています。医療技術部は今後も医師や看護師とのチーム医療を実施し、患者様に効率的、効果的な医療技術を提供するとともに、病院経営にも参画していきたいと考えておりますのでご協力をお願いいたします。

院長兼医療技術部長 古川 福実

栄養課

<スタッフ>

◆管理栄養士

桑田 由起江（栄養課長・栄養第一係長事務取扱・NST 専従管理栄養士
NST 専門療法士・病態栄養専門管理栄養士）

廣田 眞希（栄養第2係長・糖尿病療養指導士
緩和ケアサポートチーム専任管理栄養士）

南 美保子（糖尿病療養指導士・健康運動指導士
糖尿病透析予防指導専任管理栄養士）、

藤本 智子（糖尿病療養指導士）・西岡 美穂（糖尿病療養指導士）

平野 なつみ・中村やすこ（5月管理栄養士取得）

◆栄養士

川端 彩加（健康運動指導士）

◆調理師

藤原 崇義（調理第一係長）、小坂 重敏（調理第二係長）

堀 隆二、岡 務、野々下 武志、草地 敦、井上 秀子、

田中 智子、平山 光一、櫻井 葉子、辻本（河野）琴江、小川 辰夫、

下田 剛史

<異動>

（入職）平成30年4月入職⇒小川 辰夫（調理師）

平成30年11月入職⇒下田 剛史（調理師）

（退職）平成30年11月退職⇒辻本（河野）琴江（調理師）

（昇任）平成30年4月 桑田由 起江（栄養第一係長⇒栄養課長・栄養第一係長事務取扱）

<平成30年活動実績>

給食管理においては、地産地消を心掛け安全で美味しい食事の提供を目標にしています。

入院患者さんへの食事の対応として、季節感を感じていただこうと行事食などを献立に取りいれ常食を提供している患者さんへは週7回選択メニューを実施し、産後の患者さんへは祝膳の提供、

がん患者さんの食思不振対策、入院中のストレス軽減目的に化学療法食なごみ食の提供。なごみ食は朝昼夕三食選択メニューを実施しています。

＜統計＞栄養指導件数 679 件／年 給食数 224,629 食／年 糖尿病試食会 12 回／年
糖尿病透析予防指導 144 件／年 NST 介入延べ患者数 1141 名／年
緩和ケアサポート嗜好調査延べ患者数 956 人／年
心臓リハビリテーションカンファレンス参加件数 574 件／年
入院患者ベッド訪問延べ 628 件／年 カンガルー教室 1 回／年

＜令和元年度活動目標＞

時代に応じた栄養管理と調理技術の習得を目指し、患者様の状態に応じた迅速な栄養管理が行えるように職種間の連携を行っていく。

非常時でもスムーズな給食提供ができるよう物資整備のほか課員の災害対策訓練を行う。

臨床工学技術課

＜スタッフ＞

吉岡健太郎：臨床工学技士
吉田 真希：臨床工学技士
成瀬 大輝：臨床工学技士
吉村 忠：臨床工学技士
伊東 伶芳：臨床工学技士
芦田 昇也：臨床工学技士
澤井 綾太：臨床工学技士
野々村美紅：臨床工学技士

＜平成 30 年度活動実績＞

1. 血液浄化療法領域

- ✓ 血液透析…78 症例、2749 回
- ✓ 持続緩徐式血液透析濾過…25 症例、138 回
- ✓ 血漿交換療法…8 症例、62 回
- ✓ 選択的血漿交換…0 回
- ✓ エンドトキシン吸着療法…2 症例、4 回
- ✓ GCAP…0 回
- ✓ 腹水濾過濃縮再静注法…4 症例、12 回

今年度は前年度と比較し、全体的に血液浄化療法の治療回数は減少傾向である。

収入面を考慮すると入院患者メインの透析施設であるが、外来患者は必須であると考えられる。しかしながら常駐の腎臓内科医が不在、透析スタッフのマンパワー不足などの問題を抱えている。また送迎やアメニティ等の設備が不十分であるなど環境面にも整備が必要。現状の事を踏まえると、これ以上の拡大は非現実的である。

来年度は、安全に治療を行える運用面での改善が必要である。

2. 血液疾患領域

- ✓ 末梢血幹細胞採取…2 症例、3 回
 - ✓ 白血球除去療法…1 症例、1 回
 - ✓ 顆粒球 / リンパ球採取…1 症例、4 回
- 例年と比較し、著名な増減はなし。

3. 循環器領域

- ✓ CAG…169 件
- ✓ CAG…169 件
- ✓ CAG…169 件
- ✓ FFR…28 件
- ✓ EVT…2 件
- ✓ IVC フィルター…1 件
- ✓ IABP…16 件
- ✓ PCPS…1 件
- ✓ Permanent Pacemaker Implanted…25 件
- ✓ Permanent Pacemaker Exchange…9 件
- ✓ Temporary Pacemaker…5 件
- ✓ Pacemaker Implanted Pt（当院管理数）…256 名
- ✓ Pacemaker clinic（月 2 回）…延 189 回
- ✓ 遠隔モニタリング登録患者数…95 名

これまでも臨床工学技士は循環器領域の治療、及び検査に参加してきた。

循環器領域での多くのデバイス関連においてチーム医療の一端を担いながらも、IVUS,FFR,Pacemaker 関連業務で貢献している。

今年度は特に FFR に力を入れており、前年度 2 件に対し、28 件まで増加。

FFR は機能的評価を行う上で有効的なツールであり、不必要な PCI を回避する事が可能。今後より質の高い医療を提供出来るように努める。

4. 腎生検施術補助

- ✓ 4 件

腎臓内科医師により腎生検が当院で行われている。これに使用される物品の管理、エコーの操作、医師の補助などに立ち合いを行っている。

5. 医療機器管理領域

- ✓ 人工呼吸器、輸液・シリンジポンプ、AED、ポータブルエコー、フットポンプなどの医療機器管理台数…1099 台
- ✓ 医療機器修理業務 院内修理…350 件に対応
院外修理…20 件に対応
- ✓ 医療機器、消耗品に関する研修会の開催…14 件
- ✓ 新規納品機器に関する研修会…7 件

昨年度と比較し、件数の著名な変化は見られない。

引き続き、機器の適正使用、安全使用の啓蒙に努めていく。

6. 手術室業務

- ✓ 耳鼻咽喉科…1 件
- ✓ 整形外科…70 件
- ✓ 外科…200 件
- ✓ 内科…1 件
- ✓ 泌尿器科…79 件
- ✓ 産婦人科…3 件
- ✓ 消化器科…7 件
- ✓ 呼吸器外科…107 件
- ✓ 救急科…1 件

当課では、平成 24 年度より新規業務として手術室機器、同室医療消耗品管理、中央材料室洗浄滅菌機器管理を目的に、臨床工学技士（専属 1 名、ローテーター 1 名）を配置している。様々な手術に立ち会い、医療機器の保守点検や立会いによる安全性の向上と、医療機器の修理、鋼製小物修理、トラブルの敏速な対応を実現。

また手術室内での医療機器、医療消耗品関連の更新、統一、運用に携わり、それぞれの科のニーズに合わせた運用方法を提案している。

7. 内視鏡関連業務

- ✓ カプセル内視鏡（小腸）…9 件
- ✓ カプセル内視鏡（大腸）…1 件

当課では平成 24 年度から部分的ではあるが気管支鏡検査に機器管理業務を目的に立ち合いを行ってきた。

平成 25 年度では、消化器科からの依頼もあり、消化器領域で行われる ERCP など内視鏡的検査、処置に機器準備、管理を目的に立ち合い行い始めた。

平成 26 年度からは、EVUS、カプセル内視鏡、ダブルバルーン小腸内視鏡検査の当院導入に伴い、立ち合い、及び機器、データ管理を臨床工学技士が行っている。

カプセル内視鏡においては、メディカルスタッフによる読影支援技士免許取得を目標として、更なる病院への貢献に努めている。

8. その他

- ✓ RFA…8 件
- ✓ CGM…10 件
- ✓ SAP…7 件

平成 26 年度より持続血糖測定（CGM）に関する、機器、物品管理、データ管理も行っている。

<令和元年度活動目標>

人員異動により当課の体制が目まぐるしく変動する。新規拡大業務は控え、現在の業務を整理し、安全な医療を維持できるよう努める。

薬 剤 部

<スタッフ> (役職・担当・資格は平成31年3月31日現在)

小島 一晃 (薬剤部長)：麻薬管理者・治験薬管理者・医薬品安全管理責任者・薬事委員会副委員長・
治験審査委員会副委員長・化学療法委員会副委員長

- ・日本医療薬学会 指導薬剤師
- ・日本医療薬学会 認定薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本医療薬学会 がん指導薬剤師
- ・日本医療薬学会 がん専門薬剤師

美和 孝之 (薬剤副部長・病棟業務課長)：病棟薬剤業務責任者・外来化学療法業務責任者・
治験管理業務責任者・治験審査委員会幹事

- ・日本医療薬学会 認定薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
- ・日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士

仲 忠士 (調剤業務課長・医薬品情報管理係長)：医薬品情報管理業務責任者・調剤業務責任者・
実務実習指導責任者・薬事委員会幹事・部門リスクマネージャー

- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士

松本 弘誠 (調剤係長・製剤係長)：注射業務責任者・実務実習指導担当・ICT/AST 業務・
病棟薬剤業務・調剤業務・薬事委員会書記・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師

中西 輝 (病棟薬剤業務係長)：手術室業務責任者・ICT/AST 業務・NST 業務・病棟薬剤業務・
調剤業務・薬事委員会書記

- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師
- ・日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士

小西 史子 (化学療法・手術室薬剤業務係長)：調剤業務・外来化学療法業務・薬事委員会書記

- ・日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師
- ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士
- ・日本アンチドーピング機構 スポーツファーマシスト

山村裕佳子 (薬剤師)：調剤業務

梶 美里（薬剤師）：病棟薬剤業務・調剤業務
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

森川 智子（薬剤師）：調剤業務 【時短勤務】
 ・日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
 ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士

濱武 清範（薬剤師）：外来化学療法業務・調剤業務
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
 ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

岩井真里絵（薬剤師）：病棟薬剤業務（4 病棟専任）・緩和サポートチーム業務
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

奥村 優介（薬剤師）：病棟薬剤業務（7 病棟専任）
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

足立那々緒（薬剤師）：病棟薬剤業務（9 病棟専任）
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

奥村 有香（薬剤師）：病棟薬剤業務・調剤業務・手術室業務
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

酒井ちひろ（薬剤師）：外来化学療法業務・調剤業務
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
 ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

通山 由香（薬剤師）：病棟薬剤業務（緩和ケア病棟専任）・NST 業務・調剤業務
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

福井 美礼（薬剤師）：病棟薬剤業務（2 病棟専任）
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

後藤 仁美（薬剤師）：病棟薬剤業務（6 病棟専任）
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
 ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士

宮西 將之（薬剤師）：病棟薬剤業務（5 病棟専任）
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

野間 敏也（薬剤師）：外来化学療法業務・調剤業務
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

安田 真理（薬剤師）：病棟薬剤業務（3 病棟専任）
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

橋本 浩明（薬剤師）：調剤業務・手術室業務

林 愛華（薬剤師）：調剤業務・手術室業務 【4 月採用】

宮川 貴誌（薬剤師）：調剤業務 【11 月採用・3 月退職】
 ・日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師
 ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
 ・日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師
 ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師

徳田 悦美（主事）：治験管理業務・治験審査委員会幹事補 / 書記

松本 明子（主事）：治験管理業務・治験審査委員会幹事補 / 書記

<薬剤関連施設認定>

日本医療薬学会 認定薬剤師制度研修施設
日本医療薬学会 がん専門薬剤師研修施設
日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師研修施設
薬学教育協議会 実習生実務実習受入施設

<平成 30 年度活動実績>

【調剤室】

育休中のベテラン部員が復帰して調剤室に配属となり、調剤室業務全体の処理速度が上昇し、外来指導業務や病棟 follow 業務などに人員を充てる余裕ができた。

下半期に電子カルテ更新準備として、リスク軽減目的で係長を中心に大幅なレイアウト変更に着手。散剤分包機・錠剤分包機などの機器類の配置も見直し、集中して調剤が行える環境に是正した。

【病 棟】

継続目標である指導率 75%・退院指導 100 件 / 月を今年度も達成できた。指導率も安定して 80%を超えるようになった。

リスク軽減を目的に 2 病棟 3 人体制への準備を進めてきたが、退職者が出たため完全には実施できず、病棟 follow のシフト新設により担当者からの要望で随時支援にするとどまった。

【外 来】

5 月に投薬窓口付近の空きスペースを活かした薬剤指導室が完成し、6 月より運用を開始した。免疫チェックポイント阻害剤の薬剤師外来および治験関連の IC・患者指導に加え、内服抗癌剤の患者指導への業務拡大の計画を立て、さらなる薬剤指導室の利用向上を目指した。

運用変更・有資格者の増加にて、がん患者指導管理料（有資格者による指導のみ算定可）の算定件数が大幅に上昇した。

【医薬品情報】

下半期は電子カルテ更新に伴う点数マスタ登録・整備に注力した。旧システムの点数マスタは、様々な部署が制限なく登録できる構造であったため煩雑化していたが、新システムは採番から一新する計画なので点数マスタの採番ルールの徹底を情報システム課に提案した。

週 1 回の薬剤部勉強会および月 1 回の症例報告会を継続。病棟担当者だけでなく調剤室担当者も業務を通した臨床事例の発表を行い、病棟・調剤室の間で業務に対する理解が深まった。

【薬品管理】

前年度に引き続き DI 室が中心となり後発品への切替に取り組み、数量ベースで後発品使用割合は 85%を超えた。今後は、さらなる医薬品購入金額抑制のため、バイオシミラー導入にも積極的に取り組む必要がある。

【治験管理】

新規治験受託件数は昨年度より増加したが、地域医療支援病院としての役割分担上、一般薬の

治験がクリニックに流れる傾向がより強くなった印象。今後は、分子標的剤・生物学的製剤・抗癌剤など、難易度の高い治験の受託を積極的に検討する必要がある。

下半期にモニタリング・監査費用を含めた治験受託費用の見直しを実施し、適正化した。

【リスク管理】

昨年度から継続して、薬剤師の介入により患者の不利益が回避（プレアボイド）できた、もしくは患者の利益につながった事例を集積した。全体的に報告の質が向上した印象だが、調剤室からの報告件数が減少した。

電子カルテ更新を機に、調剤室はピッキングサポートシステム・最終監査システム、混注室は無菌調製支援システムを導入し、環境面からもリスク軽減を目指した。

【学生実習】

1 期（3 ヶ月）3 ～ 4 人× 3 期（年間 10 人）の薬学実習生を受け入れ、調剤業務課長を中心に全部員総動員で指導に当たった。2019 年度の新コアカリキュラム導入に向け、実習カリキュラムの見直しを実施した。新コアカリキュラムにて当院を基幹病院とした 8 店舗の調剤薬局との連携体制が実施されるに当たり、事前協議会が数回開催され受入体制の調整や情報共有を行った。

大阪薬科大学体験学習・京都大学体験学習・中学生体験学習など、学校関係の体験学習も積極的に受け入れ、外部に対する病院薬剤師業務の啓蒙活動にも注力した。

【統 計】平成 30 年度実績／（ ）は平成 29 年度実績

1. 処方箋

<入院処方箋枚数>

入院投薬：通常処方 52,143 枚 (53,463 枚)

退院処方 5,738 枚 (5,943 枚)

異常時処方 22,625 枚 (22,812 枚)

入院注射：通常処方 97,925 枚 (91,315 枚)

化学療法 2,734 枚 (1,963 枚)

T P N 処方 18,014 枚 (16,067 枚)

異常時処方 68,270 枚 (61,263 枚)

<外来処方箋枚数>

外来投薬：院内処方 4,851 枚 (5,591 枚)

院外処方 70,464 枚 (73,487 枚)

院外発行率 93.6% (93.0%)

外来注射：通常処方 12,236 枚 (13,414 枚)

化学療法 4,475 枚 (3,690 枚)

2. 注射薬無菌調製

<調製本数>

抗癌剤 : 6,232 本 (5,956 本)
TPN・移植・その他 : 6,232 本 (5,956 本)
合 計 : 6,232 本 (5,956 本)

3. 薬剤管理指導業務

訪問件数 : 16,120 件・1350.8 件 / 月 (16,725 件・1393.8 件 / 月)
本体請求件数 : 8,856 件・738.0 件 / 月 (8,820 件・735.0 件 / 月)
退院指導請求件数 : 1,387 件・115.6 件 / 月 (1,613 件・134.4 件 / 月)
患者指導率 : 80.7% (81.1%)

4. 外来化学療法指導業務

訪問件数 : 1,177 件 (1,032 件)
請求件数 : 359 件 (220 件)

5. 持参薬鑑別

取扱件数 : 7,205 件 (6,770 件)

6. 疑義照会・プレアボイド報告

<化学療法疑義照会>

疑義照会件数 : 300 件・変更率 65.7% (331 件・変更率 63.1%)

<プレアボイド報告>

調剤担当者 : 79 件 (137 件)
病棟担当者 : 58 件 (53 件)

7. 治験業務

<新規受託件数>

治 験 : 9 件 (7 件)
製造販売後調査 : 13 件 (8 件)
副作用報告 : 1 件 (6 件)

<請求額>

治 験 : 81,790,799 円 (71,722,114 円)
製造販売後調査 : 1,427,400 円 (1,045,980 円)
副作用報告 : 28,080 円 (140,400 円)
合 計 : 83,246,279 円 (72,908,494 円)

8. 薬品管理

<採用薬品数>

投薬・その他 : 585 品目・後発 36.9% (588 品目・後発 35.5%)
注射薬 : 493 品目・後発 28.4% (492 品目・後発 28.0%)
合 計 : 1,078 品目・後発 33.0% (1,080 品目・後発 32.1%)

9. 薬剤関連D P C係数

病棟薬剤業務 : 0.0065 (0.0063)

後発医薬品 : 0.0014 ※ (0.00949 ※) ※最高値

10. 薬学生実務実習

実務実習 (11 週間) : 10 名 (10 名)

外部体験学習 : 14 名 (12 名)

<令和元年度の主な活動目標>

- ・ 患者指導室を活用した薬剤師外来の充実
- ・ 病棟業務 follow 体制の確立
- ・ 抗菌剤の適正使用への取り組み
- ・ 将来目指すべき目標 (専門分野・資格等) に向けた計画の実行
- ・ 災害医療体制の充実 (アクションカードの改訂)
- ・ 電子カルテ・部門システム更新によるリスク軽減

検 査 部

<スタッフ>

医 師

千葉 渉（副院長兼検査部長）

臨床検査技師

荒木孝一郎（臨床検査課長 生理機能検査課長 微生物検査係長）

大西美穂子（臨床検査課 検体検査係長）

中村 直実（臨床検査課 輸血管理係長）

佐藤 裕司（生理機能検査課 生理機能検査係長）

吉田 桂（生理機能検査課 超音波検査係長）

土井美都子 元原 浩子 坂野 絵美 村上 かおり 奥洞 智太 森内 沙紀

亀山 雅貴 扇田 裕允 平岩 理雅 古川 理奈 今井翔太郎

視能訓練士

岡田 悠 小松あゆみ 山名 裕子

採血室看護師

宮地真奈美 木野 洋子 赤石美智子 中岡 和代

検査アシスタント、受付 洗浄

田辺 智美 富木 貴子 久保田孝子

<異 動>

臨床検査技師 元原 浩子 平成 30 年 6 月 病理診断科から検査部臨床検査課へ異動

臨床検査技師 後呂 純平 平成 30 年 6 月 検査部臨床検査課から病理診断科へ異動

採血室看護師 黒田 美里 平成 30 年 8 月 退職

視能訓練士 大保 敏子 平成 30 年 8 月 退職

採血室看護師 中岡 和代 平成 30 年 10 月 入職

視能訓練士 岡田 悠 平成 30 年 11 月 入職

検査アシスタント 太田 和栄 令和元年 3 月 退職

<認定資格>

認定超音波検査士：佐藤 裕司 吉田 桂 元原 浩子 坂野 絵美 村上 かおり
亀山 雅貴 森内 沙紀 荒木孝一郎

認定血液検査技師：大西美穂子

認定骨髓検査技師：大西美穂子

認定糖尿病療法指導士：土井美都子

認定臨床微生物検査技師：扇田 裕允

感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）：扇田 裕允

緊急臨床検査士：奥洞 智太

<平成 30 年度活動実績>

- ・平成 30 年 5 月末まで 早朝 7 病棟採血支援を実施
- ・平成 30 年 4 月 臨床検査技師 大西美穂子 骨髓検査技師認定試験に合格
- ・令和元年 1 月 臨床検査技師 扇田裕允 認定臨床微生物検査技師に認定
感染制御認定臨床微生物検査技師 (ICMT) に認定
- ・平成 30 年度 日臨技臨床検査精度管理調査 A+B 評価 99.6%
- ・平成 30 年度 日本医師会 臨床検査精度管理調査
評価 96.5 A 評価 92 個 B 評価 15 個 C 評価 1 個 D 評価 0 個

(学会発表・講演)

平岩 理雅 第 54 回 日本赤十字社医学会総会 平成 30 年 11 月 15 日
「Clostridioides difficile 迅速診断キットと分離培養との比較検討」

古川 理奈 第 33 回 日本赤十字社臨床検査技師会近畿ブロック研修会 平成 30 年 9 月 9 日
「悪性リンパ腫治療後経過観察中に治療関連骨髄性腫瘍を発症した症例」

奥洞 智太 第 9 回 北摂 4 医師会 三島感染症研究会 平成 30 年 6 月 23 日
「環境培養で証明せよ！見えない危険の存在」

奥洞 智太 第 14 回 抗菌薬適正使用勉強会 令和元年 2 月 14 日
「血液培養にて検出した Candida 属の検討」

<令和元年度活動目標>

- ・臨床検査技師の適正な人員配置
- ・検査の適正化による検査委託費、試薬代の削減
- ・採血院内測定項目は採血から 30 分以内に報告
- ・超音波検査を行う技師の育成
- ・部内ローテーションを行い、個々が検査できる範囲を拡大、部署間のサポート体制を強化
- ・各種、認定資格を各自の目標通りに取得
- ・勉強会や学会発表への積極的参加 検査部内で年間最低 2 題以上の発表
- ・精度管理向上、日臨技、日本医師会の外部サーベイの参加 医師会サーベイは目標オール A 評価
- ・各部署マニュアルの更新 整備
- ・残業時間は 1 人月 10 時間以内 常勤臨床検査技師平均残業時間 月 5 時間以下
- ・年最低 10 日の休暇取得
- ・インシデントレポート提出率の向上
- ・毎月検査部内勉強会開催

病 理 診 断 科 部

<スタッフ>

医 師

渡邊 千尋〔病理診断部長〕：病理専門医、細胞診専門医

山田 義博〔非常勤〕 松城 尚憲〔非常勤〕

白瀬 智之〔非常勤〕 奥野 知子〔非常勤〕

臨床検査技師

荒木 孝一郎〔病理検査課長〕：細胞検査士、国際細胞検査士、
超音波検査士（循環器、消化器）

廣田 智美〔組織形態検査係長〕：細胞検査士

山本 翔：細胞検査士

山田 桂実：細胞検査士

後呂 純平

<異 動>

元原 浩子 平成 30 年 6 月 病理診断科から検査部臨床検査課へ異動

後呂 純平 平成 30 年 6 月 検査部臨床検査課から病理診断科へ異動

<平成 30 年度活動実績>

- ・統計：組織診件数 4,306 件 細胞診件数 3,622 件 剖検件数 12 件
- ・症例検討会（CPC）を 5 回行う
- ・月 4 回、細胞診症例検討会を行う
- ・日本臨床衛生検査技師会コントロールサーベイに参加
- ・平成 30 年 12 月 臨床検査技師 山本翔 細胞検査士認定試験に合格
- ・平成 30 年 12 月 臨床検査技師 山田桂実 細胞検査士認定試験に合格

<令和元年度活動目標>

- ・学会発表、研修会への参加
- ・剖検マニュアルの整備
- ・病理標本の染色、質的向上
- ・細胞検査士認定資格取得技師の育成
- ・EUS-FNA、CT ガイド下穿刺施行時、現場での検体適正評価の強化
- ・検査部業務のサポート（検体検査、生理検査、治験業務）

看護部

<スタッフ>

看護部長：松井 和世

看護副部長：花田 季代子・岸 恵美・原田 かおる（兼）

看護師長：原田 香織（2病棟）・高橋 晶子（3病棟/HCU）・門脇 寛子（4病棟）
石黒 早苗（5病棟）・青木 和美（6病棟）・高田 佳織（7病棟）
西 ひろみ（9病棟）・西浦 美香（緩和ケア病棟）・奥田 唱子（手術室／中央材料室）
福谷 裕美（外来）
川崎 知子（看護部／患者支援センター）
阿部 哲子（看護部／研修課）
依藤 里香（看護部／専任リスクマネジャー／医療安全推進室）

看護係長：病棟 11 名・手術室 2 名・外来 1 名

藤原 和子（看護部／緩和ケア認定看護師／緩和ケアサポートチーム専従）
松下 めぐみ（看護部／感染管理認定看護師／感染管理室）

看護職員：今戸 美奈子（看護部／慢性疾患看護専門看護師）

楠岡 京（看護部／がん看護専門看護師／がん相談支援センター専任看護師）
北田 千世（看護部／皮膚・排泄ケア認定看護師／褥瘡管理者）
佐賀 昭子（看護部／感染管理認定看護師／感染管理室）
工藤 ゆかり（看護部／退院調整看護師）
田村 華奈（看護部／退院調整看護師）

<平成 30 年度看護部活動実績>

1. 学会参加

- 1) 日本看護系学会参加人数：49 名
- 2) 日本看護協会主催看護学会
- 3) その他

2. 認定看護管理者教育課程

- 1) ファーストレベル修了者：村嶋 涼子 溝邊 ゆかり
- 2) セカンドレベル修了者：高橋 晶子
- 3) サードレベル修了者：花田 季代子

3. 看護学生臨地実習受け入れ

1) 大学

☐ 梅花女子大学看護保健学部看護学科 ☐ 大阪医科大学看護学部看護学科

2) 専門学校

☐ 高槻市医師会看護専門学校
☐ 学校法人大阪慈恵学園 大阪医療看護専門学校
☐ 学校法人日本教育財団 大阪医専

平成 30 年度（2018 年度）看護部・各看護単位の活動

【看護部の活動】

平成 30 年度は、大阪北部地震、豪雨、台風 21 号と大規模自然災害に見舞われる中、被災病院として病院機能の維持や課題を明確にすることができた。

また、クリーンルーム増改築、電子カルテ更新準備、病棟再編成計画に取り組み、看護の質向上、働きやすい職場環境づくり、病院経営に尽力した。

I. 看護部方針

1. 専門職業人として自発的探求心をもち、自律した看護実践ができる。
2. 多職種協働医療チームの中で看護の専門性が発揮できる。
3. 地域の包括的支援における医療サービス提供病院の看護職者として、その役割を果たすことができる。

II. 看護部目標：バランススコアカード（BSC）

1. 目標

財務の視点

- 1) 医学界・看護界の動向への関心・主体的な情報獲得
- 2) 診療報酬の理解と加算獲得
- 3) 看護人員計画・看護職確保
- 4) 看護の魅力を地域に情報発信

顧客（患者）の視点

- 1) 急性期病院における療養生活者への責任ある対応
- 2) 社会人としての常識・専門職人として相応しい接遇の習得と実践
- 3) 患者を中心とした医療安全意識の醸成
- 4) 感染拡大防止対策の実施
- 5) 患者・家族の生命や人権擁護の観点に立った看護実践
- 6) 高齢者の尊厳の保持と自立生活支援の観点に立った看護実践

業務プロセスの視点

- 1) 多職種との協働関係の継続
- 2) 患者の療養生活支援における多職種協働を調整できる能力の向上
- 3) クリニカルパスの作成・運用・評価
- 4) 看護職者の知恵を結集した業務改善
- 5) 病床の効率的な運用

学習と成長の視点

- 1) 生涯学習が可能な職場環境作り
- 2) 看護継続教育の充実と評価方法の追求
- 3) 実践家としての知的探求心の維持・向上
- 4) 急性期病院の看護職者として自身に充足（又は不足）している知識・技術の明確化
- 5) 自身の看護行為を言語化し他者へ説明できる能力の向上
- 6) 「共に育つ」「後輩が育つ」風土の醸成に向けた努力
- 7) 赤十字病院の使命と役割の理解・赤十字活動への従事

2. 重要成功要因（具体的要因）

財務の視点

- 1) 地域医療・看護・介護への関心と協働体制
- 2) 情報発信力
- 3) 看護の専門性による診療報酬加算獲得
- 4) 看護職・看護補助者定着

顧客（患者）の視点

- 1) 「看護者の倫理綱領」を正しく理解するための取り組み
- 2) 患者満足度調査
- 3) 医療安全の維持・向上に関する取り組み
- 4) 感染予防、防止対策の維持、質向上に対する取り組み
- 5) 根拠に基づいた看護実践
- 6) 認知症高齢者の理解とアセスメント力を高める取り組み

業務プロセスの視点

- 1) 多職種とのパートナーシップや建設的な意見交換
- 2) 療養生活支援のための業務改善に関する高い意識と実行力
- 3) 病床稼働力

学習と成長の視点

- 1) 専門職業人としての自覚と責任
- 2) キャリア開発ラダー
- 3) 実践の中で生じる驚き・喜び・不確かさ・気がり等が自由に語れる職場環境
- 4) 働きやすい職場環境
- 5) 赤十字教育の充実

3. 総括

各看護単位、委員会、ワーキンググループ等で、財務・顧客（患者）・業務プロセス・学習と成長の4つの視点に取り組んだ。看護師長をリーダーとしたワーキンググループは、①重症度 医療・看護必要度適正化②看護職員採用活動充実③電子カルテ更新準備の3グループで活動した。

また、専門・認定看護師活動、看護外来や退院調整看護師が看護の専門性を発揮することで看護の質向上、診療報酬加算獲得に寄与した。

看護師採用は平成31年4月採用者25名（新卒21名既卒4名）、中途採用者11名で、目標の40名確保は90.0%の達成率であった。

看護師確保対策として離職者を増やさないことを目標に挙げた。しかし、離職率は11.9%で、平成29年度10.7%より増加した。退職理由は家庭の事情や急性期に疲弊等であった。

感染予防、防止対策に取り組みインフルエンザのアウトブレイクを防ぐことができた。麻疹患者の受け入れに際してホームページ上の広報表現が誤解を招いたが、診察場所の工夫や接触者の待機の工夫により院内感染を防ぐことができた。

学会・研修会への主体的な参加ができた。知識の共有を推進していく。

キャリア開発ラダー認定取得者は実践者ラダーレベルⅠ19名、レベルⅡ5名、レベルⅢ1名であった。レベルⅡ、Ⅲ認定の推進が課題である。赤十字キャリア開発ラダー改定にむけて準備をしていく必要がある。

赤十字看護師登録数は132名に増加した。各種講習会修了者、指導員を増やしていく。

Ⅲ. 看護部目標評価・まとめ

1. 専門職業人として自発的探求心をもち、自律した看護実践ができる。

学会・研修会への参加は主体的に進められた。実践者ラダーⅡ・Ⅲ取得者を増やしていくために目的やメリットを明確にしていく必要がある。実践者ラダーⅣ申請のために認定看護師会で手引書の確認とリフレクションを行ったが認定にはいかなかった。電子カルテ更新に伴い、記録やクリニカルパスを整備した。大きな医療事故や感染拡大にはいかなかった。安全・感染管理意識を引き続き強化していく必要がある。

2. 多職種協働医療チームの中で看護の専門性が発揮できる。

クリーンルーム増改築、アンギオ待機体制検討等において薬剤部、検査部、臨床工学課等との協働が得られた。病棟再編成において医事課、用度課、経営企画課と検討を重ね、病床数変更、部署の診療科変更等が決定した。2019年5月の病床再編成において関連部署とプロジェクトチームを立ち上げ進めていく。連続した災害に職員一丸となって乗り切ることができた。

3. 地域の包括的支援における医療サービス提供病院の看護職者として、その役割を果たすことができる。

医療制度改革に伴う医療サービスの動向を理解し、看護の専門性、看護の業績による診療報酬加算獲得で病院経営に参画してきた。

経営改善3ヵ年計画に伴う、病床機能の見直し、患者数増加等による収入増加策に積極的に参画していく必要がある。

高齢者を対象とした看護実践の専門家としての役割を果たしていく事が求められている。

<令和元年度看護部活動目標>

令和元年度は電子カルテ更新、病棟再編成を進める上で、それぞれの取り組みの定着を推進する。病床の効率的運用、看護職の適正配置を検討していく。

※令和元年度の重点看護部目標

1. 病床管理を推進する

①病床の有効活用 ②病棟再編成後の目標稼働率の達成

2. 看護職確保に努める

①離職率を下げる ③夜勤勤務者の確保

3. 高齢者の尊厳保持と自立生活支援の推進

①認知症ケア対応能力を高める（研修参加、事例カンファレンス実施）

4. 赤十字キャリア開発ラダー認定取得の推進

2 病棟：看護師長 原田 香織

財務の視点では、病床稼働率の上昇と在院日数の維持を目標とした。病床稼働率は 59.7% 在院日数は 7.7 日 (昨年度より病床稼働率 2.6% 減少、在院日数 +0.5) である。

産婦人科と小児科で入院患者数が減少しており、産婦人科・小児科以外の多くの診療科患者を、平日のほか夜間・休日の救急も含め積極的に受け入れたが、耳鼻科（小児）や内視鏡目的の消化器内科女性の減少（システムの変更：今年度より大腸ポリープ切除がない場合は外来扱いになった）もあった。

分娩件数は年間 48 件（昨年度 +1 件）で、産婦人科患者増加のために、スマイル通信（妊娠・出産・育児をしている女性に対して当院が実施している活動を紹介する情報提供）の 3 か月毎の発信、当院のフェイスブックにカンガルークラブ（育児サークル）の掲載を実施し、病棟活動を対外的にアピールした。

顧客サービスの観点では、最も基本的となる安全で安楽な看護の提供を目標とした。多くの診療科患者を受入れるため業務が複雑・煩雑化しており、安楽な看護を常時提供できるよう、日常の業務整理に加えて、4 件の事例検討を実施し、疾患に対する知識や急変時の対応を確認した。また、インシデント発生が 130 件と昨年度よりは減少したが、レベル 3 b が 1 件（高齢者が転倒し骨折したケース）発生したため、老人看護専任看護師や医療安全担当と連携してカンファレンスを開催し、再発防止に努めた。

また倫理的視点に立って日々の看護業務を振り返るため、症例 1 件を通してカンファレンスを実施した。

感染予防に対するスタンダードプリコーションの周知徹底を図り、インフルエンザの最大流行期には、感染防具の使用増加のほか、手指消毒剤を使用量目標以上（12.0/1 患者）使用し、病棟閉鎖することなく入院患者を受け入れることができた。

業務プロセスの視点では、継続看護を目標とした。産婦人科外来で手術予定の婦人科患者やハイリスク妊産婦については、産婦人科として週 1 回カンファレンスを実施し、情報共有している。地域でのフォローアップが継続的に必要な褥婦ケース 4 件については、市の地域保健センターと連携し、妊産婦と新生児の安全を図るため地域へ繋いだ。クリニカルパスについては、帝王切開手術、子宮全摘出手術について現在作成中であり、来年度の申請を目指したい。

学習と成長の視点では、日本母性学会に 1 人、エジンバラ評価研修に 2 人が参加し、その成果を病棟で情報共有し、産婦人科外来での産後ケアに繋いだ。また、NCPR 取得者 8 名が再登録し、新生児蘇生に対する最新の知識を再修得した。大阪府看護協会の依頼により、高槻支援学校において「いのちの授業」を助産師 2 名が企画し実施した。

他、赤十字救急法救急員養成講習受講 1 名、キャリア開発ラダー I を 1 名が取得した。

2 病棟では、2019 年度 5 月の病棟編成にむけて、更なる業務整理と新たな疾患の知識・技術の学習が求められている。

3 病棟：高橋 晶子

昨年度に比べ病床稼働率は上回り、平均在院日数は短縮傾向にあった。入院患者のうち 50% は緊急入院であり、急性期治療が必要とされる循環器科の入院を受け入れるために安定した患者を他病棟で調整することでスムーズに緊急入院を受け入れることが出来た。次年度は病棟編成により全体の病床数が縮小されるため、病床調整が困難になることが予測される。また、加速する

高齢化に伴い心不全患者の増加も予測される。現在も心臓血管リハビリテーション専任看護師による指導を行っているが、病棟看護師全体のフィジカルアセスメント能力の強化と退院後の生活を見据えた情報収集を行い、今以上に早期に退院調整を行う必要がある。

今年度は新人看護師含め職員の退職者が0人であった。エルダーを始めチーム間での協力依頼や情報共有を行っており、共に育つ、働きやすい職場環境であると評価できる。

学習面において、ラダーレベルⅠ3名、レベルⅡ2名取得した。認定看護管理者過程セカンドレベルに1名受講。各学会に8名参加し、ELNECやICLSなど院内外の研修にも積極的に参加しており学ぶ風土になっている。

HCU：高橋 晶子

HCU専任医師・主治医・HCU師長と連携し入退室のコントロールし充床率を上げる努力をしていたが、充床率は昨年度を下回る結果となった。

感染防止に関しては手指消毒使用量が1患者50回を超えるなど使用量が増加した。入室時点で感染症の確認を行い、コホート管理を行う準備をするなど感染防止に対する意識は高まっている。

HCU内での災害机上訓練をリンクナースが中心になり全員が実施。北部地震や台風時には被害状況報告書を速やかに作成し、報告することができた。また安否確認についてもグループラインを作成し速やかに情報の集約ができた。広島豪雨災害への救護に1名派遣あり、救護経験の伝達も行えた。

学習面においては、各種学会に4名、ACLS・ICLS・ANS研修など院内外の研修に多数参加しており、自己啓発に努めることが出来ている。また、集中治療に携わる看護師のためのクリニカルラダーを参考に段階を追って成長できる指標の作成を行い、ラダーに相当する知識の確認テストを実施し知識の向上に努めた。

4病棟：門脇 寛子

4病棟の病床稼働率76.8%（昨年度75.3%）、新入院患者986名（昨年度969名）であった。病床稼働では、インフルエンザ流行期に4人部屋をコホート部屋として利用し全科女性の入院を受け入れた。

学習に関しては、赤十字キャリア開発ラダー認定レベルⅠは1名、大阪府助産師保健師看護師実習指導者講習会1名、赤十字看護師登録者は2名認定された。

インシデントでは転倒・転落はレベル3b3件であった。病棟内の環境整備や転倒転落予防カンファレンスでは既往歴や入院前の環境の情報収集を入院時から行う事で転倒転落のインシデント減少につながった。術前にせん妄を予測しカンファレンスを行い、困った時には老人専門看護師や認知症認定看護師に相談する事ができた。倫理の事例では高齢者に関心をよせ理解を深めていった。

感染防止対策に関してはESBL10件と多かった月もあり、手指消毒量や感染防護用具の使用が昨年まで最下位であった。特に整形外科の患者は排泄介助も多く、全病室に感染防護用具を設置し、看護師の標準予防策を行う事ができたので使用量も増えた。

4病棟は2019年5月の病棟編成にて休床となる事が決まった。病棟編成にむけて、更なる業務整理と新たな疾患の知識・技術の学習が求められている。

5 病棟：石黒 早苗

効率的な病床利用を目指し、診療科を問わず入院を受け入れた。平均在院日数 10.2 日、病床稼働率 75.8%、新入院 1346 人と、昨年同様高速回転する病棟運営であった。

また、看護の専門性による診療報酬加算獲得を各チーム目標として取り組み、介護支援連携指導や在宅療養指導加算の獲得が漏れない仕組み作りを行ない、加算獲得につながった。

医療安全面では、インシデントレベル 3 b 以上の発生はなかった。認知症・高齢者の入院が増えており、せん妄リスクのある患者の術前カンファレンスを全症例実施。認知症高齢者やせん妄に対する理解を深め、B P S D を最小限にとどめ、安全な術後経過がおくれる様取り組んだ。

感染予防面では、個室が多い病棟の特徴上、感染症患者を多数受け入れたが、スタンダードプリコーションを徹底し、インフルエンザ等の感染の拡大は無かった。

業務の視点では、外来の時点から手術を受ける患者や家族の準備を整える事を目指し、指導パンフレットを作成。入院前から情報提供や患者指導が行える様になった。

看護職者のキャリアアップについては、高槻赤十字病院キャリア開発ラダーレベル I : 3 名が取得。

院内外の研修や学会にも多数参加。病棟内の学習会は、各ワーキンググループが年間企画を立て、医師とも協力しほぼ計画通りに実施することが出来た。

赤十字看護師登録は、新たに 4 名が登録した。また、赤十字看護師登録者は必要な研修を受け登録更新ができた。

6 病棟：青木 和美

6 病棟の新入院患者数は 1,538 人、病床稼働率は 86.1 %、回転率は 3.1 であった。予定入院患者、緊急入院患者をスムーズに受け入れることが出来るよう、朝のミーティングでベッドコントロールを行ったことで、昨年度と比べ稼働率をアップすることができた。

赤十字看護師登録者 1 名、赤十字キャリア開発ラダー認定レベル I は 4 名認定された。院外研修ではファーストレベル 1 名、臨床実習指導者研修 1 名が受講した。

インシデントでは、転倒・転落 50 件（昨年 43 件）であり昨年より増加している。高齢者の入院患者が増加しており、入院時の安全パンフレットの活用や患者の全身状態をみながら事前に転倒転落予防カンファレンスを行い、療養環境を整えることで、レベル 3 b のインシデントは 0 件であった。

感染防止に関しては、朝の申し送りで感染患者の情報を毎日共有することで、感染患者の予防策の周知徹底を行った。また、ICT ラウンドで指摘を受けた内容は伝達ノートに記載し朝のミーティングで共有し、手指消毒の 5 つのタイミングを全員で声に出して確認することで感染予防に対する意識を高め、インフルエンザのアウトブレイクを予防することができた。

3 月には CNS の支援のもと、看護倫理の学習会を開催した。予定の治療ができずに急速に病状が悪化していく患者の事例を振り返ることで、患者・家族への関わりについて考えることができた。また、看護を語る場として、毎月のチーム会を活用し、看護師全員が自己の看護に対する思いを伝え、お互いの看護観を知り、個々の思いや考えを知ること看護に対する感性を高める機会を作ることができた。

今後も患者・家族への倫理面を考慮した看護介入や看護ケアカンファレンスを行うことで看護実践能力の向上を図っていきたい。

7病棟：高田 佳織

財務視点では平成 30 年度の病床稼働率は 75.5%で、昨年度より微増した。血液腫瘍内科の定床の稼働率は 100%以上キープできた。

非血縁者間造血幹細胞移植・採取施設認定施設となり、次年度は移植看護の質向上を目指し病棟での継続教育をさらに強化していきたい。30 年度は 16 件の同種造血肝細胞移植を実施した。また、移植増加に伴いクリーンルーム増床を行い、総室 2 室 8 床、個室 1 室増床し、計 12 床になった。12 月から稼働し、総室は 27 名、個室 4 名が入室した。

また、当部署から 2 名 LTFU 外来（移植後フォローアップ外来）を実践しており、移植後フォロー外来の加算件数は昨年度より増加し、258 件であった。LTFU の研修も 1 名受講した。病棟と外来の情報共有、連携を図り、次年度も患者にとってより充実した外来を目指し、病棟と外来の継続看護の強化を図りたい。

顧客の視点では転倒・転落レベルⅢb 事例件数は減少した。しかし、CV 自己抜去等、レベルⅢa 件数も他部署の比し多く、ハイリスクな治療を受けている後期高齢者も多いことから、引き続き安全な療養環境の整備に努めたい。また、インフルエンザによる部署のアウトブレイクはなかったが、治療による重症な感染症を発症する患者も多く、手指消毒等のスタンダードプリコーションの徹底をしていきたい。

業務プロセスの視点では移植認定施設、骨髓採取認定施設になったことを受けて同種幹細胞移植マニュアルを整備した。骨髓採取は 4 名のドナーが採取を行った。ドナーにとって安全に移植関連の治療が遂行できるよう活用していきたい。

成長プロセスの視点では、赤十字近畿ブロック中堅職員研修 1 名が受講した。キャリア開発ラダーについては、レベルⅠ：1 名が申請し、認定された。赤十字活動に関しては赤十字救急員養成講習 2 名受講した。

9病棟：看護師長 西 ひろみ

財務の視点では、病床稼働率 78.1%、回転率 2.2、平均在院日数 13.4 日、平均患者 44.6 名であった。昨年度と比べ稼働率アップにつながった。

リカバリー室を最大限に有効活用は行ったが、慢性期の増悪および医療機器の装着などが多いなどの科の特殊性から病床運用およびクリニカルパスの推進が今後の課題である。

顧客の視点では、入院患者の認知症高齢者および慢性呼吸不全の急性増悪、低酸素状態や CO2 ナルコーシスなどの身体的侵襲、治療に伴う医療機器の装着等により、せん妄、BPSD が出現しやすく、環境調整、コミュニケーションへの配慮など、予防的ケアや発症時の早期対応ができるよう努力した。患者の超高齢化を踏まえ、入院時より退院を意識した支援を行なった。しかし退院困難患者（予測を含む）については課題も多く残った。チーム内での共有が薄く、PNS の早期に退院を見据えてサマリーを着手するなどの意識の差（個人差あり）、進捗状況の把握をディリーダーが把握できずに退院調整が後手になることもあった。担当 MSW との連携を強化し、スムーズな退院調整を意識したカンファレンスの充実と PNS の意識の改革が必要である。

業務の視点では MRSA アウトブレイクを起こしてしまい、多くのことを経験し学ぶことが多かった。多方面にご迷惑をかけたが、当たり前のことが当りまえにできる（経路別に感染対策）また頑張らなくても行動できる 9 病棟のスタッフになることができたといえる。

学習と成長の視点では、レベルⅠ 2 名、レベルⅢ 1 名、計 3 名のキャリア開発ラダーの取得が行えた。認定看護管理者過程（ファースト）研修 1 名の受講があった。研修・学会参加者の学びを共有する場を作り、看護を学ぶ風土を作ることが次年度の課題である。

緩和ケア病棟：西浦 美香

平成 30 年度の診療報酬改定により緩和ケア入院料 1 の届出を行った。平均在院日数 30 日以内、平均入院待機日数を 14 日未満とし緩和ケアが必要な患者を優先的に受け入れる一方で症状が落ち着けば在宅や長期療養が可能な施設などへの転院調整をすすめた。看護業務の見直しを行い記録の簡素化、効率化を図った。結果、今年度入院患者数 177 名中緊急入院受け入れは 20 名（11.2%）在宅への移行 25 名（14.1%）であった。ケアの質向上に向けて薬剤調整のみならず、看護ケアで出来る心地よさについて、カンファレンスで検討し学習会を重ね実践につなげる事が出来た。この事は緩和ケア病棟で療養する患者家族の安心安楽につながっていると評価でき継続していきたい。学習面においては ELNEC3 名受講。

ラダーⅢ取得者 1 名。赤十字研修への参加や防災訓練への参加など少しずつ赤十字に対する意識が高まっている。業務の視点ではホスピス緩和ケア協会主催の多職種による自施設評価プログラムを実施。入院期間が短くなることに対するスタッフの思いなどを表出し、今後は多職種で共にお互いを尊重しながら意見交換していくことが課題であると認識した。

手術室・中央材料室：奥田 唱子

緊急手術受け入れ体制の強化や麻酔科医師と連携を行ない、手術件数の増加に取り組んだが、件数・診療報酬点数共に昨年度をわずかに下回る結果となった。

災害対策として、リンクナース主導で既存のアクションカードを手術室に対応出来るものへと修正した。大阪北部地震や台風 21 号発生時もそれを活用し、手術室内や職員の情報を集約する事ができた。

電子カルテの更新への取り組みとして、現状の問題点を分析し各科の担当者が中心となってフォーマットを作成する事ができた。作成過程のなかで、周術期における切れ目のない看護の重要性を再認識することができた。

学習面では、手術室関連以外に在宅や終末期も含め多くの研修・学会に参加しそれぞれが自己研鑽を重ねることができている。これらの取り組みを今後、手術室看護学会の「臨床実践能力の習熟度段階」（クリニカルラダー）や当院のキャリア開発ラダーにつなげていく。

外来：福谷 裕美（代筆：松浦 昭子）

外来では慢性疾患看護専門看護師、認知症看護認定看護師、がん化学療法看護認定看護師、がん放射線治療看護認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、また、禁煙認定指導者、糖尿病療養指導士、リウマチケア看護師が勤務しそれぞれに専門性を発揮し活動している。

看護専門外来は、看護師主体の外来でその療育で認定されている看護師が医師の指示のもとで、患者の自己管理能力の向上や、家族を含めた患者の QOL の支援に努めている。

看護専門外来での療養指導料の算定などは病院経営に貢献している。

外来における診療報酬算定件数

- ・禁煙外来：初回 22 件 2-4 回 59 件 5 回目 16 件
- ・糖尿病合併管理：69 件
- ・糖尿病透析予防指導管理：96 件
- ・在宅自己腹膜還流指導管理：0 件
- ・在宅療養指導：849 件

- ・移植後患者指導管理：263 件
- ・在宅自己注射指導管理（月 27 回以下）：1,318 件
- ・在宅自己注射指導管理（月 28 回以上）：2,718 件
- ・がん患者指導管理 1：33 件
- ・がん患者指導管理 2：210 件

看護記録・監査委員会：門脇 寛子

看護過程質監査表の活用の啓蒙を行った。事例検討では、転倒・褥瘡発生時・ルート抜去の 3 事例を提示し、看護記録を提示して、見直しを行った。どのように記録することで、わかりやすい記録になるのか委員会で共有することができた。

標準看護計画の修正・作成は標準看護計画 3 病棟「心不全」の修正を行った。3 月 7 病棟「骨髄移植」を修正予定。次年度も委員が中心となり各病棟で特殊性をふまえた標準看護計画の修正・作成を実施していきたい。

4 月新入職者研修や 11 月に看護記録に関する院内研修を実施した。11 月の研修は看護過程における正しい記録について、入院時高齢者の事例検討を行った。参加者は実践における看護記録を様々な意見が活発に交換できた研修であった。

11 月には、「看護記録の手順・電子カルテの入力手順」の修正を行った。しかし、新電子カルテ導入は 2019 年 4 月と決まり、次年度は変更する必要がある。「略語集」や「看護過程記録監査手順」は各病棟に配布をする事ができた。

大阪府看護協会研修 1 名や日本看護診断学会 2 名参加し、委員会で伝達講習を行った。これからも看護記録の向上を目指し活動を行っていく。

看護継続教育委員会：高田 佳織

平成 30 年度は、他職種の専門性を学ぶ研修を企画し、研修ネーミングや内容の変化など新たな企画立案に取り組み、年間計画通りに概ね研修が実施できた。研修総参加人数は 229 名、昨年度に比べ 55 名増加した。また、繁忙期やインフルエンザ流行期への配慮、事前案内などにより、研修直前の再アナウンスの減少につながった。次年度はフィジカルアセスメントやがん看護などの研修については、対象を若年層に絞り込み、根拠に基づいた実践を提供する研修につなげていきたい。また各研修の研修後アンケートでは「勉強したい内容と一致」、「理解度」、「仕事に役立つか」など研修への満足度が目標値の 80%を超えた。

昨年度に企画した当院看護職の学習ニーズを把握し看護継続教育に関する支援を行う目的で学習ニーズのアンケート調査を行った。標準偏差で質問項目と総得点を分析し、部署別、経験年数別、得点別共に「基礎的な知識・技術・態度」「看護過程の展開」「急変時の対応」がほぼ全部で高得点領域であった。次いで「感染予防」「看護・医療・福祉の最新知識」「地域・在宅看護」の順であった。低得点領域もまた同じ傾向があり、「看護研究」関連 3 項目と「宗教的信条」「社会情勢」「法律・制度」の順で続いている。高得点領域の研修は今年度「急変時の対応」の集合教育以外は企画されており、概ねニーズにマッチしていたと考える。

平成 30 年度の研修後アンケートや学習ニーズの調査結果を参考にまた、経験年数別の企画や、がん拠点病院に対応した企画、キャリア開発ラダー支援など社会情勢に合わせた研修企画を盛り込むとともに、研修参加者増加を目指し研修時間を日中の時間帯開催を検討していく。

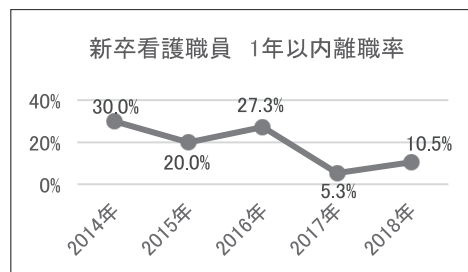
新入職看護職者支援委員会：西浦 美香

2018（平成 30）年度は次の 2 点の『ちから』をつけられるような委員会活動を行った。

1. 新入職看護職者を支援する体制を強化するための実行力

新卒看護職員の退職者数は 2 名（離職率 10.5%）であったが、4 月採用の既卒看護職員の退職者数・中途採用者の退職者数はともに 0 名であった。

結果的には、目標数値とした離職率 0% とはならなかったが、各看護単位で、委員をはじめ先輩看護師達が意図的にオープクエスチョンで問い掛けるなど、新人達の考えを引き出すような関わりを続けながら、新人達の“居場所づくり”に注力したことは評価に値する。



2. 確実な研修運営のための発想力・創造力・行動力

各委員達は、研修開催の 3 ヶ月前から勤務調整を始め、アクションプランに沿って 2 ヶ月前から研修準備に取り掛かることができていた。前年度までに研修の土台となるものは、ほぼ整っていたためやりやすかったことも事実だが、それぞれの研修担当者が協働し、事前に新人達の現状を情報収集するなど、受講者のレディネスに合わせた教育内容・方法に変化させながら研修内容を洗練させていった取り組みは評価できる。

看護研究委員会：西 ひろみ

看護研究研修は、全日程を修了した受講生は 6 組（7 名）であった。3 年目となり研究課題を取り組むにあたり個々人の進捗状況に合わせて個別指導を受けることができた研修であった。外部講師の葉山先生から研究計画書を作成、実施、論文をまとめるまで 1 つ 1 つ丁寧に指導があり全員、看護研究の具体的実践方法について理解できたと評価している。

看護部内で約 6 年ぶりの「院内看護研究発表会」を平成 31 年 3 月 15 日開催、延べ 66 名の参加があった。委員会が主体となり要綱作成し企画、運営、開催、評価、論文集作成まで行った。研究成果の集大成として 6 組全員が発表することができた。発表者が得た知見から、質疑応答などで議論できたことで「臨床の実践家が行う看護研究」に触れるきっかけになったと考える。看護研究に関する知的好奇心の育みは、院内で看護研究発表会が開催したことも相まって、日頃の看護の中で疑問に思いながらのケアや気付きを大切にしたいという意見が多数あり、今後、看護研究に繋げていけるように継続的な支援が必要と考える。

当院の研究の質は確実に向上している。これからも看護の質向上に役立つような質の高い看護研究を目指し活動を行っていく。

患者サービス向上委員会：石黒 早苗

看護サービス提供者としての資質向上を図る目的で、院内基準に沿った身だしなみチェックを実施。定期的な啓蒙活動を行う事で、身だしなみを整える動機付けとなった。

療養環境を整えるための 5 S 活動では、挨拶カードの院内統一と各病棟で収納しやすい場所設定を行い、運用手順に沿って看護部内で挨拶カードの活用を統一できた。担当看護師を明確にすることで、患者や家族、多職種と円滑なコミュニケーションを図るきっかけとなった。

年間を通じ、事例を通して「医療サービスとは何か？医療接遇とは何か？」を考える機会を持ち、責任感があり患者に優しい医療接遇が実践できるスタッフの育成に努めた。

臨地実習指導者委員会：高橋 晶子

学習と成長の視点において、以下の2つの項目について活動を行った。

1. 『実習指導』における基礎知識の習得と伝達

委員会内で毎回15分間学習会の時間を設け、臨地実習指導における基礎教育の現状や指導方法の知識を深めることに努めた。また、指導場面の事例検討を行い、内容をポスター形式にまとめ各部署のスタッフへフィードバックをすることができた。委員の中で大阪府看護協会実習指導者講習会に2名参加し知識の習得に務めている。

2. 実習しやすい環境作り

看護学校の教員の入れ替わりも多い状況の中、学生や患者に影響がないように委員自身が積極的に教員との連携を意識して関わっていた。また、日々の業務が忙しくなる中でも、学生が置き去りにならないように意識を持って関わっていた。その結果、学生からも「実習が楽しかった」「充実した実習だった」など声も聞かれ、効果的な実習ができたのではないかと評価している。実習説明会や実習連絡協議会などにも委員自身が参加し、教育現場の現状を知ることもできた。次年度は、日々の関わりにおいて更に学生の考えや思いを引き出し、効果的な指導が出来るように努めていきたい。

医療社会事業部

社会課

「わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります」という日本赤十字社の Mission statementのもと日々業務をおこなっており、赤十字運動の担い手として、人道の実現のために利己心と闘い、無関心に陥ることなく、人の痛みや苦しみに目を向け、常に想像力をもって行動しています。

<平成 30 年度スタッフ>

濱田 健司（社会課長）

綱嶋 準（社会係長）

■平成 30 年度実績（平成 31 年 3 月 31 日現在）

平成 30 年度日本赤十字社大阪府支部救護員（救護班要員）

救護班要員 44 名 医師 5 名、看護師長 5 名、看護師 10 名、助産師 1 名、
こころのケア 6 名、薬剤師 5 名、主事 10 名、補助 2 名

	第 1 班	第 2 班	第 3 班	第 4 班	第 5 班
医 師	岡本 文雄	後藤 健一	平野 玄起	吉見 宏平	小林 稔弘
看 護 師 長	山内 洋平	井上 尚代	前田 敦子	秋山 由衣	鹿野 瑠美
看 護 師	有持 由江	溝邊ゆかり	亀岡さつき	吉川 三保	武内 綾香
	橋本 龍	田中 彩子	甲斐三保子	辻 佳恵子	吉村 弥生
主 事	迫田 博史	川崎 清司	吉田 桂	濱田 健司	濱田 敦
	松原 健夫	佐橋 克哉	松宮 源朗	綱嶋 準	木野村 亨
薬 剤 師	小西 史子	濱武 清範	奥村 優介	宮西 将之	酒井ちひろ
補 助	濱田 健司・綱嶋 準				
こころのケア要員	阿部 哲子・高田 佳織・川崎 知子・門脇 寛子・村嶋 涼子・井上 尚代				
助 産 師	岡本 佳子				

- ◆ 日赤災害医療コーディネーター 救急部長 岡本 文雄
日赤災害医療コーディネートスタッフ 社会課長 濱田 健司

- ◆ 国際活動 国際救援・開発協力要員の登録状況
原田 香織

- ◆ こころのケア指導者
阿部 哲子、高田 佳織、川崎 知子、門脇 寛子、村嶋 涼子、井上 尚代

◆ 赤十字救急法指導員

青木 和美、高田 佳織、石黒 早苗、仲 砂千代、前田 敦子、梅本 美紀、清田 絢子、
南波 広美、村上美穂子、佐橋 克哉、永本 和弘、山崎 孝子、和田 香織、吉川 三保、
松岡 郷子、田渕 美世、濱田 健司、亀岡さつき、石原 早苗、山下 拓郎、村嶋 涼子、
友安 直美

◆ 第2級陸上特殊無線技師

迫田 博史、篠田 隆史、佐橋 克哉、阪本 達矢、西村 大樹、山崎 孝子、
吉田 桂、河野 博文、吉岡健太郎、濱田 健司、網嶋 準

●平成30年度災害 救護員派遣

月 日	災害名 / 派遣場所	派遣者	人数
6月20日	大阪府北部地震 茨木市保健センター	医 師 後藤 健一 薬 剤 師 小西 史子 主 事 濱田 健司	3
7月21日 ～7月24日	平成30年7月豪雨 岡山県倉敷市真備町	看 護 師 長 高田 佳織 看 護 師 辻 佳恵子 薬 剤 師 小西 史子 主 事 中村 義隆	4

●平成30年災害対策訓練研修会

【救護員研修会】

月 日	研修会名	参加者	人数
4月10日	平成30年度 第1回日本赤十字社大阪府支部救護員指導者協議会 および平成30年度日本赤十字社第4ブロック合同 救護訓練にかかる管内事前会議（第7回）	救 急 部 長 岡本 文雄 薬 剤 部 長 小島 一晃 看護副部長 岸 恵美 社 会 課 長 濱田 健司 社 会 係 長 網嶋 準	5
4月13日	平成30年度 日本赤十字社第4ブロック合同救護訓練（24回） にかかる第3回第4ブロック救護員指導者協議会	救 急 部 長 岡本 文雄 薬 剤 部 長 小島 一晃 看護副部長 岸 恵美 看 護 師 長 高田 佳織 社 会 課 長 濱田 健司 社 会 係 長 網嶋 準	6
4月19日	大阪国際空港緊急計画連絡協議会 第1回医療救護部会	社 会 課 長 濱田 健司 社 会 係 長 網嶋 準	2
5月11日	平成30年度 日本赤十字社第4ブロック合同救護訓練にかかる 管内事前会議（第8回）	救 急 部 長 岡本 文雄 薬 剤 部 長 小島 一晃 看 護 師 長 高田 佳織 社 会 課 長 濱田 健司 社 会 係 長 網嶋 準	5

5月24日	平成30年度 日本赤十字社第4ブロック合同救護訓練にかかる 管内事前会議（第9回）	看護副部長 岸 恵美 看護師長 高田 佳織 社会課長 濱田 健司	3
6月1日	平成30年度 日本赤十字社第4ブロック合同救護訓練にかかる 管内最終打合せ及び会場設営について	薬剤部長 小島 一晃 看護副部長 岸 恵美 看護師長 高田 佳織 社会課長 濱田 健司 社会係長 網嶋 準	6
6月30日	平成30年度 日本赤十字社大阪府支部救護員基礎研修会	看護師 岩村 広美 薬剤師 小西 史子 主 事 西村 大樹 中村 仁美 扇田 裕允 亀山 雅貴 東條 文子 藤岡 寛子 網嶋 準 木野村 亨 川崎 清司 中村ゆかり スタッフ 濱田 健司	13
7月12日	大阪国際空港緊急計画連絡協議会 第1回訓練担当者会議	社会係長 網嶋 準	1
8月2日 ～8月3日	平成30年度 「無線従事者養成課程」	社会係長 網嶋 準	1
9月11日	平成30年度 第2回日本赤十字社大阪府支部救護員指導者協議会	救急部長 岡本 文雄 薬剤部長 小島 一晃 看護副部長 岸 恵美 看護師長 高田 佳織 社会課長 濱田 健司 社会係長 網嶋 準	6
9月20日	大阪国際空港緊急計画連絡協議会 第2回医療救護部会	社会課長 濱田 健司	1
9月20日	平成30年度 第1回日本赤十字社大阪府支部こころのケア研修会	看護師 佐々本直美 辻 佳恵子 薬剤師 小西 史子 検査技師 扇田 裕允 理学療法士 濱田 敦 主 事 中村ゆかり 藤岡 寛子 網嶋 準 講師【看護師長】 門脇 寛子	9
10月21日	平成29年度赤十字救急法指導員養成講習（計8回）	看護師 村嶋 涼子	1

10月21日	平成30年度 日本赤十字社大阪府支部ステップアップ・ dERU 研修会	看 護 師 主 事 ス タ ッ プ 辻 佳恵子 甲斐三保子 福場久美子 濱武 清範 西村 大樹 中村 仁美 扇田 裕允 今井翔太郎 吉田 桂 濱田 敦 東條 文子 藤岡 寛子 網嶋 準 木野村 亨 川崎 清司 中村ゆかり 佐橋 克哉 濱田 健司	18
11月10日	MCLS 標準コース	医 師 看 護 師 放射線技師 後藤 健一 福場久美子 原 祥太郎	1
11月15日	平成30年度 第2回日本赤十字社大阪府支部こころのケア研修会	看 護 師 薬 剤 師 放射線技師 主 事 講師【看護師】 辻 ちひろ 福場久美子 前田 敦子 酒井ちひろ 西村 大樹 中村 仁美 木野村 亨 東條 文子 篠田 隆史 川崎 清司 村嶋 涼子	11
11月30日 ～12月1日	日本赤十字社 第4ブロック合同原子力災害対応基礎研修会	放射線技師 看 護 師 中村 義隆 松山 佳央 前田 敦子	3
12月6日	2018年度 大阪国際空港航空機事故対策総合訓練 評価会	社 会 課 長 社 会 係 長 濱田 健司 網嶋 準	2
12月7日 ～12月8日	日赤災害医療コーディネート研修会	医 師 看 護 師 平野 玄起 橋本 龍	2
12月18日	第25回日本赤十字社 第4ブロック合同救護訓練にかかる 第4ブロック救護員指導者協議会（第1回）	救 急 部 長 薬 剤 部 長 看護副部長 社 会 係 長 岡本 文雄 小島 一晃 岸 恵美 網嶋 準	4

2月16日 ～2月18日	全国救護班研修	医 師 李 剛至 看 護 師 秋山 由衣 主 事 網嶋 準 ス タ ッ フ 岡本 文雄	4
2月21日	2018年度 大阪国際空港緊急計画連絡協議会（臨時）医療部会	社 会 課 長 濱田 健司	1
2月28日	第25回日本赤十字社 第4ブロック合同救護訓練にかかる 第4ブロック救護員指導者協議会（第2回）	薬 剤 部 長 小島 一晃 看護副部長 岸 恵美 社 会 課 長 濱田 健司 社 会 係 長 網嶋 準	4

【災害救護訓練】

月 日	訓練名	派遣先	参加者	人数
6月2日	第24回日本赤十字社 第4ブロック合同 災害救護訓練	日本赤十字社 大阪府支部 大阪城公園	医 師 後藤 健一 研 修 医 井上健太郎 看 護 師 長 山内 洋平 看 護 師 橋本 龍 有持 由江 助 産 師 岡本 佳子 薬 剤 師 小西 史子 主 事 松原 健夫 吉岡健太郎 ス タ ッ フ 岡本 文雄 小島 一晃 岸 恵美 高田 佳織 濱田 健司 網嶋 準	15
10月11日	院内消防訓練	高槻赤十字病院	全職員対象	
11月15日	2018年度大阪空港航空機 事故対策部分訓練	大阪国際空港	医 師 平野 玄起 看 護 師 長 井上 尚代 看 護 師 溝邊ゆかり 甲斐三保子 主 事 吉田 桂 佐橋 克哉 濱田 健司 網嶋 準	8
11月21日	平成30年度大阪府 国民保護共同実動訓練	東大阪市 花園ラグビー場	医 師 平野 玄起 研 修 医 江田 哲信 看 護 師 亀岡さつき 主 事 酒井ちひろ 濱田 健司	5
12月10日	院内災害訓練	高槻赤十字病院	全職員対象	

1月6日	2019年 高槻市消防出初式	高槻市立第一中学校	研修・厚生係長 地域医療連携課主事 社 会 課 長 社 会 係 長	山崎 雅樹 永阪 彩加 濱田 健司 綱嶋 準	4
1月26日	高槻日赤フェスタ	災害救護倉庫	看 護 係 長 看 護 師 理学療法係長 研修・厚生係長 総 務 係 長 広報係主事 社 会 課 長 社 会 係 長	松下めぐみ 佐賀 昭子 新地 史章 山崎 雅樹 迫田 博史 五百井栄実 濱田 健司 綱嶋 準	8
2月10日	第13回 高槻市総合防災訓練	MCA 無線訓練 日赤活動展示	社 会 係 長 社 会 課 長 社 会 係 長	綱嶋 準 濱田 健司 綱嶋 準	1 2

赤十字救急法指導員（職員）研修会（大阪府支部にて開催）

5月17日	平成30年度赤十字救急法指導員 指導実績未達成研修	看 護 師	村上美穂子	1
5月17日 6月15日	平成30年度赤十字救急法指導員研修	看 護 師 長 看 護 係 長 看 護 師 作業療法士 社 会 課 長 人 事 係 長 主 事	青木 和美 石黒 早苗 高田 佳織 前田 敦子 田淵 美世 清田 絢子 松岡 郷子 村上美穂子 仲 砂千代 和田 香織 梅本 美紀 南波 広美 吉川 三保 亀岡さつき 山崎 孝子 濱田 健司 佐橋 克哉 山下 拓郎 石原 早苗	19
5月25日	平成30年度 健康生活支援講習・幼児安全法指導員研修	看 護 師	濱田 恵 豊留ひとみ 仲 砂千代 工藤ゆかり	4
10月21日	平成30年度赤十字資格継続研修	看 護 師	太田多恵子 鈴木 美代	2

1月9日～ 2月18日まで 計7日	赤十字幼児安全法指導員養成講習	看 護 師 亀岡さつき 社 会 課 長 濱田 健司	2
1月18日～ 3月10日まで 計8日	赤十字救急法指導員養成講習	看 護 師 友安 直美	1

● 30 年度赤十字救急法救急員資格継続研修（高槻赤十字病院にて開催）※☆は指導員リーダー

月 日	受講生	人数
9月29日	秋元明日香・新井かほる・大西 栄美・門脇 寛子・金岡 裕美・河崎 奈美・ 小西 瑠依・山藤 広美・永田 千恵・永田 奈月・丸山 尚子・道田悠里江・ 森田さゆり・吉川 千晶・吉村 桃子	19
指導員	☆村上美穂子・青木 和美・前田 敦子・濱田 健司	
3月16日	秋山 由衣・有持 由江・井本 麻紀・川崎 知子・木村 薫・楠 由起子・ 河野花会子・鈴木 弓真・女鹿田由美子・山内 洋平・吉村 弥生	14
指導員	☆亀岡さつき・南波 広美・濱田 健司	

● 30 年度赤十字救急法救急員基礎養成講習会（高槻赤十字病院開催）※☆は指導員リーダー

月 日	受講生	人数
10月27日 11月10日 11月11日	磯部まどか・田村 華奈・上田はる香・中野志津子（基礎のみ）・福井 直美・ 中本やよい・金子みなみ・保郡 希未・崔 吉子・上野美沙子・赤尾亜希子・ 佐賀 昭子・吉田美代子・鳴 美貴子・西川 昭子・兼島 里実・松山 寛子・ 松井 里佳・綱嶋 準・東崎菜穂子	35
指導員	10/27 ☆仲 砂千代・梅本 美紀・亀岡さつき・永本 和弘・濱田 健司 11/10 ☆佐橋 克哉・吉川 三保・村上美穂子・前田 敦子・清田 絢子・濱田 健司 11/11 ☆南波 広美・仲 砂千代・石黒 早苗・濱田 健司	

赤十字救急法救急員指導員派遣（支部にて開催）※養成1→養成1日目、養成2→養成2日目

月 日	参加者
8月27日（基礎）	佐橋 克哉・仲 砂千代・濱田 健司・村上美穂子
8月28日（養成1）	山下 拓郎・石原 早苗・清田 絢子・南波 広美・前田 敦子
8月29日（養成2）	青木 和美・石黒 早苗・高田 佳織
9月11日（基礎）	山下 拓郎・山崎 孝子・梅本 美紀
2月25日（基礎）	村嶋 涼子・濱田 健司
2月26日（養成1）	田渕 美世・亀岡さつき
2月27日（養成2）	山下 拓郎
3月 8日（継続）	和田 香織
3月12日（基礎）	山崎 孝子
3月13日（養成1）	吉川 三保

健康生活支援講習 講師派遣

6月12日 (第1回)	豊留ひとみ
6月22日 (第1回)	該当者なし (大阪府支部から)
6月29日 (第1回)	工藤ゆかり
7月 2日 (第1回)	仲 砂千代
7月13日 (第1回)	濱田 恵
11月19日 (第2回)	工藤ゆかり
11月22日 (第2回)	仲 砂千代
11月27日 (第2回)	豊留ひとみ
11月30日 (第2回)	該当者なし (大阪府支部から)
12月 3日 (第2回)	濱田 恵
1月23日 (第3回)	仲 砂千代
1月30日 (第3回)	工藤ゆかり
2月 6日 (第3回)	該当者なし (大阪府支部から)
2月13日 (第3回)	濱田 恵
2月20日 (第3回)	豊留ひとみ
2月 8日 (第3回)	井手 淳子
2月15日 (第3回)	仲 砂千代
2月22日 (第3回)	工藤ゆかり

平成 30 年度ボランティア受入れ・参加

月 日	訓練名	人数
4 月 15 日 29 日	天理教ひのきしん	543
4 月 29 日	移動採血車来院	27
5 月 17 日	移動採血車来院	29
5 月 30 日	アンサンブル「サフラン」患者慰問コンサート	31
5 月 31 日	ANA グループ客室乗務員による「すずらんのお見舞い」	5
6 月 25 日	クラリネット、歌、ピアノ演奏	38
9 月 27 日	高槻 TIE'S 慰問演奏会	13
10 月 18 日	移動採血車来院	28
10 月 25 日	高槻市立第三中学校職業インタビュー	25
11 月 8 日	緩和ケアボランティア公開講座	22
11 月 18 日	平成 30 年度秋季「高槻市環境美化推進デー」清掃ボランティア活動参加	2
11 月 26 日	クラリネット、歌、フルート、ピアノ演奏	43
11 月 29 日	高槻市立阿武山小学校 3 年生児童、災害救護倉庫等見学	22
12 月 18 日	アンサンブル「サフラン」患者慰問コンサート	30
12 月 22 日	7 病棟にて ja.ma.ta によるボランティア活動	9

中学生実習職業体験受入

月 日	項 目	人数
平成 30 年 10 月 25 日、26 日	高槻市立阿武山中学校 第 2 学年生 職業体験学習	2
平成 30 年 10 月 30 日、31 日	高槻市立阿武野中学校 第 2 学年生 職業体験学習	2
平成 30 年 11 月 6 日、7 日	茨木市立北陵中学校 第 2 学年生 職業体験学習	2
平成 30 年 11 月 8 日、9 日	茨木市立太田中学校 第 2 学年生 職業体験学習	2
平成 30 年 11 月 27 日、28 日	高槻市立第九中学校 第 2 学年生 職業体験学習	2

その他（ ）内前年度

平成 30 年度 赤十字社員増強運動実績	375 人	225,000 円 (364 人 197,500 円)
赤十字の活動資金（募金箱分）		102,120 円 (144,256 円)
平成 30 年度 NHK 海外たすけあい義援金実績		9,771 円 (3,630 円)
平成 30 年 台風第 18 号災害義援金		3,924 円 (1,261 円)
平成 30 年 大阪北部地震災害義援金		80,303 円

(平成 30 年度糖尿病教室)

月 日	テーマ	講 師	参加者
4 月 10 日	糖尿病との付き合い方 糖尿病合併症について 食事療法 1 (ミニ健康講座) 糖尿病と運動	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長 金子至寿佳 糖尿病療養指導士 長野 友美 管理栄養士 廣田 眞希 理学療法士 倉繁 浩一	10
5 月 8 日	糖尿病とくすり 糖尿病の検査について 食事療法 2 (ミニ健康講座) 糖尿病と救急医療	薬剤師 小西 史子 検査技師 森内 沙紀 管理栄養士 廣田 眞希 糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長 金子至寿佳	10
6 月 12 日	患者体験談意見交換会 糖尿病について 食事療法 3 (ミニ健康講座) 糖尿病と循環器疾患	参加者全員 糖尿病療養指導士 和田 房子 管理栄養士 廣田 眞希 循環器科医師 李 剛至	16
7 月 10 日	糖尿病との付き合い方 糖尿病について 食事療法 1 (ミニ健康講座) 糖尿病と外科手術	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長 金子至寿佳 糖尿病療養指導士 富久真由美 管理栄養士 南 美保子 消化器外科医師 恒松 一郎	10
8 月 14 日	糖尿病とくすり 糖尿病の検査について 食事療法 2 (ミニ健康講座) 糖尿病に対する運動療法	薬剤師 小西 史子 検査技師 佐藤 裕司 管理栄養士 南 美保子 理学療法士 岸田 尚子	16
9 月 11 日	患者体験談 糖尿病について 食事療法 3 (ミニ健康講座)	参加者全員 糖尿病療養指導士 角屋 麻由 管理栄養士 南 美保子	11
10 月 9 日	糖尿病との付き合い方 糖尿病について 食事療法 I (ミニ健康講座) 糖尿病と網膜症	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長 金子至寿佳 糖尿病療養指導士 松岡 郷子 管理栄養士 平野なつみ 眼科医師 木村 大作	16
11 月 13 日	糖尿病とくすり 糖尿病の検査について 食事療法 2 (ミニ健康講座) 糖尿病と運動	薬剤師 小西 史子 臨床検査技師 土居美都子 管理栄養士 平野なつみ 理学療法士 倉繁 浩一	11

12月11日	患者意見交換 糖尿病について 食事療法3 (ミニ健康講座) 糖尿病と足病変	参加者全員 糖尿病療養指導士 管理栄養士 皮膚科医師	長野 友美 平野なつみ 古川 福実	18
1月8日	糖尿病との付き合い方 糖尿病について 食事療法1 (ミニ健康講座) 小児Ⅱ型糖尿病	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長 糖尿病療養指導士 管理栄養士 小児科医師	金子至寿佳 角屋 麻由 中村やすこ 瀧北 章一	20
2月12日	糖尿病とくすり 糖尿病の検査について 食事療法2 (ミニ健康講座) 糖尿病と運動	薬剤師 検査技師 管理栄養士 理学療法士	小西 史子 岡田 悠 中村やすこ 倉繁 浩一	17
3月12日	患者意見交換 糖尿病について 食事療法3 (ミニ健康講座) 糖尿病について	参加者全員 糖尿病療養指導士 管理栄養士 糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長	長野 友美 中村やすこ 金子至寿佳	17

(平成30年度市民公開講座)

月 日	テーマ	講 師		参加者
6 月 30 日	しっかり学ぼう！関節リウマチ (クロスパル高槻) 1. 関節リウマチの治療の選択 2. 関節リウマチ 日常のケア・注意点	整形外科部長 リウマチケア看護師	小田 幸作 野口 郁代	72
2 月 23 日	しっかり学ぼう！関節リウマチ (茨木イオンシネマ6) 1. 関節リウマチ 日常生活のケア・注意点 2. 関節リウマチのリハビリ 3. 関節リウマチの治療の選択	整形外科部長 リウマチケア看護師 リハビリテーション科	小田 幸作 野口 郁代 八木 紀子	53

地域医療連携課

<スタッフ>

渡部 悟 (地域医療連携課長)
遠藤 美智子 (地域医療連携係長)
大迫 明子 (主事)
永阪 彩加 (主事)
仁志出 裕介 (地域医療連携推進主事)
阪本 達矢 (入退院支援係長)
宮前 弥生 (嘱託主事)
河津 絵里 (パート主事)
川崎 清司 (主事)

<平成 30 年度活動実績>

(地域医療連携係)

- ・ 紹介件数の目標を 535 件／月と決め、30 年度は年間目標数（6420 件）を達成
- ・ 断診リストの作成・報告
- ・ 断診の根絶を目指し、入院依頼及び他病院からの転医時、お断りされた場合、各科部長へ直接副センター長及び課長が交渉を行いました
- ・ 紹介先への返書作成を徹底する為、毎月返書未作成リストを病院連絡会議へ提出
- ・ 登録医からの外来受診時は 5 分以内での応需を徹底
- ・ 茨木方面への送迎強化
- ・ 係内ミーティングの定期開催

(地域医療推進係)

- ・ 近隣病院への年 2 回の定期訪問を開始（7～8 月、11～12 月に各 40 病院訪問）
- ・ 年末に登録医へご挨拶訪問
- ・ 消防隊員向け勉強会の実施（年 1 回）
- ・ 日報の作成
- ・ 公開カンファレンス（消化器科）の担当部署となり、外部の医師参加数が増加（平成 29 年度 31 名、平成 30 年度 40 名）

(入退院支援係)

- ・ 日報の作成。
- ・ 係内ミーティングの開始（月 1 回）

(課全体の実施項目)

- ・ FAX 送信時の誤送信防止の為ダブルチェックの徹底を実施。
- ・ 係を跨り業務習得者を増やし、急な休みや夏期休暇中の業務体制の強化を実施。

平成 30 年度は紹介件数、入院稼働率も前年を上回りました。

◆共同診療は、合計 57 回実施されました。(昨年度 101 回)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
8 回	7 回	4 回	4 回	1 回	2 回	4 回	6 回	3 回	1 回	10 回	7 回

◆平成 31 年 2 月 16 日(土)ホテルグランヴィア京都にて『高槻赤十字病院地域連携の会』を開催。
登録医他 98 名、職員 56 名の参加がありました。「前立腺癌について」六車泌尿器科部長から、「全身疾患と目」植木眼科部長から、「高槻赤十字病院 緩和ケア病棟について」橋本緩和ケア科部長から講演を実施しました。

平成 30 年度研修会等開催実績

日時	研修名	参加人数
平成 30 年 10 月 6 日	市民公開講座「～広がる治療の選択肢～」	62 名

<平成 30 年度活動目標>

I、地域の人々に安全・安心な医療提供のために継続的に地域医療・院内の連携に努める

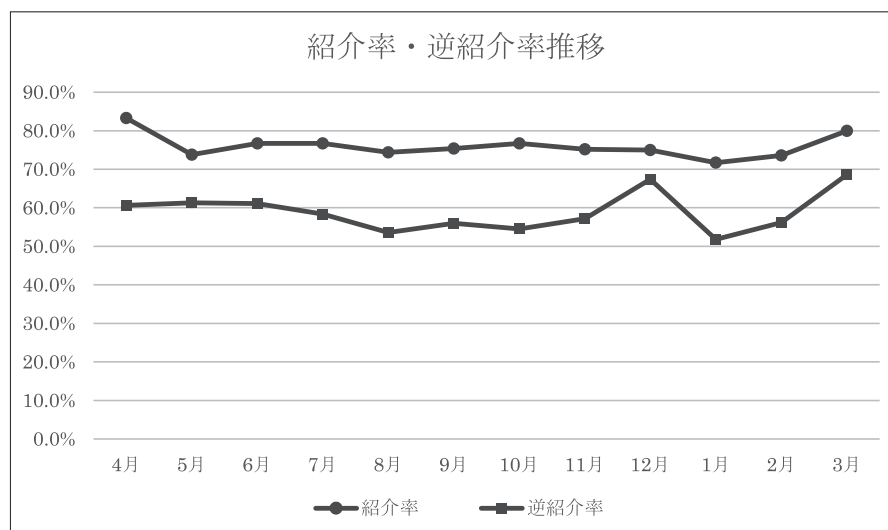
財務に関する事項	地域医療支援病院の継続	①紹介率 65%以上・逆紹介率 40%以上 ②地域支援病院に関する研修の実施
	登録医訪問の強化	①紹介患者の増加 ②当院の担当医師と共に訪問活動を強化
	がん診療拠点病院の獲得	①承認事項の実施 ②がん患者・家族に沿って支援強化
	紹介率のアップ	①オープン検査項目の増加 ②大腸内視鏡検査紹介への強化 ③登録医プレートの作成・配布 ④当院専用ファイルの作成・配布 ⑤近隣病院への年 2 回定期訪問
	がん連携パスの増加	①大阪府がん診療連携パス（肺・胃・肝・乳・大腸）の増加 ②がん疼痛緩和ケア地域連携パス運用に関する支援強化
顧客に関する事項	紹介された患者さんの受入態勢の迅速化	①予約依頼から 5 分以内返答の徹底
	登録医の期待に応える	① 100%返書を返す
内部プロセスに関する事項	登録医からの紹介患者を断らない	①当日緊急依頼については、全て受け入れる。 ②オープン検査結果等の返書は 100%返す ③月間紹介件数の目標を立て、紹介状況の把握を行う
	地域医療連携業務の強化	①共同診療件数の前年度比 20%上昇 ②開放病床利用率の上昇

Ⅱ、個々の専門性を活かした質の高い情報の提供と自己研鑽を行う

戦略に関する事項	個々の専門性を発揮し医療連携、患者支援の質の向上を図る	①院内院外への研修に積極的参加 ②患者支援サービスについて内容検討 ③課内の情報共有強化の実施
----------	-----------------------------	---

Ⅲ、平成 30 年度の紹介率と逆紹介率

年間 紹介率 76.1%
逆紹介率 58.7%



地域医療連携課 医療福祉相談係

<スタッフ>

志水 陽子（医療福祉相談係長・社会福祉士）
 信本 愛（医療社会事業司・社会福祉士）
 大島由起子（医療社会事業司・社会福祉士）
 中野 慶子（医療社会事業司・社会福祉士）
 三好 里沙（医療社会事業司・社会福祉士）※平成 30 年 6 月 1 日より

<特色>

医療福祉相談係ではソーシャルワークを担当しており、厚生労働省の業務指針に基づき①療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助、②退院援助、③社会復帰援助、④受診・受療援助、⑤経済的問題の解決・調整援助、⑥地域活動を行っている。

また、当院は府指定のがん診療拠点病院に指定されており、がん相談支援センターでの業務も医療ソーシャルワーカーが、がん看護専門看護師や緩和ケア認定看護師とともに、がん相談支援センター相談員を兼務することで継続した。

平成 30 年度はソーシャルワーカーが 2 名増員となった。前年度に 4 名いたソーシャルワーカーが 1 名退職したので実質 1 名の増員である。前年度に引き続き、ケースの担当を病棟ごとに分担し、より一層の病棟との連携強化やケース依頼経路の整備を図った。ソーシャルワーカーが各自 2 病

棟ずつ担当するよう割り振ったが、経験年数や適性等を考慮し、途中で担当変更を行うこともあって定着するのに時間を要した。

また、昨年度に引き続き、地域との連携や自己研鑽のため、三島圏域リハビリテーション連絡協議会や、大阪医療ソーシャルワーカー協会、三島圏域ソーシャルワーカー連絡会、全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会等に所属し、研修活動などに参加した。また、担当圏域地域包括ケア会議や難病ネットワーク会議等、地域包括支援センターや医師会主催の会議にも出席した。

< 30 年度の活動実績 >

「全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会」の日報・月報様式を使用し、活動実績を集計した。

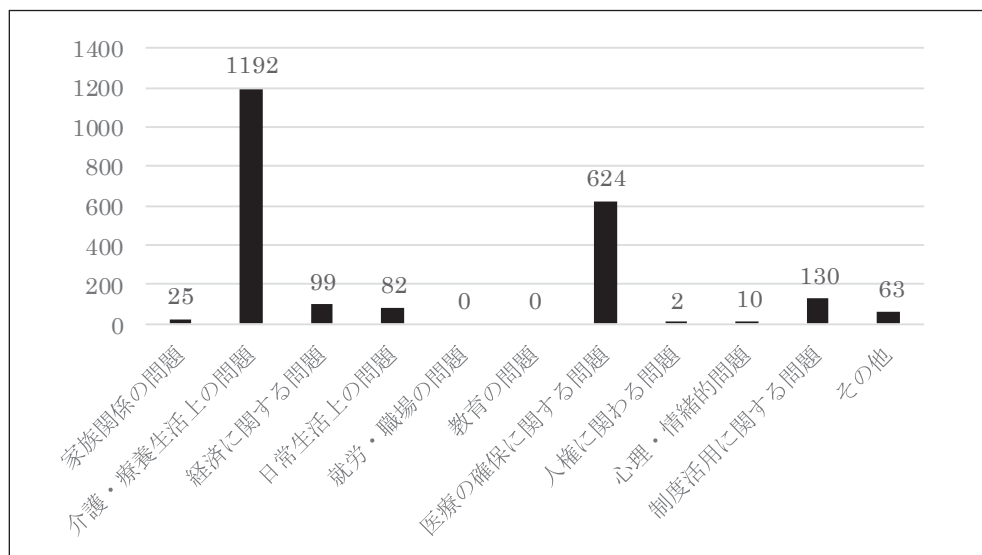
◇年度実人数・・・計 1,634 名

◇対応した問題（1 問題 1 ケースとしてカウントしたため延べ相談件数となる）

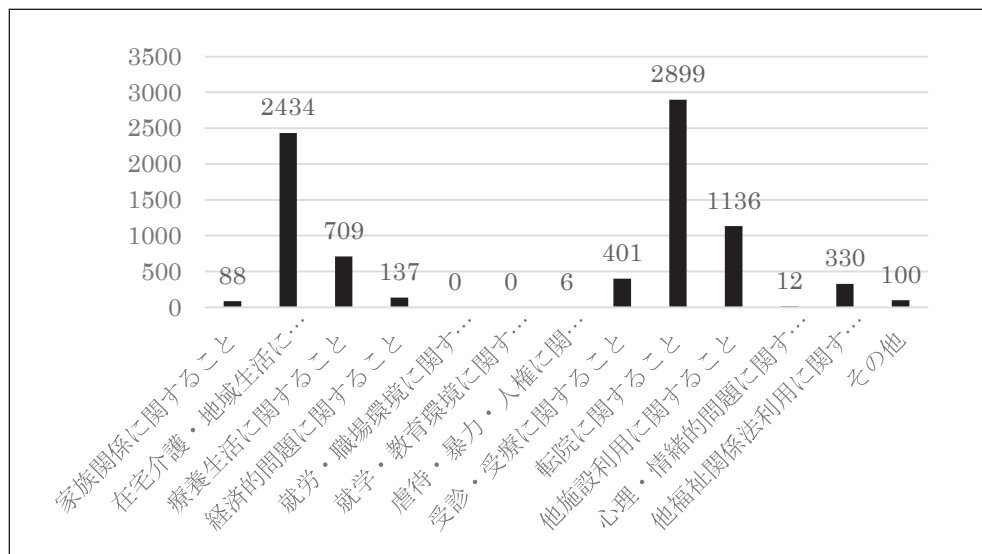
計 7,471 件

以下に、①問題件数、②相談援助内容、③援助方法、④新ケースの紹介経路をグラフにて示す。

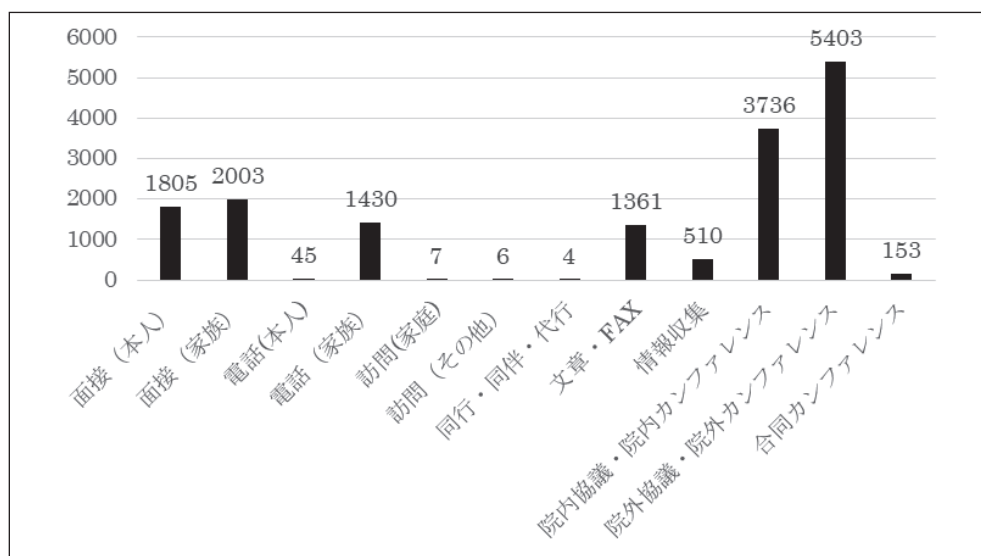
①問題件数（実件数として計上 単位：件 n = 2,227 件）



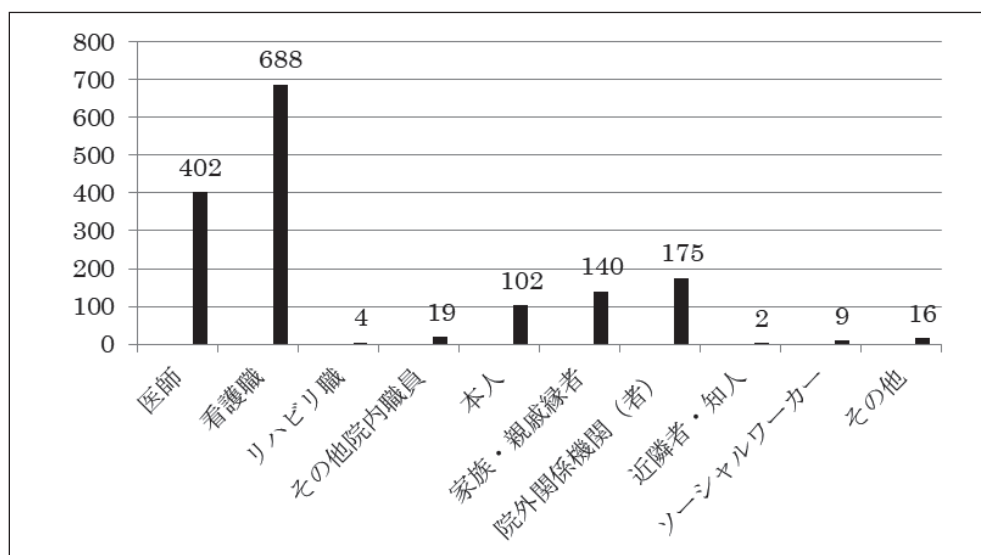
②相談援助内容（延件数・複数カウント 単位：件 n = 8,252 件）



③援助方法（複数カウント 単位：件 n = 16,463 件）



④新ケースの紹介経路（単位：件 n = 1,557 件）



上記件数は個別ケースとして取り扱った件数である。そのケースに費やされた時間が反映されていないため、数値だけで業務内容をあらわすことは難しい。対応した問題としては介護・療養生活上の問題が約5割を占めている。相談援助内容では、転院調整援助と他施設利用援助とで約5割、在宅介護・地域生活に関する相談援助が約3割を占めている。このことは、医療ソーシャルワーカーの業務のうち退院支援にかかる業務の特徴や必然性を示している。援助方法の内訳からみてわかるように、患者本人・家族との直接的な面接や院内外の連絡調整が多くを占めている。合同カンファレンス開催の割合は援助方法全体からすると1割ではあったが、かかりつけ医や訪問看護師、ケアマネジャーなど地域を支える社会資源と患者家族を橋渡しする場として重要な場であった。家庭訪問や同行ケースの件数は年々減少しているが、これまで医療ソーシャルワーカーが担ってきた役割を、ケアマネジャーをはじめとした院外の関係機関と連携し、引き継ぐことで分担している。必要時においては、家庭訪問や公的機関への同行は継続していく。

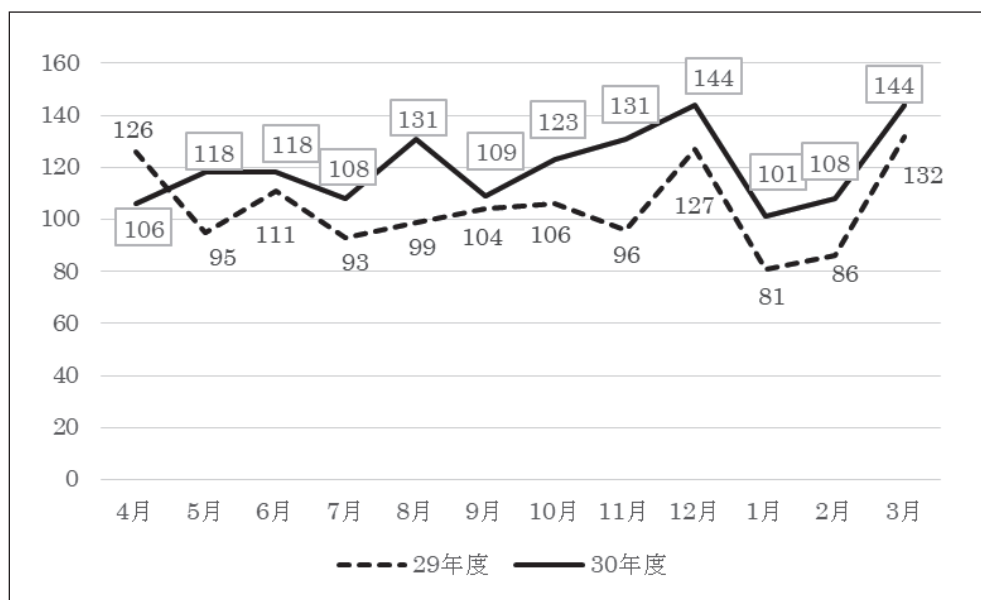
個別ケース以外にルーチンワークとして介護保険主治医意見書や身体障がい者診断書等、書類の管理や整備なども担当した。医療ソーシャルワーカーが、書類等の相談をきっかけとして患者の生活背景や家族の状況をアセスメントし、ニーズの把握につなげ、新たに問題解決のため調整するという機能は担えるが、書類管理や整備に費やす時間も多くを占めている。事務作業が他の事務担当者等に移行することによりカンファレンスやアセスメントに費やす時間がより確保できるため、引き続き他部署との役割分担を検討していきたい。

退院調整には院内外の関係者によるチームでの関わりが必要であり、当院の中でも定着してきている。医療ソーシャルワーカーはその地域連携の窓口という役割を果たし、患者・家族と社会資源だけでなく、院内外の関係職種の連携そのものを橋渡ししているといえる。連携にともない、退院支援計画書や介護連携指導記録、退院時共同指導記録の作成を行った。

退院支援計画書は、毎日担当病棟の看護師と医療ソーシャルワーカーとでカンファレンスを行い、支援が必要な患者に対して作成した。退院調整看護師とも連携しながら毎日のカンファレンスで問題点を抽出する機会も増えていき、若干ではあるが前年度よりも算定件数は増加した。

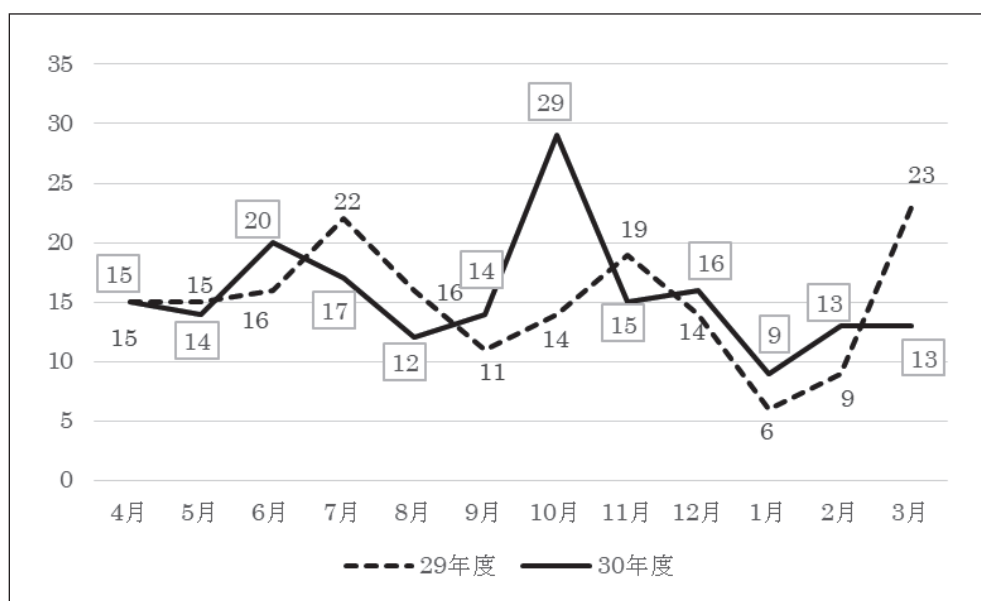
介護連携指導記録は、病院を訪問したケアマネジャー等に情報提供を行うことで算定できるが、これについては昨年度の件数とほとんど変化がなかった。これは、ケアマネジャーが来院しても、利用者に直接面会し、医療ソーシャルワーカーや病棟看護師など医療機関の職員から情報収集することなしに帰ってしまうパターンが多いことに起因すると思われる。また、例年インフルエンザの流行に伴う面会制限により1月2月はケアマネの来院も減少傾向にある。今後も継続してケアマネジャーとの連携を密に取り、ケアマネジャーが来院の際にはなるべく面談のうえ連携していく努力を重ねて行くとともに、病棟スタッフへも周知を行っていく。

⑤退院支援加算算定件数（平成29年度・平成30年度の比較 単位：件）



総件数 平成29年度：1,256件 平成30年度：1,441件
 点数 平成29年度：238,640点 平成30年度：273,790点

⑥介護連携指導加算算定件数（平成 29 年度・平成 30 年度の比較 単位：件）



総件数 平成 29 年度：180 件 平成 30 年度：187 件

点数 平成 29 年度：72,000 点 平成 30 年度：74,800 点

また、当院は平成 29 年度より認知症ケア加算 1 の施設基準を取得しており、医療ソーシャルワーカーも 2 名、専任として認知症ケアサポートチームに所属し、週 1 回のカンファレンスに参加した。その他、整形外科病棟のカンファレンスや心臓リハビリテーションカンファレンスにもチームの一員として参加した。

上記件数以外にがん相談支援センターの相談業務も兼務で行っているが、それについては「がん相談支援センター」の項目で活動報告を行う。

<令和元年度の活動目標>

1. 社会資源の整備と開拓
 - 1) 社会資源（転院・入所先も含む）の新規開拓をし、患者・家族の選択肢を広げる。
 - 2) 変化し続ける制度の情報収集に努め、なるべく簡素に可視化し、関係者・患者・家族への周知に努める。
2. 地域や院外関係機関との連携を強化する。
 - 1) 地域の社会資源（かかりつけ医・ケアマネジャー・訪問看護師・ヘルパーなど）と常に連携をはかり、患者・家族と保健・医療・福祉の橋渡しとしての機能を果たす。
職能団体の活動に参加・協力する。
 - 2) 地域関係機関の活動や会議に出席し、情報収集に努める。
 - 3) 近隣の関係施設や医療機関への訪問を随時行い、連携強化をはかる。
 - 4) その他、地域の活動に参加・協力をを行い、連携をはかっていく。
3. 院内の連携を強化する
 - 1) 院内他部門との連携をよりいっそうはかり、役割分担を明確にしていく。
 - 2) 退院調整看護師・入院支援の看護師と協力・連携し、各病棟における退院調整計画カンファ

レンスを継続していく。また個別ケースについても情報共有・役割分担を行いながらチームで支援していく。

- 3) 認知症ケアサポートチームの一員として、対象患者のアセスメントや当該病棟へのコンサルテーションを行う。
- 4) 地域医療連携係と地域住民の前方支援・後方支援について情報共有・役割分担を行いながら協力・連携に努める。
4. 業務の整理を行う
 - 1) 記録の整備に努める。
 - 2) 業務統計の整備に努める。
5. 個人情報保護法に基づいた相談援助活動の方法を検討していく。
 - 1) 院外関係機関との情報交換
 - 2) 記録・書類の管理におけるセキュリティ
6. 教育・養成活動
 - 1) 医療ソーシャルワーカー志望の実習生(社会福祉学系大学生)の受け入れ・教育・指導に努める。
 - 2) 医療ソーシャルワーカーの現任研修の一環としての見学実習を受け入れる。
7. がん相談支援センター業務の一環を担う。
 - 1) 緩和ケア病棟入院相談の窓口担当
 - 2) がん相談支援センターの相談業務を協力して担当し、記録の整備と管理を行う。
8. 医療ソーシャルワーカーとしての資質向上・研鑽に努める。

大阪医療ソーシャルワーカー協会などの職能団体に所属し、会員との交流を図り研修等に参加する。

【医療福祉相談係長 志水陽子】

地域医療連携課 がん相談支援センター

<スタッフ>

楠岡 京(看護師※)※がん看護専門看護師
藤原 和子(看護師※)※緩和ケア認定看護師
志水 陽子(がん相談支援センター係長※)※社会福祉士
信本 愛(医療社会事業司※)※社会福祉士
大島由起子(医療社会事業司※)※社会福祉士
中野 慶子(医療社会事業司※)※社会福祉士
三好 里沙(医療社会事業司※)※社会福祉士 平成30年6月1日～
小島 一晃(薬剤師※)※がん専門薬剤師

<特色>

当院は大阪府指定のがん診療拠点病院に指定されている。がん相談支援センターの業務として、がんに関する一般的な情報提供、がん患者の療養上の相談、患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援などがある。当院では、がん相談の対象を院内外のがん患者・家族とし、いつでも気軽に相談できるように面談は予約なしで受けられる体制を整えている。相談内容に応じて、がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師および医療ソーシャルワーカーがそれぞれ兼務で対応し、

必要時には院内外の職種とも連携している。当院は緩和ケア病棟を有するため、緩和ケアおよび緩和ケア病棟に関する相談が多く、緩和ケア病棟入院相談（緩和ケア病棟担当医が行う外来の予約を含む）については医療ソーシャルワーカーが担当している。また、三島医療圏のがん診療拠点病院で院外の患者・家族も対象としたがん患者サロンを開催しているのは当院のみであり、院外のがん患者・家族への支援の場にもなっている。

<平成 30 年度の活動実績>

1. 相談活動

1) がん相談支援センターでは、ホームページ等で以下のように案内し、相談支援を行った。

- ・対象
がん患者・家族（他院通院中の方も可、匿名可）
- ・相談にかかる費用
無料 セカンドオピニオンについては有料
- ・受付日時
毎週 月曜日～金曜日 9時～16時
※予約不要であるが予め電話等で予約していただければ確実に対応できるとご案内している。
- ・相談員
がん相談支援センター相談員基礎研修（1）～（3）を修了しているがん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師・医療ソーシャルワーカー

2) 相談総件数（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月）：計 1,609 件（月平均 134 件）

平成 30 年 1 月より厚生労働省科学研究「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班」が作成した相談記入シートに合わせて相談内容や対応内容の入力項目を追加している。

[月別件数]

年月	平成 30 年									平成 31 年			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
相談件数	138	163	170	163	127	83	122	139	145	102	126	131	1,609

相談内容は一つの相談で複数の内容があるが、最も比重の大きいものは上位から順に「不安・精神的苦痛（217 件）」「ホスピス・緩和ケア（214 件）」「介護・看護・養育（207 件）」「受診方法・入院（207 件）」「症状・副作用・後遺症（120 件）」などであった。

2. がん患者サロン

前年度に引き続き、毎月 1 回、院内外のがん患者および家族を対象に「がん患者サロン」を開催した。

ミニ講座の講師にスタッフだけでなく院内の管理栄養士や臨床心理士にも担当を依頼することができ、参加者により幅広い情報提供を行うことができた。平成 30 年度は 6 月は地震の影響にて、また平成 31 年 2 月はインフルエンザ・麻疹の感染予防のため中止としたため年間 10 回の開催であった。

サロン終了後に参加者にアンケートを実施し、参加者のニーズ把握と意見反映に努めている。アンケートの回収率は 85%であった。

参 加 者（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月）：延べ 82 名（患者 72 名、家族 10 名）

院内外の内訳は院内 72 名（88%）、院外 10 名（12%）であった。月平均 8.2 名の参加である。

年 1 回の参加者は 23 名（28%）、2 回以上参加のリピーターは 59 名（72%）であった。

対 象：がん患者とその家族（他院通院中の方も参加可）

開催日時：毎月第 3 水曜日 13 時～15 時（出入り自由、申し込み不要）

13：00～13：30 ミニ講座 13：30～15：00 フリー座談会

参加者の性別は男性が 49 名（60%）、女性が 33 名（40%）であった。年齢層は 70 歳代・80 歳代の参加が 6 割近くであった。参加者のがんの種類は肺がんが 38 名と圧倒的に多く（46%）、乳がんが多発性骨髄腫が各 8 名（10%）、胃がんが 7 名（8.5%）であった。その他すい臓がん、十二指腸がん、悪性リンパ腫、白血病などさまざまな種類のがん患者・家族が参加された。

がん患者サロンの参加者数・ミニ講座の実施日・テーマ・講師は以下のとおりである。

[実施日・ミニ講座のテーマ・参加者数]

日程	参加者数	ミニ講座のテーマ	講師
平成 30 年 4 月 18 日（水）	5 名	がんとうまくつきあうために	がん看護専門看護師 楠岡 京
5 月 16 日（水）	12 名	がんと診断されたときからの緩和ケア	緩和ケア認定看護師 藤原 和子
6 月 20 日（水）	地震の影響にて中止		
7 月 18 日（水）	10 名	病気の伝え方	緩和ケア認定看護師 藤原 和子
8 月 15 日（水）	10 名	経口抗がん剤治療による副作用との 付き合い方：皮膚のケア	がん看護専門看護師 楠岡 京
9 月 19 日（水）	6 名	治療と仕事の両立について	医療ソーシャルワーカー 志水 陽子
10 月 17 日（水）	5 名	外見のケアについて	がん看護専門看護師 楠岡 京
11 月 21 日（水）	11 名	がんと向き合うこころのケア	臨床心理士 岡村 宏美
12 月 19 日（水）	8 名	放射線治療について	がん放射線療法看護認定 看護師 角田 恵美子
平成 31 年 1 月 16 日（水）	9 名	抗がん剤治療について （免疫療法を含みます）	外来がん治療認定薬剤師 濱武 清範
2 月 20 日（水）	インフルエンザ・麻疹の感染予防のため中止		
3 月 20 日（水）	6 名	緩和ケア病棟について	緩和ケア認定看護師 藤原 和子

参加動機としては「講義に興味がある」「がん患者同士で話したい」という方が多かった。ミニ講座受講のニーズがあるものとし、次年度も継続していく。フリー座談会では参加者同士で尊重し合いながら相互で支援されていた。

3. 在宅緩和ケアサロン

地域の在宅療養支援スタッフ間の情報交換の場を提供し、地域での緩和ケアを継続的に発展させることを目的に、地域の在宅療養支援スタッフを対象とした「在宅緩和ケアサロン」を開催した。緩和ケア認定看護師・がん看護専門看護師が中心となって運営し、緩和ケアに関する講義や事例検討、困り事の相談などを行った。

参加者数は平均 10 名前後であった。うち訪問看護師 50%、看護師 25%、ケアマネジャー 10%という内訳となっている。アンケートでは事例検討や勉強会を通じて地域の訪問看護師、ケアマネジャー、介護職などが交流し、参加者は新たな視点に気づいたり、得た情報や知識を日々の支援に活用したいということで、今後もサロンの継続を希望する意見が大半であった。地域包括ケアシステムに関連した研修が増加しており在宅を支える医療職と介護職が集う機会も得られている中でサロンの意味も変化しつつある。開催方法や内容など検討が必要となっている。

〔開催日・テーマおよび参加者数〕 計 2 回開催 延べ 10 名の参加者

会場：やすらぎホール

開催年月日	参加者数	テーマ	内容
平成 30 年 5 月 19 日 (土)	10 名	怒りについて	事例検討・ディスカッション・勉強会
10 月 13 日 (土)	10 名	「褥瘡・ストマ・排泄・浮腫などのケア方法」「エアマット選択のポイント」	勉強会

4. 患者図書コーナー

2010 年 9 月より 1 階フロアに開設している。開館時間は 9 時～15 時であり、管理は診療情報管理課が行った。がん相談支援センターからは、がんに関する研修会のチラシや患者会発行の機関誌が提供された際に配架を依頼した。

5. 広報活動

- ・がん相談支援センターホームページを更新した。
- ・がん相談支援センターのリーフレットを関連部署に配架した。

<令和元年度の活動目標>

1. がん相談支援センターの体制の充実をよりいっそうはかる

- 1) 最新の情報を収集・準備し、患者・家族が活用できるようにする
- 2) 患者サロンの継続と発展

- ・平成 30 年度と同様の形式で開催を継続する。例年インフルエンザ流行の時期に感染予防の意味もあって中止となることが多かったので 31 年度は当初から 1 月 2 月の開催はしない方向で計画する。
- ・ミニ講座の講師について多職種(栄養士、臨床心理士、薬剤師、がん放射線療法認定看護師)の協力を得る

3) 相談対応の質の担保

- ・ 国立がんセンター開催の相談支援センター相談員に関する研修会へ参加する
- ・ その他、院内外の研修会に参加する
- ・ 特に就労支援、がん治療と妊孕性温存、ゲノム医療、自殺予防に関する学習を深める
- ・ 相談困難事例などについて検討する

4) 府下のがん相談支援センターと情報交換・連携を図る

- ・ 相談支援センター部会に参加し、情報交換・連携を図る

5) 相談状況の可視化

- ・ 毎回の相談記録より相談件数、内容等を集計し、現状や課題を明確にする

2. 患者・家族および医療者に対するがん相談支援センターの周知

- ・ ホームページの更新を行う
- ・ 院内（病棟・外来）にリーフレットを配架する
- ・ 年1回以上院内職員に対して周知を行い、主治医等からがん患者及びその家族に対し、周知が図られる体制を整備する
- ・ 地域の医療者に向けて周知を行う

【がん相談支援センター係長 志水陽子】

訪問看護ステーション

<スタッフ>

看護師：山本 裕恵（室長）、鈴木かおる、今村 利恵、豊田 典子、吉野 咲絵、小森万里子

理学療法士：永本 和弘 事務：本間 幸美

※ H30 年度内人事に変更なし

<特 色>

高槻赤十字病院は「大阪府がん診療拠点病院」「地域医療支援病院」であり、強いバックアップのもと緩和ケア病棟や緩和サポートチーム等と連携し、エンド・オブ・ライフ・ケアに取り組んでいる。専門看護師、認定看護師等と協働しながら、療養支援に取り組んでいる。

各種指定：[医療保険] 24時間対応体制加算、特別管理加算、ターミナルケア加算

[介護保険] 指定訪問看護事業（H26年4月～H32年3月）

指定予防介護訪問看護事業（H30年4月～H36年3月）

緊急時訪問看護加算、特別管理加算、ターミナルケア加算、
サービス提供体制加算

公費負担制度：原爆医療、労災（H7年9月～）

生活保護医療（H26年7月～H32年3月）

難病指定医療（H27年1月～H32年12月）

指定小児慢性特定疾病医療（H27年1月～H32年12月）

指定自立支援医療（H27年8月～）

< H30 年度の活動実績 >

1. 利用者数統計 () 内前年度

(1) 営業日数 243 日 (前年度 243 日)

(2) 利用者実数 142 人 (121 人)

	医療	介護	合計
延べ訪問件数	1,470 (1,930)	3,513 (3,300)	4,983 (5,230)
リハビリ (再掲)	284 (382)	769 (962)	1,053 (1,344)

介護保険・予防給付内訳

介護保険	予防給付	介護給付	合計
30 分未満	374 (296)	352 (186)	726 26% (20%)
60 分未満	253 (427)	1208 (810)	1,461 53% (53%)
90 分未満	42 (41)	521 (581)	563 20% (27%)
合計	669 (764)	1,577 (1,069)	2,750 100%

(3) 新利用者数・終了者数

	医療	介護	合計
新利用者数	22 (22)	42 (37)	64 (59)
終了者数	28 (27)	31 (27)	59 (54)

(4) 終了者内訳

	医療	介護	合計
軽快	4 (0)	10 (7)	14 (7)
医療機関入院	2 (2)	3 (5)	5 (7)
施設等入所	1 (1)	4 (6)	5 (7)
死亡	20 (22)	12 (9)	32 (31)
その他	1 (2)	2 (0)	3 (2)

2. 24 時間体制利用

利用患者数	84 (94)
利用延べ回数	127 (160)
訪問回数	63 (67)

3. 地域との連携

(1) 連携している医師の所属先

・地域の開業医 29 施設 ・他病院 7 施設 ・当院医師 43 名

(2) 連携している居宅介護支援事業所

・36 事業所

(3) 他の病院 MSW、保健所等から 2 名 (3%)

4. 経営健全化・看護の質の向上のための業務改善

1) 訪問の効率化と看護の質向上

- ・ICT（モバイル）運用
- ・患者ミーティングの実施

2) 経営状況の明確化

- ・四役会議への事業報告（半期毎）を実施し病院経営側との情報共有および助言を得た。
- ・ステーション内経営ミーティングおよびスタッフと情報共有し意識化を図った。

5. 後進の育成、訪問看護普及のための実習生等の受け入れ

- ・大阪医科大学看護学部 在宅実習 2 週間 3 クール 合計 6 名受け入れ
- ・高槻市における在宅医療・介護連携事業 他職種同行訪問研修 1 名受け入れ

6. 地域との連携、対外的な活動

- ・高槻市障がい福祉課 第 2 審査部会委員 会議 9 回参加
- ・担当圏域地域包括ケア会議（阿武山地域、郡家地域）参加
- ・在宅緩和ケアサロン世話人 研修 1 回
- ・在宅の“わ”（高槻市医師会や医療・福祉の専門職による連携会議）主催 世話人
- ・大阪府看護協会府北支部 施設代表者会議参加

7. その他

- ・車両管理：9 月 ダイハツミラ 1 台 リース解約
スズキワゴン R 1 台 新規リース契約

医療安全推進室

<スタッフ>

玉田 尚 (副院長兼医療安全推進室長)
依藤 里香 (医療安全管理者)
河野恵美子 (外科医師)
岸 恵美 (看護副部長)
小島 一晃 (薬剤部長兼医薬品安全管理責任者)
中田 祐二 (臨床工学技術課長兼医療機器安全管理責任者)
酒井 美幸 (総務課長兼医療安全係長)
迫田 博史 (総務課総務係長)

<平成 30 年度活動実績>

【活動目標】

1. インシデントレポートの増加をめざす (100%増)

【活動内容】

- ・ チーム STEPPS 研修 7 回開催
- ・ 医療安全フェア開催
- ・ リスクマネジメント部会 6 回開催
- ・ ANZEN ニュース毎月発行
- ・ 安全メール配信 24 回
- ・ 安全ラウンド 全部署 47 部署実施
- ・ 中心静脈穿刺実施報告の収集
- ・ インフューザーポンプ使用時の計測方法統一
- ・ 外来問診票のカルテ保存統一 (スキャナー保存)
- ・ 自己検査用グルコース測定器 (フリースタイルリブレ) 使用患者の対応マニュアル作成
- ・ 防犯カメラ増設
- ・ 医療安全地域連携
 - I - I 連携 済生会茨木病院
 - I - I 連携 愛仁会リハビリテーション病院
 - I - II 連携 水無瀬病院

相互に訪問し評価を行った。

【院内研修会】

実施日	研修名	対象	参加人数
4 月	新採用研修医研修	研修医	4 名
4 月	新採用職員研修	新入職者	36 名
6 月	現場力 UP ! 実践に活かせるあれこれ	全職員	57 名
6 ～ 3 月	チーム STEPPS	全職員	152 名
11 月	最新の糖尿病治療について	全職員	77 名
2 月	医療安全フェア	全職員	611 名
3 月	ペースメーカーについて	医療職	78 名
3 月	医療安全のためのチーム力とパワハラにならない人材育成	管理職	63 名

【マニュアルの新規作成・改正】

Ⅵ	医療事故・紛争対応マニュアル	改正	8 月	医療安全管理マニュアル
	インスリン持続注入及び血糖測定機器装着患者に対する放射線検査検査、高周波装置（電気メス等）を使用する検査・処置の注意事項	作成	8 月	関連部署

【患者相談・意見への対応】

1. 相談対応（医療メディエーション）

・患者側からの相談 7 件 ・医療者側からの相談 2 件

2. 意見・苦情の総数 92 件

接遇、職員の対応（説明不足、態度が悪い、不信感等）	28 件
施設、設備（病室、トイレ、備品、駐車場等）	14 件
環境（清掃、空調、臭気、騒音等）	7 件
診療体制（予約方法、待ち時間、逆紹介等）	22 件
受付体制（受付処理、会計処理、案内等）	2 件
その他（売店、循環バス等）	16 件
感謝、激励	3 件

【保安、その他】

1. 暴力被害 3件（昨年度3件） 警察への通報 0件（昨年度0件）

発生場所：病棟 3件

被害職員：看護師 3件

考 察：せん妄患者との関わりの場面で起こっており、認知症ケアサポートチームの早期介入を促している。

2. 盗難被害 1件（昨年度4件） 警察への通報 1件（昨年度4件）

発生場所：病棟 1件

考 察：入院中の貴重品は施錠管理するよう案内しているが患者自身の管理不十分な場合に発生している。防犯カメラの設置により抑止力となることを期待している。

<令和元年度活動目標>

1. 誤認ゼロをめざす
2. チーム STEPPS 推進を図る。安全文化の調査実施により評価する。
3. 各部署リスクマネージャーとともに安全文化の醸成をめざす
4. ヒヤリハットレポートの増加をめざす

教育研修推進室

<スタッフ>

玉田 尚（副院長兼教育研修推進室長）
河野 龍一（事務部長）
北 英夫（呼吸器科部長）
小島 一晃（薬剤部長）
松井 和世（副院長兼看護部長）
松原 健夫（放射線課長）
阿部 哲子（人事課 研修・厚生担当課長）
山崎 雅樹（人事課 研修厚生係長）

<異 動>

平成 30 年度中の移動なし

<平成 30 年度活動実績>

- 1、初期研修医のマッチングではフルマッチをしたが、1 名が卒業試験で落第したため、2 次募集をかけ採用が決定した。
- 2、第 2 回 JMECC を 2 月 26 日（火）に開催した。前年同様、ディレクターには国立病院機構 京都医療センター救命救急科 田中博之先生を迎え、インストラクターは救急部の岡本部長、アシスタントは当院循環器内科平野先生が行った。2 ブース 6 名の参加で試みたが、参加者も熱心で研修もスムーズに進行した。
- 3、2 回目のプログラム申請も無事終了し、2 名の内科専攻医を採用することができた。（院内 1 名、院外 1 名）
- 4、研修医が、初めて 4 名・4 名と 2 学年フルに揃ったため、『当直の拡大』要求が研修医からあった。そのため、31 年 1 月より、土曜日や休日も日直、当直に入ることを許可した。（但し就業日前日の休日は当直不可）また当直も自らで組み、人事課でチェックを受けた後総務課に提出することとなった。
- 5、研修運営委員の研修医の参加は定着した。また、当直翌日の帰宅も早くなり、働き方改革は順調に進んでいると言える。

<来年度活動目標>

- 1、研修医・専攻医の研修環境の財政が許す範囲内で最大限推進する。
- 2、専攻医確保を視野に入れた「初期研修医確保」（マッチング面接）を行い、上位でのフルマッチを目指す。
- 3、新専門医制度開始に伴う内科基幹病院としての健全なプログラム運営の為、関連病院からの医師の受け入れを積極的に行う。
- 4、JSEP に沿った、当院の改善点の目標を年内に定め、「卒後臨床研修機能評価」をいつでも受審できる準備を整えておく。
- 5、新初期研修プログラムが順調に機能できるように調整する。

事 務 部

<スタッフ> 平成 30 年 4 月 1 日付

事務部長 河野 龍一

事務副部長（欠員）

課長職 浦川人事課長、酒井総務課長、片岡経営企画課長、杉山医事課長
三上診療情報管理課長、萩原用度施設課長、日高情報システム課長
阿部看護師長兼研修・厚生担当課長（8 名）

係長職 12 名

一般職 29 名

<組織・業務>

- ☐ 人事課（人事係、給与係、研修・厚生係）
職員の人事給与、労務管理、服務及び福利厚生に関すること。
初期研修医の募集、研修の運営と修了に関すること。院内外の研修全般に関すること。
- ☐ 総務課（管理係、総務係、医療安全係）
文書管理、構内の管理、患者搬送手配、車両管理、個人情報保護に関すること。
医療安全の事務に関すること。
医療紛争に関すること。患者からの意見、相談に関すること。
- ☐ 経営企画課（経営企画係、広報係、会計係）
病院経営の企画立案、広報に関すること。
予算・決算、収入・支出に関すること。
- ☐ 医事課（医事係、外来係、入院係）
外来診療の受付、会計処理、入退院患者の医療費請求に関すること。
医事関連等統計に関すること。
- ☐ 診療情報管理課（診療情報管理係、図書係）
診療情報の管理、統計、DPC の運用、診療録の保管と閲覧に関すること。
図書の購入、保管、閲覧および貸し出しに関すること。
医師事務作業補助に関すること。
- ☐ 用度施設課（用度係、管理係、施設係）
物品の購入、処分及び器械・器具の修理に関すること。
土地、建物の取得並びに処分、構内設備の管理、工事及び修繕に関すること。
- ☐ 情報システム課（情報システム係）
病院情報システム、電子カルテの取り扱い及び管理に関すること。

<平成 30 年度活動状況>

当院は経営収支及び財務状況の悪化を理由に平成 28 年度に本社「重点支援病院」の指定を受け、平成 31 年度に減価償却前の黒字化（キャッシュフローの改善）を図るべく「経営改善 3 か年計画（平成 29 年～ 31 年度）」を策定し、次の事項に取り組んだ。

1. 経営の健全化に向けた取り組みについて

前年度より 3 億 5 千万円の経営改善を実現することができた。

- 1) 病院連絡会議、イントラネット等、様々な媒体で院長メッセージ・病院情報を発信することによる職員への意識改革
- 2) 入院患者、紹介患者等増加のための病院アクセス改善としてシャトルバスの運行を茨木市方面へ増便と拡大
- 3) クリーンルームの改修と増床
- 4) 病床再編成の方向性を決定（ダウンサイジング）
- 5) 電子カルテの更新に向け情報システム管理課を中心とした準備と調整

2. 事務部の組織編成を行い人材の適正配置、生産性の向上を図った。

- ・ 総務課から人事係を課として独立
- ・ 会計課を経営企画課へ統合
- ・ 医療安全課を総務課へ統合
- ・ 研修課を人事課へ統合

3. 災害被害への対応について

- 1) 大阪北部地震；入院患者や職員に大きな被害なく、診療を継続することができた。建物の損壊については順次、改修工事を進めている。
- 2) 台風 21 号、24 号；停電や、倒木などの被害を受けるも診療の機能は維持することができた。

以上

VII 委員会活動

DPC・診療記録管理委員会

目 的

標準的な診断及び治療方法に基づいた適切なコーディング（適切な診断を含めた診断群分類の決定をいう。）を行う体制を確保すること、及び、診療情報及び診療記録に事項を検討・討議する。

委員会開催

第 1 回

開催日：平成 30 年 7 月 17 日

- 議 題：① DPC 診療記録委員会規程について
②適切な DPC コーディングの為の症例審議
③適切な DPC コーディングを行うための注意事項
④診療情報及び診療記録のあり方
⑤ DPC 統計の内容について
⑥その他

第 2 回

開催日：平成 30 年 10 月 23 日

- 議 題：① DPC 統計報告
②適切な DPC コーディングの為の症例審議
③サマリー作成状況について
④その他

第 3 回

開催日：平成 31 年 1 月 15 日

- 議 題：①サマリー作成状況
② DPC コーディング、詳細不明の割合について
③院内がん登録について
④その他

第 4 回

開催日：平成 31 年 3 月 26 日

- 議 題：①医療関連文書のスキャナによる電子化及び保存に関する運用規程について
②サマリー作成状況報告
③ DPC 詳細不明割合、副傷病名実施率について
④その他

HCU 運営委員会

目 的

HCU 運営に関する諸問題の協議・調整を行い、HCU の効率的な運営に関し審査する。

委員会開催（H30 年 5 月 21 日）

- ・ HCU 入室のフローチャートの確認
 - ・ HCU 稼働状況の共有
 - ・ HCU 査定状況の共有
 - ・ 運営上の問題点の確認、共有
- 上記について話し合いをもった。

ICT委員会

目 的

院内分離菌の把握、抗菌薬使用状況の把握など院内感染防止対策の啓蒙活動。
毎週木曜日、約 60 分間の ICT ラウンド（環境）を実施。
今年度目標 ① WHO 手指衛生のガイドライン 5 つのタイミングが周知・遵守できる
②接触感染予防策が遵守できる

委員会開催

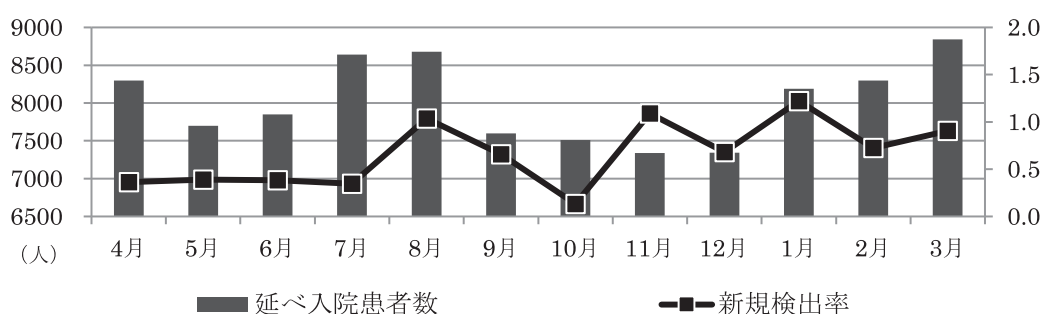
定例会議 毎月第 1 木曜日 16 時 00 分～（AST 委員会と合同開催）
議 題 MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、環境調査、抗菌薬使用状況、その他

開催日	議 題
平成 30 年 4 月 5 日	・インフルエンザ発生状況と対策について ・水痘の院内発生について ・PPE 使用状況について ・今年度の活動計画について
5 月 10 日	・麻疹の発生状況と対応について ・2017/2018 シーズンインフルエンザ対応について ・結核の院内発生について ・感染症発生時の清掃担当者への情報伝達と院内清掃について ・今年度の活動計画について
6 月 7 日	・院内感染対策マニュアル・基本指針の更新に伴う差し替えについて ・2017/2018 シーズンインフルエンザ対応の振り返り
7 月 5 日	・感染対策ネットワーク活動のスケジュールについて ・院内研修会の参加状況と研修後レポート集計結果 ・本社感染管理室長会議の報告 ・インフルエンザ対策について
8 月 2 日	・インフルエンザ対策について ・手指衛生強化週間について ・薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン達成のための血液腫瘍内科領域における感染症治療（コントロール）に関する協力をお願い
9 月 6 日	・ウォシュレットからの ESBL 産生菌検出に伴う交換等対応について ・手指衛生強化月間について ・保健所立ち入り検査の指摘事項について ・感染対策ネットワーク活動：大阪医大との相互評価について
10 月 4 日	・手指衛生強化月間について ・インフルエンザ対策について ・感染対策ネットワーク活動：大阪医大との相互評価について ・体液暴露事例について
11 月 1 日	・手指衛生強化月間について ・インフルエンザ対策について ・感染対策ネットワーク活動：スケジュール確認 ・院内研修会について
12 月 6 日	・院内研修会について ・インフルエンザ発生状況と対策について ・感染対策ネットワーク活動の報告 ・風疹、流行性耳下腺炎のマニュアル更新と差し替えについて ・感染対策に関する備品等について

平成 31 年 1 月 10 日	・MRSA アウトブレイクと対応について ・インフルエンザ発生状況と対策について ・感染対策ネットワーク活動の報告 ・ペダル式ゴミ箱に使用するビニール袋の容量と請求について
2 月 7 日	・インフルエンザ発生状況と対策について ・今年度活動評価と次年度の ICT/AST 活動スケジュールについて
3 月 7 日	・インフルエンザ発生状況と対応について ・PPE の使用状況について ・次年度活動スケジュールについて ・麻疹発生状況と対応について

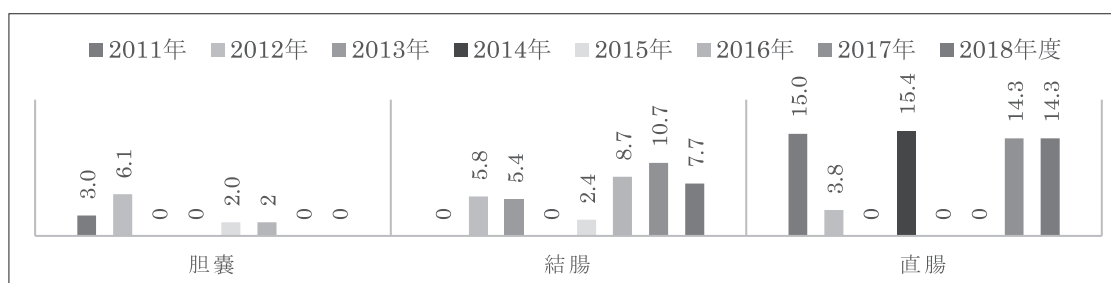
◆各種サーベイランスの結果

① MRSA 新規検出率（延べ入院患者数と新規検出率の推移）



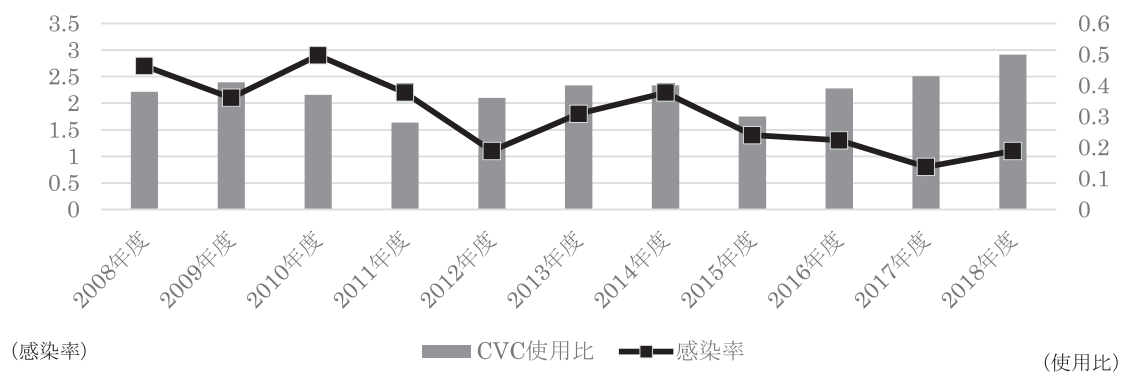
② SSI（手術部位感染）年次推移

外科 (%)

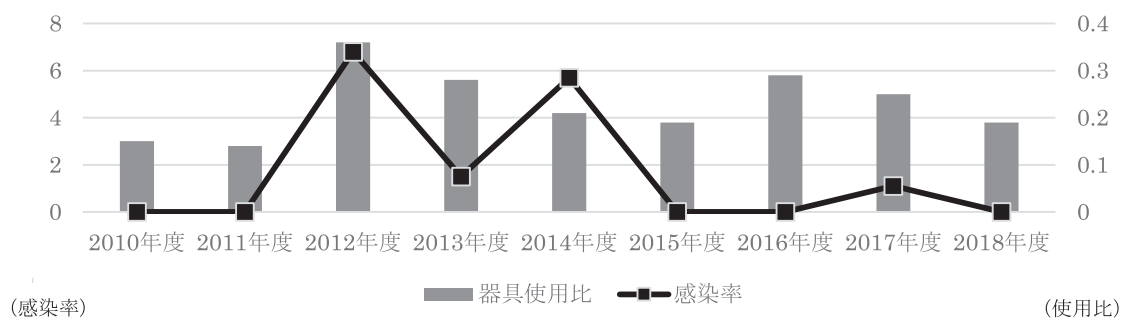


③ BSI（血液内科病棟）年次推移

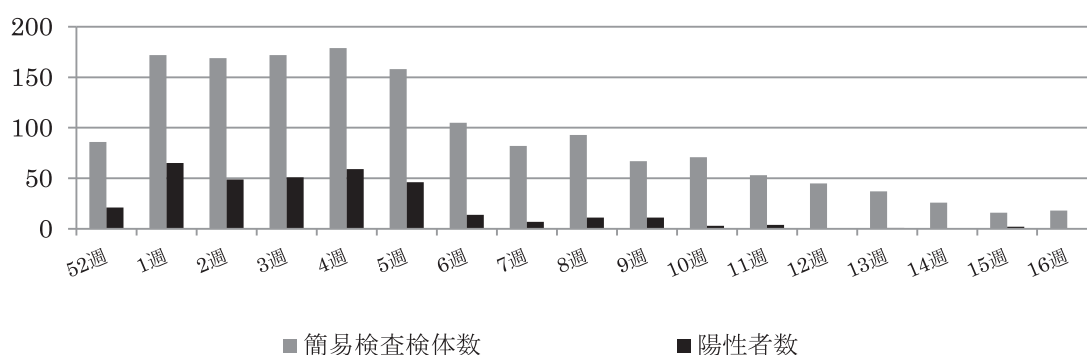
(件 / 1000 patient-days)



④ VAP (HCU) 年次推移
(件 / 1000 patient-days)



⑤ インフルエンザ (2017 年 12 月 25 日 ~ 2018 年 4 月 22 日)

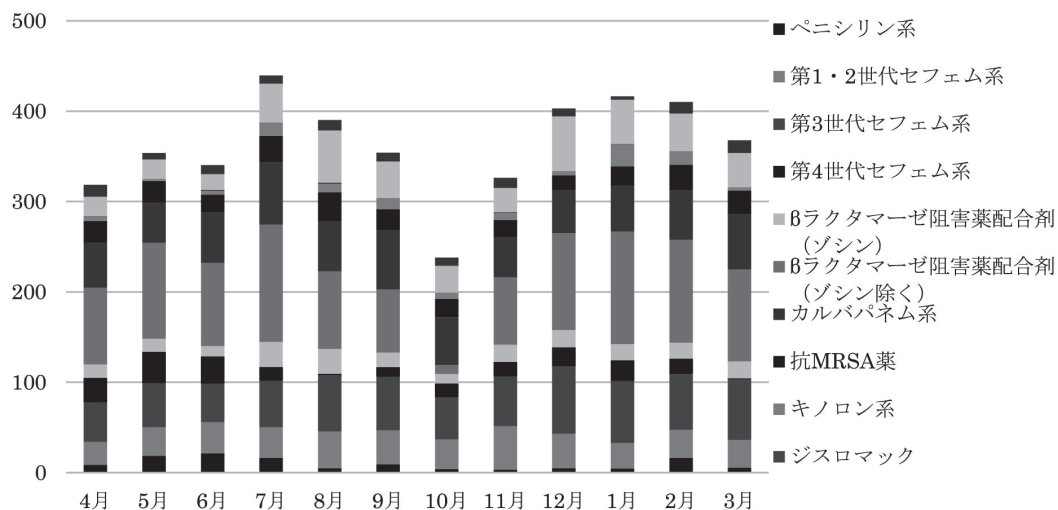


◆ 抗菌薬適正使用の推進結果

① 抗菌薬使用報告書提出率 (%) 平均: 92%



② 抗菌薬使用量月別 AUD (DDD / 1000bed-days)



◆感染対策マニュアルの更新（内容を見直し改訂した）

- ・接触感染予防策
- ・インフルエンザ
- ・感染症等特別な対応が必要な感染症について
- ・院内感染アウトブレイクの把握と対策
- ・流行性角結膜炎
（院内感染対策マニュアルを院内 HP へ掲載）

◆院内感染対策に関する基本指針（感染管理室の設置に伴い、改訂した）

- ・感染管理室について
- ・ICT の業務内容、AST の業務内容
- ・院内感染部門の構成
- ・ICT 規定、AST 規定

◆院内研修会

開催日	テーマ	対象	参加人数
4月6日	新採用者研修会	新採用職員	36名
4月13日	新人看護師研修会	新人看護師	24名
10月	手指衛生研修会	全職員	604名
11月7日、9日	今冬のインフルエンザ対策	全職員	502名
2月7日～13日	医療安全フェア（ポスター展示）	全職員	611名

◆広報と啓蒙活動

手洗いトレーニング	10月～3月	看護職員対象に実施
ICT 院内ラウンド	週1回、全病棟と外来、その他の各部門	延べ49回実施
手指衛生キャンペーン	10月～11月	各部門のICT担当者が中心になり、部門に合った手指衛生に対する取り組みを企画し実施

NST 委員会

目 的

医療の質と向上のために、全ての治療の基盤である栄養管理を促進する。

委員会開催

平成30年9月27日（木）16：00～16：20

議題①平成29年度NST実績報告

- ・NST稼働認定施設更新申請について
→特に問題なし。更新申請する。

②NST検査項目追加について

TP、ALB、PALB、CRPにZn、Cuを追加したい。→承認

③その他

濃厚流動食の新規採用を給食委員会に提案を検討

- ・ハイネイゲル（注入時の逆流防止）
- ・メディミルロイシンプラス（少量で高エネルギー、BCAA 含有）
- ・アルジネードウォーター（亜鉛・銅補充）

→承認。給食委員会へ提案。

NST 勉強会予定（10 月 18 日）「北摂栄養セミナー」

院内勉強会（1 回 / 年 開催）

北摂栄養セミナー

開催日：平成 30 年 10 月 18 日

内 容：「NST 活動の現状とその成果－地域連携を含めて－」

講 師：滋賀医科大学医学部看護学科基礎看護学講座教授

滋賀医科大学附属病院 栄養治療部 部長

佐々木 雅也先生

研修参加者数：34 名

SPD・診療材料購入審査委員会

目 的

新規診療材料の採用の可否・SPD 活動（不働在庫削減・診療材料の購入コスト低減・業務の効率化）の推進による病院経営の合理化を目的とする。

委員会開催

第 1 回

開催日：平成 30 年 5 月 1 日

議 題：①新規材料について

②サンプル品使用について

③その他

第 2 回

開催日：平成 30 年 6 月 5 日

議 題：①新規材料について

②サンプル品使用について

③その他

第 3 回

開催日：平成 30 年 7 月 3 日

議 題：①新規材料について

②新規定数及び定数変更（増量）について

③サンプル品使用について

④その他

第4回

開催日：平成30年8月7日

- 議 題：①新規材料について
②新規定数及び定数変更（増量）について
③サンプル品使用について
④その他

第5回

開催日：平成30年9月4日（台風21号の影響により文書審議へ変更）

- 議 題：①新規材料について
②新規定数及び定数変更（増量）について
③サンプル品使用について
④その他

第6回

開催日：平成30年10月2日

- 議 題：①新規材料について
②新規定数及び定数変更（増量）について
③サンプル品使用について
④その他

第7回

開催日：平成30年11月6日

- 議 題：①新規材料について
②新規定数及び定数変更（増量）について
③サンプル品使用について
④その他

第8回

開催日：平成30年12月4日

- 議 題：①新規材料について
②新規定数及び定数変更（増量）について
③サンプル品使用について
④その他

第9回

開催日：平成31年2月5日

- 議 題：①新規材料について
②新規定数及び定数変更（増量）について
③サンプル品使用について
④その他

第10回

開催日：平成31年3月5日

- 議 題：①新規材料について
②新規定数及び定数変更（増量）について
③サンプル品使用について
④その他

目 的

「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」に則して、がん診療関連機能の充実を図ることについて討議する。

活動実績

平成 30 年度は計 2 回開催した。委員会開催日と議題は以下のとおりである。

※平成 30 年度は地震・台風の影響もあり、また委員長であった岸本緩和ケア診療科部長が退職されたこともあって回数は前年度よりも少なかった。

第 1 回

開催日：2018 年 4 月 24 日（火）

議 題：1 がん相談支援センターより報告

2017 年度の活動報告（相談件数は 1319 件）、がん患者サロン報告（3/28 参加者 9 名、4/18 参加者 5 名）、在宅緩和ケアサロン（昨年度は 3 回／年開催、次回は 5/19 開催予定）

2 がん患者指導管理料算定について報告

今年度よりがん患者指導管理料ⅠⅡⅢがイロハに名称が変わった。

Ⅰ）2 月 0 件、3 月 1 件、Ⅱ）4/23 までで 1 件

Ⅲ）2 月 10 件、3 月 9 件、ロ）4/23 までで 6 件

Ⅳ）2 月算定分 21 件・算定外 60 件、3 月算定分 21 件・算定外 66 件、ハ）4/23 までで算定分 20 件・算定外 41 件であった。

3 各部会の報告

年度始めであり特に部会の報告なし。緩和ケア関連の診療報酬改定項目など確認。

4 「苦痛のスクリーニング」について報告

5 その他

・放射線科の CN が専従になるのでがん患者指導管理料ロがもう少し算定できる見込み

・なごみ食が好評である。

第 2 回

開催日：2018 年 7 月 31 日（火）

議 題：1 がん相談支援センターより報告

活動報告（相談件数 4 月 136 件、5 月 164 件、6 月 187 件）、がん患者サロン報告（5/16 開催、参加者 12 名、6 月度は地震の影響にて中止、7/18 開催 参加者 10 名）、在宅緩和ケアサロン報告（5/19 開催、参加者 10 名）

2 がん患者指導管理料算定について報告

イ）4 月 1 件、5 月 4 件、6 月 6 件、7 月 2 件

ロ）4 月 8 件、5 月 25 件、6 月 18 件、7 月 14 件

ハ）4 月 22 件・算定外 54 件、5 月 25 件・算定外 73 件、6 月 30 件算定外 52 件

3 各部会の報告

- ・緩和ケア部会：緩和ケア研修会の方法が大きく変わる。eラーニングと集合研修が1日。当院では2019年10月に開催予定。
- ・放射線治療部会：がん診療拠点病院の指定要件は検討の段階。放射線科への依頼件数が前年度同時期に比べて21%上がっている。
- ・相談支援センター部会：昨年度に引き続き「仕事と治療の両立」への支援が求められている。

4 その他

- ・2017年度「苦痛のスクリーニング」の実施報告
- 現在のところ、化学療法初回オリエンテーションを受けた患者を対象としている。がん診療拠点病院の指定要件として入院患者全員への実施が必須項目となる可能性あり。

キャンサーボード委員会

目的

大阪府指定がん診療拠点病院として、患者に適切ながん診療を提供するためにがんセンターボードの体制を整備することを目的とする。

委員会開催

本年度開催なし（キャンサーボードは1回／週開催）

クリニカルパス委員会

目的

クリニカルパスを作成し、医療の質の向上、患者満足の向上、EBMに基づいた標準的医療の実施、資源の効果的使用を実現することを目的としてクリニカルパス委員会を設置する。

委員会開催

1. 日時：平成30年8月21日（火）

2. 審議事項：

- 1) クリニカルパスの申請状況
- 2) パス適用率報告
- 3) その他

1. 日時：平成30年12月18日（火）

2. 審議事項：

- 1) 電子カルテの以降に伴うパスシステム更新
- 2) パス適用率報告
- 3) その他

1. 日時：平成 31 年 1 月 15 日（火）
2. 審議事項：
 - 1) クリニカルパスの申請状況
 - 2) 電子カルテ更新に伴うパスシステム移行について
 - 3) パス適用率報告
 - 4) その他

1. 日時：平成 31 年 2 月 19 日（火）
2. 審議事項：
 - 1) クリニカルパスの申請状況
 - 2) 電子カルテ更新に伴うパスシステム移行について
 - 3) パス適用率報告
 - 4) その他

1. 日時：平成 31 年 3 月 19 日（火）
2. 審議事項：
 - 1) クリニカルパスの申請状況
 - 2) 電子カルテ更新に伴うパスシステム移行について
 - 3) パス適用率報告
 - 4) その他

平成 30 年度クリニカルパス新規承認パス 6 件であった。

委員会開催（書面審議）月	No.	平成 30 年度新規申請パス
平成 30 年 5 月	1	テセントリク入院導入
平成 30 年 8 月	2	イミフィンジ入院導入
	3	緑内障散瞳（前日入院）
	4	緑内障散瞳（当日入院）
	5	緑内障非散瞳（前日入院）
	6	緑内障非散瞳（当日入院）
合計	6 件	

以上

ハラスメント防止委員会

開催実績

なし

医師・看護師業務改善委員会

目 的

医師及び看護師の負担の軽減及び処遇の改善のために必要な事項を検討する。

委員会開催

本年度開催なし

医療ガス安全管理委員会

目 的

高槻赤十字病院において使用する医療ガス（診察の用に供する酸素、各種麻酔 ガス、吸引、医療用圧縮空気、窒素ガス等をいう。）設備の安全管理を図り、患者の安全を目的とする。

委員会開催

第1回

開催日：平成 30 年 11 月 2 日（火） 14 時 00 分～ 14 時 30 分

議 題：① 平成 29 年度 医療ガス設備保守点検実績（報告）

〃 修繕実績（報告）

② 7 病棟無菌室整備工事に伴う医療ガスの停止について

③ その他

医療安全管理委員会

目 的

安全かつ適切な医療ができる体制を確立すること。

委員会開催

第1回

開催日：平成 30 年 4 月 18 日（水）

議 題：1. 報告事項

①予防接種の接種量間違いについて

2. 検討事項

①再発防止策と事後の対応について

第2回：平成 30 年 5 月 16 日（水）

議 題：1. 報告事項

①インシデントレポート（4 月）

②平成 29 年度の報告事案総括

③今年の各部署リスクマネージャー名

④今年の医療安全活動計画

2. 検討事項

①医療安全管理委員会規程の改正について

②医療安全マニュアル「組織的な取り組み」、「事故発生時の連絡体制」の改正について

第3回：平成30年6月20日（水）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデントレポート（5月）
- ②医療安全管理委員会規程改正について
医療安全管理マニュアル「組織的な取り組み」の改正について

第4回：平成30年7月16日（水）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデントレポート（6月）
 - ②リブレの取り扱いについて
 - ③リスクマネージャー研修会について
 - ④リスクマネジメント部会の運営について
2. 検討事項
- ①医療安全管理マニュアル「医薬品の安全使用のための業務手順書」の改正について

第5回：平成30年8月15日（水）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデントレポート（7月）
 - ②リスクマネジメント部会報告
 - ③安全ラウンド報告
2. 検討事項
- ①医療安全管理マニュアル「医療事故・紛争対応－初期対応」の改正について
3. その他
- ①RRT（ラピッド レスポンス チーム）運用について

第6回：平成30年9月19日（水）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデントレポート（8月）
 - ②安全ラウンド報告
2. 検討事項
- ①自己血糖測定器（リブレ）等の取り扱いマニュアルについて

第7回：平成30年10月17日（水）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデントレポート（9月）
 - ②リスクマネジメント部会報告
2. その他
- ①安全ラウンド後の確認結果について

第8回：平成30年11月21日（水）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデントレポート（10月）
 - ②リスクマネジメント部会報告
 - ③医療安全地域連携相互評価について
2. 検討事項
- ①第9回医療安全フェア開催について

第9回：平成30年12月19日（水）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデントレポート（11月）
- ②ヒヤリハットレポートの承認について

第10回：平成31年1月23日（水）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデントレポート（12月）
 - ②安全ラウンド報告
 - ③医療安全地域連携相互評価報告
2. 検討事項
- ①CV 穿刺実施報告に基づく評価について
3. その他
- ①厚生局適時調査について
 - ②ペースメーカーリコールについて

第11回：平成31年2月20日（水）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデントレポート（1月）
 - ②医療安全フェア速報について
 - ③医療安全地域連携相互評価について
2. 検討事項
- ①医薬品の安全のための業務手順書について
3. その他
- ①チーム STEPPS の追加実施について

第12回：平成31年3月20日（水）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデントレポート（2月）
 - ②医療安全フェア総括
2. 検討事項
- ①「医師のためのルール一覧 2019年度」改正について
3. その他
- ①医療安全地域連携相互評価について

院内感染防止対策委員会

目 的

院内感染の防止対策及び予防活動に関する事案を審議する。実働部隊としての I C T から各サーベイランスの報告を受け、院内感染防止対策の監視と啓発活動を行う。

委員会開催

定例会議 毎月第 4 木曜日 16 時 30 分～

議 題 MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、抗菌薬使用状況について報告と審議

開催日	議 題
平成 30 年 4 月 26 日	①院内感染対策マニュアル・基本指針の改訂について ②インフルエンザ発生状況と対応について ③水痘の発生について ④麻疹の発生状況と対応について
5 月 24 日	①院内感染対策マニュアル・基本指針の改訂について ②結核の発生について ③疥癬の発生について ④播種性帯状疱疹の感染対策について ⑤麻疹の抗体価測定とワクチンの供給について
6 月 28 日	①新入職者と結核診療に携わる職員への IGRA 実施について ②クーリングタワーのレジオネラ調査について ③マキシピームの製造遅延について
7 月 26 日	①結核の発生と対応について ②インフルエンザ対策について ③薬剤耐性（AMR）対策アクションプランについて ④本社感染管理室長会議の報告 ⑤北摂四医師会感染対策ネットワーク活動の報告
8 月 30 日	①播種性帯状疱疹の発生と対応について ②7 病棟の ESBL 検出と環境調査について ③保健所立ち入り検査について ④2018 年度インフルエンザ対策について ⑤院内清掃について
9 月 27 日	①ウォシュレットノズルからの ESBL 産生菌検出と交換について ②結核発生に伴う接触者調査について ③手指衛生強化月間について ④2018 年度インフルエンザ対策について ⑤ウィルス感染症について（麻疹・風疹）
10 月 23 日	①インフルエンザ対策について ②北摂四医師会感染対策ネットワーク活動について ③風疹、流行性耳下腺炎マニュアルの新規作成について ④麻疹疑い例発生と対応について
11 月 22 日	①ハンドソープ評価結果について ②北摂四医師会感染対策ネットワーク活動について ③風疹、流行性耳下腺炎マニュアルの新規作成について ④播種性帯状疱疹発生に伴う接触者調査について ⑤院内売店での手作りおにぎり販売停止の経緯と対応について

開催日	議 題
12 月 27 日	① MRSA アウトブレイクの対応について ② 感染対策ネットワーク活動について
平成 31 年 1 月 24 日	① MRSA アウトブレイクの対応について ② インフルエンザ発生状況と対策について ③ 近畿厚生局適時調査の報告
2 月 28 日	① インフルエンザ発生状況と対策 ② 麻疹発生状況と対応について
3 月 28 日	① インフルエンザ発生状況と対策について ② 職業感染対策について

化学療法委員会

目 的

安全で効果的ながん化学療法を行なうことを目的として、外来のがん化学療法に関する審議・検討を行なう。

委員会開催

第 1 回

開催日：平成 30 年 9 月 13 日

- 議 題：1. 外来化学療法室利用状況報告・インシデント等の報告
2. 仮承認されたレジメンの報告と承認
3. 新規や変更レジメンの報告と承認
4. その他

第 2 回

開催日：平成 31 年 3 月 14 日

- 議 題：1. 化学療法室利用状況報告、インシデント等の報告
2. 仮登録されたレジメン・修正レジメンの報告
3. 新規・変更レジメンの報告
4. 抗がん剤取り扱いマニュアル 改訂について（暴露対策の箇所変更）
5. 化学療法患者指導書「抗がん剤治療を受けるにあたって」について
6. その他

救急委員会

目 的

救急車搬送増加と、円滑な受入れ体制の強化、断診の防止対策の為検討・討議を行う。

委員会開催

12 回 / 年開催

活動実績

- ・ 月々の救急搬送件数や内容など統計データの共有や分析
- ・ 救急診療管理加算データの共有（特に「加算 1」算定への取り組み）
- ・ 受入れ困難症例のデータ共有や分析
- ・ 救急隊員向けの勉強会や懇親会の企画・実行
- ・ 新企画 RRT (Rapid Response Team) の立ち上げや定着への努力

給食委員会

目 的

患者の栄養管理ならびに給食サービスの円滑な運営とその向上を図る。

委員会開催

開催日：平成 30 年 7 月 10 日

議 題：①化学療法食実施後の中間評価

②濃厚流動食採用品見直しについて

メイバランスミニコーンスープ味新規採用→採用承認

PG ソフトから PG ソフト EJ への切り替え→切り替え承認

③嗜好調査実施予定について

H29 年給食委員会決定事項により H30 年度実施時期は 10 月実施予定とする

回覧審議：平成 30 年 9 月

議 題：濃厚流動食・補助食品一部入替について

新規採用品目

①ハイネーゲル（濃厚流動食 消化態栄養剤）

②メディミルロイシンプラス（濃厚流動食）

③アルジネードウォーター（栄養補助食品）

④パウミナ（栄養補助食品）

採用廃止品目

ペプタメンスタンダード（濃厚流動食 消化態栄養剤）

全体嗜好調査

実施期間：平成 30 年 10 月 29 日（月）～ 11 月 8 日（木）

対 象 者：嗜好調査実施日に流動食を除く食事提供している患者

方 法：栄養士による個別聞き取り

健診事業運用委員会

平成 30 年度 目標

健診事業運用委員会規定の改定

平成 30 年度 委員会開催

第 1 回

開催日：平成 30 年 4 月 27 日（金）16 時 00 分～16 時 20 分

- 議 題：1. 健診事業運用委員会規定
2. オプション検査として経膈エコーを実施
3. 委員会に 2 回に 1 回の出席となるように調整
4. 人間ドックの理念、基本方針、受診者の権利の尊重

第 2 回

開催日：平成 30 年 7 月 27 日（金）16 時 00 分～16 時 25 分

- 議 題：1. 人間ドック（健診課）経営改善策実施
2. 経膈エコーの開始
3. 朝の受付開始時刻と 6 月のアンケート結果
4. ドックにおける医療安全

第 3 回

開催日：平成 30 年 10 月 26 日（金）16 時 00 分～16 時 25 分

- 議 題：1. 人間ドック予約受付終了日の報告
2.5S を用いた人間ドックにおける医療安全対策

研修管理委員会

目 的

臨床研修指定病院として研修医師の研修内容と修了認定及び関連施設との研修に関わる事項や運営について検討する。

委員会開催

開催日：平成 31 年 3 月 5 日（火）

- 議 題：①平成 29 年度採用研修医の臨床研修修了について
②平成 31 年度 臨床研修スケジュールについて
③ I 研修医の研修再開について
④平成 30 年度 臨床研修補助金の分配について
⑤平成 31 年度採用研修医紹介
⑥研修管理委員会委員の変更などについて
⑦その他

研修運営委員会

目 的

「研修管理委員会」の下部委員会として、研修医師の研修内容と修了認定及び関係部門の研修に関わる事項や運営について検討する。

委員会開催

開催日：平成 30 年 4 月 11 日（水）17：00～17：10

議 題：①新研修医紹介

- ② 2 年目研修医進捗状況（レポート提出状況）
- ③ ホームページ更新に伴う撮影会（4 月 20 日）
- ④ MEC 病院説明会 ブース出展について（4 月 30 日）
- ⑤ 1 年目研修医スケジュールについて

開催日：平成 30 年 5 月 9 日（水）17：03～17：13

議 題：①研修医進捗状況

- ② MEC 病院説明会の報告
- ③ 多可赤十字病院訪問の報告
- ④ その他

開催日：平成 30 年 6 月 13 日（水） 17：02～17:20

議 題：①研修医進捗状況

- ② 平成 31 年度採用研修医 採用試験日決定について
- ③ レジナビフェアについて
- ④ その他

開催日：平成 30 年 7 月 11 日（水） 17：01～17：08

議 題：①研修医進捗状況

- ② レジナビフェアについて
- ③ 平成 31 年度 採用臨床研修医採用試験日のお知らせ
- ④ その他

開催日：平成 30 年 8 月 8 日（水） 17：00～17：08

議 題：①研修医進捗状況

- ② 平成 31 年度 研修医採用試験について
- ③ その他

開催日：平成 30 年 9 月 12 日（水） 17：00～17：25

議 題：①研修医進捗状況

- ② 平成 32 年度以降の研修医プログラム（案）について
- ③ 臨床研修医マッチング登録について
- ④ その他

開催日：平成 30 年 10 月 10 日（水） 17：05 ～ 17：13

議 題：①研修医進捗状況

- ②臨床研修医マッチング（中間発表）について
- ③平成 30 年度赤十字臨床研修医研修会への参加について
- ④その他

開催日：平成 30 年 11 月 14 日（水） 17：05 ～ 17：13

議 題：①研修医進捗状況

- ②マッチした臨床研修医の発表
- ③基本的臨床能力評価試験について
- ④その他

開催日：平成 30 年 12 月 12 日（水） 17：05 ～ 17：27

議 題：①研修医進捗状況

- ②平成 30 年度赤十字病院臨床研修医研修会の参加について
- ③研修医評価について
- ④2 年目研修医の当直について
- ⑤その他

開催日：平成 31 年 1 月 9 日（水） 17：05 ～ 17：21

議 題：①研修医進捗状況

- ②基本的臨床能力評価試験について
- ③研修医評価表について
- ④平成 32 年度研修プログラムについて
- ⑤その他

開催日：平成 31 年 2 月 13 日（水） 17：00 ～ 17：13

議 題：①研修医進捗状況

- ②1 年目研修レポートについて
- ③I 研修医の出勤練習状況
- ④平成 32 年度研修プログラムについて
- ⑤その他

個人情報保護委員会

目 的

日本赤十字社が保有する個人情報の適正な取り扱いに関して必要な基本事項を定めることにより、個人情報の有用性に配慮しつつ、個人の権利利益を保護すること。

委員会開催

本年度開催なし

広報委員会

目 的

病院の広報に関することを検討する。

主に、院内広報誌、院外広報誌、ホームページの掲載内容について検討する。

委員会開催

第 1 回

開催日：平成 30 年 8 月 21 日

議 題：①院外誌・院内誌の掲載記事について

②医療広告ガイドラインについて

③ホームページ・フェイスブックの更新状況について

④その他

第 2 回

開催日：平成 30 年 11 月 16 日

議 題：①院外誌・院内誌の掲載記事について

②ホームページ・フェイスブックの更新状況について

③その他

第 3 回

開催日：平成 31 年 3 月 12 日

議 題：①院外誌・院内誌の掲載記事について

②ホームページ・フェイスブックの更新状況について

③ 2019 年度広報物作成年間予定について

④その他

購買委員会

目 的

各部署から提出された医療用器械備品・その他器械備品等（原則、購入予定価格が 160 万円以上の物品）の整備依頼調書に基づき、各部署のヒアリングを行い、購入の是非を検討する。

委員会開催

第 1 回

開催日：平成 30 年 5 月 9 日（水） 16：00～17：00

議 題：新規購入について

① 超音波診断装置の更新

② 患者監視装置の追加整備

③ デフィブリレータの更新

④ 造影剤自動注入装置の更新

⑤ 眼球運動検査機器の新規整備

⑥ 全自動尿流量計の更新

第2回

開催日：平成30年8月1日(水) 15:30～17:00

議 題：新規購入及び来年度補助金申請物品の選定について

- ① 採炭ブースの設置について
- ② オートレフケトラメーターの更新について
- ③ ノンコンタクトトノパキメーターの更新について
- ④ 超音波式眼軸測定装置の更新について
- ⑤ 光干渉断層計の更新について
- ⑥ 人口呼吸器の整備について
- ⑦ 分娩監視装置の更新について
- ⑧ 分娩台の更新について
- ⑨ 【補助金申請】 超音波診断装置
- ⑩ 【補助金申請】 移動型デジタル式汎用 X 線透視装置診断装置
- ⑪ 【補助金申請】 FPD システム
- ⑫ 【補助金申請】 人工呼吸器
- ⑬ 【補助金申請】 患者監視装置
- ⑭ その他

第3回

開催日：平成30年10月5日(金) 14:00～16:00

議 題：電子カルテ導入にかかる部門システム機種選定

- ① 眼科システム
- ② 地域医療部門システム
- ③ リハビリ支援システム
- ④ 内視鏡マネジメントシステム
- ⑤ 生理機能検査システム
- ⑥ 動画ネットワークサーバー
- ⑦ ワークステーション
- ⑧ 薬剤業務支援システム
- ⑨ 電子カルテシステム
- ⑩ 電子カルテシステム導入に係る工事等について
- ⑪ システム再接続について
- ⑫ その他

第4回

開催日：平成31年1月17日(木) 16:00～17:00

議 題：来年度予算申請物品の選定について

- 【眼科】
- ① スリットランプ
 - ② スペキュラーマイクロスコープ
 - ③ オートレンズメーター

- ④ ハンフリーフィールドアナライザー
- ⑤ ZEISS 社検査情報統合システム
- ⑥ 光干渉眼軸測定装置

【形成外科】

- ⑦ SensiLase(TM) PAD3000
- ⑧ 3D プリンタ (Makerbot Replicator 2X)
- ⑨ サージترون DUAL EMC90

【手術室】

- ⑩ 電気メス (FT10)
- ⑪ 電気メス (VIO)
- ⑫ 手術用ベッド (① DR-2600Z ②メプロ 4J)
- ⑬ 麻酔器
- ⑭ 関節鏡用シェーバー
- ⑮ 関節鏡ポンプ
- ⑯ MED スコープ
- ⑰ 耳鼻科用デブリッター
- ⑱ 乾燥機
- ⑲ ハイスピード滅菌器
- ⑳ 白内障手術装置

【臨床工学技術課】

- ㉒ 保育器
- ㉓ 医用テレメータ
- ㉔ 透析装置

【看護部】 ○ 作業台 (7 病棟)

【情報システム課】

- ㉖ インターネット側ネットワーク機器更新
- インターネット側ファイルサーバー

【用度施設課】

- 空調設備改修工事 (本館病棟 4 系統・厨房系統)

第 5 回

開催日：平成 31 年 2 月 25 日 (月) 15：30 ～ 16：10

議 題：手術室内視鏡システムの更新について

治験審査委員会

目 的

新規治験の実施および進行中の治験の継続について、科学面・安全面・倫理面から適正に審議することが目的。

GCP（医薬品の臨床試験の実施に関する省令）に準拠した委員会であり、構成人員・審議書類・記録方法等が詳細に規定されている。

併せて、GSP（医薬品の製造販売後の調査および試験の実施の基準に関する省令）に準拠した製造販売後調査・副作用報告に関する審議・報告等も必要に応じ実施している。

委員会開催

第1回

開催日：平成30年4月20日

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 新規治験の実施の可否を審議
 3. 委員会審議（治験の継続を審議）
 4. 安全性情報（治験の継続を審議）

【新規承認試験】

◇ NN9535-4374 第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・生活習慣病科／糖尿病の過体重又は肥満）

第2回

開催日：平成30年5月18日

- 議 題：1. 迅速審査・その他の報告
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
 3. 安全性情報（治験の継続を審議）

第3回

開催日：平成30年6月15日

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
 3. 安全性情報（治験の継続を審議）
 4. 製造販売後調査の実施の可否を審議

第4回

開催日：平成30年7月20日

議 題：第2回と同様

第5回

開催日：平成30年8月17日

議 題：第1回と同様

【新規承認試験】

- ◇ BAY86-5321（19652）第Ⅲ相試験（眼科／血管新生緑内障）
- ◇ BAY1021189（19334）第Ⅱ相試験（循環器科／心不全）
- ◇ EX9536-4388 第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・生活習慣病科／過体重又は肥満の心血管系アウトカム）

第6回

開催日：平成30年9月21日

議 題：1. 迅速審査・報告

2. 委員会審議（治験の継続を審議）

3. 安全性情報（治験の継続を審議）

4. 製造販売後調査の実施の可否を審議

5. その他（高槻赤十字病院治験業務手順書・高槻赤十字病院治験審査委員会業務手順書の改訂）

第7回

開催日：平成30年10月19日

議 題：第2回と同様

第8回

開催日：平成30年11月30日

議 題：第3回と同様

第9回

開催日：平成30年12月21日

議 題：第3回と同様

第10回

開催日：平成31年1月18日

議 題：第2回と同様

第11回

開催日：平成31年2月15日

議 題：1. 迅速審査・報告

2. 新規治験の実施の可否を審議

3. 委員会審議（治験の継続を審議）

4. 安全性情報（治験の継続を審議）

5. 製造販売後調査の実施の可否を審議

【新規承認試験】

◇ TAK-906-2002 第Ⅱ相試験（消化器科／胃不全麻痺）

◇ LY3298176（GPGP）第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・生活習慣病科／糖尿病）

◇ LY3298176（GPGO）第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・生活習慣病科／糖尿病）

第12回

開催日：平成31年3月15日

議 題：第11回と同様

【新規承認試験】

◇RPC01-3103 第Ⅱ / Ⅲ相試験（消化器科／潰瘍性大腸炎）

治験・製造販売後調査等の終了報告

【治験】

ABT-627 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・生活習慣病科（中止）
NN9924-4222 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・生活習慣病科
BAY1067197（15128）第Ⅱ相試験 循環器科
BAY1067197（17582）第Ⅱ相試験 循環器科
NN9924-4282 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・生活習慣病科
CS-3150 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・生活習慣病科
NN9924-4280 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・生活習慣病科
BAY59-7939（15786）第Ⅲ相試験 循環器科
EFC14113 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・生活習慣病科

【製造販売後調査】

タグリッソ錠 40mg/80mg 呼吸器科
ソリリス点滴静注 300mg 血液・腫瘍内科
オブジーボ点滴静注 20mg/100mg 呼吸器科
ファリーダックカプセル 10mg/15mg 血液・腫瘍内科
ジャカビ錠（骨髄線維症）（真性多血症）血液・腫瘍内科
カイプロリス点滴静注用 10mg/40mg 血液・腫瘍内科
リツキサン注 100mg/500mg 血液・腫瘍内科
ルパフィン錠 10mg 皮膚科
ロミプレート皮下注 250 μ g 調製用 血液・腫瘍内科

30年度の振り返り

昨年度に引き続き、委員の半数以上が、ここ数年、治験審査委員会に継続して参加していただいているので、継続的に倫理面・科学面で深い審議がされることにより、安全に円滑に被験者の方に治験を受けていただけると感じている。

幹事として、委員の方々や治験事務局員、治験コーディネーター、他のコメディカルから、力を借りながら、委員会を準備、開催し、大きな問題なく治験が進めることができた。

最近の問題としては、治験実施計画が以前に比べて、複雑になっていると感ずることがある。それに伴い、治験コーディネーターの負担も大きくなり、以前に比べて逸脱報告が増える傾向になっている。その為、治験コーディネーターと話し合う機会が増えたが、逆に治験コーディネーターの状況の把握も考慮するようになった。話し合いを続け、再発防止に努めていきたい。

以 上

幹事 美和 孝之

手術室運営委員会

目 的

高槻赤十字病院における手術室運営に関する諸問題の協議・調整を行い、安全かつ適切な手術が行える体制を確立する。

第 1 回	4 月 25 日（金）	- 統計報告 平成 29 年度手術件数 2633 件（前年比 62 件増） 平成 29 年度診療報酬累計 49,009,504 点 （前年比 172,564 点増） - 医療機器 / 器具 設備 関連報告
第 2 回	5 月 28 日（金）	統計報告
第 3 回	6 月 22 日（金）	- 統計報告 6/18 発生地震後の状況報告 - インスリンポンプ及び持続血糖測定器（リブレなど）の手術時の取り扱いについて
第 4 回	7 月 28 日（金）	- 統計報告 - 術前検査に当たってのお願い （中止薬の評価のための再検査）
第 6 回	9 月 28 日（金）	- 統計報告 9/4 台風 2 1 号の被害状況報告 - 血液ガス検査機器使用状況報告 - 金属アレルギーの対応について
第 7 回	10 月 26 日（金）	- 統計報告 - 中材業務委託についての報告 - 大出血が予測される手術について
第 8 回	11 月 30 日（金）	- 統計報告 - 電子カルテ更新に伴う術中動画管理について - 手術材料のディスポ化における試算について - マルチチャンネルドレナージキットについての説明
第 9 回	1 月 25 日（金）	- 統計報告 - 麻薬処方せん発行に伴う問題について - 抗血小板薬、抗凝固薬の休薬期間について - 麻酔科医の人事異動について
第 11 回	2 月 23 日（金）	- 統計報告 - 新版電子カルテ PC での手術室ワイドモニタ表示不具合について - 新版電子カルテ申し込み画面の紹介
第 12 回	3 月 23 日（金）	- 統計報告 - 新版電子カルテ申し込み画面の検討 - VPP 更新スケジュールの説明

図書委員会

目 的

図書室の運用及びそれに関する事項について審議する。

委員会開催

第 1 回

開催日：平成 30 年 10 月 5 日（金）

- 議 題：①洋雑誌の選定について
②和雑誌の選定について
③文献検索データベースについて
④文献取り寄せについて
⑤臨時図書購入について
⑥その他

地域医療支援病院運営委員会

目 的

委員会は、地域における医療の確保・向上のために必要な支援に係る業務に関し、当該業務が適切に行われるために必要な事項を審議することを目的とする。

平成 30 年度 委員会開催

第 1 回

開催日：平成 30 年 6 月 20 日

第 2 回

開催日：平成 30 年 9 月 19 日

第 3 回

開催日：平成 30 年 11 月 21 日

第 4 回

開催日：平成 31 年 2 月 20 日

【内容】

- ・紹介患者実績、紹介率・逆紹介率、救急搬入件数、セミナーなど、地域医療支援病院承認要件の報告。その後、当院の現状・活動について、今後当院との連携強化にむけて各委員（院外委員）と意見交換を実施。

地域医療連携運営委員会

平成 30 年度 委員会開催

第 1 回

開催日：平成 30 年 4 月 26 日

議 題：平成 29 年度紹介率・逆紹介率報告、月次報告 など

第2回：平成30年10月25日

議 題：紹介率・逆紹介率報告、地域連携の会について など

第3回：平成31年1月30日

議 題：紹介率・逆紹介率報告、地域連携の会について など

認知症ケアサポートチーム委員会

目 的

認知症ケアサポートチームは、病棟における認知症患者へのケアの実施状況を把握するとともに、専門スタッフが病棟職員、家族・家族等に助言等を行い、拘束患者の早期離脱をすすめ、認知症患者への理解を深めながら療養環境の改善を目的とします。

委員会開催

2回／年開催（必要時に開催）

活動実績

- ・毎週火曜日にミーティング及び、各病棟のラウンドを行い状況の確認・対応方法の検討と対策を行った。
- ・認知症患者の人数を把握し、各病棟の状況等の把握し、拘束患者の介入を行い拘束からの解放を行っている。
- ・ミーティングなど認知症・せん妄の状況を把握し判定を行い、対応方法など検討を行った。

認知症ケア加算1：3,942件（平成30年度）

AST 委員会

目 的

院内分離菌の把握、抗菌薬使用状況の把握など抗菌薬適正使用の推進。

毎週木曜日、約30分間の抗菌薬ラウンド（カルテラウンド）を実施。

今年度目標 ①抗菌薬使用状況の把握。

委員会開催

定例会議 毎月第1木曜日16時00分～（ICT委員会と合同開催）

議 題 MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、環境調査、抗菌薬使用状況、その他

◆院内感染対策に関する基本指針（感染管理室の設置に伴い、改訂した）

ICT委員会と同様

◆院内研修会

開催日	テーマ	対象	参加人数
4月6日	新採用者研修会	新採用職員	36名
4月13日	新人看護師研修会	新人看護師	24名
5月23日、 6月11日	抗菌薬適正使用に関する研修会 血液培養について	医師、看護師、 薬剤師、検査技師	73名
12月6日、13日	抗菌薬適正使用に関する研修会 薬剤耐性菌とPOT法	医師、看護師、 薬剤師、検査技師	33名

◆抗菌薬適正使用の推進に係る取り組み

抗菌薬ラウンド	週1回 抗菌薬長期使用患者、許可抗菌薬使用患者等のカルテラウンド 延べ224名
---------	--

病床管理運営委員会

目 的

急性期医療機関として、効率的かつ円滑な病床運営について検討・提案を行う。

委員会開催

第1回

開催日：平成30年5月7日

- 議 題：①病床稼働状況（統計報告）について
②患者支援センター統計資料
③午前退院・午後入院の検討について
④その他

第2回

開催日：平成30年6月4日

- 議 題：①病床稼働状況（統計報告）について
②患者支援センター統計資料
③「午前退院・午後入院」改め「退院後入院（1ベッド2回転）」の検討について
④看護部ミーティング報告
⑤その他

第3回

開催日：平成30年7月2日

- 議 題：①病床稼働状況（統計報告）について
②患者支援センター統計資料
③午前退院・午後入院の検討について
④その他

第4回

開催日：平成30年8月6日

- 議 題：①病床稼働状況（統計報告）について
②患者支援センター統計資料
③退院後入院（1ベッド2回転）の検討について
④その他

第5回

開催日：平成30年9月3日

- 議 題：①病床稼働状況（統計報告）について
②患者支援センター統計資料
③退院後入院（1ベッド2回転）の検討について
④その他

第6回

開催日：平成30年10月11日

- 議 題：①病床稼働状況（統計報告）について
②患者支援センター統計資料
③退院後入院（1ベッド2回転）の検討について
④その他・・・開催日程について

第7回

開催日：平成30年11月14日

- 議 題：①病床稼働状況（統計報告）について
②患者支援センター統計資料
③退院後入院（1ベッド2回転）の進捗等について
④その他

第8回

開催日：平成30年12月12日

- 議 題：①病床稼働状況（統計報告）について
②患者支援センター統計資料
③退院後入院（1ベッド2回転）の進捗等について
④その他

第9回

開催日：平成31年2月13日

- 議 題：①病床稼働状況（統計報告）について
②患者支援センター統計資料
③退院後入院（1ベッド2回転）の進捗等について
④病床管理基準の制定について
⑤その他

第10回

開催日：平成31年3月13日

- 議 題：①病床稼働状況（統計報告）について
②患者支援センター統計資料
③退院後入院（1ベッド2回転）の進捗等について
④病床管理基準の制定について
⑤その他

保険委員会

目 的

診療報酬請求の査定状況報告、返戻状況・再審査請求状況の報告、医師への情報提供、医事課勉強会の報告等を行い、正確な診療報酬請求に繋げる。

委員会開催

第1回

開催日：平成30年6月21日

- 議 題：①本年の保険委員会開催日程について
②審査機関による審査結果集計等報告
③審査機関による審査結果分析
④審査機関からの留意点伝達
⑤再審査等対応状況（面談実績、復活率報告、既済対応策等）
⑥保険請求に関する方針の決定
⑦各診療科への査定情報の公開について
⑧その他

第2回

開催日 平成30年8月16日

- 議 題 ①審査機関による審査結果集計等報告（近隣他病院査定率、自院査定率等）
②審査機関による審査結果分析
③審査機関からの留意点伝達
④再審査等対応状況（面談実績、復活率報告、既済対応策等）
⑤保険請求に関する方針の決定
⑥各診療科への査定情報の公開について
⑦その他

第3回

開催日 平成30年12月20日

- 議 題 ①審査機関による審査結果集計等報告（近隣他病院査定率、自院査定率等）
②審査機関による審査結果分析
③審査機関からの留意点伝達
④再審査等対応状況（面談実績、復活率報告、既済対応策等）
⑤保険請求に関する方針の決定
⑥各診療科への査定情報の公開について
⑦その他

第4回

開催日 平成31年2月21日

- 議 題 ①審査機関による審査結果集計等報告（近隣他病院査定率、自院査定率等）
②審査機関による審査結果分析
③審査機関からの留意点伝達
④再審査等対応状況（面談実績、復活率報告、既済対応策等）
⑤保険請求に関する方針の決定
⑥各診療科への査定情報の公開について
⑦その他

放射線安全委員会

目 的

放射線障害の発生を防止し、あわせて公共の安全を確保する目的として、当委員会では放射線被ばく等に関する必要な事項を企画、審議する。

委員会開催

開催日：平成30年4月26日

議題：

- ①「放射線教育訓練について」
- ②「放射線取扱主任者の選任と解任および代理者について」
- ③「放射線障害の防止に関する法令改正について」

開催日：平成30年5月23日

議題：

- ①「放射線障害予防規程、放射線安全委員会運営規則における担当職務について」
- ②「来年度の放射線教育訓練について」
- ③「放射線取扱主任者の届出確認および代理者について」
- ④「放射線障害の防止に関する法令改正について」

開催日：平成 30 年 7 月 25 日

議題：

- ①「教育訓練実施報告」
- ②「放射線障害の防止に関する法令改正について」

開催日：平成 31 年 3 月 6 日

議題：

- ①「教育訓練について」
- ②「放射線障害の防止に関する法令改正について」

防火防災・災害対策委員会

目 的

消防法第 8 条の規定に基づき、自衛消防組織を設置し、病院敷地内における火災を予防すると共に、火災その他の災害時における被害を軽減することを目的とする。

委員会開催

開催日：平成 30 年 5 月 2 5 日

議 題：①委員会規定の改正について

- ②災害対策ワーキンググループの位置づけについて
- ③消防・災害訓練の計画について
- ④自衛消防業務講習の継続的な受講について

開催日：平成 30 年 9 月 2 5 日

議 題：①大型台風 21 号に係る被害と対応について

- ②災害対応の改善について
- ③今年度の消防・災害訓練について
- ④ BCP 災害対応ガイドライン改正について

消防・災害訓練の実施

第 1 回

開催日：平成 30 年 4 月 4 日

内 容：新入職員を対象とした消火・放水訓練、応急救護、避難訓練

開催日：平成 30 年 10 月 11 日

内 容：消防訓練、避難誘導訓練（4 病棟）

開催日：平成 30 年 12 月 10 日

内 容：大規模地震発生時の対応訓練（休日の昼間を想定）

薬事委員会

目 的

医薬品や検査試薬等の採用や削除について、医師の依頼に基づいて適正に審議することが目的。

不良在庫の見直しによる採用薬品数の削減も、薬剤部の提案により本委員会で検討される。

後発品への切り替えは、DPC 導入もあり病院経営の観点からも重要である。後発品の品質・供給体制等を考慮し、薬剤部より提案のうえ本委員会にて審議している。

委員会開催

<第1回>

開催日 平成 30 年 4 月 6 日

- 議 題
1. 仮採用依頼品目の審議
 2. 院外採用依頼品目の審議
 3. 採用中止候補品目の審議
 4. 仮採用品目の本採用審議
 5. 特定患者用薬品の使用状況報告
 6. その他の報告・審議・承認依頼事項
 7. 6 ヶ月院内処方がない品目の採用中止報告
 8. 5 ヶ月院内処方がない品目の報告
 9. 後発品切替についての審議
 10. セフェム系内服抗生剤の採用についての審議

<第2回>

開催日 平成 30 年 5 月 11 日

- 議 題
- 1 - 9
 10. カルバペネム系抗生剤の採用についての審議

<第3回>

開催日 平成 30 年 7 月 6 日

- 議 題
- 1 - 9
 10. 国内承認薬の適応外使用についての審議 [呼吸器科]
 11. 国内承認薬の適応外使用についての審議 [緩和ケア診療科・呼吸器科]
 12. カルバペネム系抗生剤・セフェム系抗生剤の採用についての審議

<第4回>

開催日 平成 30 年 8 月 3 日

- 議 題
- 1 - 9

<第5回>

開催日 平成 30 年 9 月 7 日

- 議 題
- 1 - 9

<第6回>

開催日 平成30年11月2日

議 題 1－9

<第7回>

開催日 平成30年12月7日

議 題 1－9

<第8回>

開催日 平成31年1月11日

議 題 1－9

<第9回>

開催日 平成31年2月1日

議 題 1－9

10. 国内承認薬の適応外使用についての審議 [消化器科]

<第10回>

開催日 平成31年3月1日

議 題 1－9

平成30年度の振り返り

平成29年度に引き続き委員会を原則毎月開催し、会議時間の短縮と院内のドラッグラグの解消に努めた。

適正使用の観点から、薬剤部提案として多数の薬剤の採用見直しを行った。インフルエンザのパンデミックに備えて、新規キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害薬であるゾフルーザ錠10mg・20mgを採用とした。また厚労省からオキシコドンの乱用防止製剤の使用を推奨する文書が発出されたことから、オキシコドン製剤をTR錠へ切替えた。

また国内承認薬の適応外使用の申請が増加傾向を示している。既に慣例的に適応外使用されている薬剤について薬剤部で取りまとめ、審議を行い、エビデンスレベルが高い内容の申請については適応外使用が承認されたものの、エビデンスレベルが低い内容の申請については否決された。平成30年度は厚労省が作成した薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランに従い、抗微生物剤の使用量削減のため、院内採用薬の見直しを行い、内服薬ではセフカペンピボキシル塩酸塩錠100mgとセフジニルカプセル100mgが院内での採用が中止となった。また注射薬では第三世代セフェム系抗生剤のフルマリキット静注用1gとカルバペネム系抗生剤のカルベニン点滴用0.5gが採用中止となった。

特定患者用薬品（臨時購入）については申請受付時に必要性について申請医と十分な協議を行い、臨時購入が必要なケースかチェックする体制を引き続き強化した。

後発品関連は、平成29年度に主な薬剤の切替えが完了していたが、毎回領域ごとに少しずつ切替えを継続した。リツキサンは後続品リツキシマブに切替を行い、バイオシミラーの開発も増加

傾向であり、今後も継続すべき事案である。平成 26 年度診療報酬改定で新設された機能評価係数Ⅱの後発医薬品指数は、平成 30 年度後発品使用体制加算に移行された。使用量ベースは 85% に到達し、後発品使用体制加算 1 が取得出来た。平成 31 年度も使用量ベースで 85% 以上を維持し、後発品使用体制加算 1 の算定を維持したい。製薬メーカーの再編に伴い平成 30 年度も販売中止の薬品が頻発し、採用薬切替の対応に追われた一年であった。また一部メーカーのセファゾリン Na 供給停止に伴い、平成 31 年度は抗生剤全般の安定供給が危惧される。

以 上
幹事 仲 忠士

輸血療法委員会

目 的

適正かつ安全な輸血療法の推進を目的とすること。

委員会開催

第 1 回

開催日：平成 30 年 4 月 4 日

議 題：① 2017 年度 輸血用血液製剤損失額報告

② アルブミン、FFP の使用について

③ 輸血副作用報告件数

④ クロスマッチ用検体の当日採血の徹底

第 2 回

開催日：平成 30 年 5 月 2 日

議 題：① アルブミン、FFP の使用について

② 輸血副作用報告件数

③ 輸血マニュアル改訂案

第 3 回

開催日：平成 30 年 6 月 6 日

議 題：① アルブミン、FFP の使用について

② 輸血副作用報告件数

③ 輸血関連インシデント報告 2 件

第 4 回

開催日：平成 30 年 7 月 4 日

議 題：① アルブミン、FFP の使用について

② 輸血副作用報告件数

③ 輸血療法委員会の構成委員について（血液内科 岡田先生の加入）

第 5 回

開催日：平成 30 年 8 月 1 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②輸血副作用報告件数

③手術中の出血に対する大量輸血実施の報告

第 6 回

開催日：平成 30 年 9 月 5 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②輸血副作用報告件数

③輸血副作用の報告

第 7 回

開催日：平成 30 年 10 月 3 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②輸血副作用報告件数

③輸血製剤の廃棄報告

④新鮮凍結血漿（FFP）の融解後使用期限延長のお知らせとそれに伴う輸血マニュアル改訂案

第 8 回

開催日：平成 30 年 11 月 7 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②輸血副作用報告件数

③輸血製剤の廃棄報告

④自己血採血の期限について

⑤輸血副作用の報告（血液センターへ調査依頼提出）

第 9 回

開催日：平成 30 年 12 月 12 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②輸血副作用報告件数

③輸血終了後の血液製剤の保管について

④血液センターより年末年始にかかる血液製剤の予約発注についてお知らせ

第 10 回

開催日：平成 31 年 1 月 9 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②輸血副作用報告件数

③輸血副作用の調査報告

④輸血製剤廃棄報告および PC の使用期限についての注意喚起

⑤血液製剤のインターネット発注システムについて

第 11 回

開催日：平成 31 年 2 月 6 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②輸血副作用報告件数

③輸血マニュアル改訂案

④ 3 月以降の委員会開催場所について

第 12 回

開催日：平成 31 年 3 月 6 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②輸血副作用報告件数

③輸血製剤の廃棄報告

④新電子カルテシステムによる輸血副作用の報告方法について

倫理委員会

目 的

当院で行われるヒトを対象とした医学の研究及び臨床応用についての「医の倫理」に関する事項をヘルシンキ宣言（2013 年 WMA フォルタレザ総会修正）の趣旨に添い審議することを目的とする。

委員会開催

（書類審議）

実施日：平成 30 年 4 月 20 日

議 題：①特発性肺繊維症における白血球テロメア長と血中バイオマーカーおよび臨床指標の関連についての検討

②在宅酸素療法を必要とする安定期 COPD 患者における長期高流量鼻カニュラ酸素療法に対する有効性及び安全性に関する検討：他施設前向きランダム化比較試験（承認番号 H29 -23 の部分変更）

（①～②以上 2 件 呼吸器内科）

（書類審議）

実施日：平成 30 年 5 月 15 日

議 題：①心不全医療の適正化に資するための全国規模データベースによるエビデンスの創出（循環器科）

第 1 回

開催日：平成 30 年 6 月 12 日

議 題：①患者 QOL から考える、2 型糖尿病患者におけるダパグリフロジンの第一選択薬としての有効性（糖尿病内分泌生活習慣科）

②膝関節手術に対する多剤カクテル関節周囲注射療法 PMDI 法（整形外科）

③ジョーンズチューブを使用した結膜涙嚢鼻吻合術の検討（眼科）

- ④骨髄不全患者を対象とした HLA-A アレル欠失血球の検出（血液腫瘍内科）
- ⑤大腸がんに対する oxaliplatin 併用の術後補助化学療法終了後 6 か月以降再発例を対象とした oxaliplatin based regimen の有効性を検討する第Ⅱ相臨床試験の期間延長
- ⑥ RAS 野生型進行性大腸癌患者における FOLFOXIRI + セツキシマブと FOLFOXIRI + ベマシズマブの最大腫瘍縮小率（DpR）を検討する無作為化第Ⅱ相臨床試験の期間延長（⑤～⑥以上 2 件 消化器外科）

（書類審議）

実施日：平成 30 年 8 月 16 日

議 題：① EGFR（上皮成長因子受容体）阻害薬の皮膚障害に対する保湿剤の有効性確認試験の実施計画の再変更（承認番号 H29-20 の部分変更）（皮膚科）

第 2 回

開催日：平成 30 年 8 月 29 日

- 議 題：①在宅酸素療法・NPPV 患者における大阪北部地震時の行動と備えの実態（呼吸器内科）
- ②膝関節解剖学的前十字靱帯再建術の移植腱の MRI 評価（整形外科）
- ③〇川〇歌〇氏に対する経口ベクロメタゾン製剤投与（適応外使用）について（血液腫瘍内科） ※指針書の範囲外

（書類審議）

実施日：平成 30 年 10 月 15 日

議 題：①在宅酸素療法を必要とする安定期 COPD 患者における長期高流量鼻カニュラ酸素療法に対する有効性及び安全性に関する検討：多施設前向きランダム化比較試験（H29-23 の部分変更）（呼吸器内科）

第 3 回

開催日：平成 30 年 10 月 23 日

- 議 題：①心房細動における直接経口抗凝固薬(DOAC)モニタリングによる薬剤有効性の検討：摂津・北大阪地区多施設共同登録研究
仮称：SETtsu DOAC Registry(SET DOAC Registry)（循環器科）
- ②京都造血幹細胞移植グループの造血幹細胞移植データを用いた移植成績の解析
- ③非重症再生不良性貧血に対するシクロスポリン療法の有用性に関する検討
- ④「造血細胞移植医療の全国調査」への参加
（②～④以上 3 件 血液腫瘍内科）

（書類審議）

実施日：平成 30 年 12 月 12 日

議 題：① RET 融合遺伝子等の低頻度の遺伝子変化陽性肺癌の臨床病理学的、分子生物学的特徴を明らかにするための前向き観察研究（H27-04 の部分変更）（呼吸器内科）

第4回

開催日：平成30年12月25日

- 議 題：①閉塞性肺疾患の病態に関連した臨床指標に関する研究（呼吸器内科）
② National Clinical Database を利用した女性消化器外科医の手術修練に関する研究（消化器外科）
③ 1型糖尿病とバセドウ病合併例の経過についての研究
④生活習慣病と転写因子関連遺伝子多型との関連解析
（①～②以上2件 糖尿病内分泌生活習慣科）

（書類審議）

実施日：平成31年1月21日

- 議 題：①在宅酸素療法を必要とする安定期 COPD 患者における長期高流量鼻カニューラ酸素療法に対する有効性及び安全性に関する検討：多施設前向きランダム化比較試験（承認番号 H29-23 の部分変更）（呼吸器内科）

（書類審議）

実施日：平成31年2月6日

- 議 題：①当院での糖尿病デバイスへの放射線及び高周波デバイスへの対応
（臨床工学技術課）

第5回

開催日：平成31年2月27日

- 議 題：①混合産科病棟で発症した新生児 TSS 様発疹症の MRSA 株の遺伝子発現および院内感染について（小児科）

（書類審議）

実施日：平成31年3月26日

- 議 題：①緩和ケアチームで行なうアロマセラピーマッサージの有効性
（承認番号 H29-42 の部分変更）（看護部）

臨床検査適正化委員会

目 的

臨床検査の適正なる運用を推進すること。

第195回

開催日 平成30年4月10日

1. 3月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注の新規依頼について
3. 病棟、外来採血検査状況報告
4. 検体検査管理加算Ⅳについて
5. その他

第 196 回

開催日 平成 30 年 5 月 8 日

1. 4 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注の新規依頼と検査依頼項目削除について
3. 好酸菌同定の新規項目受託開始について
4. 血液検査、白血球分類の機械と目視の違いについて
5. 保険未収載の検査依頼について
6. 6 月の職員健診の採血時間について

第 197 回

開催日 平成 30 年 6 月 12 日

1. 5 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注の新規依頼と試薬基準値変更について
3. 保険未収載検査の承認申請書について
4. 臨床検査における法改正について
5. その他

第 198 回

開催日 平成 30 年 7 月 10 日

1. 6 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注の新規項目について
3. 総ビリルビンの基準値について
4. 血糖検査の不具合について
5. その他

第 199 回

開催日 平成 30 年 8 月 14 日

1. 7 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注の新規項目について
3. 凝固検査の採血管遠心時間延長について
4. 採血時間の状況について
5. その他

第 200 回

開催日 平成 30 年 9 月 11 日

1. 8 月分 院内測定項目 実績件数
2. 凝固採血の採血管遠心時間延長について
3. 日臨技臨床検査精度管理調査の結果について
4. 7 病棟採血支援について
5. その他

第 201 回

開催日 平成 30 年 10 月 9 日

1. 9 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注の新規項目、基準値変更について
3. CRP パニック値の設定について
4. 7 病棟採血支援について
5. その他

第 202 回

開催日 平成 30 年 11 月 13 日

1. 10 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注項目の測定法変更、受託終了について
3. 血中アンモニア検査の誤差について
4. カルシウム検査について
5. 医療法一部改正による標準作業手順書について
6. その他

第 203 回

開催日 平成 30 年 12 月 11 日

1. 11 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規依頼、変更について
3. 生化学採血管の一部変更について
4. 電子カルテ更新に伴う検査セットや検査定期オーダーの扱いについて
5. その他

第 204 回

開催日 平成 31 年 1 月 8 日

1. 12 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規依頼、変更について
3. タクロリムス、シクロスポリンの試薬検討について
4. その他

第 205 回

開催日 平成 31 年 2 月 12 日

1. 1 月分 院内測定項目 実績件数
2. 妊娠検査薬（簡易尿中 HCG 定性キット）の不具合について
3. 外注先のファルコバイオシステムズの火災による影響について
4. 電子カルテ更新に伴う診療科セット、4 月以降の予約検査移行について

第 206 回

開催日 平成 31 年 3 月 12 日

1. 2 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. 日本医師会精度管理調査の結果について
4. 新版電子カルテの検査項目の表示について
5. タクロリムス・シクロスポリンの院内化、メソトレキセートの外注について
6. 過去 3 年間の検査件数、検査費用の推移について
7. その他

労働安全衛生委員会

日 時 平成 30 年 4 月 16 日（月） 16：00 ～ 16：10

- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 定期健康診断の実施について
3. 職員採用時（6 月）の職員健診での HBs 抗体検査について

日 時 平成 30 年 5 月 21 日（月） 16：00 ～ 16：30

- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 定期健康診断の実施について

日 時 平成 30 年 6 月 25 日（月） 16：00 ～ 16：15

- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 定期健康診断の実施について

日 時 平成 30 年 7 月 23 日（月） 16：00 ～ 16：15

- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 定期健康診断の実施について

日 時 平成 30 年 8 月 27 日（月） 16：00 ～ 16：07

- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 職員健診での特定健診結果について
3. ストレスチェックについて

日 時 平成 30 年 9 月 25 日（火） 16：00 ～ 16：15

- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. ストレスチェックについて
3. インフルエンザ予防接種について

日 時 平成 30 年 10 月 15 日（月） 16：00 ～ 16：10

- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. インフルエンザ予防接種について

日 時 平成 30 年 11 月 19 日（月） 16：00 ～ 16：08

- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 特定健診要指導者への指導について
3. インフルエンザ予防接種について
4. 深夜業務者等特定業務従事者の定期健康診断の実施について

日 時 平成 30 年 12 月 17 日（月） 16：00 ～ 16：08

- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 深夜業務者等特定業務従事者の定期健康診断の実施について

日 時 平成 31 年 1 月 21 日（月） 16：30 ～ 16：35

- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 深夜業務者等特定業務従事者の定期健康診断の実施について

日 時 平成 31 年 2 月 18 日（月） 16：00 ～ 16：14

- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 次期産業医への申し送り済事項について
3. 麻疹・風疹対応について

日 時 平成 31 年 3 月 18 日（月） 16：00 ～ 16：03

- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. その他

褥瘡委員会

目 的

高槻赤十字病院において褥瘡対策を円滑に推進するため、院内褥瘡対策について討議検討し、その効果的な推進を図ることを目的とする。

委員会

褥瘡対策の実際としては毎週、褥瘡対策チームが回診を行い、ベッドサイドカンファレンスでケアの評価、及び処置を実施・指導している。褥瘡委員会の下部組織として、褥瘡リンクナース会を設置し、各病棟にリンクナースを配置して褥瘡対策に取り組んでいる。

院内発生褥瘡について NPUAP の分類で深達度Ⅱ度以上の褥瘡発生件数は 29 件で推定発生率は 0.8%、褥瘡有病率は 2.2%であった。持ち込み褥瘡は 44 件あり、深達度は NPUAP 分類でⅢ度以上の深い褥瘡が多かった。部位は昨年度と同様に踵部、仙・尾骨部の発生が多かった。

褥瘡ハイリスク患者ケア加算は 779 件算定した。

電子カルテ委員会

目 的

電子カルテシステムの運用及び更新等の推進を目的とする。

委員会開催

日 時 平成 30 年 4 月 23 日（月） 15：30 ～ 16：20

場 所 8 病棟 B 会議室

- 議 題 1. 電子カルテ更新に関する現在の状況について
2. ベンダー選定について
3. 今後の進め方について

日 時 平成 30 年 10 月 04 日 (木) 16 : 00 ~ 16 : 40

場 所 3F 講義室

議 題 1. 次期版電子カルテへの更新について
2. 質疑・指摘事項
3. 今後の進め方について

日 時 平成 31 年 1 月 21 日 (火) 16 : 30 ~ 17 : 30

場 所 3F 講義室

議 題 1. これまでの状況について
2. 質疑・指摘事項
3. 今後の進め方について

患者サービス向上委員会

目 的

患者サービス向上委員会は、医療や患者へのサービスの充実を図り、患者の満足度や職員のモラルを高めることを目的とします。

委員会開催

原則月 1 回、第 4 水曜日 16 時

活動実績

- ・平成 29 年 8 月から患者サービス向上委員会として活動し、昨年度に引き続き満足度調査を実施した。(2 回目)
平成 30 年 9 月に入院患者満足度調査、平成 30 年 10 月に外来患者満足度調査、平成 31 年 3 月に職員満足度調査の計 3 回の調査を実施した。
- ・平成 30 年 12 月に患者満足度調査の結果報告を院内掲示板及び院外広報誌に掲載した。又、令和元年 9 月に職員満足度調査の結果報告を院内ホームページ及び院内広報誌に掲載した。
- ・平成 29 年度に実施した患者・職員満足度調査の結果に対する、患者サービス向上委員会での働きかけを報告した【平成 29 年度患者・職員 満足度調査その後】を掲載した。
- ・1 階正面の身障者用トイレの修繕を行った。

VIII 誌上・講演発表

《誌 上》

糖尿病・内分泌・生活習慣病科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Shizuka Kaneko Keiji Nishijima, Heidrun Bosch-Traberg, Kohei Kaku, Yutaka Seino	Efficacy and safety of adding liraglutide to existing insulin regimens in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: A post-hoc analysis of a phase 3 randomized clinical trial.	J Diabetes Investig. 2018 Jul;9(4):840-849.doi: 10.1111/jdi.12793	2018年6月
Shizuka Kaneko Youhei Ueda, Yumiko Tahara	GLP-1 receptor agonist liraglutide is an effective therapeutic option for perioperative glycemic control in type 2 diabetes within enhanced recovery after surgery (ERAS) protocols.	European Surgical Research Eur Surg Res.2018 Dec 11;59(5-6):349-360. doi:10.1159/000494768.	2018年12月

総説等

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
金子 至寿佳	若い頃からの予防が重要 2型糖尿病～高血糖状態が続くと血管が傷つき、様々な病気を引き起こします～	高校保健ニュース	2018年6月
金子 至寿佳	今の食生活があなたの未来を作ります	給食ニュースNo.1742	2018年9月

消化器科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Takuto Yoshioka Munehiro Ikeda, Naoki Kanda	Sequential infection by herpes simplex virus,Candida species,and Cytomegalovirus species in esophagus	Gastrointestinal Endoscopy307, Volume90,No.2	2019年

呼吸器科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
鳳山 絢乃 菅 理晴、康 あんよん、 中村 保清、渡邊 千尋、 北 英夫	ペメトレキシドとプラチナ併用化学療法後の長期のペメトレキシド維持療法が有効であった肺腺様嚢胞癌の1例	肺癌 第58巻2号：111-115	2018年4月
今戸 美奈子 北 英夫、鳳山 絢乃、 祖開 暁彦、後藤 健一、 深田 寛子、田尻 智子、 中村 保清	ハイフローセラピーの装着感及びスキントラブルの実態	日本呼吸器ケア・リハビリテーション学会誌 27巻2号：163-167	2018年5月
田尻 智子 藤田 修治、北 英夫	両側声帯麻痺を契機に診断された筋萎縮性側索硬化症の1例	内科 第122巻4号：875-879	2018年10月

症例報告

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
菅 理晴 康 あんよん、鳳山 絢乃、 長谷川 浩一、祖開 暁彦、 後藤 健一、深田 寛子、 北 英夫、千葉 渉	肺腺癌術後再発に対して EGFR-TKI などの地鎮を継続すること で再発後 10 年以上の長期生存 が得られている 2 例	肺癌 第 58 巻 6 号：674	2018 年 10 月

会議録

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
田尻 智子 藤田 修治、鳳山 絢乃、 祖開 暁彦、後藤 健一、 深田 寛子、中村 保清、 北 英夫	喘息合併慢性副鼻腔炎に対する 内視鏡下鼻副鼻腔手術が喘息コ ントロールに与える影響	アレルギー 67 巻 4-5 号：596	2018 年 5 月
祖開 暁彦 鳳山 絢乃、長谷川 浩一、 深田 寛子、後藤 健一、 中村 保清、北 英夫	当院における特発性肺線維症に対 する抗繊維化薬使用症例の検討	日本呼吸器学会誌 8 巻増刊： 200	2019 年 3 月

解 説

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
田尻 智子	【診断と治療の ABC[135] 喘息】 (第 4 章) 管理・治療 抗 IgE 抗 体療法	最新医学 別冊喘息：173-179	2018 年 6 月

消化器外科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
河野 恵美子 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、今井 義朗、 坂根 純奈、鈴木 悠介	TAS-102 投与中に薬剤性間質性 肺炎を発症した大腸癌の肝・肺 転移の 1 例	癌と化学療法 45 (9)：1365-1368	2018 年 9 月
Yoshiro Imai Masako Hiramatsu, Toshihiro Kobayashi, Ichiro Tsunematsu, Emiko Kono, Junna Sakane, Yusuke Suzuki	Comparing the incidence of occult contralateral hernia under laparo- endoscopic techniques and of contralateral metachronous hernia after a unilateral groin hernia repair in open technique.	The American Surgeon 85(2): 197-200	2019 年 2 月

その他 (Media Seminar の取材掲載)

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
平松 昌子 力山 敏樹 (自治医科大学埼 玉医療センター、一般・消 化器外科教授)、長谷川 芙美 (自治医科大学埼玉医療セン ター、一般・消化器外科)	今週の話：女性外科医のキャ リアとライフイベント両立を目 指す	Medical Tribune Vol. 51, No. 7, p3	2018 年
平松 昌子 力山 敏樹 (自治医科大学埼 玉医療センター、一般・消 化器外科教授)、長谷川 芙美 (自治医科大学埼玉医療セン ター、一般・消化器外科)	取材速報 「女性外科医キャリア形成をめ ぐって～現状と課題解決に向 けたチャレンジとは～」	放射線科情報ポータル Rad Fan ONLINE 2018.3.14	2018 年

インタビュー

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
平松 昌子	インタビューが繋ぐ全国で活躍する女性医師	e-resident Vol2.	2018 年

乳腺外科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Tanaka S Matsunami N, Morishima H, Oda N, Takashima T, Noda S, Tauchi Y, Asano Y, Kimura K, Fujioka H, Terasawa R, Kobayashi T, Nishida Y, Iwamoto M	De-escalated neoadjuvant therapy with nanoparticle albumin-bound paclitaxel and trastuzumab for low-risk pure HER2 breast cancer.	Cancer Chemotherapy and Pharmacology Volume 83 , Issue 6 pp1099-1104	2019 年

皮膚科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Ishida Y Kuninaka Y, Furukawa F, Kimura A, Nosaka M, Fukami M, Yamamoto H, Kato T, Shimada E, Hata S, Takayasu T, Eisenmenger W, Kondo T	Immunohistochemical analysis on aquaporin-1 and aquaporin-3 in skin wounds from the aspects of wound age determination.	Int J Legal Med 132:237-242	2018 年
Ishida Y Kuninaka Y, Nosaka M, Shimada E, Hata S, Yamamoto H, Hashizume Y, Kimura A, Furukawa F, Kondo T	Forensic application of epidermal AQP3 expression to determination of wound vitality in human compressed neck skin.	Int J Legal Med 132: 1375-1380	2018 年
Ikedo T Furukawa F, Kawakami T, Ishiguro N, Uzuki M, Ozaki S, Katsuoka K, Kono T, Kawana S, Kodera M, Sawai T, Sawada Y, Seishima M, Tanikawa A, Chen KR, Hasegawa M	Committee for Guidelines for the Management of Vasculitis and Vascular Disorders of The Japanese Dermatological Association: Outline of guidelines for the management of vasculitis and vascular disorders in Japan, 2016 revised edition.	J Dermatol 45:122-127	2018 年
Iwahashi Y Fujimoto M, Tanaka M, Kusutani N, Furukawa F, Tsuruta D, Yamamoto Y, Murata SI	2016 measles outbreak in Japan: A report of two cases with reappraisal of histological features.	J Dermatol 45: e185-e186	2018 年

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Hayashi N Akamatsu, H, Iwatsuki K, Shimada-Omori R, Kaminaka C, Kurokawa I, Kono T, Kobayashi M, Tanioka M, Furukawa F, Furumura M, Yamasaki O, Yamasaki K, Yamamoto Y, Miyachi Y, Kawashima M	Japanese Dermatological Association Guidelines Guidelines for the Treatment of Acne Vulgaris 2017	J Dermatol 45: 898-935	2018 年
Shima T Yamamoto Y, Kanazawa N, Murata KY, Ito H, Kondo T, Yuan J, Hashiguchi A, Takashima H, Furukawa F	Repeated hyperhidrosis and chilblain-like swelling with ulceration of the fingers and toes in hereditary sensory and autonomic neuropathy type II	J Dermatol 45: e308-e309	2018 年
Samotij D Szczech J, Werth VP, Furukawa F, Kuhn A, Szepletowski JC, Reich A	Disease severity and prophylactic measures in patients with cutaneous lupus erythematosus: results of a worldwide questionnaire- based study.	Postepy Dermatol Alergol. 35(2):192-198	2018 年
Inaba Y Kanazawa N, Yoshimasu T, Shimokawa T, Nosaka M, Kondo T, Furukawa F	Severer lupus erythematosus- like skin lesions in MRL/ lpr mice with homozygous Kitwsh/wsh mutation.	Mod Rheumatol 28: 319-326	2018 年
Honda-Ozaki F Terashima M, Niwa A, Saiki N, Kawasaki Y, Ito H, Hotta A, Nagahashi A, Igura K, Asaka I, Hongmei Lisa Li, Yanagimachi M, Furukawa F, Kanazawa N, Nakahata T, Saito MK	Pluripotent stem cell model of Nakajo-Nishimura syndrome untangles proinflammatory pathways mediated by oxidative stress.	Stem Cell Reports 10: 1835-1850	2018 年
Okuhira H Yamamoto Y, Inaba Y, Kunimoto K, Mikita N, Ikeda T, Kaminaka C, Minami Y, Kanazawa N, Furukawa F, Jinnin M	Prognostic factors of daily blood examination for advanced melanoma patients treated with nivolumab.	BioScience Trends 12: 412-418	2018 年
Samotij D Szczech J, Kushner C, Mowla MR, Danczak-Pazdrowska A, Antiga E, Chasset F, Furukawa F, Hasegawa M, Hashizume H, Islam A, Ikeda T, Polanska A, Misery L, Szepletowski JC, Tsuruta D, Werth VP, Reich A	Prevalence of pruritus in cutaneous lupus erythematosus: brief report of a multicenter, multinational cross-sectional study.	Biomed Res Int. 2018: 3491798 doi: 10.1155/2018/3491798. eCollection	2018 年

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Furukawa F Ikeda T	Alopecia and IgG4-related disease.	Trends Immunother ; 2: 915 doi: 10.24294/ti.v2i2.915	2018 年
Furukawa F	Immune checkpoint inhibitors and irAEs.	Trends Immunother ; 2: 930 doi: 10.24294/ti.v2i2.930	2018 年
Inaba Y Kunimoto K, Kanazawa N, Furukawa F	Effects of a humanized anti-human IL-6 receptor monoclonal antibody on Nakajo-Nishimura syndrome.	Trends Immunother ; 2: 1051 doi:10.24294/ti.v2i3.1051	2018 年
Furukawa F	The Nobel Prize in Physiology or Medicine 2018 was awarded to cancer therapy by inhibition of negative immune regulation.	Trends Immunother ; 2 : 1065 doi:10.24294/ti.v2i3.1065	2018 年
Inaba Y Kunimoto K, Kanazawa N, Furukawa F	Antinuclear antibodies in Nakajo-Nishimura syndrome. a bridge with research on refractory autoimmune diseases.	Trends Immunother ; 2: 1078 doi:10.24294/ti.v2i3.1078	2018 年
兪 明寿 中尾 有衣子、谷崎 英昭、 黒川 晃夫、古川 福実、 森脇 真一	小児のドライスキンおよび軽症アトピー性皮膚炎の皮膚症状に対するメルシーケア®の有効性と安全性に関する検討	日本小児皮膚科学会誌 37 : 71-79	2018 年
奥野 愛香 樋上 敦、菅 健敬	日本紅斑熱	皮膚病診療 40: 1239-1242	2018 年
濱本 千晶 国本 佳代、早田 敦志、 石本 淳也、古川 福実、 神人 正寿、金澤 伸雄	肺炎・呼吸不全の加療中にテオドール(テオフィリン)によるスティーブンス・ジョンソン症候群を発症し死亡した1例	和歌山医学 69: 61-65	2018 年

総 説

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
古川 福実	日本皮膚科学会認定指導専門医研修会テキスト(平成30年度日本皮膚科学会美容皮膚科・レーザー指導専門医研修会)紫外線と皮膚-ループスエリテマトーデスから探る光線過敏-	日本皮膚科学会	2018 年
古川 福実	マルホ皮膚科セミナー「第41回日本小児皮膚科学会 教育講演 ループスの皮膚病変：世界の視点から」	マルホ皮膚科セミナー放送内容集 No.255: 10-16	2018 年
古川 福実	総説 紫外線と皮膚 - ループスエリテマトーデスから探る光線過敏 -	日本美容皮膚科学会雑誌 28:297-306	2018 年

雑誌・挨拶等

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
古川 福実	ループスの皮膚病変：世界の視点から	マルホ皮膚科セミナー ラジオ NIKKEI 放送内容集 (2018 年 3 月 15 日放送) 255: 10-16	2018 年
古川 福実 山本 有紀、黒川 一郎	ニキビ肌の人に安心安全なサン スクリーン	第 117 回日本皮膚科学会総会学 術大会モーニングセミナー 12 記録	2018 年
古川 福実	私の履歴書	皮膚病診療 40:844-851	2018 年
古川 福実	<スペシャル・ゼミ>「アトピー 性皮膚炎は何故おこる？」	学校法人 日本教育財団大阪医専 https://www.iko.ac.jp/osaka/mind/special/18205	2018 年
古川 福実	和歌山県立医科大学皮膚科学教 室神人教授就任祝賀会でのス ピーチ	和歌山県皮膚科医会会誌 11:4-6	2018 年
古川 福実	アブない便り	和歌山県皮膚科医会会誌 11:7-8	2018 年
キャリア支援委員会 岸部 麻里、伊藤 明子、 飯塚 一、指宿 敦子、 多田 弥生、古川 福実、 市原 麻子、高山 かおる、 峠岡 理沙、東 裕子、 松村 由美、青山 裕美、 秀 道広	第 117 回日本皮膚科学会総会 キャリア支援委員会企画教育講 演 このひとのキャリアを聞き たい！「時空を超えてつなぐバ トン」	日本皮膚科学会雑誌 128：2803－2813	2018 年
関東 裕美 古川 福実、山本 有紀、 鷺崎 久美子	エステティックサービスにおけ る健康被害の実態把握及び原因 の究明	厚生労働科学研究費補助金 健康 安全・危機管理対策総合研究事 業「エステティックの施術によ る身体への危害についての原因 究明及び衛生管理に関する研究」 平成 29 年度分担研究報告書	2018 年
古川 福実	理事就任のご挨拶	大阪府病院協会ニュース 2018 7 月 p.21	2018 年
古川 福実	忘れつつあるので 2011.3.11 の ことを記録にとどめておきます ―当時和歌山県立医大付属病院 の副院長でいろいろ大変だった という思い出と共に－	2017 年度京都大学大学院医学 研究科皮膚科学年報 3：144- 151	2018 年
古川 福実	接触皮膚炎、光線過敏症、蕁麻疹、 水疱症、乾癬	病気とくすり 2018 基礎と実践： 1168	2018 年

泌尿器科

総 説

著 者	題 名	誌名・巻 (号)：頁	発 行
六車 光英	精索静脈瘤 .	別冊 日本臨床 領域別症候群 シリーズ No.3 内分泌症候群 (第3版) (Ⅲ) -その他の内分 泌疾患を含めて- p60-62	2019年1月

薬剤部

原 著

著 者	題 名	誌名・巻 (号)：頁	発 行
足立 那々緒 小島 一晃	非代償期肝硬変におけるトルバ プタン導入のクリニカルパス運用	医薬ジャーナル Vol.55, No1, 145-150	2019年

その他

著 者	題 名	誌名・巻 (号)：頁	発 行
小島 一晃	病院薬剤師業務の変遷	薬事新報 第3060号, 898-899	2018年

看護部

原 著

著 者	題 名	誌名・巻 (号)：頁	発 行
今戸 美奈子 北 英夫、鳳山 綾乃、 祖開 暁彦、後藤 健一、 深田 寛子、田尻 智子、 中村 保清	ハイフローセラピーの装着感及 びスキントラブルの実態	日本呼吸ケア・リハビリテーション 学会誌, 27(2), 163-167.	2018年5月
今戸 美奈子 竹川 幸恵、森本 美智子、 河田 照絵、池田 由紀、 松本 麻里、本城 綾子、 毛利 貴子	慢性呼吸器疾患患者が行う息切 れに対するマネジメント法の実態	日本呼吸ケア・リハビリテーション 学会誌, 27(2), 168-173.	2018年5月

総 説

著 者	題 名	誌名・巻 (号)：頁	発 行
今戸 美奈子	慢性呼吸器疾患患者に対する呼 吸リハビリテーションの取り組み	日本リハビリテーション看護学会誌, 8(1), 27-30.	2018年11月

《講 演》

糖尿病・内分泌・生活習慣病科

学会発表

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
金子 至寿佳	1 型糖尿病患者と 2 型糖尿病患者の低血糖リスクと空腹時血糖値（血糖自己測定）の日差変動は相関する	第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会	東京	2018 年 5 月 23 日
Shizuka Kaneko Yumi Onogi, Ryoko Michibata	Dietary Education Via Teacher Diabetologist Cooperation	American Diabetes Association's 77rd Scientific Sessions. (ADA)	Orland	2018 年 6 月
Shizuka Kaneko Youhei Ueda, Yumiko Tahara	Duraglutide has favorable outcomes in elderly or renal impairment patients with type 2 diabetes.	American Diabetes Association's 77rd Scientific Sessions. (ADA)	Orland	2018 年 6 月
Mayu Kadoya Youhei Ueda, Yumiko Tahara, Shizuka Kaneko	Dulaglutide has favorable outcomes in elderly or renal impairment patients with type 2 diabetes	54th European association for the study of diabetes. (EASD)	Berlin	2018 年 9 月
Shizuka Kaneko	Dulaglutide has favorable outcomes in elderly or renal impairment patients with type 2 diabetes	Webcast presentation	Berlin	2018 年 9 月
本橋 和也 金子 至寿佳、奥野 岳、 平川 結賀、奥野 愛香、 古川 福実	短期のステロイド外用薬投与にて副腎抑制を来した 1 症例	日本内科学会第 221 回近畿地方会	大阪	2018 年 9 月 22 日
井上 健太郎 植田 洋平、大杉 友顕、 田原 裕美子、金子 至寿佳	1 型糖尿病とバセドウ病同時発症 3 症例の長期経過	第 55 回日本糖尿病学会近畿地方会	兵庫	2018 年 10 月 27 日

ワークショップ

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
金子 至寿佳	一感謝の気持ちをエネルギーに	第 55 回日本糖尿病学会近畿地方会	兵庫	2018 年 10 月 27 日

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
金子 至寿佳	糖尿病薬物療法の最新の知見を医師会員に広める	豊中市医師会	大阪	2018 年 6 月 16 日
金子 至寿佳	今の食生活が、あなたの未来をつくれます	全国学校栄養士協議会京都府研究会「学校関係栄養士研究会」	京都	2018 年 6 月 22 日
金子 至寿佳	GLP-1 製剤に関する講演会	第 8 回 瀬戸内 2 型糖尿病治療研究会	岡山	2018 年 6 月 30 日
金子 至寿佳	食生活と学習効果	淀川区学校保健大会	大阪	2018 年 7 月 11 日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
金子 至寿佳	糖尿病周辺知識の向上	Diabetes Conference in 阪神	兵庫	2018 年 7 月 12 日
金子 至寿佳	食生活に関する疾病教育	大阪教育大学附属池田中学校	大阪	2018 年 7 月 17 日
金子 至寿佳	糖尿病領域疾患における知識の普及と学問的水準の向上に貢献	D iabetes & Incretin Seminar in 姫路	兵庫	2018 年 7 月 18 日
金子 至寿佳	病診連携と最新の糖尿病治療について	第 36 回 福井県糖尿病懇話会	福井	2018 年 7 月 22 日
金子 至寿佳	より安心な手術のために～糖尿病医から手術医へ、そして麻酔科医が求めること～	糖尿病総合医療懇話会	大阪	2018 年 7 月 28 日
金子 至寿佳	GLP-1 製剤に関するご講演	群馬県糖尿病治療セミナー	群馬	2018 年 8 月 2 日
金子 至寿佳	糖尿病の最新情報の提供	第 36 回内分泌代謝学セミナー ランチョンセミナー	宮城	2018 年 8 月 4 日
金子 至寿佳	自分たちと家族を守る食事の考え方 ～高脂肪食と等質を中心に～	社内学術研修	大阪	2018 年 8 月 16 日
金子 至寿佳	インスリン製剤及び GLP-1 製剤に関する講演	GLP-1 Scientific Update Meeting 西播磨	兵庫	2018 年 8 月 30 日
金子 至寿佳	GLP-1 製剤に関する講演	堺市糖尿病学術講演会	大阪	2018 年 9 月 1 日
金子 至寿佳	糖尿病治療の近未来～早期から始める suite weekly GLP-1 therapy～に関する講演	GLP-1 Analog Expert Meeting	千葉	2018 年 9 月 3 日
金子 至寿佳	大切な人のために、そして自分のために。いつまでも健康に働く～糖尿病編～	茨木市医師会産業医部会総会及び講演会	大阪	2018 年 9 月 8 日
金子 至寿佳	糖尿病治療の近未来～早期から始める suite weekly GLP-1 therapy～に関する講演	Total Diabetic Care Seminar	大阪	2018 年 9 月 13 日
金子 至寿佳	インスリン製剤に関する講演	糖尿病治療 Up-to-Date-Meeting	京都	2018 年 9 月 14 日
金子 至寿佳	糖尿病について、メカニズム、合併症、予防方法(食事・運動・体重コントロールが必要であること)	平成 30 年度糖尿病予防教室 秋コース	大阪	2018 年 10 月 22 日
金子 至寿佳	糖尿病の最新情報の提供	第 55 回日本糖尿病学会近畿地方会ランチョンセミナー	兵庫	2018 年 10 月 27 日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
金子 至寿佳	糖尿病治療に関する知識向上	Diabetes & Incretin Seminar in 北九州	福岡	2018 年 11 月 3 日
金子 至寿佳	GLP-1 製剤に関する講演	北大阪 GLP-1 学術講演会	大阪	2018 年 11 月 9 日
金子 至寿佳	糖尿病について	Meet the Specialist 女性糖尿病医が輝く未来へ	京都	2018 年 11 月 11 日
金子 至寿佳	糖尿病の最新知識	Diabetes & Incretin Seminar in 津	三重	2019 年 1 月 17 日
金子 至寿佳	糖尿病合併症予防を目標として薬剤師の先生にお願いしたいこと	第 5 回 結果にコミットしたチーム医療	大阪	2019 年 2 月 14 日
金子 至寿佳	糖尿病の最新知識	Diabetes & Incretin Seminar in The southern Part of Osaka-City	大阪	2019 年 2 月 23 日
金子 至寿佳	『技術家庭(家庭分野)』の出前授業	高槻中学校	大阪	2019 年 3 月 12 日
金子 至寿佳	糖尿病の最新知識	Diabetes & Incretin Seminar ～地域連携を考える～	大阪	2019 年 3 月 16 日

座 長

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
金子 至寿佳	内分泌・代謝 1	第 221 回日本内科学会近畿地方会	大阪	2018 年 9 月 22 日
金子 至寿佳	1 型糖尿病 6	第 55 回日本糖尿病学会近畿地方会	兵庫	2018 年 10 月 27 日
金子 至寿佳	SGLT2 阻害薬への期待と課題	SGLT2 Expert Meeting ～ focus the kidney ～	大阪	2018 年 12 月 21 日

ファシリテーター

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
金子 至寿佳	『学校の授業で教えて欲しい生活習慣病～深刻化若年化するメタボ、臨床医の声をきいてください～』糖尿病の実症例紹介	読売健康講座	大阪	2018 年 8 月 23 日

緩和ケア科

座 長

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
橋本 典夫	立命館大学 総合心理学部 教授 齋藤 清二 「緩和ケアとナラティブアプローチ」	第 18 回三島圏域がん研究会	高槻市	2019 年 1 月 24 日
橋本 典夫	ガラシア病院ホスピス長 森 一郎 「がん性疼痛疾患に関する最新知見」	ヒドロモルフィン WEB セミナー	豊中市	2019 年 3 月 14 日

血液内科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
江田 哲信 岡田 睦実、坂本 宗一郎、 安齋 尚之、馬止 裕、 田嶋 政郎	臍帯血移植後 voriconazole (VRCZ) 長期内服中に多発性有棘細胞癌を合併した一例	第 13 回 Meet the Hematologists	京都	2018 年 7 月 7 日
坂本 宗一郎 岡田 睦実、馬止 裕、 安齋 尚之、恩田 佳幸	キャスルマン病治療中に肝硬変が進行し感染症で死亡した 1 例	第 221 回日本内科学会近畿地方会	大阪	2018 年 9 月 22 日
坂本 宗一郎 恩田 佳幸、岡田 睦実、 馬止 裕、田嶋 政郎、 安齋 尚之	Clinical features and treatment outcome of CML: A retrospective analysis at a single institute	第 80 回日本血液学会学術集会	大阪	2018 年 10 月 13 日
坂本 宗一郎 恩田 佳幸、岡田 睦実、 馬止 裕、田嶋 政郎、 安齋 尚之	治療抵抗性多発性骨髄腫に対してグラツムマブを使用した症例	多発性骨髄腫治療を共に考える会	大阪	2019 年 2 月 1 日
江田 哲信 岡田 睦実、坂本 宗一郎、 安齋 尚之、馬止 裕、 田嶋 政郎、平川 結賀、 奥野 愛香、古川 福実	臍帯血移植後 voriconazole (VRCZ) 長期内服中に多発性有棘細胞癌を合併した一例	第 41 回日本造血細胞移植学会総会	大阪	2019 年 3 月 9 日
坂本 宗一郎 恩田 佳幸、岡田 睦実、 馬止 裕、田嶋 政郎、 安齋 尚之	Castleman 病の治療を考える	Hematology Symposium	大阪	2019 年 3 月 12 日

循環器科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
奥野 岳 木澤 隼、李 剛至、 平野 玄起、土居 裕幸、 岡本 文雄、大中 玄彦	慢性的な活動性感染を契機に感染後腎炎、血球貧食症候群を合併した感染症心内膜炎の一例	第 125 回日本循環器学会近畿地方会	大阪	2018 年 6 月 30 日
木澤 隼 伊藤 隆英、赤松 加奈子、 市原 登、野木 信平、 宮村 昌利、神崎 裕美子、 宗宮 浩一、大中 玄彦、 星賀 正明	Chronic Kidney Disease Can be a Predictor of Left Atrial Thrombogenic Milieu in Nonavalvular Atrial Fibrillation.	第 83 回日本循環器学会学術集会	神奈川	2019 年 3 月 28 日

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
大中 玄彦	リバロキサパン	バイエル薬品株式会社社内勉強会	大阪	2018 年 4 月 5 日
大中 玄彦	これからの深部静脈血栓症治療を考える ～改訂ガイドラインをふまえて～	高槻抗血栓関連カンファレンス これからの深部静脈血栓症治療を考える ～改訂ガイドラインをふまえて～	大阪	2018 年 9 月 22 日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
木澤 隼	大阪医科大学循環器内科と関連病院に勤務する先生方の最新知見	第 52 回北摂循環器セミナー	大阪	2018 年 10 月 19 日
木澤 隼	糖尿病患者における心血管疾患	臨床心臓病研修会	大阪	2018 年 10 月 20 日
大中 玄彦	心不全患者、高齢化への備え	高槻市医師会学術講演会	大阪	2018 年 12 月 19 日
大中 玄彦	循環器科医が診る糖尿病診療	第 37 回北摂心臓病談話会	大阪	2019 年 3 月 9 日

司 会

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
大中 玄彦		第 2 回 CV(cardiovascular) Forum	大阪	2018 年 6 月 2 日

消化器科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
中森 翔平	Plumunary tumor thrombotic microangiopathy(PTTM) の一例	第 41 回京大消化器内科関連病院症例検討会	京都	2018 年 10 月 27 日
池田 宗弘	早期胃癌の同時多発・異時性多発リスクと京都分類の検討	第 101 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	大阪	2018 年 11 月 10 日
松村 大志郎	ニボルマブ投与後に同系統薬剤の再投与で奏功が得られた胃がんの一例	第 27 回 O.K. 勉強会	大阪	2018 年 11 月 28 日
松村 大志郎 神田 直樹、吉岡 拓人、 池田 宗弘、濱田 達雄、 中森 翔平、玉田 尚	Infliximab による Drug induced lupus の 1 例	日本内科学会 第 222 回 近畿地方会	大阪	2018 年 12 月 15 日

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
神田 直樹	大腸腫瘍に対する内視鏡治療の現況～大腸 ESD の進歩～	第 26 回高槻消化器疾患談話会	大阪	2019 年 2 月 9 日

座 長

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
神田 直樹	H.pylori 陰性時代の新たな GERD 治療戦略	GI Forum in Osaka	大阪	2019 年 3 月 2 日

呼吸器外科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
康 あんよん	右下葉肺腺癌術後 10 年後に EUS にて診断したリンパ節転移および右残存上葉肺扁平上皮癌との重複癌の 1 例	第 35 回 日本呼吸器外科学会総会・学術集会、呼吸器外科セミナー	千葉	2018 年 5 月 18 日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
菅 理晴	肺腺癌術後再発に対してEGFR-TKIなどの治療を継続することで再発後10年以上の長期生存が得られている2例	第59回 日本肺癌学会学術集会	東京	2018年 11月29日
康 あんよん	BRAF 遺伝子変異陽性肺癌に対しDabrafenibおよびTrametinib 併用療法が奏効した一例	第92回日本呼吸器学会近畿地方会・第122回日本結核病学会近畿地方会	奈良	2018年 12月8日

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
菅 理晴	高槻赤十字病院の肺がん治療について 外科の立場からについて	大鵬薬品工業株式会社社内研修会	大阪	2018年 5月25日
菅 理晴	肺癌の外科治療	高槻市医師会外科部会講演会	大阪	2018年 6月9日
菅 理晴	肺癌治療の最新情報の提供	2018 NSCLC 全国講演会	東京	2018年 9月15日
康 あんよん	肺癌治療の最新情報の提供	2018 NSCLC 全国講演会	東京	2018年 9月15日
菅 理晴	最新の医学的知見に関する社員向け教育	アストラゼネカ株式会社社内教育企画	大阪	2018年 10月4日

呼吸器科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
後藤 健一 鳳山 絢乃、長谷 川浩一、 祖開 暁彦、深田 寛子、 中村 保清、康 あんよん、 菅 理晴、千葉 渉、北 英夫	当院における免疫チェックポイント阻害薬の使用経験	第92回日本呼吸器学会 第122回日本結核病学会 近畿地方会	奈良	2018年 12月8日
北 英夫	最近経験した喘息診療におけるピットフォール	第6回咳嗽について考える会 in 北大阪	豊中市	2018年 6月2日
後藤 健一 北 英夫、中村 保清	当院における肺結核診療	第93回日本結核病学会総会	大阪	2018年 6月28日
今戸 美奈子 北 英夫、鳳山 絢乃、 長谷川 浩一、祖開 暁彦、 後藤 健一、深田 寛子、 中村 保清	在宅酸素療法患者における大阪北部地震時の行動と災害への備え	第92回日本呼吸器学会 第122回日本結核病学会 近畿地方会	奈良	2018年 12月8日
康 あんよん 後藤 健一、鳳山 絢乃、 長谷川 浩一、祖開 暁彦、 後藤 健一、深田 寛子、 中村 保清、菅 理晴、 千葉 渉、北 英夫	BRAF 遺伝子変異陽性肺癌に対しDabrafenibおよびTrametinib 併用療法が奏効した一例	第92回日本呼吸器学会 第122回日本結核病学会 近畿地方会	奈良	2018年 12月8日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
本橋 和也 北 英夫、深田 寛子、 鳳山 絢乃、長谷川 浩一、 祖開 暁彦、後藤 健一、 深田 寛子、中村 保清、 菅 理晴、北 英夫	10 歳代に発症した若年者肺 癌の 1 例	第 222 回近畿地方会 日本内科学会近畿支部主催	大阪	2018 年 12 月 15 日

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
北 英夫	肺がん診療の現状	大鵬社内講演会	茨木市	2018 年 5 月 25 日
北 英夫	シムピコート、オルベスコ、 アズマネックス	第 4 回高槻市薬剤師会 吸入指導勉強会	高槻市	2018 年 5 月 24 日
後藤 健一	肺癌治療の選択肢	高槻赤十字病院 市民公開講座	高槻市	2018 年 10 月 6 日

座 長

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
北 英夫	『咳嗽・喀痰の診療ガイドラ イン 2018 を踏まえた COP D 診療』横浜市立大学大学院 医学研究科呼吸器病学 主任 教授 金子 猛	第 6 回咳嗽について考える会 in 北大阪	豊中市	2018 年 6 月 2 日
北 英夫	特別講演 京都大学大学院 呼吸器内科学 准教授 松本 久子	Severe Asthma Expert Meeting	大阪	2018 年 6 月 9 日
北 英夫	特別講演「喘息治療はここま でできた 軽症から重症まで」 演者：東邦大学医療センター 大橋病院 呼吸器内科 教授 松瀬 厚人先生	第 7 回三島呼吸器セミナー	高槻市	2018 年 9 月 1 日
北 英夫	特別講演「循環器疾患を意識 した COPD 治療戦略」 ながや内科循環器内科・呼吸 器内科 理事長 永谷憲歳	COPD トータルマネージメント フォーラム	大阪	2018 年 11 月 10 日
北 英夫	特別講演 I 「I P F の基礎か ら診断、そして治療へ」 名古屋大学医学部附属病院 呼吸器内科 病院助教 坂本 考司先生	Clinical Forum of Interstitial Lung Diseases	大阪	2018 年 11 月 16 日

司 会

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
北 英夫	肺がんの最適治療を考える	Osaka 肺癌化学療法セミナー	大阪	2018 年 5 月 11 日

ディスカッション

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
後藤 健一 鳳山 絢乃、長谷川 浩一、 祖開 暁彦、深田 寛子、 中村 保清、北 英夫	肺がんの最適治療を考える 『当院におけるドセタキセル ラムシルマブの 1 種』	Osaka 肺癌化学療法セミナー	大阪	2018 年 5 月 11 日

クロージングリマークス

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
北 英夫		Lung Disease Seminar in OSAKA	大阪	2018 年 12 月 12 日

消化器外科

一般演題（ポスター・口演）

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
今井 義朗 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、河野 恵美子、 有馬 純、坂根 純奈、 鈴木 悠介、朝隈 光弘、 内山 和久	手袋法を用いた単孔式腹腔鏡 下鼠径ヘルニア修復術 (TEP)	7th Reduced Port Surgery Forum	札幌市	2018 年 8 月 3 日
河野 恵美子 平松 昌子、野村 幸世、 大越 香江、梅澤 昭子、 北見 智恵、小林 美奈子	託児所併設型アニマルラボ トレーニングセミナー (MasterClass for AEGIS Women)	第 31 回日本内視鏡外科学会	福岡市	2018 年 12 月 6 日
鈴木 悠介 平松 昌子、恒松 一郎、 河野 恵美子、有馬 純、 松田 純奈、今井 義朗	高槻赤十字病院で定型化した 単孔式腹腔鏡下鼠径ヘルニア 修復術 (STEP) の手術手技	第 31 回日本内視鏡外科学会	福岡市	2018 年 12 月 7 日
田代 圭太郎 河合 英、李 相雄、田中 亮、 平松 昌子、内山 和久	75 歳以上高齢者食道癌切除 症例における胸腔鏡手術の有 用性	第 72 回日本食道学会学術 集会	栃木県 宇都宮市	2018 年 6 月 28 日
有馬 純 平松 昌子、恒松 一郎、 河野 恵美子、坂根 純奈、 鈴木 悠介、小林 稔弘	新たな変異型を確認した家族 性多発性 GIST の一例	第 80 回日本臨床外科学会	東京都	2018 年 11 月 23 日
大越 香江 河野 恵美子、野村 幸世、 梅澤 昭子、平松 昌子	親子でめざす技術認定～親の トレーニングと子供のキャリア 体験を両立する～	第 80 回日本臨床外科学会	東京都	2018 年 11 月 24 日

要望演題（口演）

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
河合 英 李 相雄、田代 圭太郎、 田中 亮、革島 悟、 平松 昌子、内山 和久	食道扁平上皮癌における他臓 器重複癌の検討	第 72 回日本食道学会学術 集会	栃木県 宇都宮市	2018 年 6 月 29 日

ポスターセッション

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
今井 義朗 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、河野 恵美子、 松田 純奈、鈴木 悠介	急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下 胆嚢摘出術における開腹移行 症例の検討	第 118 回日本外科学会	東京都	2018 年 4 月 5 日
Keitaro Tashiro Masaru Kawai , Sang-Woong Lee, Ryo Tanaka, Yoshiro Imai, Masako Hiramatsu, Kazuhisa Uchiyama	Surgical approach for the elder esophageal cancer.	16th World Congress of the ISDE	Vienna, Austria	2018 年 9 月 17 日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
Masaru Kawai Keitaro Tashiro, Sang-Woong Lee, Ryo Tanaka, Yoshiro Imai, Masako Hiramatsu, Kazuhisa Uchiyama	Recurrence pattern and risk factor after esophagectomy for esophageal squamous carcinoma	16th World Congress of the ISDE	Vienna, Austria	2018 年 9 月 18 日

Regular abstracts (Oral)

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
Masako Hiramatsu Toshihiro Kobayashi, Ichiro Tsunematsu, Emiko Kono, Yoshiro Imai, Yusuke Suzuki, Masaru Kawai, Keitaro Tashiro	Esophageal reconstruction by pedicled terminal ileum and right colon with preserved ileocolic vessels.	16th World Congress of the ISDE	Vienna, Austria	2018 年 9 月 17 日

講 演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子	女性医師のキャリア形成—女 性の活躍が医師の働き方を変 える—	H30 年度第 2 回日本赤十字 病院臨床研修医研修会	東京都	2018 年 12 月 1 日

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子	女性医師の活躍が外科医の働 き方を変える！	京都外科医会	京都市	2019 年 3 月 9 日

ワークショップ

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子	外科系女性医師の研修・職場 の課題とは？	第 43 回日本外科系連合学会	東京都	2018 年 6 月 22 日
河合 英 李 相雄、田代 圭太郎、 田中 亮、平松 昌子、 内山 和久	高齢者食道癌に対する周術期 チーム医療の重要性	第 73 回日本消化器外科学会	鹿児島市	2018 年 7 月 11 日
大越 香江 野村 幸世、河野 恵美子、 梅澤 昭子、北見 智恵、 小林 美奈子、平松 昌子	指導的立場の女性消化器外科 医を目指す～消化器外科女 性医師の活躍を応援する会 (AEGIS-Women) の挑戦	第 73 回日本消化器外科学会	鹿児島市	2018 年 7 月 13 日

特別企画

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
河野 恵美子 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、今井 義朗、 松田 純奈、鈴木 悠介	10 年後の外科を見据えた女 性医師支援とは	第 118 回日本外科学会	東京都	2018 年 4 月 6 日

総会特別企画

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
坂根 純奈 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、河野 恵美子、 有馬 純、鈴木 悠介	子育て女性外科医からみた新 専門医制度	第 80 回日本臨床外科学会	東京都	2018 年 11 月 22 日

学会特別企画

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子	人生 100 年時代。メスを置 いた外科医の Second carrier は？	第 80 回日本臨床外科学会	東京都	2018 年 11 月 22 日

パネルディスカッション

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
河合 英 李 相雄、田代 圭太郎、 今井 義朗、田中 亮、 平松 昌子、内山 和久	高齢者食道がんに対する食道切 除術および周術期管理の工夫	第 80 回日本臨床外科学会	東京都	2018 年 11 月 23 日

デジタルポスター

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
有馬 純 恒松 一郎、河野 恵美子、 松田 純奈、鈴木 悠介、 平松 昌子	術式に工夫を要した噴門部近 傍の胃粘膜下腫瘍に対する胃 局所切除術	第 31 回日本内視鏡外科学会	福岡市	2018 年 12 月 7 日

Chairpersons: Oral

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
Masako Hiramatsu Attila Voros, Hiroyuki Konno	Oesophagus, Liver	IIIrd Triangle Symposium of the Hungary-Japan- Poland Surgical Society	Budapest (Hungary)	2018 年 6 月 4 日

座長（ポスター・WS12・総会特別企画・一般演題）

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子 豊住 武司	治療戦略	第 72 回 日本食道学会学術 集会	栃木県 宇都宮市	2018 年 6 月 28 日
平松 昌子	【教育・育成】女性外科医問 題を考える	第 73 回日本消化器外科学会	鹿児島市	2018 年 7 月 13 日
平松 昌子 花崎 和弘	外科医の考え方を变えて働き 方を変える	第 80 回日本臨床外科学会	東京都	2018 年 11 月 24 日
平松 昌子	食道悪性 一般成績	第 31 回日本内視鏡外科学会	福岡市	2018 年 12 月 8 日

司会（一般講演）

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子	私が理想とする外科医	第 7 回次世代の臨床外科医 のための特別セミナー	東京都	2019 年 2 月 3 日
平松 昌子 郷右近 祐司	食道	第 55 回日本腹部救急医学会	仙台市	2019 年 3 月 7 日

乳腺外科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
小林 稔弘 坂根 純奈、今井 義朗、 平松 昌子	乳腺偽血管腫様過形成 (PASH) の 2 例	第 26 回日本乳癌学会総会	京都	2018 年 5 月 17 日

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
小林 稔弘	乳癌治療の選択肢 - 診断と治療 -	市民公開講座	高槻市	2018 年 7 月 7 日

整形外科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
市場 厚志 池田 邦明	解剖学的前十字靱帯再建術後の 脛骨 - 大腿骨間の回旋が臨床 評価に与える影響 / 解剖学的 前十字靱帯再建術の移植腱 の MRI 評価	第 10 回 日本関節鏡・膝・ス ポーツ整形外科学会 (J O S K A S 2018)	福岡	2018 年 6 月 14 日
小田 幸作 野口 郁代	高齢者関節リウマチにおける 長期の治療戦略	第 62 回日本リウマチ学会総 会・学術集会	東京	2018 年 4 月 27 日

講 師

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
小田 幸作	変形性膝関節症の治療に関す る話題提供と整形外科及び歯 科の連携を図るため	疼痛治療カンファレンス in 北摂	大阪	2018 年 9 月 1 日

座 長

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
小田 幸作	高齢関節リウマチの感染症の 予防と早期発見	第 17 回 北摂リウマチ病診 連携会	大阪	2018 年 6 月 23 日
小田 幸作	骨粗鬆症及びその他骨関連疾 患の診断学の向上と治療学の 確立 骨粗鬆症治療の知識普 及、地域医療への貢献	第 1 回 Teriparatide Expert Meeting	大阪	2018 年 11 月 10 日
小田 幸作	乾癬性関節炎の最新情報の 提供	PsA School in 北摂	大阪	2018 年 11 月 29 日
小田 幸作		北摂リウマチ病診連携会	大阪	2019 年 1 月 19 日
小田 幸作	看護師が考える RA 副作用マ ネジメント	オレンシア WEB セミナー	大阪	2019 年 3 月 25 日

形成外科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
田辺 敦子 櫛田 哲史、引網 梨奈、 平川 結賀、奥野 愛香、 古川 福実	ポリコナゾール長期内服による と考えられる顔面・手部多発 性有棘細胞癌症例の治療経験	第 36 回 日本頭蓋顎顔面外 科学会学術集会	北海道	2018 年 10 月 11 日

皮膚科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
Hirakawa Y Futaki S, Tanizaki H, Furukawa F, Maemura K, Moriwaki S	Expression of nidogen 1 in basal cell carcinoma	International Investigative Dermatology 2018	Orlando, USA	2018 年 5 月 16 日 -19 日
濱本 千晶 国本 佳代、金澤 伸雄、 古川 福実、神人 正寿、 早田 敦志、石本 淳也	CMV 感染を併発した重症薬 疹の 1 例	日本皮膚科学会第 467 回 大阪地方会（大阪・和歌山 同時開催）	和歌山	2018 年 5 月 12 日
平川 結賀 奥野 愛香、古川 福実、 橘 充弘、橘爪 秀夫	後頸部に出現した原発性皮膚 CD4 陽性小・中細胞型 T 細 胞リンパ腫の 1 例	日本皮膚科学会第 467 回 大阪地方会（大阪・和歌山 同時開催）	和歌山	2018 年 5 月 12 日
金澤 伸雄 尾崎 富美子、寺嶋 聖佳、 丹羽 明、柳町 昌克、 古川 福実、中畑 龍俊、 斎藤 潤	iPS 細胞を用いた中條－西村 症候群の病態解明と治療薬開 発の試み	第 117 回日本皮膚科学会 総会学術大会	広島	2018 年 5 月 31 日
平川 結賀 奥野 愛香、古川 福実、 橘 充弘、橘爪 秀夫	後頸部に出現した原発性皮膚 CD4 陽性小・中細胞型 T 細 胞リンパ腫の 1 例	第 117 回日本皮膚科学会 総会学術大会	広島	2018 年 6 月 1 日
恩地 菊乃 中井 沙紀、渡邊 有史、 坂本 翔一、西山 幸佑、 西願 三起子、上中 智香子、 山本 有紀、古川 福実、 神人 正寿	白斑患者に対するメディカル メイクアップの QOL に与え る影響の検討	第 117 回日本皮膚科学会 総会学術大会	広島	2018 年 6 月 1 日
久保 良美 金澤 伸雄、稲葉 豊、 三木田 直哉、古川 福実、 神人 正寿、吉原 重美、 福田 啓伸、カマルゴ カルロス	小児アトピー性皮膚炎予防関 連因子に関する疫学研究	第 117 回日本皮膚科学会 総会学術大会	広島	2018 年 6 月 1 日
平川 結賀 奥野 愛香、木村 大作、 大桑 隆 古川 福実	ヒドロキシクロロキンが奏功 した DLE の 1 例	第 27 回北摂四医師会医学会 総会	高槻市	2018 年 6 月 9 日
久保 良美 金澤 伸雄、稲葉 豊、 三木田 直哉、古川 福実、 神人 正寿、吉原 重美、 福田 啓伸 カマルゴ カルロス	小児のアレルギー疾患予防関 連因子に関する疫学研究報告	第 67 回日本アレルギー学会 学術大会	幕張 メッセ	2018 年 6月22-23日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
江田 哲信 坂本 宗一郎、岡田 睦実、 安齋 尚之、馬止 裕、 田嶋 政郎、平川 結賀、 奥野 愛香、古川 福実、 櫛田 哲史、田辺 敦子、 山本 有紀	臍帯血移植後 Voriconazole 長期内服中に多発性有棘細胞 癌を合併した 1 例	第 13 回 Meet the Hematologist	京都	2018 年 7 月 7 日
古川 福実	「おじさんたちおばさんたちの美容皮膚科 -life begins at 65」	第 2 回 53 会医学フォーラム	京都	2018 年 7 月 8 日
兪 明寿 谷崎 英昭、黒川 晃夫、 森脇 真一、古川 福実	小児のドライスキン及び軽症 アトピー性皮膚炎の皮膚症状 に対するメルシーケア® の 有効性と安全性に関する検討	第 42 回日本小児皮膚科学会	東京	2018 年 7 月 14 日
神人 正寿 西願 三起子、古川 福実、 上中 智香子、山本 有紀	白斑患者へのメディカルメイ クアップ外来の有用性につい ての研究	第 86 回和歌山医学会総会	和歌山	2018 年 7 月 22 日
平川 結賀 奥野 愛香、二木 杉子、 谷崎 英昭、古川 福実、 前村 憲太朗、森脇 真一	3 次元培養ヒト皮膚モデルを 用いた皮膚基底膜上の急性 UVB 反応の解析	第 36 回日本美容皮膚科学会 総会・学術大会	東京	2018 年 8 月 4-5 日
本橋 和也 金子 至寿佳、奥野 岳、 平川 結賀、奥野 愛香、 古川 福実	短期のステロイド外用薬投与 にて副腎抑制を来した 1 症例	日本内科学会第 221 回近畿 地方会	大阪	2018 年 9 月 22 日
奥野 愛香	難治性アトピー性皮膚炎に対 し、デュピクセント皮下注を 行った 1 例	Atopic Dermatitis IL4/13 Forum in North Osaka	大阪市	2018 年 10 月 13 日
奥野 愛香	症例提示	地域連携講演会 乾癬の新しい 地域連携モデルを考える	高槻市	2018 年 10 月 20 日
古川 福実	皮膚ループスエリテマトーデ スにおける重症度や予防に関 する国際アンケート結果	第 48 回日本皮膚免疫アレル ギー学会総会学術大会	奈良市	2018 年 11 月 17 日

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
古川 福実	美容皮膚科を日常診療に生か そう、エキスパートが語る皮 膚科の動向：アレルギー・炎 症・美容皮膚科	岡山大学皮膚科 岩月啓氏教 授 退職記念講演会	岡山	2018 年 4 月 7 日
古川 福実	教育講演 28 丘疹－紅皮症 (太藤) を総括する	第 117 回日本皮膚科学会 総会学術大会	広島	2018 年 6 月 2 日
古川 福実	教育講演 38 専門医取得は通 過点！？～取得前にするこ と、取得後にすること～	第 117 回日本皮膚科学会 総会学術大会	広島	2018 年 6 月 2 日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
古川 福実	特別講演 皮疹・薬疹・ 温故知新	北摂薬剤師研修会	高槻市	2018 年 6 月 9 日
古川 福実	紫外線と皮膚 - ループスエリ テマトーデス から探る光線 過敏 -	平成 30 年度日本皮膚科学会 美容皮膚科・レーザー指導専 門医研修会	東京	2018 年 8 月 5 日
古川 福実	見逃してはいけない糖尿病の 皮 膚 症 状、Total Diabetic Care Seminar 内科医皮膚 科医が日常診療で出会う皮膚 疾患	Total Diabetic Care Seminar	高槻市	2018 年 9 月 13 日
古川 福実	緊急シンポジウム さあ、ど うする！停電 断水 交通麻 痺、大規模災害における赤十 字病院としての BCP を考え る 大阪府北部地震を振り返 って	第 72 回日本赤十字社病院長 連盟定期（秋）総会	福岡	2018 年 11 月 8 日
古川 福実	高槻赤十字病院 患者向け 糖尿病講演 2018 年	高槻赤十字病院	高槻市	2018 年 12 月 11 日

座 長

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
Fukumi Furukawa	Current Understanding of the Pathogenesis of CLE	4th ICCLE2018 (International Conference on Cutaneous Lupus Erythematosus)	Florida, USA	May 20,2018
古川 福実	モーニングセミナー 12 ニキ ビ肌の人に安心安全なサンス クリーン	第 117 回日本皮膚科学会 総会学術大会	広島	2018 年 6 月 3 日
古川 福実、朝山 祥子	IMCAS 合同セッション	第 36 回日本美容皮膚科学会 総会・学術大会	東京	2018 年 8 月 4-5 日
古川 福実	イブニングセミナー オマリ ズマブの最新データから考え る蕁麻疹の長期管理について	第 69 回日本皮膚科学会中部 支部学術大会	大阪	2018 年 10 月 27 日
古川 福実	教育講演 千貫祐子島根大学 皮膚科の日常診療におけるア レルギーのピットホール	第 69 回日本皮膚科学会中部 支部学術大会	大阪	2018 年 10 月 28 日
古川 福実、相場 節也	シンポジウム 3「自然免疫・ 皮膚バリアの最前線」	第 48 回日本皮膚免疫アレル ギー学会総会学術大会	奈良市	2018 年 11 月 18 日

その他（メディア出演）

氏 名	演 題	メディア名	月 日
古川 福実	マルホ皮膚科セミナー「第 117 回日本皮膚科学会総会 ⑩ 教育講演 28-2」丘疹— 紅皮症を総括する	ラジオ NIKKEI	2018 年 12 月 10 日 放送

眼科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
奥村 峻大 福岡 秀記、高原 彩加、 吉川 大和、田尻 健介、 池田 恒彦、外園 千恵	内科的に寛解状態であった関節リウマチに生じた角膜穿孔の1例	第423回大阪府眼科集談会	大阪	2018年 4月7日
奥村 峻大 福岡 秀記、向井 規子、 堀切 智子、脇舩 耕一、 松本 佳保里、吉川 大和、 田尻 健介、池田 恒彦、 外園 千恵	DSAEK術後接着不良による 摘出移植片の組織染色で内皮 細胞形態を観察できた一例	第428回大阪府眼科集談会	大阪	2019年 1月26日
奥村 峻大 福岡 秀記、向井 規子、 堀切 智子、脇舩 耕一、 松本 佳保里、吉川 大和、 田尻 健介、池田 恒彦、 外園 千恵	DSAEK術後接着不良による 摘出移植片の組織染色で内皮 細胞形態を観察できた一例	角膜カンファレンス2019 第43回日本角膜学会総会・ 第35回日本角膜移植学会	京都	2019年 2月7日

放射線科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
涌田 哲成	「放射線治療計画用CTにお ける存在レポートの運用につ いて」	第54回日本赤十字社医学会 総会	愛知	2018年 5月14日

研究発表

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
中村 義隆	「その時、あなたは、どう動 いた」	※北大阪画像情報研究会	高槻市	2018年 7月12日
松原 健夫	「大阪府北部地震について」	※第1回日本赤十字社診療 放射線技師会近畿ブロック 施設代表者会議	大阪	2018年 9月16日
中村 義隆 松原 健夫	シンポジウム「BCPの現状」	※第27回日本赤十字社診療 放射線技師会近畿ブロック 研修会会員発表	滋賀	2019年 2月23日

リハビリテーション科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
須々木 梓	重度呼吸不全患者に対し非侵 襲的陽圧喚起療法を調整し自 宅退院を目標に呼吸リハビリ テーションを展開した一症例	鳥取赤十字病院	鳥取	2018年 11月18日

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
菊池 直人、不破 賢太郎	呼吸理学療法の基礎と実技に ついて	2018年度大阪府理学療法士 協会三島ブロック呼吸器 勉強会	高槻	2018年 6月8日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
八木 紀子	お家で出来る簡単リハビリ	茨木市イオンシネマ	茨木	2019 年 2 月 23 日
大下 綾華	見直そう！くり返す足腰痛・肩こり	茨木市福祉文化会館	茨木	2019 年 3 月 17 日

救急部

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
岡本 文雄	大阪北部地震における BCP を重視した災害対策の運用経験	第 24 回日本災害医学会総会・学術集会	島根	2019 年 3 月 19 日

臨床工学技術課

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
野々村 美紅 伊東 伶芳、吉田 真希、 中田 祐二	血糖管理関連デバイス装着患者のインシデント及び変更した運用について	第 8 回日本赤十字社臨床工学技士会近畿ブロック研修会	和歌山	2018 年 10 月 27 日
中田 祐二 成瀬 大輝	カプセル内視鏡検査における 多人数用心電図モニタ、送信機からの電波障害の調査	第 15 回日本循環器看護学会学術集会 指定共同企画 「循環器病研究振興財団研究発表」	大阪	2018 年 10 月 28 日
中田 祐二	カプセル内視鏡検査における 医用テレメータ、送信機からの電波干渉の調査	第 54 回日本赤十字医学会総会	愛知	2018 年 11 月 16 日
伊東 伶芳 野々村 美紅、吉田 真希、 中田 祐二	内シャント増設後にシャントエコーによって血管内異物を発見し得た 1 症例	第 54 回日本赤十字医学会総会	愛知	2018 年 11 月 16 日
芦田 昇也 吉村 忠、成瀬 大輝、 吉岡 健太郎、中田 祐二	当院での採用機種変更に伴う 研修会の取り組み	第 54 回日本赤十字医学会総会	愛知	2018 年 11 月 16 日
吉岡 健太郎	単孔式膜外到達法腹腔鏡下 鼠径ヘルニア修復術（STEP 法）における映像処理装置 Clarity の活用	第 31 回日本内視鏡外科学会総会	福岡	2018 年 12 月 6 日

薬剤部

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
岩井 真里絵	怖くない、医療用麻薬の使い方	第 2 回 三島医療圏がん診療拠点病院合同市民公開セミナー	高槻市	2018 年 10 月
小島 一晃	がん患者の薬剤師外来	第 6 回 北摂薬剤師セミナー	豊中市	2018 年 10 月
小島 一晃	もしも災害が起こったら・・・	第 7 回 三島薬剤業務検討会	高槻市	2019 年 2 月

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
岩井 真里絵、岸本 寛史、 安斎 尚之、福井 美礼、 原武 麻里、小西 史子、 足立 那々緒、宮西 将之、 仲 忠士、美和 孝之、 小島 一晃	当院における同種造血幹細胞 移植後の粘膜障害による口腔 内痛・咽頭食道痛に対する フェンタニル持続注射の使用 実態	第 12 回 日本緩和医療薬学会 年会	東京	2018 年 5 月
仲 忠士、松本 弘誠、 中西 輝、小西 史子、 足立 那々緒、岩井 真里絵、 宮西 将之、野間 敏也、 廣岡 真理、橋本 浩明、 美和 孝之、安斎 尚之、 小島 一晃	血液・腫瘍内科における ST 合剤（先発医薬品・後発医薬 品）の AE 発現率・安全性の 比較検討	医療薬学フォーラム 2018	東京	2018 年 6 月
岩井 真里絵、岸本 寛史、 安斎 尚之、福井 美礼、 奥村 優介、宮西 将之、 松本 弘誠、中西 輝、 小西 史子、仲 忠士、 美和 孝之、小島 一晃	Allo-SCT 後の口腔内痛・咽 頭食道痛に対するフェンタニ ル持続注射の使用実態	第 54 回 日本赤十字社医 学会総会	名古屋	2018 年 11 月
濱武 清範、小西 史子、 美和 孝之、松本 弘誠、 中西 輝、酒井 ちひろ、 野間 敏也、足立 那々緒、 後藤 仁美、仲 忠士、 小島 一晃、北 英夫、 菅 理晴	EGFR チロシンキナーゼ阻 害剤の有効性と安全性	第 28 回 医療薬学会年会	神戸	2018 年 11 月
小西 史子、濱武 清範、 美和 孝之、松本 弘誠、 中西 輝、酒井 ちひろ、 野間 敏也、足立 那々緒、 後藤 仁美、仲 忠士、 小島 一晃、神田 直樹、 恒松 一郎、北 英夫、 菅 理晴	当院におけるラムシズマブ併 用レジメンの使用状況調査	第 28 回 医療薬学会年会	神戸	2018 年 11 月
小島 一晃、濱武 清範、 小西 史子、中西 輝、 松本 弘誠、奥村 優介、 山村 裕佳子、梶 美里、 酒井 ちひろ、野間 敏也、 仲 忠士、美和 孝之、 安斎 尚之部	多発性骨髄腫に対する新規抗 癌剤＋レナリドマイド・デキ サメタゾン併用レジメンをど う選択するか？	第 28 回 医療薬学会年会	神戸	2018 年 11 月
美和 孝之、仲 忠士、 松本 弘誠、中西 輝、 小西 史子、梶 美里、 濱武 清範、奥村 優介、 足立 那々緒、小島 一晃	セフメタゾールにより PT- INR が延長した症例	第 40 回 日本病院薬剤師会 近畿学術大会	奈良	2019 年 1 月

検査部

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
奥洞 智太 扇田 裕允、平岩 理雅、 恒松 一郎、千葉 渉	環境培養で証明せよ！見えない危険の存在	第 9 回 北摂 4 医師会 三島 感染症研究会	大阪	2018 年 6 月 23 日
古川 理奈 大西 美穂子、今井 翔太郎、 中村 直実、安斎 尚之、 千葉 渉	悪性リンパ腫治療後経過観察 中に治療関連骨髄性腫瘍を発 症した症例	第 33 回 日本赤十字社臨床 検査技師近畿ブロック研修会	和歌山	2018 年 9 月 9 日
平岩 理雅 奥洞 智太、扇田 裕允、 千葉 渉	Clostridioides difficile 迅速 診断キットと分離培養との比 較検討	第 54 回 日本赤十字社 医学会総会	名古屋	2018 年 11 月 15 日
奥洞 智太 扇田 裕允、平岩 理雅、 恒松 一郎、千葉 渉	血液培養にて検出した Candida 属の検討	第 14 回 抗菌薬適性使用 勉強会	大阪	2019 年 2 月 14 日

看護部

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
河田 照絵 森本 美智子、今戸 美奈子、 毛利 貴子	間質性肺炎患者の息切れに対 するセルフマネジメントへの 取り組みと支援ニーズの実態	第 58 回日本呼吸器学会学術 講演会	大阪	2018 年 4 月 27 日
森本 美智子 河田 照絵、今戸 美奈子、 毛利 貴子	息切れに対するマネジメント 法が慢性呼吸器疾患患者の健 康関連 QOL に及ぼす影響	第 58 回日本呼吸器学会学術 講演会	大阪	2018 年 4 月 27 日
森本 美智子 今戸 美奈子、河田 照絵、 毛利 貴子、森 菊子、 松本 麻里、池田 由紀	慢性呼吸器疾患患者の健康関 連 QOL に息切れの感覚が及 ぼす影響 COPD 患者と IP 患者における検討	第 12 回日本慢性看護学会 学術集会	東京	2018 年 7 月 14 日
森本 美智子 河田 照絵、今戸 美奈子、 竹川 幸恵、本城 綾子、 伊藤 史、上原 喜美子	慢性呼吸器疾患患者における 息切れの感覚に関する特徴 COPD 患者と IP 患者での 検討	第 12 回日本慢性看護学会 学術集会	東京	2018 年 7 月 14 日
上原 喜美子 森本 美智子、河田 照絵、 毛利 貴子、池田 由紀、 竹川 幸恵、今戸 美奈子、 本城 綾子、伊藤 史、 松本 麻里、森 菊子	COPD 患者が看護師から説 明を受けた息切れのマネジメ ント法	第 12 回日本慢性看護学会 学術集会	東京	2018 年 7 月 14 日
今戸 美奈子 竹川 幸恵、長濱 あかし、 本田 憲胤、福井 基成	大阪府下の在宅呼吸ケアを 受けている患者の健康関連 QOL と介護者の負担感 2007 年調査との比較	第 28 回日本呼吸ケア・リハ ビリテーション学会学術集会	千葉	2018 年 11 月 9 日
本城 綾子 今戸 美奈子、竹川 幸恵、 伊藤 史、土居 洋子	在宅酸素療法患者の酸素流量 調整ケアプロトコルの内容 妥当性・表面妥当性の検討	第 28 回日本呼吸ケア・リハ ビリテーション学会学術集会	千葉	2018 年 11 月 9 日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
今戸 美奈子 北 英夫、鳳山 綾乃、 長谷川 浩一、祖開 暁彦、 後藤 健一、深田 寛子、 中村 保清	在宅酸素療法患者における大 阪北部地震時の行動と災害へ の備え	第 92 回日本呼吸器学会近畿 地方会	奈良	2018 年 12 月 8 日

教育講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
今戸 美奈子	つながろう！呼吸器看護の輪 －急性期から慢性期、そして 在宅まで－慢性期看護の立場 から	第 1 回日本呼吸器看護研究会	大阪	2018 年 5 月 12 日
今戸 美奈子	息切れのマネジメント	第 28 回日本呼吸ケア・リハ ビリテーション学会学術集会	千葉	2018 年 11 月 10 日

シンポジウム（一般演題）

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
野口 郁代 藤村 純子	高齢関節リウマチの感染症の 予防と早期発見	第 17 回北摂リウマチ病診 連携会	大阪	2018 年 6 月 23 日
野口 郁代	関節リウマチ 日常生活のケ ア・注意点	市民公開講座	大阪	2018 年 6 月 30 日
野口 郁代	当院における関節リウマチ患 者の感染症対策	RA Clinical Symposium in OSAKA	大阪	2018 年 12 月 8 日
野口 郁代	感染症を予防するには？	市民公開講座	大阪	2019 年 2 月 23 日
野口 郁代	看護師が考える R A 副作用マ ネジメント	オレンシアWE Bセミナー	大阪	2019 年 3 月 25 日
野口 郁代	当院におけるリウマチトータ ルマネジメント	JAK 診療連携 Conference	大阪	2019 年 3 月 30 日

シンポジウム（ファシリテーター）

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
野口 郁代	挙児希望時・妊娠の注意点や サポートについて	RA Nurse Summit	東京	2018 年 5 月 20 日
野口 郁代		関節リウマチ心理サポートセ ミナー	東京	2018 年 8 月 4 日
野口 郁代		リウマチチーム・ ワークショップ in 福岡	福岡	2018 年 9 月 29 日
野口 郁代		大阪南リウマチチーム・ ワークショップ	大阪	2018 年 10 月 20 日
野口 郁代		チームワークショップ in 熊本	熊本	2019 年 3 月 16 日

シンポジウム（一般演題・ファシリテーター）

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
野口 郁代	当院連携・チーム医療	リウマチチーム・ワーク ショップ in 大分	大分	2018 年 7 月 28 日

平成30年度 病院年報

発行日 令和2年4月

発行者 **高槻赤十字病院**

院長 古川 福実

〒569-1096

高槻市阿武野一丁目1番1号

☎（072）696-0571

編集者 経営企画課

印刷所 株式会社 一心社